

近藤喜祿氏

實業家

大阪市西區立賣堀北通四丁目二番地

(一八四)

商業ノ目的ハ、單純ノ意味ニ於テ利ヲ得ルニアリ、サレド收利ハ絶體的ノ目的ニアラザルナリ、天理ノ指示スル大道ニ則リ、一片高潔ナル希望ニ向上シ、而シテ天惠ノ恩ニ浴スルコソ其真正ノ目的タラサルヲ得サルナリ、機微可ナリ、練腕可ナリ、機會アラハ大ニ儲ケサルベカラズ、大ニ手腕ヲ揮ヒ大ニ利殖セヨ、シカモ正道ヲ没却スル勿レ、コレ平凡ノ言句タリト雖モ、言フベク行ヒ難キ處ニシテ、シカモ幾多ノ苦心ヲ經由シテ始メテ此幸運ニ浴シタル人ヨリ耳ニス、輕薄者流ノ無責任ナル夫レト同日ノ論ニアラサルナリ。

君ハ島根縣人近藤清三郎氏ノ次男ニシテ安政三年十二月三十日ヲ以テ生ル、明治六年分家セシモ、同十三年故アツテ先代喜西氏ノ養子トナリ、後其家督ヲ相續ス、幼ニシテ身ヲ實業界ニ投ジ、苦辛慘憺ヲ經テ商道ニ通ズ、早クモ銅鐵業ヲ營ミ、商風ノ堅實ナルヲ以テ其名アリ、既ニシテ同志ト共ニ各種ノ企業ニ參訓シ、大坂産業界ニ貢獻シタル者決シテ尠ナカラサルナリ、曾テ、日ノ丸製粉株式會社、大坂融通株式會社、日本紡績株式會社、日清貿易株式會社等ノ重役タリシガ、今ハ、右近權右衛門氏ヲ社長トスル日本海上運送火災保險株式會社ノ取締役、馬城、杉山氏ト經營スル中國鐵道株式會社及、谷、房口氏ト共ニ創立シタル坂神曳船株式會社各取締役タリ、如斯シテ幾多ノ繁務ヲ處理スルノ外、多年同地商業會議所議員トシテ盡瘁シツ、アリ、殊ニ運輸ニ關スル調査ヲ遂ゲタル功ハ、亦以テ没スベカラサルモノアリト稱セラル。

君資性謹厚ニシテ同情ノ念ニ富ミ、公私ノ慈善事業ニ助勢シテ金品ヲ提供シタル事一々數フルニ違アラサルナリ、シカモ尙手腕ニ至ツテハ、漸進的ニシテ實實ナリ、亦以テ浪華人物ノ一異彩ナリト謂ツベシ

電話西 四千四百八十八番

阿部政太郎氏

青森縣那部選出衆議院議員

青森縣南津輕郡浪岡村

君ノ風貌慕フベク、人格敬スベシ、炯々タル眼光沈毅剛壯ノ風采、其行堅忍不撓ノ情操地方政治家中稀ニ見ル所ノ名材ニシテ立憲政友會東北團ノ幹々タリ、安政六年十二月、陸奥國南津輕郡浪岡村ニ生ル、家世々農ヲ以テ大地主ノ聞エアリ、君ニ至リ夙ニ學ヲ好ミ、早クモ普通學ヲ卒ヘ次デ師範學校ヲ卒業シ後明治法律學校ニ入り研究スルニ法律ヲ以テス、美事ニ同校、課程ヲ修メテ卒業ノ光榮ヲ得、一度小學校教員ニ職ヲ奉ジ、兒童育英ノ事ニ與リ、君ノ素志タル勤勉勵行、輕浮ヲ誡メ、實着ヲ尊ブノ美風ヲ彼ノ口ニ唱ヘテ身ニ行ハザル謂所大言壯語ノ輩ト同日ノ論ニアラス、自ラ實踐躬行以テ摸範トシ、幾多有爲ノ材ヲ薰育セルハ吾人其ノ功勞ヲ謝スルニ餘アリ、又醫學校監事補トナリテ益々教育界ニ貢獻シ、尋テ縣御用係、戶長等ニ任ジ、縣ノ爲村ノ爲ニ盡シタル逸歴多シト雖モ紙數ニ制限アレバ遺憾ナガラモ細錄スル能ハズ、後浪岡村會議員、南津輕郡會議員、青森縣會議員、同常置委員等ニ舉ゲラレ、公事ニ奔走シタル亦枚舉スルニ遑ナシ、山來君ハ居常國家主義ヲ抱持シ、上御一人ノ爲ニ生命ヲ輕ンジ、下萬民ノ幸福ヲ企圖スルコト其ノ議員タルト否トニ關セザルモノ素ヨリ君ガ愛國心ノ深キヲ見ルニ足ル、斯クテ明治四十一年第十回總選舉ニ於テ競ハズ衆議院議員ノ榮冠ハ君ノ頭上ニ降ル、請フ益々加發邦家ノ爲ニ健在ナランコトヲ、茲ニ淨筆短歷ヲ草シ以テ傳トナシ、赫々タル功績ヲ後世ニ傳ヘ尙後進子弟ノ鑑タラシメントス、最後ニ附記スベキハ君明治十四年政論ノ勃興スルヤ奮然起ツテ一心社ト云ヘル政社ヲ組織シ其機關トスル陸奥日報ニ筆ヲ執ルコト數年其間私財ヲ擲ツコト數千ノ多キニ至ル、尙旅行道樂ヲ以テ身ニ任ジ全國殆ト足跡ノ到ラザル處ナシトイフ。

(一八五)

加藤 宇兵衛氏

貴族院議員

青森縣南津輕郡黒石町

曾テハ下院ニ其雄ヲ鳴ラシ、今ハ上院ニアツテ活動例ニ依ツテ變ルナキモノ、蓋シ夫レ君カ。
 君ハ青森縣下ノ大地主ニシテ文久元年十二月廿八日青森縣南津輕郡黒石町大字上町八番戸ニ生ル、明治
 元年黒石町上山學校ニ入り六年義塾ニ轉ジ十年黒石小學校教員トナル、廿三年青森縣會議員ニ當選シ
 二十四年再ビ名譽職縣參事會員トナル、二十六年三度縣會議員ニ當選二十七年青森縣小學校教科用圖書
 審査委員ヲ命ゼラル、三十年四度縣會議員ニ當選三十一年五月縣會議員ヲ辞ス、三十年株式會社黒石銀
 行頭取ニ當選シ現今勤績ス、三十一年株式會社津輕鐵道會社社長ニ當選、九月株式會社津輕銀行取締役ニ
 當選、三十四年東北水産株式會社取締役ニ當選、全年六月株式會社南陽銀行取締役ニ當選、同年青森縣
 師範學校名譽校友會員トナリ又三十五年一月株式會社東北生命保險會社取締役ニ當選、現ニ青森縣支部
 幹事タリ、外ニ青森縣農會名譽會員、赤十字社特別社員(有功章下賜)タリ四十年一月補闕選舉ノ際青森
 縣多額納稅議員トシテ席ヲ上院ニ置キ、多年下院ニ於ケル經驗ヲ擁シテ活躍群僂ト異ルモノアリ、尙從
 來ヨリノ關係上憲政本黨東北支部ノ重鎮トシテ不斷ノ努力ヲ提ケテ黨務ニ軼掌シツ、アリシガ今亦立憲國
 民黨ニ參劃シ、上院ニアツテ土曜會ノ健全分子ト共ニ活動例ニヨツテ熾ナリ。



嘉悦 孝子女史

教育家

魁町區土手三番町二一

女流教育家有數ノ活動家トシテ東奔西走日モ之レ足ラズ、自ラ斯界ノ時弊ヲ指摘シテ同志ニ激ス、終始
 一貫倫ラサルノ熱誠ハ、世ノ有聲男子ヲシテ顔色ナカラシム、女子教育ノ趨勢ハ已ニ過渡混亂ノ時代ニ
 非サル如ク、一見秩序井然タルノ觀アリト雖モ、具サニ仔細ノ消息ヲ探究スレバ、或ハナスベク、或ハ
 ナサバルベカラザル多クヲ有スルヤ明カナリ、文部當局一片ノ訓令ハ果シテ何等ノ「オウソリテイ」ヲ
 値スルカ、吾人ハ絶大ノ希望ヲ抱イテ、女史等ニ待ツモノ蓋シ決シテ鮮少ナラザルアリ、今其閱歷梗概
 ヲ摘記スレバ、彼ノ熊本ノ名士嘉悦氏房先生ハ女史ノ嚴父ナリ、出生ハ明治元年ニシテ夙ニ模範的家庭
 ニ薰育ヲ享ケ、幼ニシテ和漢洋ノ學ヲ修メテ成立學舍女子部ニ入り明治二十二年ヲ以テ業ヲ卒ヘ更ニ高
 等科ニ入りテ學ブト二年卒業後引キ續キ同校教員タリ、抑々成立學舍ハ文學士中原貞七氏ノ創立スル
 トコロニシテ日本女學校ノ嚆矢ヲ以テ稱セラレタルモノ、君ノ此校出身者トシテ名聲ノ高キハ偶然ニア
 ラザルナリ、明治二十六年一旦郷里ニ歸リ舊藩主細川侯ノ設立ニカ、ル鶴城館ニアリテ専ラ地方女子教
 育ノ在ニ當ル、三十二年冬成立學校ノ創立セラル、ヤ君直チニ入りテ教師トナリ、又舍監トナリテ同校
 ノ經營ニ盡瘁シ、薰化セラレタルノ才媛已ニ世ニ名ヲナスモノ尠ナカラズ、後年女子商業學校ヲ起シ、時
 代ノ要求ニ應ジテ孜孜々務メテ止マザル事茲ニ年アリ、今ヤ和田垣博士ヲ戴キテ校長トナシ、市ヶ谷
 門内堂々タル洋式校舍ニ據リ、發展年ト共ニ熾ニシテ東都屈指ノ女學校タリ、蓋シコレ女子ノ精力ヲ語
 ルベク唯一ノ雄辯ニシテ、虛榮ニ囚ハレタル現代婦人ニ對シ、頂門ノ一針トシテ説示スルニ足ル、亦以
 テ偉ナル哉。

電話番町 二千百二十七番

紫垣一雄氏

熊本縣郡部選出衆議院議員

熊本縣下益城郡守富村

君ハ純正ナル政治家トシテ現代ニ名ヲナスノ人、熊本藩士ニシテ慶應元年六月、肥後國下益城郡守富村ニ生ル、資性聰慧ニシテ事ヲ處スル慎重如何ナル複雑ノ事件ト雖モ着々整頓ノ實ヲ擧グ、蓋シ君ガ政治家トシテ世ニ立ツモノ此等ノ特點與ツテ力アリト言ハザルベカラズ、加フルニ風采卓超人ヲ教フルノ資格眞ニ缺クルトコロナシ、議論明晰見識俗ヲ抜キ自信敢行シカモ輕浮ノ言動ヲナサズ眞摯些ノ誤謬ナキニ於テハ一國ノ重望ヲ双肩ニ荷ヒ、舉手投足國家ノ消長ニ關スル政客タルヲ失ハズ、眞ニ熊本縣會議員、同參事會員等ニ擧ゲラレ如何ニ公民的義務ヲ全フセルカハ世ニ定評アリ、敢テ蛇足ノ事タルヲナサズ、就テ見バ熊本縣ノ興復ヲ左右スルノ實力君ニアリテ存スルトイフモ誣言ニアラズ、漸時民望ノ推ス所トナリ明治四十一年第十回總選舉ニ擧ゲラレテ衆議院議員トナリ前後二回席ヲ下院ニ置キ此間大同俱樂部ニ屬シテ終始民權自由國產改良ノ主義ヲ主唱シ、幾多反對者ノ論難攻撃ヲモ介意セズ、自信ニ據ツテ奮闘勇戰益々敵手ヲ殲シ異彩赫々衆目君ノ身邊ニ纏綿スルニ至ル、之レ職トシテ其活動ノ狀ヲ瞻望スレバナリ、斯クノ如ク君ノ眞價ヲ示シテ世ト人ノ爲ニ身心ヲ惜マズ、骨子ヲ吝マズ、終生ヲ抛チテ此ノ紛々タル政界ニ奔走ス誰カ之レヲ偉トセザランヤ、吾儕亦君ノ赤心ニ依托スルニ國家ノ大本ヲ全フシ、而シテ國利民福ヲ増進シ、富國強兵内ニ産業ヲ勵ミ外ニ外敵ヲ防ギ各人其天職ニ安ンジテ、本分ヲ盡シ得ルニ遺憾トスル所ナカラシコトヲ。



谷井勘藏氏

貴族院議員

和歌山縣海草郡雜賀村

輓近實利的主義ノ普及スルヤ社會靡然トシテ勞作ノ神聖ヲ知り實際ノ尊ム可キヲ解スルニ至リタルハ蓋シ喜フ可キ事ナリトス、然レトモ今ノ成効者ヲ見ルニ多クハ時皆勞作ヲ厭フノ時ニ當リ安ンシテ之レニ服スベキヲ知リタルハ谷井氏其人ナリ、遠觀ト云ハザルベカラズ、君ハ和歌山縣ノ人嘉永六年一月ヲ以テ生ル、世々豪農ヲ以テ近郷ニ鳴ル風ニ普通ノ學ヲ修メテ家業ヲ助ク、君資性忠良ニシテ淳樸人ニ接スル甚ダ温恭頗ル君子ノ風アリ、機敏ニシテ輕佻ナラズ、沈重ニシテ澁滯セズ、胸中常ニ練々職務ニ黽勉シ、社會ノ爲ニ盡瘁スルヲ以テ已レガ任ト爲ス、夫レ吾人國民トナリテ生息スル以上ハ必ズヤ盡スベキノ義務ナクンバアラス、念フニ義務ト職業トハ車ノ兩輪ノ如ク必ズ相伴ヒテ離ルベカラザルナリ、職務タルヤ千差萬別一定スベカラザルモ進ンテ進歩的ニ奮闘的ニ活躍スルト退ヒテ保守的ニ職業ニ黽勉スルノ二種ニ行爲上ヨリ區別スルコトヲ得ベシ、進歩的ハ主ニ發展的創始的ニシテ、保守的ハ秩序的整頓的ナルニアリ、君ハ其ノ後者ニ屬スルノ士ナリ、君ハ豊富ナル且ツ平和ナル家庭ニ後顧ノ憂ヒナク殆ント百事意ノ如クナラザルナキノ境遇ニ立テリ、サレバ内ハ善良ナル摸範的家庭ヲ作ルニアリ、蓋シ家庭ナルモノハ將來國家ノ用材ヲ養育シ薰陶シテ輩出セシムルノ樞府ナレバ外ハ能ク法律ヲ重ンジ且ツ之レヲ實行シ彼我ノ權利ヲ知り義務ヲ履行セザルベカラズト、君ハ夙ニ之レヲ以テ自家ノ主義主張トセシナリ、一度選バレテ和歌山縣會議員トナリ其職ニ盡スコト熱心勤勉ニシテ頗ル功蹟ノ見ルベキモノ尠ナカラザリシト云フ、尙南海絹糸紡績株式會社取締役、四十三銀行取締役、和歌山綿糸株式會社、紀州銀行等各監查役、紀陽貯蓄銀行取締役タリ、現ニ和歌山農工銀行頭取トシテ貴族院ニ多額納稅議員トナル、因ニ云フ納稅額九百三十八圓、勳四等貴族院議員ナリ。

千葉貞幹氏

大分縣知事

大分縣廳官舎

武育ニ偏スレバ疎慢ニ流レ、智育ニ馳スレバ點猾ニ卒ル、人格ヲ完全ナラシメンニハ宜シク美育ヲ獎勵シテ二百ノ融化ヲ計ラザルベカラズ。

抑モ君ハ舊奈良藩士千葉清宗氏ノ長男ニシテ、嘉永五年二月十日ヲ以テ生ル、年齒僅カ五歳郷儒ニ就キ讀書習字ヲ學ブ、後チ文武館ニ入り文武ノ道ヲ講ス、由來君深ク皇室ノ式微ヲ憤慨シ大ニ幕政ノ非ヲ唱ヘ期スル處アリ、慶應三年偶々鷲尾侍從勅ヲ奉ジテ高野山ニ兵ヲ舉グルヤ君之ニ投ジテ盡瘁スル處アリ遂ニ王政復古ノ功業ヲ完カラシメシモノ明治時代史ノ存セン限リハ決シテ埋没スベカラザルモノナリ、明治二年帝都ニ出デ譯書ニ就キ秦西ノ法律學ヲ研究スル事茲ニ數年造詣大ニ加ハル、明治七年業完ク卒ハルヤ宮内省雜掌トナリ、翌年轉ジテ司法省十一等出仕ヲ命ゼラル、後チ權中解部四級判事、累進シテ三級判事、更ニ累進シテ各區裁判所長及ビ各地方裁判所長ニ任ゼラル、事茲ニ數回其間到ル處模範的官吏ヲ以テ矚目セラレツ、アリシガ、前年更ニ榮進シテ大分縣知事トナリ今尙現職ニアリ、寔ニ君ノ如キ當代官海稀ニ見ル偉材ニシテ、妙ナクトモ現地方官中五指ニ屈セラルベキハ何人モ否定シ能フ處ニアラサルナリ。



辻 儼 吉氏

實業家

本郷區窪町三九

風貌雄偉ニシテ膽大、性率直ニシテ洒々落落々、音吐朗々、怒レバ鬼神ヲ避ケシメ、笑ハバ嬰兒モ膝ニ嬉々タラシム、居常仁俠ヲ以テ自ラ居リ、弱ヲ扶ケテ、強ト闘ヒ、自ラ信ズル處尤モ厚ク、威武モ屈スベカラズ、而シテ富貴モ淫スベカラザルモノハ、夫レ茲ニ掲グル辻儼吉氏ナルカナ。

君ハ帝都ノ人、安政四年二月ヲ以テ生ル、幼ニシテ伶俐早クモ實業ヲ以テ身ヲ立テント志シ、明治貳年三井組御用所ニ入ル、銳意奮勵漸クニシテ其材器ノ非凡ヲ認識セラレ、後年舉ゲラレテ三井組御用所其組織ヲ變ジテ各部ニ分轄セラル、ヤ、君選バレテ廣嶋横濱和歌山函館四日市各支店長ヲ歷任本店預金係長特別支配人ヲ兼ヌ三十九年二月箱崎倉庫主任トナル、爾來熱心其執務ニ鞅掌シツ、アリシガ、昨四十二年十月同所再ビ其組織ヲ變ジテ東神倉庫株式會社トナルニ至ル、君此變革ニ際シ辭職一月八日依願解僱トナル、寔ニ前後四十年間ノ勤職中一ノ失點ナク圓滿ヲ遂ゲタルナリ。

君人トナリ、温厚篤實、頭腦明晰、猥リニ人ト争ハズ、サレド主義ヲ貫行スルニ當ツテノ氣銳ハ宛然人ヲ異ニスルノ觀アリ、當今實業界中稀ニ見ルノ偉人ナリ、尙資性ノ半面トシテ特筆スベキハ後進ニ對シテ熱心親切ナルノ一事ナリ、君ノ直接間接ノ幫助ニ依ツテ一角ノ人材トナリ得タルモノ殆ンド拾數ニ垂ントストイフ、亦他ノ半面トシテ傳フベキハ、清廉潔白ナルニアリ、當時混濁ナル社會ニ處シテ其節操ヲ保ツ、君亦當代實業界中ノ偉人ナルカナ。

電話下谷 二千五百〇一番

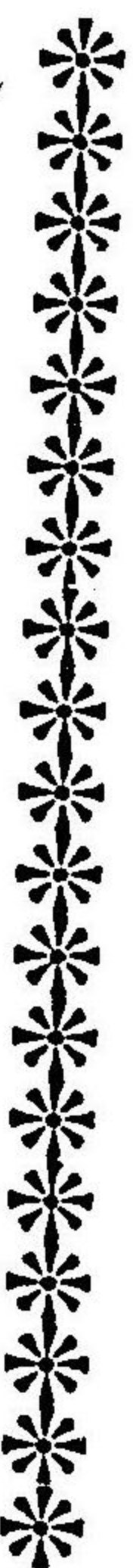
山田珠一氏

熊本縣郡部選出衆議院議員

操觚者トシテノ君名聲已ニ定評アリ、少壯國士トシテノ手腕亦定評アリ、今ヤ月旦ヲ避ケテ旁ニ略歴ニ止メン哉、

君ハ幼ニシテ島原藩儒翁海量容先生ノ門ニ入りテ漢學ヲ修メ造詣頗ル深ク秀才ノ譽レ門生ヲ壓セリ、後濟々覺ニ入り又獨逸語ヲ研究ス滿覺ノ秀才悉ク君ノ背後ニ瞻若タルノ觀アリキ、卒業ノ後九州日々新聞社ニ入り居ル事數年、更ニ上京シテ專ラ修學ニ勉メ又歸テ九州日々新聞主筆トナリ爾來筆硯ニ從事シ名聲實ニ關西ノ文壇ヲ壓倒スルニ至レリ、君曾ツテ讀書ヲ廢セズ以テ今日ニ及ブ其勉勵三十餘年恰モ一日ノ如シ是ヲ以テ其識見學才ノ卓拔深遠ナル克ク群才ヲ凌グ、君ガ九州日々新聞ノ筆政ヲ司ルヤ雄健ノ筆ヲ呵シテ正大論ヲ吐キ醇正ノ政論ハ能ク反對派ノ詭言ヲ擊破シ其他實業ニ教育ニ若クハ風教道德ニ君ガ穩健ノ言議ヲ試ミテ之ガ開導ニ任ジ進歩ニ貢獻シタルモノ實ニ測知ス可カラザル者アリ三十二年社長淺山知定氏ノ歿スルヤ之レヲ繼デ社長トナリ曾ツテ久シク熊本市會議員ノ職ヲ奉ジ三十五年帝國黨ノ選定候補者トシテ衆議院議員ニ當選セリ、四十一年第十回總選舉ノ際熊本市ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ、爾來大同俱樂部員トシテ其才能ヲ發揮シツ、アリシガ、這般ノ合同ニ際シ、同志ト共ニ中央俱樂部ニアリ。

(熊本縣熊本市九州日々新聞社内)



高森新氏

熊本縣郡部選出衆議院議員

熊本縣他託郡日吉村

君ガ今日ニ至レル成功ノ秘タルヤ訣タルヤ熱誠ナリ、蓋シ困窮苦迫ノ間ニ處シ大器ノ晩成ヲ唱フルモノ素ヨリ這般ノ用意何人タルヲ問ハズ見ルベシト雖比較的成功ノ二字ヲ以テ賞フルモ鮮少ナルハ要スルニ意志固カラザルト熱誠ヲ缺クトニ依ル、吾輩茲ニ於テカ君ガヨク忍ビテ拔クベカラザルノ意ヤ以テ終ニ彼岸ニ達セルモノトイフベシ、之レ當今薄志弱行成功ヲ求ムルニ急ナル青年子弟ノ好摸範トスルニ足ル、記シテ傳トナサムトスル是ニアリ、
君ハ萬延元年十二月肥後國他託郡日吉村ニ生ル、夙ニ英漢ノ學ヲ修メ、日吉村ニ村長トシテ村治ニ獻貢シ、次デ熊本縣會議員ニ推サレテ熱心縣治ノ完美ヲ盡スニ至リ名望共ニ高シ、又一面日奈久溫泉改良株式會社社長、肥後製革株式會社取締役、自助株式會社社長、九州商業銀行監査役等ニ任選セラレテ實業界ニ於テモ其雄資ヲ擗ゲタルノ功ヤ大ナリキ漸時民望君ニ歸スルモノ多ク明治四十一年第十回總選舉ニ選バレテ衆議院議員トナリ立憲政友會ニ屬シ其活動世人ノ豫想外ナルモノアルヲ信ズ、
君亦天資濃厚篤實義ニ厚ク情ニ富ム、之レ他人ヲシテ欽慕敬服措ク能ハザラシム其人格高ク引力ノ強キ鼠輩贊辭ヲ知ラズ、願レバ君夙ニ横井小楠先生ノ德ヲ欣慕シ、實業派ノ流ヲ汲ミ、少壯政治ニ志ヲ寄スルヤ、佐々一派ノ四面包圍ノ中ニ立チ毅然トシテ節ヲ狂ゲズ、九州自由黨以來縣政ノ爲ニ奔走シ、國家創立當時ノ逆境ニ立チ克ク屈セザリシ一事ノ如キハ、慥カニ九州政友團中ノ功勞ナラザルヲ得ザルナリ、尙日奈久溫泉ノ大成功ノ如キ、前面ノ海中ヲ埋立シテ存立期限内完全ナル結末ヲ得タル如キ、亦以テ特筆大書ノ價值ナクンハアラザルナリ。

水間此農夫氏

宮崎縣郡部選出衆議院議員

宮崎縣宮崎郡宮崎町

義ヲ見テ水火モ尙且辞セズ、熱血迸ル處斷々トシテ行フ、シカモ靜カニ觀スレバ奇策縱横、克ク最後ノ桂冠ヲ贏チ得ルモノ、眞ニコレ九州男兒ノ自任スル處ナリ、君亦輸入人種ニシテシカモ這箇ノ壯年政客トシテ、意氣ヲ以テ儕輩ヲ凌駕セントス、吾人敢テ君ニ對シテ何等ノ恩怨ヲ有スルニ非スト雖モ、絶大ノ精力ヲ提供シテ政治實業兩界ニ奔走シ、常ニ成績着々トシテ顯ハル、ノ實證ハ、君ヲ頌シテ『勇ナル人』トスルヲ拒マサルナリ、試ニ其經歷ノ一端ヲ摘記シ、加フルニ寸評ヲ以テセン哉。

君ハ讃岐國綾歌郡西分村ノ人ニシテ慶應元年五月ヲ以テ生ル、夙ニ政治經濟ノ學ヲ修メ。大ニ志ス處アリ、長ジテ九州宮崎ニ居ヲ移シ、専ラ公共事業ニ盡瘁ス、既ニシテ衆望君ニ歸シ、推選セラレテ宮崎縣會議員トナル、蓋シ或ル意味ニ於ケル鎖國主義ノ九州ニ於テ、他國ヨリ輸入セラレタル人物トシテ其鋒銳ヲ露出セントスルヤ容易ノ事ニアラズ、シカモ君此一階段ヲ踏ム、豈凡介ノ徒ナランヤ、次テ破産監理人ニ擧ケラル、幾モナクシテ宮崎新報ヲ起シテ社長トナリ、正義硬論、鎮西ヲ聳動ス、今ハ合併シテ九州新聞トナリ、直接ノ關係ヲ有セズ尙一面猿臂ヲ伸ハシテ産業ノ發達ヲ計籌シ日向商業銀行、九州銀行、水力電氣株式會社等ヲ起シテ重役トナリ、明治十一年以來日向米ノ改良ニ腐心シテ今尙米商組合聯合會長トシテ活動日モコレ足ラサルナリ、之レヨリ先キ宮崎縣林産物販賣組合長トシテ努力ス、既ニシテ立憲政友會ニ加盟シテ宮崎支部ノ幹事タリシガ、前年第十回總選舉ニ際シ、郡部ヨリ推サレテ衆議院議員トナル。

今ヤ立憲政友會九州團ニ於ケル少壯家トシテ多大ノ囑望ヲ以テ瞻仰ヲ受ケツ、アリ。

富安保太郎氏

福岡縣郡部選出衆議院議員

福岡縣山門郡川北村

志士ノ如ク、老書生ノ如ク、細末ニ抱泥セズ、大節ヲ重ンズ、血アリ涙アリ、稜々ノ俠骨、人ノ弱キヲ扶ク、シカモ銳鋒時ニ曝露シテ、小膽豆ノ如キ輩ヲ窘塞セシム、慥カニ九州男兒ノ面目ハコレヲ君ニ見ル、今茲ニ其閱歷ノ一節ヲ録シテ抄シク其活動振ヲ見ムト欲ス、君ハ筑後國山門郡三橋村ノ人ニシテ慶應元年五月ヲ以テ生ル、少壯笈ヲ負フテ東都ノ人トナリ、一世ノ偉人中村敬宇先生ノ同人社ニ入ル、即チ同社ハ早クモ精神修養ニ重キヲ置キ、勉メテ自助ノ精力ヲ涵養スルニ努メタリ、同社出身ノ多數ガ人格ノ人トシテ世ニ尊重セラル、モノ所以アルカナ、君茲ニ學ンデ頗ル造詣スル處アリ、次デ築地後治學院ニ入り、業卒ルヤ歸ツテ郷里ノ人トナル、爾來專ラ縣下ノ公共事業ニ力ヲ注ギ、二十歳前後ノ一青年ヲ以テ九州改進黨員トシテ奔走ス後年選ハレテ同縣會ニ席ヲ置ク、既ニシテ其手腕ト素養トハ、縣會議場ノ精華タリキ、忽チニシテ舉ケラレテ同副議長トナリ、遂ニ推サレテ同議長トナル事二期ニ及ブ更ニ普通教育ノ普及ヲ絶叫シテ學政ニ一大改革ヲ加ヘ、強要セラレテ同縣教育會副會長タリキ、尙精力ヲ割ヒテ商工業ノ發展ニ努力シ、博多商業會議所特別議員トシテ多年貢獻ス、而シテ自家經營トシテ九州製曲株式會社ヲ起シテ社長トナリ、次デ博多築港株式會社ヲ創立シテ社長トナル、外ニ株式會社高瀬銀行ノ經營ニ任シテ頭取タリ、當時多クハ當面ノ任ニアラサルモ君ノ力ニ持ツモノ亦大ナリ、昨四十二年第十回總選舉ニ際シ、選ハレテ衆議院議員トナル、當時逐鹿場裡ニ於ケル其態度ハ遺憾ナク君ノ面目ヲ發揮セリ、即チ、最上ノ武器ハ自己ノ熱誠ナリキ、毫モ手段ヲ弄セズ、正々堂々陣頭ニ起ツテ輪贏ヲ決セラルナリキ、眞箇志アルモノヲシテ歎美セシメタルモノ亦以テ故ナキニアラサルナリ、今ヤ立憲政友會員トシテ勉メテ自重ニ出テツ、アリ、知ラス捲土重來何レノ日カ。

杉下太郎右衛門氏

貴族院議員

岐阜縣吉城郡國府村

積善ノ家ニ餘慶アリ、家系ニ記サレタルモノ連綿二十三世、代々土地ノ豪族トシテ名聲遠近ニ聞ユ、抑モ何等ノ慶事ゾヤ、岐阜ノ名門杉下家ニ於テ此事實アリ、先代ハ有名ナル實業家ニシテ、夙ニ卓見ヲ具シ、縣下産業史ト雖ルベカラザル干係ヲ有ス、而カモ人格高潔ニシテ同情ニ富ミ、縣民今尙其功蹟ヲ稱ヘテ止マザルナリ、彼ノ日清戰役前、米國「コロンバス」博覽會ヲ視察シ、道途布哇ノ産業狀態ヲ研究シ、歸來施シテ偉大ノ勳功アリ、帝國農業界ニ努力シタルガ如キ亦顯著ナル實例ナリ、君ハ其息男ニシテ慶應三年九月、岐阜縣吉城郡國府村ニ生ル、早ク先考ノ薫化ヲ受ケ、學卒ルヤ決然萬里ノ波濤ヲ踏ンデ米國ニ航シ、實業上ノ視察ヲ遂ゲテ母國ニ入ル、二十六年推サレテ郡會議員トナリ地方公共ノ事業ニ力ヲ注グ、三十一年農工銀行設立ノ議アルヤ、同志長尾、矢橋氏等ト共ニ設立委員トナリ、業ヲ開ヒテ濃飛農工銀行トナルニ及ンデ多年重役タリキ、當時、第二、第三回飛彈物産共進會參事員トナリ、銳意盡瘁怠ルナシ、既ニシテ衆望君ニ歸シ、第五回第六回衆議院議員總選舉ニ際シ、推サレテ縣下第七區ヨリ候補者トナリ、共ニ當選シテ少壯議員ノ盛名ヲ博セリ、三十五年大選區制實施以來、意ヲ政爭紛亂ニ斷チ、專ラ實業ノ發達ニ傾注セリ、三十九年、金融機關杉下合名會社ヲ創業ス、四十年十月同縣多額納稅議員ノ補欠選舉ニ際シ、互選セラレテ貴族院議員トナリ、爾來引續イテ今日ニ及ビツ、アリ、是レヨリ先キ明治二十年感ズル處アリ赤十字社ニ加盟シ自來特別幹旋スル處アリテ特別社員、有功社員トシテ今尙ホ盡瘁シツ、アリ、傳ヘテ曰ク、當主ノ手腕ハコレ乃父ノ衣鉢ヲ享ケタル處ニシテ、世ノ所謂富豪ト異ナツテ頗ル積極主義ヲ特シ、果敢勇邁、貫カズンバ止マザルノ氣ハ宛トシテ先代ノ倣アリト、尙其趣味ノ高尚ニシテ、文筆ヲ嗜ムノ癖ハ、蓋シ夫レ一種ノ遺傳カ、附記シテ以テ本稿ヲ結ブ。

田中定吉氏

高松市選出衆議院議員

香川縣高松市南紺屋町

議會ニ絶體的過半数ヲ占ムル立憲政友會、人物亦乏シカラズト雖モ、少壯有爲ノ人士ヲ屈指スレバ、先ツ君ノ如キモ五指ヲ脱セザルベシ、君ガ中央政海ニ一指ヲ染メタルハ去ル三十六年第八回總選舉ノ當時ナリ、由來高松市ノ地タル、中野武營氏ガ多年勢力扶植ヲ計リタル所ニシテ、容易ニ動搖スベキモノニアラザリキ、新進氣鋭ノ君、一ト度起ツテ疾呼スルヤ、翕然トシテ市民ノ應援スルアリ、今ヤ其勢力頗旺盛ニシテ、他輩ヲシテ窺フノ餘地ナカラシム、亦以テ君ノ手腕ヲ察知スルニ足ラズヤ其傳ニ曰ク、君ハ讃州高松市ノ人、明治三年二月ヲ以テ生ル、夙ニ普通學ヲ終ツテ東都ニ出デ、神田今川小路專修學校(專修大學ノ前身)ニ入り、主トシテ理財ノ學ヲ修ム、卒業後歸ツテ故山ノ閉關ニ入り專ラ家業ニ從事ス、幾モナクシテ身ヲ公共事業ニ投ジ、選バレテ市會議員トナル、既ニシテ其才鋒群秀ヲ壓シ、遂ニ推サレテ縣會議員トナル、敏腕縱橫一步々々ノ勢力盤ハ、愈々擴大セラレテ遂ニ三十六年同議長ニ推舉セラレ、此當時ヨリ立憲政友會香川支部ノ重鎮トシテ黨勢擴張ニ努力シ、早クモ衆議院議員ヲ以テ擬セラレヌ、果セル哉三十六年總選舉ニ打ツテ出デ、美事當選ノ光榮ヲ得テ以來、爾來每期ノ總選舉ニ際シ、連續當選以テ今日ニ至ル、外ニ實業方面ノ關係トシテ高松銀行取締役タリ、今ノ時、政黨内閣ノ樹立ヲ實現セント欲ス、尠クトモ少壯議員ノ奮起ハ其一條件タルヤ必セリ、希クハ自重シテ本節ヲ全フセラレン事ヲ

藤堂高紹氏 伯 爵

本所區横綱町一丁目五番地

操觚者ノ德義、茲ニ疲レタルヤ久矣、吾徒ハ藤堂伯ヲ傳スベク特ニ此感ヲ深フス、敢テ多言スルヲ休メ今其家系ノ概略ヲ摘記セントス。

當家ハ天武天皇ノ皇子、一品舍人親王ノ曾孫、中原真人長谷ノ後胤、藤堂石見守友章十二世ノ孫、源助虎高ノ子、和泉守高虎ノ後ナリ、高虎ハ人モ知ル明主ニシテ、武勇絶倫戰國時代ノ好將軍ナリキ、年甫メテ十五、阿閉淡路守ニ身ヲ倚セ、更ニ織田信澄ニ屬シ、羽柴秀長ニ從イテ各所ニ軍功ヲ顯シ、亦豊臣秀吉ニ用ヒラル、秀吉薨シテ悲歎ニ耐ヘズ、剃髮シテ高野山ニ入ル、秀吉其材ヲ惜ンデ招致シ中納言秀俊ニ仕ヘシム、文祿年間朝鮮征伐ニ從軍シテ殊勳アリ、秀俊薨ズ、高虎復ビ去ツテ高野山ニ入ル、秀吉屢々之レヲ召スモ應セズ、三顧ノ厚遇固辞スル能ハズ、伊豫國板島七萬石ヲ賜フ、慶長二年再ビ朝鮮ニ航シ、屢々奇功ヲ奏シテ八萬石ニ加増セラレ秀吉薨去ノ後、舊交ニヨツテ徳川家康ヲ扶ケ、關ヶ原ノ役大功ヲ致シ、爾來數度ノ加増ヲ經テ遂ニ勢州安濃津ノ城主三十二萬石トナル、後高次、高久、高睦、高敏、高治高朗、高悠、高巖、高兌、高傳、ヲ經テ高潔ニ至ル、當主高紹君ハ其第二子ナリ、明治十七年七月廿七日ヲ以テ東京ニ生ル、廿三年一月八日家督ヲ相續シテ伯爵ヲ襲グ、夙ニ學習院ニ入リ、秀才ノ名同窓ニ高ク、成績優等ヲ以テ三十八年高等科ヲ卒業ス、次デ萬里ノ波濤ヲ蹴ツテ大英國ニ航シ、「ケンブリッジ」大學ニ入リ去ル四十年ヲ以テ卒業歸朝ス。君資性敏慧、學深ク志遠大ナリ、當代青年貴族中稀ニ見ルノ英材ニシテ、未來ノ發展ヲ期セラレツ、アリキ、然ルニ些々タル煩ニヨリ、一部ノ誤解ヲ受ケ、自ラ不明ト號シテ門ヲ閉チテ讀書三昧ニ入リ、名聲恢復ニ努メツ、シカモ敢テ求メズ、自然ノ氷解ヲ待チツ、アリ、今ヤ却ツテ其真相ヲ知ラレントス、豈亦悶フノ要アラシヤ、僞虛ノ世、僞善ノ世、冷酷ナル世、輕薄ナル世、亦何ノ憂フル處アラン、尠ナクトモ一人ノ同情者アラバ、以テ安センノミ。

電話浪花 千五百八十番

河合佐兵衛氏 實業家

日本橋區本石町四ノ廿一

忍耐ト勤勉トハ偉大ノ効果ヲ生ムモノナリ古語ニ忍耐ハ幸福ノ母トヤラ即チ最大ノ苦痛ナクンバ最大ノ幸福ハ得難ク非常ノ奮闘ヲ以テ社會ニ處セバ非常ノ成功ハ必セリ、吾人ハ今之ヲ河合佐兵衛君ノ半生涯ニ於テ益々其然ルヲ知ル、君ハ明治四年九月ヲ以テ神田三河町四丁目七番地ニ生ル、羽毛田金兵衛氏ノ次男ニシテ幼名ヲ忠吉ト云フ、資性敏慧ニシテ剛毅難局ニ當リ撓マズ殊ニ博愛任侠ノ義氣ニ富ミ幼ヨリ既ニ望ヲ囑セララル十二歳ニシテ日本橋區本石町四丁目洋銅間屋河合佐兵衛氏方ニ商業見習トシテ僱雇セラル同氏ハ金物業者間ノ人物ニシテ實ニ東京ニ於テ斯業ノ卒先者タリ現今本邦第一ノ洋銅商ニシテ我國ニ需用セラル、該品ノ過半ハ同店ニ於テ取扱ハル、ト云フ、故ニ洋銅輸入、多寡ハ同店ノ消長ニ依テ知ラル君此家ニ入り爾來卒直ト忠實トヲ以テ大ニ事業ニ精勤セシカバ主家ノ信用ハ累日ニ加ハリ二十三年懇望ニヨリテ同家ノ養子トナル卅四年襲名シテ佐兵衛ト改ム因リテ君ハ其責任ノ益々大ナルヲ思ヒ一意專心斯業發達ノ爲メニ拮据精勵セシヲ以テ業務日ト共ニ榮ヘ年ト共ニ隆盛ニ向ヒ販路全國ニ涉リ遂ニ斯界ノ覇ヲ握ルニ至レリ現ニ選バレテ東京鋼鐵株式會社監査役、東京鐵業銀行監査役タリ君常ニ素行ヲ尙ビ家政能ク齊ヒ和氣洋々トシテ堂ニ溢ル君今ヤ年齡漸ク壯ンナリ猶今後勉メテ已マズンバ將來ノ發展測ルベカラザルナリ、今ヤ洋鋼ノ需用ハ益々多キヲ加ヘ殊ニ東洋ニ於テハ支那ノ如キ近時非常ニ輸入額ヲ増加シ、猶今後一層需用ノ進ミ行ク形勢アリ前途君ガ手腕ヲ揮フノ餘地ヤ廣且大ナリト謂フベシ此時ニ方リ平生蓄積ノ理想ヲ實行シ大手腕ヲ揮フテ奮闘激戰多々益々業務ノ擴張ヲ計リ以テ斯界ヲ縱斷サレン事ヲ。

電話本局 一三一七番 全 一三七六番 芝 六六二番

佐野春五氏

兵庫縣郡部選出衆議院議員

兵庫縣神戸市北長狹通

其徳慕フベク其學殖敬スベキ當代法曹界ノ巨才佐野春五氏ノ閱歴ヲ摘記シ、襟ヲ正シ筆ヲ清メ硯ヲ淨メ一篇ヲ草ス、君ハ淡路國津名郡鹽田村ニ萬延元年十一月ヲ以テ生ル、學事ニ志シ東遊シテ三田慶應義塾ニ英學ヲ研鑽シ後東京專門學校、英吉利法律學校ニ登雪ノ功ヲ積ミ辯護士試驗ニ及第シテ開業シ常ニ義氣ヲ以テ已決ノ罪人ヲ救護セントシ所謂組上ノ魚ヲ水ニ放ツガ如キヲ敢行シ信望愈々加ハリ世人ノ景仰淺カラズ、各議ノ紛議ヲ解裁シテ依信隆平タリ、而シテ神戸辯護士會長ニ舉ゲラレ専ラ同會ノ主旨ヲ全カラシメ會員ヲシテ其據ル所ヲ知ラシム、又破産管財人ニ撰バル、前キニ村會議員ニ選バレテハ村治ノ爲メニ私財ヲ吝マズ、尙兵庫縣會議員等ニ推サレ公務ニ軼羣シテ寧日ナシ、一方ニ於テハ神戸新報記者トナリ一度筆ヲ呵スレバ千言萬語立處ニナリ明論高説社會ノ迷夢ヲシテ風刺覺醒セシメ、最モ人文ノ發達交通便ニ意ヲ注ギタルナリ、實ニ君ノ如キハ今時徒然空想ニ沈淪シ曠日爾久僥倖ヲ期待シテ活動ノ意義ヲ利解セザル青年ヲシテ起タシムルニ足ル、茲ニ其略歴ヲ短草シテ後進子弟ノ立志勵行ノ資トナサントス、

君ノ衆望漸ク大ニシテ昨明治四十一年第十回總選舉ニ際シ競ハズシテ衆議員議院ノ榮職ハ君ノ身邊ニ纏ヒタリ、必ズヤ一舉手一投足之レ愛國ノ舉動ニシテ政界ニ自主自由ノ言動以テ政客ヲ化スベシ、吾人嗚ヲ靜メテ謹望ス、乞フ君國ノ爲メ時ニ豪然ノ氣ヲ養ヒ身心ノ消耗ヲ補シ老テ益々盛ナラムコトヲ。

根岸岨太郎氏

群馬縣選出衆議院議員

群馬縣群馬郡大類村

四十一年度ノ帝國議會ノ決算委員會ニ於テ、「コムミツシヨシ」問題ニ就テ政府委員ニ痛快ナル質問ヲ試ミ、流石圓轉自在ノ彼等ヲシテ一時色ヲ失ハシメタルハ君ナリキ、此一事實ヲ以テ君ノ人物ヲ想像セバ、頗ル圭角アル、理屈屋ノ感アリト雖モ、而ガモ一ト度ヒ其風貌ニ接スレバ、温乎トシテ春ノ如キアリ、君亦熱情ノ國士歟、

聞ク君ハ群馬縣群馬郡大類村ノ人、萬延元年九月ヲ以テ生ルト、家世々土地ノ豪農ヲ以テ聞ユ、幼ニシテ郷里ノ碩學ニ就テ學ヲ修ム、長ズルニ及ンデ地方公共事業ノ爲ニ奔走シ、人望隆々トシテ縣下ヲ歴ス、始メ村會議員トシテ其手腕ヲ認メラレ、更ニ選ハレテ同縣會議員トナル、由來群馬ノ縣會ハ地方自治團體中至難ヲ以テ目セラル、政争ハ各種ノ治政ニ影響シ、辛辣ノ技量ヲ有スルニアラズンバ議員トシテ安全ナル椅子ヲ保ツ能ハザルナリ、君此間ニ介在シテ克ク其任ヲ完フシ、同常置委員、同參事會員トシテ獻身の努力ヲ以テ施政ノ大方針ニ參劃スルト共ニ一方、立憲政友會同縣支部ノ幹部トシテ黨勢擴張ニ對シ、計籌最モ力メタリ、既ニシテ衆望君ニ趨歸シ、昨年第十回衆議院議員總選舉ニ際シ、同縣郡部ヨリ推選セラレテ公認候補者トナリ、美事當選ノ月桂冠ヲ得テ盛名愈々揚ル、尙同縣農工銀行取締役トシテ盡瘁シ、爾後同行取締役トシテ現今ニ及ブ。

熊本壽人氏

福岡縣郡部選出衆議院議員

福岡縣三浦郡木室村

想フニ君ノ政治的立脚地ハ實業ノ骨子ニ政治ノ筋肉ヲ以テ組成サレタル者ナリト雖モ、其血管ヲ橫流スル者ハ即チ九州男兒ノ熱血ナリ、見ヨ其事業ガ各種ノ現象ヲ以テ箇中ノ這息ヲ語リツ、アルヲ、君ハ筑前國久留米市ノ人ニシテ安政五年八月ヲ以テ生ル、夙ニ和漢ノ學ヲ修メ更ニ外國語ヲ修ム、家世々醫ヲ以テ仕官ス、維新變革後歸農シテ専ラ産業ノ發達ニ盡瘁ス、元來福岡縣ノ地タルヤ、實業ノ發展早クヨリ其實績ヲ示シツ、アリ、蓋シ、肥沃無二ト稱セラレ、筑後河ノ沿岸、舟楫ノ利便自ラ具ハル其流域、自然的地形ノ勝ハ、遂ニ豐富ナル國產ヲ出スニ至リシナリ、而シテ近年輸出品中重要ノ品目タル花莖ノ如キハ、多年君等ノ苦心ニヨツテ頓ニ其產額ヲ増加シツ、アリ、而シテ此事タル、同縣産業史上軌近ノ近部分ニ屬シ、光榮アルベシヲ彩リツ、アリ、此現象ハ全ク君等ノ多年心血ヲ瀉ギツ、東奔西走ノ費ニシテ福岡縣民ノ徳トスル處ナリ、爾來同縣花莖同業組合會長トシテ銳意奮闘一日ノ倦怠ナシ、此不言實行ノ高價ハ、衆望翕然トシテ君ニ歸シ、同縣會議員ニ推選セラレ、幾モナクシテ同常置委員トナル、此間ノ手腕ハ遂ニ君ヲ驅ツテ國士タラシム、即チ前年第十回總選舉ニ際シ、同縣郡部定員十名中、第三位ノ高點ヲ以テ當選ノ榮譽ヲ荷フニ至リシナリ、亦以テ其勢力ノ半面ヲ察知スルニ足ラズヤ、爾來立憲政友會九州團員中、眞率ヲ以テ定評アルニ至リシナリ、

君爲人温良恭謙、吾徒嘗テ、同縣某政客ニ就テ君ガ産業上ノ大功績ヲ耳ニス、會々機ヲ得テ一夜君ガ旅寓ニ訪ヒ、百方其苦心談ヲ求ムルモ、君笑テ答ヘズ、只曰ク眞面目ニ與ヘラレシ使命ヲ遂行セント欲シ今尙欲シツ、アルノミト、談論九州政界及實業界ニ就テノ見アリシノミ、敢テ告白シテ記者ノ凡ヲ示ス

岡井藤之丞氏

岐阜縣郡部選出衆議院議員

岐阜市秋津町

中央俱樂部ノ重鎮、岡井代學士、今ヤ三度ビ選バレテ日比谷ニ客タリ、多年黨ノ發展ニ參劔シ、幾多ノ盛衰ヲ度外シテ剛健愈々熾ナルモノ、吾人コレヲ君ニ見ル、試ニ其私生涯ヲ窺ヘバ、宛乎トシテ老書生、一點ノ術氣ナク奇氣ナシ、能ク人ヲ容ル、ノ雅量アリ、脈々タル熱血、時ニ迸ツテ世ノ弱者ヲ扶ク、法廷ニ、政壇ニ一貫スル熱氣ハ蔽ハント欲シテ能ハズ、即チコレ好丈夫ノ謂カ、

傳ニ曰ク、君ハ慶應二年三月ヲ以テ美濃國郡上郡八幡町ニ生ルト、年少出デ、東都ニ客トナリ、東京法學校ニ入ツテ法律學ヲ修ム、苦學數年業卒ツテ辯護士試験ニ合格シ、歸ツテ郷里ニ開業ス、新進氣鋭ハ忽チ當時ノ趨進ニ投ジ、同地法曹界ノ少壯家トシテ聲名隆乎一縣ヲ聳動ス、遂ニ餘力ヲ擧ゲテ縣ノ公共事業ニ盡瘁シ、縣會議員同副議長等ニ歷仕シ、熱誠ヲ以テ事ニ當リ、縣治ノ改善セラレタル者頗ル多シト聞ク、去ル三十六年第八回衆議院議員總選舉ニ際シ、岐阜市ヨリ選バレテ衆議院議員トナリ、同年議會解散ノ後再ビ同市ヨリ選出サル、前年第十回總選舉ニ際シ、同縣郡部ヨリ打ツテ出デ今ヤ大經綸ヲ深藏シテ日比谷ニアリ、

吾徒ハ先キニ君ノ性格ノ一面ヲ記述セリ、更ニ注釋ノ要ヲ見ズト雖モ、血性男兒トシテ、然諾ヲ重ンズル仁俠ノ美風ハ再ビ反覆シテ吾ノ偉ヲ稱セザルヲ得ズ、願クハ好漢健在ナレ

安東敏之氏

愛知縣名古屋市選出衆議院議員

名古屋市下園町

山陽ノ地由來多ク俊才ヲ出ス、之レ地勢周圍ノ然ラシムル所タルベキモ、其レガ第一因トモ云フベキハ其人ノ確固タル意志ト、加フルニ、明瞭タル識眼アルニアラズンバ能ハザルナリ、君モ亦、山陽俊才ノ一人ニシテ美作ノ産ナリソガ事歴ノ多端豐富ナル、禿筆ノ能ク盡シ得ル所ニアラザレドモ、既往ヲ鑒ミ將來ヲトシ以テ、余輩ヲシテ其短評ヲ試マシメヨ、

君ハ、美作國勝田郡廣戸村ノ産ニシテ、慶應二年四月ヲ以テ生ル、早クモ學ニ志シ、笈ヲ負フテ東都ノ人トナリ、東京法學院ニ入りテ、刻苦精勵以テ數年ノ益雪ヲ積ミ、卒業ニ際シテ成績優等ヲ以テ稱セラ

ル、

一度ビ學窓ヲ出ヅルヤ、先ヅ辯護士試験ニ合格シ、東奔西走、事ニ當リテハ熱烈胆勉、遂グズンバ止マザルナリ、遂ニハ衆目ノ視ル所トナリ、選バレテ名古屋市會議員トナル、公論正義身ヲ犠牲ニシテ公共ノ利益ヲ増進シタリ、

次ギニハ愛知縣會議員トナリ、續イテ同參事會員トナリテ、益々天資ノ勇氣ト、豐富ナル知識トヲ實現シ舉ゲラレテ同市部議長トナレリ、

又君ガ職ヲ奉ズル辯護士社會ニ於テハ、正義ノ論客トシテ芳名知ラレザル無ク、名古屋辯護士會長ト仰ガレ、遂ニハ實業社會ニマデモ其德澤波及セラレテ、名古屋商業會議所特別議員ニ舉ゲラレタリ、

終リニ於テ、氏ニツキ特筆大書スベキ事ハ、今回名古屋市ヨリ大多數ヲ以テ、衆議院議員ニ選バレタルコトナリ、君、議場ニ出デ、ハ、成申俱樂部ノ重鎮トシテ注目セラレ敏腕ヲ以テ定評アリ、今ヤ同志ト共ニ袂ヲ連ネテ中央俱樂部ニ加ハル、亦當代少壯政客ノ一員ナリ。

小野崎耕夫氏

岩手縣郡部選出衆議院議員

岩手縣稗貫郡宮野目村

一舉手一投足直チニ世運ノ消長國家ノ隆衰ニ關ムセザルナク、百萬ノ民衆ヲ塗炭中ニ救ヒ、壓制政治下ノ人民トシテ自由ノ空氣ヲ呼吸セシメ國民ヲシテ獨立天地間ニ遊行セシムルハ是レ豈政治家ノ本分ニアラズヤ茲ニ自由民權ノ主義金鐵ノ如ク剛毅犯シ難キノ風アルハ、大同俱樂部ニ異彩ヲ放散シツ、アルノ小野崎代議士其人ナリ。

君ハ萬延元年十一月陸中國稗貫郡宮野目村ニ生ル、幼時夙ニ漢學ノ研鑽ニ日モ足ラザルノ感アリキト得ル所モ亦比スベキモノアリ之ノ分陰ヲ惜ミテ刻苦精勵ニ、一度戸長ニ任ゼラレ後チ村會議員稗貫郡會議員次デ嚴手縣會議員トナリ衆望ノ歸スル所大ニシテ四十壹年第十四回總選舉ニ郡部ヨリ推サレテ衆議院議員トナリ今日ニ至リタルナリ、爾來村郡縣會議員ノ席ニ有ツテ縣治ノ改發ヲ主唱シテ迫害防止ノ交々至ルモ其ガ爲ニ自主ヲ屈スルナク益々奮闘迫害防止ヲ鞏固シテ超然タリ、以テ弊風ヲ除去スルニ至ツテハ君ノ力與ツテ大ナルモノ少ナカラズ、當時ノ勇氣消退ノ色ナク益々増大シテ國會ノ議場ニ及ンデ國弊ノ刷新ヲ期スルニ足ル實ニ君ノ如キハ國家ノ代議士トシテ最モ吾人ノ尊敬ヲ厚フスルモノナリ。

君人トナリ温恭自謙ヨク人ヲシテ羨慕セシムルニ足ル一豪農トシテ今日國家ノ政客トシテ世人ノ尊敬ヲ受クル 至ル故ナクツカナハムヤ、吾儕敬シテ傳ヲ草スルナリ。



天野董平氏

山梨縣郡部選出衆議院議員

山梨縣北都留郡笹子村

資性敦厚、謙讓自持シ誠實ヲ以テ經トナシ、勤勉以テ緯トナシ而シテ事ヲ創メバ、天豈之レヲ賞シ以テ授クルニ成功ニ印綬ヲ以テスルニ吝ナラン哉抑モ人生ノ行路ハ月日ノ如キモノナラン乎、看ヨ時ニ沃氣天ヲ覆ヒ、毒霧地ニ滿チ輝々タル日光モ其光明ヲ失フニ至ル、サレド之レ一時ノ現象ニ過ギザルナリ、人生苟モ誠實勤勉ヲ以テ事ニ處セバ時ニ敗厄アルモ、終ニハ誠實勤勉ノ暖光ヲ得ルニ至ルヤ必セリ、吾人之ヨ君ノ半生ニ照シテ聊カ略歴トシテ茲ニ草セント欲ス、

聞ク君ハ山梨縣ノ人、嘉永二年十二月ヲ以テ甲斐國北都留郡笹子村ニ生ル、夙ニ學ヲ好ミ早クモ碩儒ニ就テ漢籍ヲ學ブ、後チ同村戸長トナリ、更ニ町村制ノ遂行セラル、ヤ推サレテ同村長トナリ多數村民ノ與望ヲ全フシ德望大ニ加ハル、尋デ村會議員、郡會議員、縣會議員、同常置委員、同參事會員ニ推舉セラレ治績大ニ舉ガル、此功績ハ遂ニ君ヲ推シテ明治卅七年第九回衆議院議員總選舉ニ際シ同縣郡部ヨリ起タシムルニ至リシナリ、尋デ一昨四十年任期滿チテ、更ニ第十回總選舉ニ至ルヤ再ビ同縣郡部ヨリ候補者トシテ打テ出デ、美見最高點ヲ以テ推舉セラレ比谷原頭ニ議席ヲ有スルニ至リシナリ、君亦餘力ヲ割イテ曩ニ笹子新炭株式會社、株式會社興産銀行、株式會社赤井炭礦會社各取締役、初狩貯蓄銀行常務取締役トシ盡瘁シ、一方縣下酒造業者ノ多數ナルニ拘ハラズ、規模狭少ニシテ積極的向上心ニ缺如セルヲ憤慨シ、其改良發ヲ唱導シ、帝都ニ向ツテ販路ノ擴張ニ努力シツ、アリ。

野田卯太郎氏

福岡縣郡部選出衆議院議員

福岡縣三池郡岩田村

立憲政友會ノ重鎮、九州政友團ノ權威、大塊野田翁、頃日海外漫遊ヲ終ツテ新聞紙上例ニ依テ記者共ヲ翻弄シツ、アルヲ見ル、君政機線ノ人材トシテ重視セラレ、毎ニ政治問題ノ評論中ニ其名ヲ列セラレ、操觚者ノ筆端已ニ定評アリ、吾人ハ嘗ニ其多年ノ努力ヲ尊敬シ略傳ヲ摘記スルニ止メンノミ。

君ハ筑後國三池郡岩田村ノ人ニシテ嘉永六年十一月ヲ以テ生ル、實父伊七氏ノ長男ナリ、幼ニシテ先代森右衛門氏ノ養フ處トナリ、夙ニ漢籍ヲ修メテ出藍ノ譽アリ、後年自由民權ノ時代潮流ニ投ジ、汎ク先輩ト交遊シテ國事ニ奔走ス、尙一面、縣下ノ産業發達ニ盡力シ、斯界ノ先覺者トシテ名噴々タリ、彼ノ三池土木株式會社、三池海面埋築株式會社、九州製油株式會社、福岡縣農工銀行、三池紡績株式會社等ハ事實上君ガ經營スル處ニシテ、殊ニ三池紡績ノ如キハ絶大ノ心血ヲ澀キタル處ナリ、既ニシテ明治三十一年縣下第四區ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ、早クモ中央政界ニ其聲ヲ唱フ、全三十五年大選區制トナルヤ同縣郡部ニ於ケル最高點トシテ當選シ爾來引續キ代議士トシテ今日ニ至ル、其材器迎ヘラレテ立憲政友會ノ樞機ニ參與ス、堂々タル態度、悠揚迫ラサル處、其人物ノ大ナルヲ見ル、頃日國際關係及商工業視察ノ爲メ歐米ヲ漫遊シテ歸來セリ。

君爲人熱情ニ富ミ、克ク後進ノ爲ニ盡シテ倦怠ナシ、シカモ風骨禪味ヲ帶ビ、諷刺一度ヒ口ヲ發スレハ對手ノ肺腑ヲ刺ス、君亦九州男兒ヲ代表スル國土ノ典型ナリ。

下村辰右衛門氏

貴族院議員

佐賀縣佐賀市牛島町

吾徒一布衣荷クモ筆硯ヲ以テ世ニ立ツ、須ラク大義ヲ重ンゼザルベカラズ、權門ニ諛ヒ、富豪ニ媚ブ元ヨリ齡セザル處ナリ、當代人物ヲ月旦セント欲ス既ニ鎮靜ノ頭腦ヲ以テ之レヲ斷セザルベカラズ、世評何カアラム、自ラ信ズル處ヲ開披シテ以テ探ルベキアラバ、勢力金權地位名譽、盡クコレ術トナスニ足ラザルナリ、世ニ不健全ナル思想者ノ犠牲トナリテ白矢ヲ立テラレ、其真面目ヲ誤ラレ、モノ蓋シ決シテ渺ナカラザルナリ、如斯ハ後世史ヲ編ム者ヲシテ誤ラシムルモノ、我徒ハ常ニ此感ヲ抱ヒテ人ヲ評ス明治商界ノ遊星下村辰右衛門氏、其利刀時トシテ懦夫ノ胸ヲ刺シ、會々擧ゲラレテ中傷ヲ買フ、我輩ハ弊ヲ大ニシテ天下ニ宣言ス、他ナシ、明治成功ノ實業家ノ過半ハ天賦ノ才根ニヨル、即チ一方拔群ノ長アルト共ニ一方渺ナカラザル缺欠アリ、爲メニ小膽豆ノ如キ輩ヲシテ、一種嫉妬的偏見ヲ以テ長ヲ賞セズシテ直チニ短ヲ貶セシム、何ゾ其公平ヲ缺グノ甚ダシキ、苟モ一世ニ名ヲナスモノ、過去ヲ追懷シテ自テ發見セラル、粒々玉ノ汗ニ尊敬ヲ拂フハ蓋シ後進ヲ教ユルノ道ナリ下村氏ノ如キ寔ニ這箇ノ傑物ナリ。

君ハ佐賀縣士族ニシテ明治六年二月ヲ以テ生ル、幼ニシテ穎敏俊才ヲ以テ聞ユ、夙ニ普通學ヲ修メ長ズルニ及ビ志ヲ實業界ニ致ス、按ズルニ當今ノ名ヲ成ナシ功ヲ樹テタルノ叢睡手維新ノ風雲ニ乗ジテ起テ功名ヲナシタルモ多シ、就テハ其多ク資縁ノ力ヲ借ラザルハ殆ト稀ナルニ君ノ如キハ此間些ノ此事ナク以テ今日ノ地位ヲナスニ至レルモノナリ、現ニ多額納稅議員トシテ上院ニ席ヲ有ス而シテ肩書ハ勳四等貴族院議員ナリ、佐賀第六銀行監査役トシテ敏腕ヲ振フテ遺憾トスル所ナシ、佐賀市名譽職商業會議所議員、佐賀貯蓄銀行、佐賀米穀取引所各監査役、佐賀馬車鐵道會社社長佐賀酒造株式會社取締役廣瀨水力電氣株式會社取締役タリ、因ニ附記ス納稅額千三百三圓ナリト。

辰己檜太郎氏

貴族院議員

奈良縣生駒郡法隆寺

熱烈タル誠心燃ヘテ内ニアリ、確固タル信仰高ク天ニ達ス、涙アリ情アリ、智アリ理アリ、斯クテ人ヲ動かサスンバ何ヲ以テカ化スルヲ得ン、徳光燦タリ爛タリ以テ世ニ推サル、コレ奈良ノ豪族辰己家歴代ノ逸事ナリ、家世々農ヲ以テ業トナシ、代々平四郎ヲ襲名ス、中世ノ祖平四郎清隆氏、天資英才ヲ抱イテ能ク業ヲ勵ミ、永ク甲正トシテ治績德望ト共ニ顯著ニシテ今尙救世主トシテ口碑ニ傳フ、先考平四郎氏亦秀才無比ノ稱アリ、幕府ノ晩年ニ際シ、家道亦若干ノ衰微ヲ來スニ際シ、勇猛果敢、山緒アル家系ヲ發揮シ、同家中興ノ祖ト稱セラル、當主檜太郎君ハ其長男ナリ、慶應元年二月一日生駒郡法隆寺村ニ生ル、幼ニシテ敏慧學ヲ好ム、内ニハ乃父人格ノ薰化ヲ享ケ、外ニハ土地ノ諸儒ニ就テ群書ヲ講究ス、會々身ヲ投ジテ教育界ニ入ラント志シ、明治十六年大坂師範學校ニ入ル、研修三年業ヲ終ルヤ、感スル處アツテ心機一轉、鐵鞭ヲ棄テ、錫鉢界ニ入ラントス、時ナル哉、當時父母ノ意ニ適セズ、加フルニ二豎ノ胃ス處トナリ、雄志ヲ抱イテ空シク靜養スル事數年ニ及ブ、二十七年父及妻ヲ失ツテ痛厄交々至ル、此悲惨ナル心的衝動ハ、君ヲ驅ツテ一大奮活ヲ敢テセシメタリ、爾來一面家憲ヲ守ルト共ニ一面積極的ノ活動ヲ以テシ、名聲漸ク高シ、選バレテ奈良縣會議員タル事二回、實質アル所論ト確カニ一頭地ヲ拔ク、其他西和銀行重役、法隆寺信徒總代各種慈善公共ノ名譽職ヲ帶シタル事一々擧ゲテ數フルニ違アラザルナリ、殊ニ大社巨寺ノ講會委員、發起人、評議員トシテ努力シタルガ如キモ亦人格ノ半面トスルニ足ル、三十七年同縣多額納稅者ノ互選ニヨリ滿點ヲ以テ貴族院議員トナリ、上院硬派ノ一團土曜會ニ列シテ常ニ侃々諤々ノ論議ヲナス、

尙三十七八年戰役ノ功ニヨリ、勳四等旭日章ヲ下賜セラレタリ、亦以テ名門ノ裔タルニ愧ヂザルナリ。

谷 新助氏

貴族院議員

大阪市東區伏見町

活キタル立者篤トシテ君ヲ知ルヤ久矣、君ハ豊カナラザル家ニ生レ早クモ世ノ辛酸ヲ味ヒ、ヨク今日ノ基礎ヲ致セル到底世ノ凡俗ノ企及スル所ニアラズ、君ガ今日ノ地位ヲ羨望スルノ徒ハ君ノ閱歷ニ就キ其間幾多ノ慘憺タル刻苦勉勵アリシヤヲ、窺ハザルベカラズ、未ダ今日ノ如ク整然タル學校教育ノ存セルナク、謂所寺小屋時代ノ教育ヲ受ケ、又實務見習ノ爲メ商家ノ徒弟トナリ、一日ノ荒怠ナク、主家ニ對シテハ無二ノ臣トナツテ一方藥學ノ研究ヲナシ以テ新進ノ文明ニ伴ヒ些ノ遜色ナキマデニ修養ヲ積ミタル實ニ後進子弟ノ範タルニ耻ヂサルベシ、君ハ弘化四年七月十五日大阪市西區南堀江町五丁目ニ生レ古川萬助氏(八日庵ト號ス)ニ就キ漢學ヲ修メ、後チ同市東區高麗橋貳丁目ナル宇野傳七氏ニ藥業ヲ學ビ、明治五年初メテ東區伏見町貳丁目ニ店舖ヲ開キ藥種賣藥ノ二業ヲ營ム、時ニ年二十五歳、明治九年内務省直轄大阪司藥場ニ入ッ蘭人「ドワルス」氏ニ藥學ヲ研究シ、傍ラ大阪病院長高橋正純氏ニ從ヒ藥劑製煉術ヲ習得ス、茲ニ於テ藥種賣藥ノ改良發達ヲ企圖シ幾多不良藥種ヲ抛テテ改良ヲ計リ大ニ面目ヲ改ム、實ニ壯舉ト云ハザルベカラズ明治十一年第一大區四小區伍長拜命ソレヨリ全十七年大阪市東區北濱壹丁目外拾壹ヶ町聯合會議員ニ當選ス、全十八年九月大阪藥種小賣商總取締トナリ、全十九年二月明治十八年府下洪水ノ節罹災者救恤トシテ金員物品ヲ差出シ其賞トシテ大阪府知事ヨリ木杯壹個ヲ受領ス、全年四月有志ト謀リ東區伏見町壹丁目ニ大阪藥學校ヲ創設ス、後チ大阪道修町貳丁目ニ關西藥學校ナル者設立セラル、ニ及ビ兩校創立者協議ノ上合併シテ共立藥學校ト改稱シ專ラ藥業家ノ子弟ヲ養成セリ現今ノ私立大阪藥學校ハ其後身ナリ、全年十月傳染病豫防費中へ金員ヲ寄附シ知事ヨリ木杯ヲ受領ス、全廿二年六月賣藥業組合取締ニ當選後チ徳成會ノ組織セラル、ヤ其幹事ニ舉ゲラル、全廿三年東區聯合會議員ニ當選、全十二月東區今橋貳丁目外拾壹ヶ町區會議員ニ當選、全廿五年大阪府會議員當選、其他大阪私立

衛生會評議員、大阪市會議員、東區會議員、賣藥卸賣株式會社盤查役兼顧問トナリ、大阪慈善會評議員、大阪私立藥學校商議員、大阪市立商業學校商議員、賣藥卸賣株式會社社長ニ推薦セラル時ニ明治廿七年十一月、全廿九年大阪築港期成會委員ニ當選ス、明治三十二年六月大阪府教育會代議員ニ特選セラレ、尙ベスト豫防設備委員、第四回内國勸業博覽會期成同盟會委員、日本赤十字社大阪支部東區協贊會委員特別會員等ニ推薦セラレ有功章受領ス、三十三年大阪留魂會名譽會員ニ推サレ、全三十三年再ビ府會議員當選、全三十四年協贊會商議員并ニ大阪出品協會協贊員トナリ、全三十五年五月大阪私立衛生會監事ニ當選、全年大坂商店改良會評議員ニ推薦セラレ、全三十六年第四回内國勸業博覽會應診治療所設備委員并ニ常備委員トナル、全年大坂商業會議所議員ニ當選其他帝國海軍協會特別會員トナリ、帝國義勇艦隊創設費金ヲ寄附シテ有功章ヲ贈與セラレ、明治三十七八年戰役ノ際從軍者家族扶助ノタメ金員ヲ寄附シタル廉ニ依リ木杯壹組ヲ下賜セラル、等公共慈善ノ事ニ私財ヲ吝マズ、賣狀木杯銀杯等ヲ受領シタルコト枚舉スルニ遑アラズ、又一トシテ同市ノ公事公職ニ君ノ携ハラザルモノナシ、明治三十九年十二月大坂府選出多額納稅貴族院議員ニ勅任セラレ、而シテ第廿三帝國議會ニ請願委員トナリ、第廿四帝國議會ニ於テマタ請願委員トナル廿六回帝國議會ニ於テ亦請願委員トナル、以上ハ君ガ經歷ノ大略ニシテ未ダ錄スベキモノ多ト雖モ此處ニ省ク、何トナレバ煩雜ナルヲ以テナリ、

君亦寬仁大度加フル仁慈義俠ノ志ニ富ム、聞ク處ニヨレバ君ガ爾來薰育ノ下ニ養成シタル者三十九人毎年一月七日宴ヲ開キテ谷氏夫妻ヲ招キ舊恩ヲ謝スルヲ例トセリ、稱シテ七草會ト云フ、澆季ノ未世尙且如斯主從ノ間永遠ニ恩愛ヲ溫メツ、アルハ感スベク特筆スベキノ慶タラズンバアルベカラザルナリ。

中島祐八氏

群馬縣選出衆議院議員

群馬縣佐波郡赤堀村

關東男兒ノ淡泊ト、碓氷風ニ鍛へ上ゲタル鐵腕ハ君ヲシテ愈々大ナラシメツ、アリ、憲政本黨ノ遊樂中鳴代議士、ソモ如何ナル經歷ヲ有スルカ。

君ハ群馬縣ノ大地主ニシテ安政元年七月ヲ以テ同縣佐波郡赤堀村ニ生ル、家代々農ヲ業トナス君幼ニシテ學ヲ好ミ早クモ足立竹陰、中井學水、吉田作彌氏等ニ就テ學ブ、七年囑望ヲ負フテ副區長トナリ、同十年學區取締トナリ、同十四年縣會議員トナリ、同廿年常置委員トナル、後明治十六年縣下ノ嚆矢タル彼ノ日刊上野新聞ヲ起シ正義ヲ以テ大ニ縣民ノ輿望ヲ全フセリ、同廿一年秘密集會ノ嫌疑ヲ受ケシガ終ニ無罪放免トナル、同廿四年同志ヲ叫合シテ日刊上州新聞ヲ創始ス、翌廿五年第二回衆議院議員ノ總選舉アルヤ縣下第三區ヨリ選バレテ衆議院議員トナル、即チ之レ君ノ手腕ヲ試ムベク中央政壇ニ於ケル序幕ナリキ、從來籍ヲ自由黨ニ置キ、同黨關東部ノ重鎮トシテ常ニ黨ノ帷幕ニ參與ス、爾來自由黨ノ主張立憲ノ精神ニ相反スルヲ以テ同志ノ代議士十九人ト自由黨ヲ脱ス、廿七年第三回、同年第四回、卅一年第六回ノ各總選舉ニ際シ同區ヨリ選出セラレテ代議士タリキ、卅五年大選舉區制ノ實施セラル、ヤ同縣郡部ヨリ打テ出テ優勢ヲ以テ當選ス今四十二年七月三日、日糖事件ノ佐藤虎次郎氏ノ補選舉ニ出馬シ有力ナル候補者鶴原定吉氏ト輸贏ヲ爭ヒ遂ニ當選ノ光榮ヲ領スルニ至リシナリ當時人呼ンテ摸範の選舉トイフ、亦以テ君ノ勢力及ビ他ノ意味ニ於ケル人格ノ反影トシテ認容スルニ足ル、今尙憲政本黨ノ重器タリ。

伊東祐賢氏

富山縣郡部選出衆議院議員

富山縣下新川郡泊町

意志ノ剛健ナル、シカモ克ク民情ニ通ジテ之レヲ自己政治上ノ基礎觀念トス、君亦新進代議士中ノ一異彩ナリ、

由來富山ノ地タル、政治黨派ノ分野ハ政進兩黨ノ外何等ノ異分子ヲ含有セズ、毎ニ其勢力扶植ニ就テハ絶大ノ努力ヲ拂ヒ、相對持シテ策戰日モ足ラザル形勢ナリ、君等有志ハ多年此衝ニ當ツテ盡瘁シ、遂ニヲ來サシメタルナリ、即チ同會北信團中少壯有爲ヲ以テ目サル、モノ強チ理ナ今日ノ隆運キニアラザルナリ、君ハ明治二年一月ヲ以テ越中國下新川郡泊町ニ生ル、家温泉ヲ業トシ、舊家ニシテ資産家タル縣内屈指ニ位ス會テ今上陛下北陸御巡幸當時安在所トナラレシ光榮アリ、初メ郷里ニ普通學ヲ修メ長ジテ東都ノ遊子トナル、其目的トスル處理財ニアルヲ以テ、東京專修學校(專修大學ノ前身)ニ入學ス、益辛勞苦業卒ツテ故山ニ入ル、爾來專ラ地方公共事業ノ爲ニ力ヲ盡シ、早クモ有志家トシテ未來ノ大成ヲ囑望セラレタリキ、後年選バレテ富山縣會議員トナリ、其實力ヲ發揮シテ信用地盤ヲ築造セリ、如斯シテ孜々力ムルノ外、實業界ニ指ヲ染メ、株式會社泊銀行取締役、保久社取締役トシテ熱誠ヲ拂ツテ經營ス、前年第十四回衆議院議員總選舉ニ際シ、立憲政友會ノ公認候補者トシテ逐鹿場裡ニ打テ出デ、遂ニ當選ノ光榮ヲ荷ヒタルナリ、

君ガ思慮ノ綿密ニシテシカモ大膽創造守成兩才ヲ抱有スルハ君ヲ知ル者等シク説ク處ナリ、吾人ハ中央政界ニ於ケル君ノ將來ヲ豫言スベク、多クヲ有スト雖モ、今ハ默シテ他日ノ實際ニ徴センノミ

橋本雄造氏

貴族院議員

長崎市外浦町

鎮西長崎港、明治歴史ニ由緒アル長崎港、外國貿易關係史ト雖ルベカラザル長崎港、其當時維新志士ノ多數ハコ、ニ修養セラレキ、泰西醫學ノ到着點ハコ、ニ始マリキ、如斯シテ日本文明ノ一勢力ハ、此港ヲ外ニシテ研究シ得ベキ者ニアラザルナリ、而シテ將來ニ於ケル同港ノ消長モ亦豫メ推知スルニ難カラザルナリ、蓋シ同港商業界ノ中心點ト目セラレツ、アル君等一團ノ、責亦果シテ輕キニアラザルヲ思惟ス、君生ヲ享ケテ六十有餘年ノ歴史、到底小篇ノ克ク盡シ能フ處ニアラスト雖モ、單ニ字句ヲ以テスレハ「熱誠」ヲ以テ足ル試ニ其略傳ヲ抄録スレバ、君ハ嘉永元年十月ノ出生ニシテ豊前中津ノ出身ナリ、代々豊前ノ豪族トシテ名聲隆々タリ早クモ豊後ノ廣瀬塾ニ學ヒ清浦奎吾氏兄弟等ト友タリ、少壯家業ヲ繼承スルヤ、誠意誠心、幾多ノ努力ヲ傾ケテ澎湃タル商海ノ怒濤ニ投ズ、舟行時ニ險難、屢々航路ノ支障ニ遭フテ屈セズ、遂ニ粒々辛苦ノ汗ハ凝固シテ事業殆ンド玉成ス、尙一面同港商業發展ヲ計劃シ、長崎港貿易商取締或ハ商業會議所議員等トシテ奔走計籌シタルモノ々舉ゲテ數フルニ迫アラサルナリ、而シテ他ノ一面ニ於テハ、同市ノ公共事業ニ盡瘁シ、市會議員、長崎縣會議員トシテ令聞アリキ、三十六年遂ニ推サレテ申選出衆議院議員トナリシモ翌年貴族院議員改選期ニ際シ、地盤ヲ永見氏ニ讓ツテ衆議院議員タラシメ、自ラハ互選セラレテ貴族院議員トナリ、爾來引續イテ今日ニ及ブ、去ル三十七八年戰役ノ功ニヨリ勳四等ニ叙セラル、コレヨリ先明治三十九年村上半三、深川精八、永島寛二氏等ト計リ、資本金二十五萬圓ヲ以テ長崎自由倉庫株式會社ヲ起シ、爾來取締役トシテ其任ニ當リツ、アリシガ今ハ相談役トシテ其任ヲ全フシツ、アリ、蓋シ全港ニ於ケル舶來船舶具商ノ嚆矢ニシテ、直輸入諸金屬類、船舶具、鑛山鐵道建築用材料品各工場諸器械類商輔トシテ鎮西第一ノ名ヲ博シツ、アル亦以テ故アル哉。

津久居彦七氏

栃木縣那部選出衆議院議員

栃木縣安蘇郡佐野町

自ラ求メテ名ヲ得ントスルアリ、求メスシテ名ヲ得ルモノ亦コレアリ、前者ハ一時的ニシテ後者ハ永久的ナリ、即チ君ノ如キハ夫レ後者ニ屬スル者カ、吾人ハ中央政界ニ於ケル君ノ勢力ガ、未ダ潜伏期ニアルヲ確言セント欲ス、吾人ハ君ノ人格、君ノ手腕ヲ知悉ス、而シテ此天賦ノ武器ハ、漸進的ノ向上ニヨリ、妙ナクトモ確實ナル地盤ヲ經營サル、ノ日ガ、決シテ遠キ未來ニアラサル斷言ス、其傳ニ曰ク、君ハ安政元年三月ノ出生ニシテ上野國邑樂郡渡瀬村ニ生レ、幼ニシテ先代津久居平藏氏ノ養嗣トナル、平藏氏ハ立志篤中ノ人物ニシテ君先代ノ董化ニヨツテ遺詣スル處アリ、長スルニ及ンテ專ラ地方自治ノ爲ニ獻策シ、助役町長トシテ至難ノ治政ニ鞅掌ス、尙一面専ラ産業ノ發達ニ貢獻シ、明治十三年六月、縣下安蘇郡佐野町ニ地ヲトシ、小林、島田氏等ト共ニ佐野銀行ヲ起シ、廿一年日本橋區本材木町一丁目ニ東京支店ヲ設ケ、業務愈々隆昌ニシテ君其頭取タリ、全二十年六月東都有數ノ實業家、柿沼谷藏氏ト共ニ下野紡績株式會社ヲ起シ、翌年埼玉縣栗橋町ニ全工場ヲ、三十年八月、日本橋區小網町一丁目ニ東京出張所ヲ開設シ、業務斯界稀ニ見ルノ盛況ヲ呈シツ、アリ、全二十六年岩下、薩摩氏ト計ツテ佐野鐵道株式會社ヲ起シ、爾來引續イテ其取締役ノ重職ニアリ、コレヨリ先田中正造翁等ト國事ニ盡瘁シ籍ヲ進歩黨ニ置キ、東奔西走一日ノ弛怠ナカリキ、遂ニ四十二年第十回總選舉ニ際シ、全縣郡部第一位ノ最點ヲ以テ當選スルニ至ル、亦以テ爲人ト勢力ノ半面ヲ窺フニ足ラズヤ。

並木和一氏

貴族院議員

長野縣南佐久郡野澤町

山水自然ト人物消長ノ關係ハ、常ニ歴史家ニヨリ哲學家ニヨリ、殆ンド趣味アル論條ヲ以テ研究シ而シテ發表セラレタリ、東海北陸ノ分水嶺トシテ知ラレタル長野ノ地、由來人傑ヲ出スノ實例乏シカラズ、幕末ノ英雄佐久間象山先生ノ如キ、同地ノ誇トスルニ足ル、近者明治聖世ニ際シ、殊ニ實業界ニ出シタル人材ニ至ツテハ、一世ノ快男兒天下ノ系平ヲ筆頭トシテ、多士儕々所謂信州派ナル一旌旗ノ下、活動常ニ斯界ヲ震動ス、君亦此地ノ人、家ハ代々土地ノ豪族トシテ富裕四隣ヲ壓ス、數十代連綿トシテ君ニ至ル、君ハ慶應二年三月ノ出生ニシテ當主タリ、夙ニ乃父ノ遺業ヲ繼承シ、孜々トシテ家門ノ發達ニ留意シ、誠意誠心一貫シテ悖ルナシ、加フルニ世ノ滔々タル俄分限者ト趣ヲ異ニシ、常ニ各種ノ慈善公共事業ニ投資シテ世ノ孤弱ヲ憐ム、三十六年推サレテ縣會議員トナル、既ニシテ篤實ノ資性衆多ノ欣仰スル處トナリ、一面家業ヲ統理スルト共ニ、一面汎ク縣下ノ諸事業堂觀ニス、

三十七年九月上院議員改選期ニ際シ、同縣多額納稅者ノ推舉ニヨリ、列シテ貴族院議員トナル、尙明治三十八年戰役ノ功ニヨリ、勳四等ニ叙セラレ旭日章ヲ賜ル、

今ヤ日本富豪ノナサルベカラザル幾多ノ事業ハ雜然トシテ身邊ヲ圍繞ス、希クハ夫シ健在ナレ。

神保東作氏

富山縣郡部選出衆議院議員

富山縣新川郡中滑川町

君ガ政治實業兩界ニ跨ツテ敏腕ヲ逞フシ、縣下有數ノ人材トシテ數ヘラレタル者茲ニ年アリ、即チ先天的始創ノ才ヲ擁シテ各種ノ問題ヲ解決ス、蓋シ、其事業上ノ成績ヲ看取スレバ、精細巧致ヲ極メテ一ノ間然スル處チシ、スル所ヲ行フテ斷乎タリ即チ一面ニ於テ剛腹ノ觀アリト雖モ、コハ其自信ノ強大ニ因ル、一ト度中央政界ノ人トナルヤ忽チニシテ一方ノ重器トナリ、常ニ帷幕ノ功ヲ奏スルアリテ識者ノ注視ヲ受ケツ、アリ、今其閱歷ヲ按ズルニ、君ハ越中國新川郡滑川町ノ人ニシテ嘉永三年十一月ヲ以テ生ル、夙ニ漢籍ヲ修メテ造詣頗ル深シ、長ジテ意ヲ政界ニ抱キ、始メ郡會議員トシテ郡治ノ事ニ與ルヤ幾モナクシテ同議長ニ舉ゲラレ、新川第一流ノ人物トシテ多大ノ嚮望ヲ拂ハル、十二年石川縣會議員トナリ、更ニ同常置委員トナル、後年更ニ富山縣會議員トナリ、次デ同常置委員トナル、既ニシテ英才屹トシテ一頭地ヲ拔キ、屢々重要問題ヲ解決シテ眞技益々世ノ認容ヲ受クル處トナル、遂ヒニ推サレテ同縣會副議長トナル、之レヨリ先キ、籍ヲ進歩黨ニ置キ同志ト共ニ奔走計籌スル處アリキ、憲政黨ノ今日マデ絶ヘズ同縣支部ノ幹事トシテ發展ヲ計リツ、アリ、前年第十回選舉ノ際選バレテ衆議院議員トナリ中央政界ニ一步ヲ入ル。

尙精力ノ一半ヲ割イテ實業ニ盡瘁シ、明治十五年頃ヨリ土地ノ有志家竹中、應取氏等ト計ツテ滑川銀行ヲ經營シ、尙同三十壹年内山、馬場等ノ富豪ト計ツテ富山縣農工銀行ヲ創立シ今尙重役トシテ其任ヲ全フシツ、アリ、蛟龍遂ニ池中ノ者ニアラズ、君中央政界ノ一名物トナル、知ラズ果シテ何ノ日カ。

安川保次郎氏

長野縣郡選出衆議院議員

長野縣更級郡小嶋田村

我國蠶業ノ本場タル長野縣ニ安川保次郎氏ナル人アリ、蠶種製造業ヲ以テ其名全國ニ普ク、人格高潔徳操遠大殊ニ窮者ヲ扶ケ貧者ヲ賑ハス等博愛ノ心情深ク常ニ語ツテ曰ク我天職トシテ本業ヲ營ムモ非利ヲ貪ルヲ屑シトセス我國輸出品中生糸ヲ以テ第一位ニ置ク海外輸出ヲ盛ナラシムルハ國利民福ヲ企ルニカナフベシ吾レ幸ニシテ蠶業ヲ以テ世ニ處ス益々奮勵努力シテ國益民利ヲ増進シ、亦自ラモ衣食ノ費ヲ得ベシ而シテ餘財ヲ貯ヘ一朝ノ事變ニ資シ其餘利ハ蓄フルノ要ナシト之レヲ以テ四海同胞ノ危急ヲ救フテ者マズ之レ天職ヲ全フシ本分ヲ盡スニ近カキ者ナラムヤト、其人ト爲リ推シテ知ルベシ、君ハ明治三年二月信濃國更級郡小嶋田村ニ生ル最モ漢學ヲヨクス、一度小嶋田村會議員、更級郡會議員、長野縣會議員ニ舉ケラレ地方自治ノ完備ニ努メテ其勞謝スベキモノ多シ、又更級蠶業會社々長、更級銀行頭取、更級蠶業組合監査役、川中嶋精強會社々長、小嶋田信用組合理事長、長野新聞社監査役等ニ任ゼラレ隆々タル各關係會社組合ニ繁榮ヲ見ルハ君ノ貢獻ニヨルモノ僅少ニアラズ漸ク民望君ニ歸着シテ明治四十壹年第十回總選舉ニ際シ逐鹿場裡ニ衆議院議員ノ榮冠ヲ得ルニ至レリ君立憲政友會ニ屬シ政界ニ目覺マシキ働キ振リヲ未ダ且ツテ知ラサルノ人ニ示サントスル意氣衝天ノ勢ヒアルヲ窺ヒ知ルヲ得ベシ、三百代議士中少壯ノ英俊ヲ唱フルモノハ必ズ指ヲ君ニ屈セサルベカラズ、吾人依頼シテ君性有ノ見識ト手腕ヲ擁シテ邦家ノ爲メ盡サレムコトヲ切望シテヤマズ、最後ニ現下熱心ヲ以テ鞅掌シツ、アル公職ヲ列記シ以テ稿ヲ結バントス。曰ク共立信濃農談會長、更級蠶種同業組合長、更級蠶種検査所主事、更級蠶病消毒會長、信濃山林會理事、長野地方森林會議員(農商務省)、韓農長野縣組合理事、等はナリ

原田虎太郎氏

實業家

東京市日本橋區濱町三丁目一番地

凡ソ實業ヲ以チ身ヲ立テント欲スル者第一ノ必要素ハ眞面目ナルニアリ、彼ノ好シテ架空ノ説ヲナシ胸中ノ機關ヲシテ實地ニ在ラシメントスルガ如キハ、與ニ談ズルニ足ラザルナリ、今ヤ空前ノ戰捷ヲ收メテ益々實業ノ發展ヲ要求スルノ時、星ニ向ツテ飛ブガ如キ剛々タル架空家ノ簇生ハ其底止スル所ヲ知ラザルノ弊ヲ見ル、茲ニ於テカ先ツ求ムベキハ眞摯ノ實業家ナラン乎、今説ク君ノ如キハ當代實業家トシテ此需用ニ應ズベキノ士ナリト信ズ。

聞ク君ハ嶋根縣ノ人、岩谷九十老氏ノ三男ニシテ安政五年三月二十七日ヲ以テ生ル、幼ニシテ敏穎聰悟學ヲ好ミ其行動亦群童ト異ル、夙ニ普通學ヲ修メ秀才ヲ以テ郷黨ニ聞ユ、明治七年笈ヲ負フテ東都ニ出デ慶應義塾ニ學ビ、全十二年卒業後直チニ第四十四銀行ニ入り、全十五年第三銀行ニ合併ノ際全所ニ入り以テ今日ニ至ル、其職ニ在リテヤ事ニ從フテ忠實、勉勵十年一日ノ如クヨク先輩後進ノ推服スル處トナル、遂ニ累進シテ今日ノ聲譽アル椅子ヲ占ムルニ至リシナリ、尙兼スルニ日本商業銀行ノ取締役ヲ以テス。

君資性温厚篤實、仁慈ノ情ニ富ミ、常ニ後進子弟ノ誘掖ニ盡瘁シテ止マズ尙私財ヲ投ジテ弱者ヲ賑恤スル事一再ニ止マラザルナリト、希クハ益々自重加餐以テ斯界ノタメニ奮勵貢獻アラントヲ。

電話浪花 二千三百四十三番

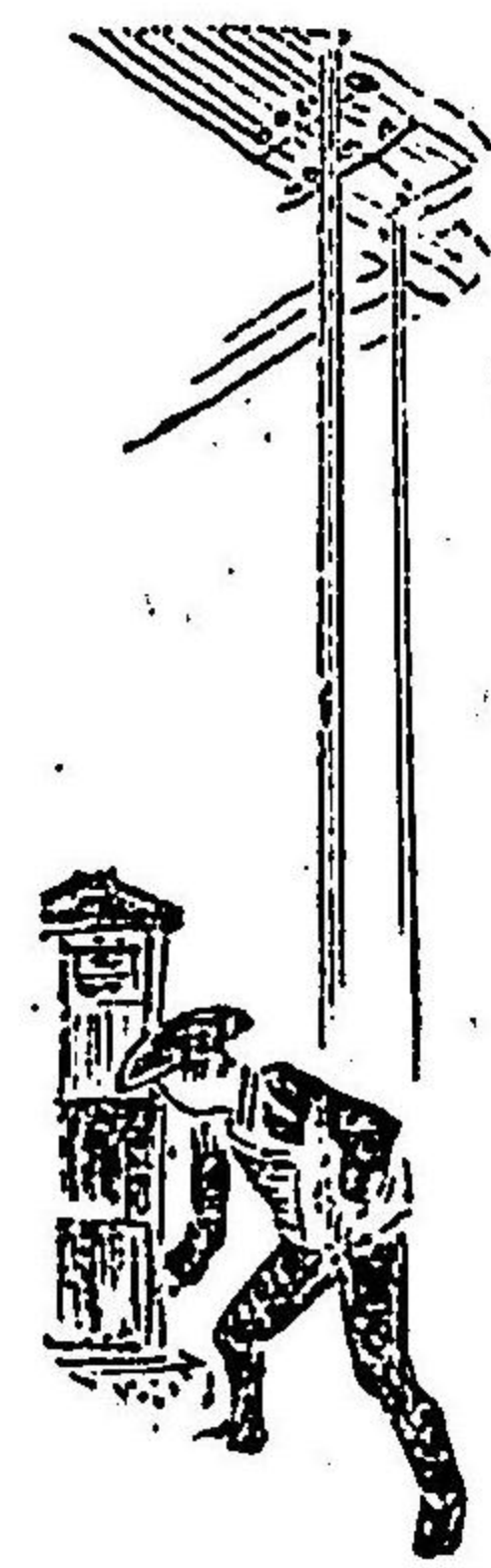
粕谷義三氏

埼玉縣郡部選出衆議院議員

埼玉縣入間郡藤澤村下藤澤

立憲友會關東部ノ古參者トシテ、多年一日邦家ノ爲メニ盡瘁シツ、アルハ君ナリ、シカモ其人ヤ質素敦厚、身ヲ持スルニ厚キモノハ君カ。

君ハ埼玉縣ノ人慶應二年八月十五日ヲ以テ入間郡藤澤村大字藤澤ニ生ル、幼ニシテ川越講習學校ニ入り明治十二年同校卒業ノ後東都ニ遊ビ島村孝司ニ就キ漢學ヲ修ム、十八年中入間郡御用掛トナル、十九年米國ニ留學ミシガン大學ニ入りテ法律學ヲ修メ廿三年秋法律學士ノ學位ヲ得テ歸朝ス、廿四年埼玉縣會議員トナリテ廿九年ニ至リ縣會副議長ニ選バル三十壹年之ヲ已ム、又郡制施行ノ際公民ノ資格ヲ以テ入員同名舉職參事會員ニ選任セラレ三十壹年三月衆議院議員ニ當選セラレシガ不幸解散ニ遭フ、同年八月再選シ、三十五年ノ總選舉ニ際シ又々當選スル事ヲ得タリ、君由來農ヲ本業トシ兼テ銀行會社ノ重役トナリ所得稅四十七圓六拾錢ヲ納ム、尙三十六年第八回、三十七年第九回總選舉ニ衆議院議員トシテ當選シ、更ニ四十二年補關選舉ノ際選バレテ衆議院議員トナリ今ヤ會ノ重器トシテ樞機ニ參シツ、アリ。



木村義賢氏

熊本縣郡部選出衆議院議員

熊本縣菊池郡城北村

理想ハ極メテ高ク、而シテ主義ハ極メテ堅善ナリ大丈夫志ヲ立テ、事ヲ行ハントスル何ノ恐ル、處アリテカ、孤疑躊躇スルヲ要セン、我レ内ニ顧ミテ一點ノ疾シキナク、天地ニ俯仰シテ些ノ耻ツベキナシ、況ンヤ濟世愛民ノ至誠家易ニ汚ス可ラザルアリ、世間群盲ノ反抗俗論、眼前山積ノ妨害障壁亦何ヲカ恐レシ聞カズヤ斷ジテ行ヒナバ鬼神モ避クト云フニアラズヤ、西海ニ於ケル中央俱樂部ノ重鎮木村君ノ略歴ヲ茲ニ草セントス、

君ハ出身熊本藩士ニシテ嘉永四年四月ヲ以テ、肥後國菊池郡城北村ニ呱呱ノ産聲ヲ揚グ、幼ニシテ讀書ヲ好ミ、早クモ碩儒ニ就テ漢籍ヲ修ムル事茲ニ年アリ造詣スル處亦尠ナカラザリキ、後チ小學校ニ敎鞭ヲ執リ親シク後進薰育ニ從事シツ、アリシガ、後年感ズル處アツテ其職ヲ辞シ戸長ニ推舉セララル、後チ更ニ縣會議員トナリ、兼ヌルニ常置委員ヲ以テシ縣民ノ輿望ヲ全フシ治績大ニ舉ガル、此動機ヤ縣民ノ輿望愈々加ハリ、遂ニ一昨四十一年衆望ノ期スル處辭スルヲ得ズシテ、同縣郡部ヨリ選出セラレテ衆議院議員タリ、

君亦餘力ヲ割イテ西海實業界ニ令聞ヲ恣ニシツ、アリ、其經營ニ係ハル株式會社隈部銀行頭取及九川蠶絲信託株式會社取締役トシテ其名ヲ致シツ、アリ、



堀谷左次郎氏

横濱市選出衆議院議員

神奈川県横濱市蓬萊町一

出テハ又新會ノ飛將トシテ侃々諤々ノ硬議ヲ上下シ入ツテハ金港實業界ノ敏腕家トシテ計籌到ラザルナシ、當代政治家氣質ヲ脱出シテ常ニ正義ノ大節ヲ持ス、試ニ其閱歷ノ梗概ヲ摘記スレバ、君ハ文久二年四月八日ヲ以テ信州眞田藩ニ生ル父ヲ岸田鐵治氏ト云ヒ君ハ其二男ナリ、明治九年上京シテ小石川ナル同人會ニ入り英漢ノ二科ヲ修ム十年ニ至リ東京商業學校ニ入レリ、越エテ十二年早稻田中學校ニ入り熱心ニ勉強中叔父ナル横濱ノ入堀谷眞治氏ノ求メニ依リ十三年末同氏ノ養子トナレリ、當時養家ハ質商ナリシヨ以テ君モ亦養父ヲ助ケテ家事ニ從事セシカバ店運俄ニ繁榮シタリ、然レ共君ハ誠實ノ性質ニシテ暴利ヲ貪ル如キ業務ハ其儲クル金ノ喜ビヨリモ大ナル良心ノ苛責ノ苦シキニヨリ父ノ死セシ後ハ質商ヲ廢シテ專ラ誠實ナル實業ニ従事セリ、三十年ノ交、齊藤、中川氏ト計ツテ東京移民合資會社ヲ起シ更ニ三十三年横濱ノ富家石川、間宮氏等ト共ニ横濱實業銀行及横濱實業貯蓄銀行ヲ創立シ、爾來重役トシテ其任ヲ全フシツ、アリ、越ヘテ四十年來穀販賣輸出入ヲ目的トスル東合資會社ヲ起シ代表社員トシテ常而ノ局ニ立チ、更ニ日本絹織紡績株式會社ヲ起シ社長トナリ、イヅレモ君一流ノ熱誠ヲ以テ事ニ當リツ、アリ、去ル三十七年來選バレテ衆議院議員トナリ、又新會ノ一硬骨漢トシテ同志ト共ニ官僚政治ニ向ツテ猛烈ナル戰ヲ挑ミツ、アリ、君人トナリ至誠敦厚、常ニ私財ヲ投ジテ公共事業ニ參與シ、名望隆々トシテ土地第一流ノ人材タリ、彼ノ電車賃値上問題當時ノ如キモ、此問題ヲ一東京市ノ問題ニ非ズトナシ、一片ノ熱俠同志共ニ奔走シテ功ヲ收メタルガ如キ、吾人東京市民タルモノ感謝ト敬意ヲ拂フニ吝ナラサルナリ、尙往年質屋廢業ノ動機ノ如キモ、君ノ清廉ト照シ合セテ、人格勞形タリ、希ク夫レ健在ナレ。

横山寅一郎氏

長崎縣郡部選出衆議院議員

長崎縣東彼杵縣大村

水産業者トシテ將亦政治家トシテ、堅實ナル富國強兵論ノ基礎觀念ニ據リ、歸納シ演繹シテ到ル處言行一致ヲ呈示シツ、アルハ君ナリ、由來長崎縣ノ水産業界ニ於テ、君ガ致サレタル盡力ハ、種々ノ實体ヲ顯ハシテ偶然君ヲ彰表シツ、アリ。

聞ク君ハ萬延元年六月ヲ以テ肥前國東彼杵郡大村ニ生ルト、普通學終ルヤ長崎縣中學校ニ入り之レヲ卒業シテ後大村學館ニ於テ英漢ノ學ヲ修メ得ル處大ニシテ長崎縣警部トナル次デ獨力ヲ以テ大村中學ヲ創立シ子弟ノ養育ニ従事スル事十數年其間自ラ校主兼教頭トシテ献身の盡瘁シ、幾多ノ秀才ヲ出シタルノ功ヤ大ナリ今時長崎縣ノ自治團ハ新進氣鋭ノ有材ヲ要求スル事連リナリ、君此風潮ノ寵兒トシテ迎ヘラレ舉ケラレテ長崎縣會議員、同副議長トナル、爾來、其積極主義ハ敏腕ヲ擁シテ各種ノ問題ヲ解決シ尙同縣長崎市長等ニ舉ゲラレ市民ヨリ尊敬ト嚮望ノ四字ヲ以テ稱セラレタリ、斯クノ如ク産業發達ノ爲ニ努力シタルノ殊勳ハ、コレ決シテ埋没スベカラザルモノナリ、遂ヒニ明治三十七年第九回總選舉ノ際郡部ヨリ重望ヲ擔フテ衆議院議員トナリ、爾後立憲政友會ニ籍ヲ置キ、熱心ナル主唱ヲ一貫シテ昔モ今モ倫ラサルナリ、四十壹年第十回總選舉ニ同シク郡部ヨリ推サレテ依然衆議院議員ニ席ヲ有ス、寔ニ君ノ如キハ、新進代議士中眞面目ナル人物、熱誠ナル國士トシテ愉快ナル未來ヲ有スル士タラズンハアルベカラサルナリ。

外ニ實業方面ニ其手腕ヲ分チ、東京築地活版製造所、九州製紙株式會社、國光生命保險相互會社ノ各取締役トシテ力ヲ致シツ、アリ。

細川義昌氏

高知縣郡部選出衆議院議員

高知縣音川郡秋山村

金風秋天ヲ一刷シテ鴻雁新ニ渡ルトコロ肅殺ノ氣人ニ迫ル、草露化シテ霜トナル忽チ落葉埋ク寒雨時ニ
 茅檐ヲ襲ヒテ孤燈影冷カニ浙瀝ノ風雪ヲ吹イテ茲ニ一年ノ後期ヲ告グ呼嗚春ナルカナ夏ナルカナ秋冬ハ
 終ニ人生ノ末路ニ比スベキナリ、抑々春夏ハ人ノ青年時代ニシテ内ニ活躍靈動ノ氣ヲ含ミ多クノ爲スベ
 キ事業ト多クノ光アル金トハ此候ニ比スベキ彼等青年諸君ノ爲ニ君ガ活歴ヲ記シテ傳トナシ以テ其範ト
 ナサシメ後日君ガ如キ傑士才物養生ノ資トナサントス此舉ヲ涼セラレヨ、
 君ハ嘉永二年十一月土佐國吾川郡秋山村ニ生レ幼ニシテ武藝ヲ好ミ劍術ノ術ヲ學フテ妙境ニ至ル、先代
 ハ武術道場ヲ開イテ近郷子弟ヲ訓育シ、尙武ノ氣風ヲ鼓吹スルニ力メダリ君軍籍ニ投シテ身ヲ立テムト
 シ遂ヒニ軍曹トナリシモ感ズルアリテ退キ、現ニ實業界ノ人トナリ高知縣水産組合長、土佐遠洋漁業會
 社々長トシテ大ニ爲ス所アルナリ、尙高知縣々會議員、常置委員、全參事會員、全副議長トシテ縣ノ公
 共ニ盡瘁シテ民望殆ント君ニ歸スル所ナリテ昨四十年第十回總選舉ニ際シ衆望ヲ負フテ衆議院議員トナ
 ル、按スルニ君ガ政海ニ身ヲ投ジタルハ既ニ永キ歴史ヲ有ス、彼ノ自由黨時代、各地遊説スル事前後十數
 年、尙一面土洋新聞ヲ創刊シテ天下ニ呼號ス、即チ其建立再興ハ全ク君ノ手ニヨツテナサレタルナリ
 キ、當時國會開會延期問題及言論集會出版自由民力救養地價修正問題等ニ對シ、激烈ナル運動ト共ニ一
 身ヲ賭シテ事ニ當リ、三島通庸對自由黨志士ノ如キ重要件々、一トシテ與ラザルハナシ、如新熱烈火ノ如
 キ志士ノ面目ヲ有スルト共ニ一面、稜々ノ俠骨世ノ弱者ヲ扶卷ス、熨キニ、出獄人慈善協會及育兒會ヲ
 起シテ會長トナリ獻身的努力ヲ以テ此社會事業ニ從事シ、後年兩會ヲ合併スルニ及ンデ其記事トナル、
 寔ニ君ノ如キハ滔々タル時流ニ超越シ、血アリ涙アル古武士の風格ヲ有スル處、當代稀有ノ志士タラス
 ンバアラザルナリ。

石川敬直氏

前會計検査院部長

牛込區津久戸前町十一番地

城北ノ隱士、石川敬直翁ノ半生ハ、頗ル波瀾アリ趣味アリ、爾カモ奇骨當世ヲ超脱スル處、亦以テ學ブニ足
 ル、君ハ舊幕旗下ノ士、弘化二年九月廿四日ヲ以テ生ル、舊姓山地氏、後先考石川寛一郎氏ノ養子トナリ
 敬一郎ト稱シ後敬直ト改ム、實家ハ富裕ナラサリシモ、武士ノ面目ヲ重シテ適當ノ奉公口ヲ求ムル能ハズ
 常陸ノ或ル寺院ニ炊炊男トシテ仕フルニ至ル、時ニ年僅カニ十三、爾來二十六歲迄、苦心慘憺ヲ以テ勤格
 ス、終ニ僧侶タラントシタルモ、兩親ノ承諾ヲ得ル能ハズ、豫ネテ約セラレタル石川家ニ入ル、此年仕官シ
 テ日光奉行司支配護衛務役勤方トナル、次テ伏見、鳥羽ノ戰ニ參加シ、參謀小笠原大和守ヲ扶ケテ官軍ト
 戰ヒ、累代恩顧ノ厚キニ酬ユ、平定後徳川氏ハ七十萬石ニ減祿セラレ、臣下ニ布令シテ曰ク「王政復古シテ
 余ハ減祿セラル、到底徒來ノ君臣關係ヲ保留シテ臣下全體ヲ養フニ耐ラズ、此際各自ハ朝臣、無祿、移住、
 歸農ノ四途ニ就ケ」……云々ト。君官祿ヲ受クルヲ潔トセズ、僅カニ若干ノ資金ヲ贏チ得テ湯島天神町
 ニ銃砲店ヲ開キ、熟練セル技術家ヲ聘シテ凡ヘテノ監督ニ任セシメタリシガ、例ニ依テ士族ノ商法、不正
 店員ノ爲ニ大失敗ヲ來シ、遂ニ其日ノ米鹽ニサヘ窮スルノ極ニ到レリ、偶々信州戸田藩主ノ招聘ヲ受ケ、
 同藩軍隊教師トシテ武育ノ役ヲ勤ム、頗ル優遇セラレタルモ後辭シテ東都ニ歸リ、職ヲ民部省ニ奉ジテ
 庶務權少令使トナル、次テ兵部省ニ轉ジ十三等ニ出仕ス、此時沼津兵學校會計事務整理トシテ赴任シ、同
 校會計事務ノ舊例ヲ打破シテ能ク整理ヲ全フシテ好評アリ、直ニ二十一等出仕ニ累進ス、十年ノ役、始メ東
 京留守居役タリシガ兵站部糧食課長トシテ熊本ニ出征ス、十四年會計軍吏生(現時ノ三等主計正)ニ任セ
 ラレシモ猶介不羈、其職ヲ退キ更ニ會計検査院部長ト也シモ、後職ヲ辭シテ野ニ下リ、復ビ朝ニ起タズ、悠
 々自適讀書三昧ニ精神ヲ修養シ、白眼天下ノ形勢ヲ達觀シ、齷齪ヲ避爾トシテ、名利ニ狂奔スル俗物ヲ罵
 倒シツ、アリ。

電話番町 千五百九十八番

野宮定毅氏

子爵 貴族院議員

下谷區入谷町百十六番地

華族ハ國民ノ儀表ナリ、苟クモ其一舉一動ハ之レ國民ノ範トシテ示スニ足ルベキ者ナクンバアラザルナリ、然ルニ今ノ濁世惜ムラクハ名門名族ニシテ、尙其本分ヲ盡シ得ル者幾人カアル、君ノ如キハ其勳格ニシテ敦厚然モ上流社會稀ニ見ル紳士トシテ之レヲ推スニ足ルベキヲ信ズル者ナリ。

遠ク當家ノ血統ヲ按ズルニ、祖先内大臣藤原鎌足十三世、攝政關白順實ノ裔、從一位左大臣花山院定熙ノ子、從四位右少將忠長ノ後ナリ、其子正二位定逸、元和八年後水尾帝ノ勅旨ニ依リ別ニ一家ヲ取立テラレ稱號ヲ野宮ト賜フ、ソレヨリ八代ヲ經テ正二位定功ニ至ル、君其後ヲ受ク實ハ從二位竹屋光有ノ次男ニシテ、嘉永六年七月十七日ヲ以テ京都ニ生ル、慶應二年十二月先代定功ノ養フ處トナリ其家督ヲ相續シテ現名ニ改ム、明治九年十二月始メテ職ヲ宮内祇候ニ奉ジ、次デ同十四年滋宮祇候ニ任ゼラレ、同十六年十二月宮中祇候ニ任ゼラレ、同十八年七月青山御所勤番仰付ラレ、同廿二年七月青山御所祇候ニ任ゼラレ、同三十年七月同族中ノ選良トシテ貴族院議員ニ推舉セラレ比谷ノ一名物タリ、次デ任期滿チテ更ニ再選セラレ重任ヲ負ヒテ現今ニ及ベリ、是ヨリ先英照皇太后大葬齋官仰付ラレキ、君爲人勤嚴猥リニ語ラズ、サレド其頭腦ノ明晰ナル、同族間ニ定評アリ而カモ陰然トシテ上院中ニ重キヲナス、君亦當代貴族中ノ異彩トシテ矚望セラレツ、アリ。

電話下谷 三千二百六十四番

高山長幸氏

愛媛縣郡選出衆議院議員 實業家

芝區三田綱町一番地

日糖事件ハ明治産業史上ノ一大問題ナリ、其真相一度爆發スルヤ、重役拘引セラレ、代議士檢舉サル、既ニシテ整理問題起ルヤ、先ヅ後任重役選定ハ頗ル難問題ナリキ、擬セラルルモノ何レモ逡巡シテ難局ヲ避ケントス、サレド日糖ノ滅亡ハ即チ本邦糖業ノ滅亡ナリ、自家ノ利害ヲ度外ニ置キ、一片國家ニ殉スルノ赤誠ナクンバ安ソ能ク此難局ニ當リ得ンヤ、茲ニ於テカ、君敢然起テリ、然リ藤山雷太氏ト連盟シテ奮然此猛火ニ投ゼリ、吾人ハ此意氣ヲ壯ナリトス、滿幅ノ同情ヲ捧ゲテ君等ノ義氣ヲ謳歌セサル可ラサルナリ、君等果シテ豫期ノ成功ヲ奏スルカ、將亦玉トナツテ碎クルカ、コレニ假スニ數年歲月ヲ以テスルニアラズンハ、輕卒ナル豫斷ヲ以テスベカラズ、成敗敢テ問フ處ニアラズ、君等ノ勇氣ト犧牲的決心トハ、コレ日糖事件ノ大問題ナルガ如ク亦明治産業史上ニ特筆大書セサルベカラサルナリ、傳ニ曰ク、君ハ伊豫國喜多郡大洲村ノ人、慶應三年七月ヲ以テ生ル、少壯三田慶應義塾ニ學ブ、彼ノ有名ナル「ストライキ」時代ノ錚々ナリ、卒業後三井銀行ニ入り、故中上川氏ノ知遇ヲ得テ少壯有爲ノ名ヲ恣ニス、累進シテ本店副支配人トナリ、爾來同行函館、深川、三池、大津、長崎、等ノ各支店長トシテ敏腕ヲ揮ヘリ、四十一年第十回衆議院議員總選舉ニ際シ、郷里愛媛縣郡部有志ノ推ス處トナリ、選ハレテ日比谷ニ議席ヲ置キ立憲政友會ニ所屬シテ新進氣鋭ノ定評アリ、往年日糖整理問題起ルヤ、挺身此難局ニ當リ、爾來樽俎ノ折衝一段落ヲ告ゲ、徐ロニ回生ノ術ヲ施シツ、アリ、世間ノ才子、平和ノ事業ハ喜ンデ之レニ應ズルモ進ンデ難局ニ赴クノ勇氣ニ至ツテ求メテ能ハズ、サレド快刀亂麻ヲ斷ツハ男兒ノ快心事ナリ、「ベスト」ヲ盡シテ能ハズンハコレ天ノ命ノミ、君等ノ奮闘ハ單リ製糖事業ノ消長ニ關スルノミナラズ、天下青年實業家ヲ戒ムルニ足ル、希クハ君健在ナレ。

電話芝 千八百四十一番

福島行信氏

實業家

麻布區六本木六十七番地

少壯實業家トシテ、人格高潔英國式紳士ノ好型ヲ以テ目セラレツ、アル者君ナリ、其統轄ニ成ル福島合名會社ガ、資本金ニ比較シテ常ニヨリ以上ノ成績ヲ示シツ、アルモノ亦以テ何等カノ消息ナクンバアラサルナリ、乞フ吾人ヲシテ妙シク語ル處アラシメヨ、薩摩ノ人福島良助君、嶋津臣下鐵中ノ錚々タリ、夙ニ身ヲ軍籍ニ置キ、臺灣戰爭當時西郷總督ノ副官タリキ、早クモ辭シテ産業ニ志シ、士魂商才、常ニ斯界ニ畏服サル、サレド豪磊ノ資、名利ニ淡ク、事業ニ比シテ名譽ノ副ハサリシハ事實ナリ、自己經營ノ外夙ニ大倉喜八郎氏ト提携シテ内外用達會社ヲ起シ、亦田川採炭會社ヲ創立スル等、過渡時代ニ於ケル本邦實業界特ニ海外貿易ノ爲ニ努力シタル功勞頗ル顯著ナル者アリ、當主行信君ハ其長男ニシテ、明治七年芝三田ノ邸ニ生ル、幼ニシテ慶應義塾ニ入り、業卒ルヤ直ニ大英國ニ航シ、彼土ノ大學ニ入ツテ理財ノ學ヲ修ム、更ニ商業實際ノ研究ニ從事シテ造詣スル處アリ、卅二年獨逸ヲ經テ歸朝ス、幾モナクシテ乃父ノ經營ニナル福島合名會社ニ入り、下僚ニ身ヲ投シテ具サニ商務ノ實技ヲ修得ス、卅四年濠洲ニ渡航シ、烟眼彼土ノ商機ヲ洞察シ、羊毛其他二三ノ貿易締結ヲ了シテ歸ル、爾來學々乎トシテ社運ノ向上ニ努メ新進ノ學識ヲ開披シテ貢獻スル處大ナリ、翌卅五年父君ノ箕裘ヲ繼承シテ一切ノ責ニ任ジ、當面ニ起ツテ社運ノ發展ニ盡力シ、海外貿易、官衙用達ヲ業トシツ、アリ、彼ノ日露戰役當時、陸軍省ノ用命ニヨリ供給ノ任ニ當リ、同業者間一頭地ヲ拔クノ成績ヲ收メタルモ亦世人ノ知ル處ナリ、君ハ日常ノ趣味頗ル高尚ニシテ、美術、音樂、文學等ノ蘊蓄亦妙カラズ、柳澤伯ト計ツテ株式會社高等演藝場(有樂座)ヲ起シテ取締役トナリ、田中正平博士等ト共ニ美音會ノ牛耳ヲ執ル、殊ニ其住宅ノ壯麗ナル、武田工學士ノ設計ニ君ノ趣味ヲ加味シ淵源ヲ塊國ニ發スル「セセツシヨ」式ニシテ本邦ニ於ケル最新式ト謂ツベキ、美術的建築ナリ。

電話芝 六百九十五番

岩元信兵衛氏

貴族院議員

鹿兒嶋縣鹿兒嶋市金生町

日本男兒ノ精粹、薩南健兒ノ熱血ハ、一世ノ偉人南洲翁ニ依テ遺傳ナク代表セラレタリ、而カモ其精神今尙儼然トシテ滅セズ、各種ノ階級ヲ通シテ一貫セル此意氣アリ、豈獨リ軍人政客ノミニ限ランヤ、君亦此靈氣圈内ニ人トナル、經營萬般男性的ナル亦以テ故アル哉。

君ハ元治元年十一月十三日ヲ以テ鹿兒嶋市金生町ニ生ル、夙ニ松林學校及ビ私塾ニ入ツテ學ヲ修ム、長スルニ及ンデ實業ニ志シ、選ヲ吳服商ニ執ル、苦心經營着々トシテ隆昌ヲ來ス、既ニシテ辣潑タル企業的手腕ハ、青年實業家トシテ一頭地ヲ拔ク、十九年南嶋興業會社ヲ起シテ取締役トナリ、廿五年第百四十七銀行取締役トナル、更ニ一半ノ精力ヲ割イテ各種ノ公共事業ニ從事ス、即チ市會議員、區會議員、商法會議所議員、及理事等ニシテ尙同地商業會議所設立ノ如キハ、其最モ力ヲ致シタル處ナリ、今尙評議員トシテ樞務ニ參與シツ、アリ、外ニ鹿兒嶋電氣株式會社ノ創業及鹿兒嶋貯蓄銀行等ノ設立ニ與リ、前者ハ取締役後者ハ頭取トシテ盡瘁ス。

三十五年第七回衆議院議員選舉ノ施行セララル、ヤ、鹿兒嶋市ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ、爾來引續イテ第八、第九回ニ當選ス、過般全縣多額納稅議員、ニ選出セラレテ貴族院議員タリ、外ニ赤十字社特別社員ニシテ多年盡力ノ功ニヨリ有功章ヲ授ケラレタリ。



石川角藏氏

發明家

芝區三田四町十五番地

(三三〇)

青年立志ノ好範典トシテ、我發明界ノ偉才、石川角藏氏ノ奮闘經歷ヲ尊敬シ、簡記シテ本書ノ精華タラシメンカ、君ハ神奈川縣鎌倉郡中和田村ノ人ニシテ明治九年ヲ以テ生ル、同苗源吾右衛門氏ノ三男ナリ家ハ土地屈指ノ舊家ナリシガ、不幸家道ノ衰廢ニ遭ヒ更ニ幼少孤兒トナリ、慘憺タル薄命ノ生活ニ投セラレ、年僅カ十一、出デ、横濱ノ質店ニ仕ヘ、更ニ横濱「ガゼット」新聞社ノ給仕トナル、此経路ニ至ツテハ詳記セバ、一篇ノ悲哀小説、讀者ヲシテ熱淚襟ヲ濕サシムルモノアリ、會々同社ノ印刷機械ヲ見テ端ナクモ機械ノ趣味ト天才ト一致シ遂ニ立志ノ基礎ヲ樹ツ、十六歳ノ時上京シテ三田農具製造所ニ入り、川島龜吉氏ノ知遇ヲ得、翌年同氏ニ隨ツテ横須賀造船所ニ入り、粉骨碎身業ヲ勵ムト共ニ學ヲ修ム、既ニ大志ヲ抱イテ再ビ東都ニ出テ、長兄源太郎氏、次兄繁藏氏、ト協力シテ三田豊岡町ニ工場ヲ開始ス、日清戦後ノ打撃ニヨリ、一時工場ヲ閉鎖シテ研究ノ目的ニヨツテ三吉電氣工場ニ入ル、在任三年技大ニ進ム、廿四歳ニシテ「メリヤス」機械ノ製造ニ着手シ、二間開口ノ自炊生活ニ金トテハ無一物、腕ノ資本ニヨツテ遂ニ大成功ヲ遂グルニ至レリ、日露戦後計ラズモ内助ノ偉功アル夫人ノ應援ニヨリ萬事ヲ托シ滿洲ニ渡リ正ニナスアラントシテ不幸ニ遭ヒ歸朝ス、幾モナクシテ實父ヲ喪ヒ次デ君ノ片腕タル夫人ノ病歿ニ遭フ、何ゾ夫レ運命ハ君ヲ翻弄スルノ極端ナル、茲ニ於テカ一大決心ヲ以テ世路ノ難ト奮闘シ、全資産ヲ擧ゲテ血ト汗トヲ以テ一大工場ヲ設立ス、病ヲ胃シテ世界の大發明ヲ遂グルニ至レリ、即チ石川式輪轉機之ナリ、完全無比トシテ全國各新聞社ニ使用セラレ世ニ好評ヲ博シツ、アルハ人ノ知ル處ナリ、遂ニ熱誠天地ヲ憾カシ小野金六氏ノ東京機械株式會社ヲ設立スルニ當リ、合同シテ資本金一百萬圓トナシ、君專務取締役トナリ三田製作所長トシテ渾身ノ精力ヲ注キツ、アリ、此外石川式遠心力絨水器ノ發明及二三ノ新發見ノ如キハ己ニ世ニ知ル處ナリ。

電話芝 七百〇七番

田口忠藏氏

實業家

本郷區駒込四片町十番地 五ノ十號

磊々落落トシテ人ニ接スル城壁ヲ設ケズ、圓轉滑脱ニシテ些ノ圭角ナク談論風發スルモノ君ノ外觀ナリ謹直眞摯剛健屈スルナク又克ク人ノ言ヲ容レ胸中遠大ナル成竹アルモノハ君ノ内觀ナリ。試ニソノ閱歷ヲ按ズルニ、君ハ大分縣ノ人、元治元年十二月十四日ヲ以テ生ル、父ハ阿坂圭太郎氏ト稱シ其次男ナリ、後田口家ニ養ハレテ其姓ヲ胃ス、幼少頗ル學ヲ存ミ、一ヲ聞イテ十ヲ知ルノ明ヲ有シ常ニ優等ノ成績ヲ代テ師傳ヲ驚カシメタリトイフ、長ズルニ及ビ天稟ノ才能愈々開發シテ、衆多ニヨリ皆未來ノ大器ヲ以テ矚目セラレキ、夫レヨリ後教鞭ヲ執リ暫ク子弟ノ訓育ニ努メラレシカ胸中常ニ首都ニ於テ一大旗旌ヲ飄カヘサントシテ止マズ、時ナル哉、明治二十九年出京シテ直チニ十二商品取引所ニ入り其才腕ヲ振フテ大ニ先輩ヲシテ推服セシメシカ、彼ノ日清戦役後ノ財界不振ノタメ同所モ解散ノ止ムナキニ至リ、君亦退イテ時機ヲ待ツ、時ニ日本通商銀行ニ知己ヲ求メテ入りテ同行ノ爲替掛リトナル、君性來ノ才器ハ取引所ニ於テ其商秘ヲ修メ造詣深キコト、テ、愈々發揚シテ同人間ニ喧傳セラレ、其眞摯ナル、其謹直ナル、遂ニ重役ノ視ル所トナリ、漸時累進シテ今ヤ同行營業部長トシテ合聲噴々タリ。君趣味亦高尚ニシテ其長トスル處ノ謠曲ノ如キハ頗ル堪能ナリトイフ、從ツテ仁俠ニ富ミ、公共事業ニ對スル施與ノ如キハ其常辦トモ謂ツベク幾多私財ヲ投シテ盡瘁シツ、アリ、寔ニ君ノ如キハ當世紳士ノ典型トシテ其德ヲ頌スルニ足ル。

電話下谷 百八十五番

(三三二)

高原篤行氏

鹿兒嶋縣郡部選出衆議院議員

鹿兒嶋縣郡部末吉村

活眼達識、常ニ服ヲ社會ノ大局ニ注ギ、行往座臥、國家ヲ以テ心トセルモノヲ高原篤行氏トナスナリ、吾輩謹ンデ其略傳ヲ草シ、世ニ示サムトス。

聞ク君ハ安政五年二月大隅國噺嗚郡末吉村ニ至ル、夙ニ學ヲ好ミ、漢籍ヲ修メテ造詣頗ル大ナリ、以テ修學ノ傍ラ劍道ヲ學ビ、其奧技ヲ極ム多年小學教師トナリ、後テ末吉村長ニ職ヲ奉ジ、専ラ村政ノ改善ニ意ヲ用ヒ、治績大ニ見ルベキモノアリ又君ノ素志ハ一般人民ノ經濟程度ヲ高ムルヲ必要トシ、如何ニシテ之レヲ事實ノ上ニ顯ハサンカト力メ遂ニ高森ト稱スル廣大ナル山林原野ニ灌溉排水ノ便ヲ設ケテ十七年ノ星霜ヲ經テ七十町歩ノ開田ヲ見ルニ至レリ、之レ明治四十年ノ春迄ニシテ續々事業ノ進捗ヲ計ルツ、アリ、此間俗輩ノ論難攻撃交々至ル、而カモ平然同志ヲ料合シテ益々素志ヲ貫徹セシメタリ實ニ國家ノ爲ニ盡瘁セル大事業ト云フベシ、時ニ日露ノ役アリ、會々縣會議員ニ當選スルアリ、種々ノ障害アリタルモ介意セズ爲ニ村長ヲ辭職シテ事業ノ爲ニ全力ヲ傾注シ、良田ヲ作ルコト前述七十町歩ノ多キニ至ル、實ニ大事業トシテ後世ニ其便ヲ傳フベシ。

斯クシテ衆望漸ク君ニ歸シ一度撰ハレテ廣兒島縣會議員トナリ、次テ同參事會員ニ舉ゲラル、遂ニ明治四十壹年第十回總選舉ノ事アルヤ、競ハズ殆ント依頼的推選ヲ以テ衆議院議員ノ榮冠ヲ得タルニ至リテハ、君ニ信頼セルモノ如何ニ多數ナルカヲ窺フニ難タカラサルナリ。

白仁武氏

關東都督府民政長官

牛込區早稻田通卷町一

學識才能眞ニ尊ブベシト雖モ、若シ一種侵スベカラザル清高ノ氣品ヲ有セズンバ何ヲ以テカ能ク世人ヲシテ敬慕ノ念ヲ起サシムルヲ得ンヤ。

抑モ君ハ舊柳川藩士白仁成功氏ノ長男ニシテ、文久三年十月ヲ以テ生ル、夙ニ學ヲ好ミ、早クモ帝都ノ游子トナリ遂ニ法科大學ニ入り苦學力行、明治廿三年七月業完ク卒ハリテ法學士ノ稱號ヲ受ク、尋デ官海ノ人トナリ直ニ内務省ニ出仕シテ明快ナル頭腦ト辣腕トハ遂ニ省務ヲシテ向上セシム、同卅四年内務省參事官トナリ、更ニ北海道廳參事官トナリ手腕敏活當時同地ノ教育ヲシテ頓ニ發達セシメ、自ラ教科書ノ編者ヲ以テ任ジ遂ニ道内教育界ニ一大革新ヲ遂ゲ光明ニ放ツニ至ル、次デ文部書記官、拓植務書記官、内務書記官、内務省北海道課長等ニ歷任シ、明治二十九年ヨリ三十六年ニ至ル迄政府委員トシテ出席シ雄辯滔滔大ニ議員ノ信任ヲ博ス同三十五年遂ニ内務省神社局長ニ任ゼラレ正義ト學識トヲ以テ事ヲ理シ模範的官吏ヲ以テ衆望ヲ全フシツ、アリシガ前年日露戰爭ノ媾和ヲ締結セラル、ヤ更ニ進ンデ關東都督府民政長官ノ重職ニ擢任セラル、ニ至リシナリ。

電話番号 千〇二十一番

松村時次氏

貴族院議員

熊本縣玉名郡赤旗村

産業地トシテノ熊本縣ハ、今ヤ猛烈ナル元氣ヲ以テ向上シツ、アリ、蓋シ、同地ノ現状ハ、恰モ燃エルガ如キ人生青春期ノ如キ觀アリ、按フニ、封建以來、士風ノ自ラ一般ヲ風靡スル勢力ガ、他藩ニ比シテ比較的繁烈ナリシ熊本ハ、或ル意味ニ於テ町人百姓ト齡スルヲ潔トセサル古武士ノ魂ニヨリ、自然の國風ヲナシタルヤ事實ナルガ如シ、換言スレバ、商業地トシテ將農業地トシ、其位置ヲ形成スベク四邊ノ狀況ガ、餘リニ不適當ナリキ、モシ夫レ往時ヲ遂想シテ現状ニ及ベバ、轉々今昔ノ感ナキ能ハサルナリ、即チ茲ニ至ラシメタル一半ノ功績ハ人格ヲ以テ立ツ君等實業家ガ、士魂商才ノ力トシテ之レヲ頌スルモ、恐ラク何人モ異議ヲ有セサルベシ、聞ク處ニヨレバ、君ハ同縣玉名郡大字腹赤村ノ人ニシテ安政二年二月ヲ以テ生ルト、長スルニ及ンデ、土地ノ碩儒ニ就テ皇漢ノ學ヲ修メ、尙養父ニ就テ武術ヲ修ムテ後年身ヲ投シテ幾多ノ公共事業ニ盡瘁ス、初メ選ハレテ縣會議員トナリ、温順篤厚、克ク僻躰ニ拔ンテ重視セラ、三十六年、第八回衆議院議員總選舉ニ際シ、推サレテ候補者トナリ、同縣郡部第二位ノ高點ヲ以テ當選ス、次テ四十年十二月多額納稅議員ノ補闕選舉アルヤ、選ハレテ貴族院議員トナリ、爾來引續イテ上院ニ席ヲ列ス、尙一方郷里ニ於テハ種々實業上ノ經營ニ任ズ、即チ玉名銀行頭取、肥後農工銀行監查役、日韓殖産會社取締役等ニシテイツレモ其大株主ニシテ發起者タリ、君資性温良ニシテ仁慈ノ情ニ富ム、彼ノ所謂無爲ニシテ碌々タル富豪輩ト曰フ同フシテ語ルベカラサルモノアリ、君亦鎮西名士ノ一員ナリ、

内藤彦一氏

實業家

京橋區尾張町二丁目六番地

其商風能ク時好ニ適シ、近時勃如トシテ起リタル新進松屋吳服店、四季折々ノ意匠ヲ凝セル裝飾窓ノ陳列、バーゲンデーノ先鞭ニ斯界ノ惰眠ヲ破ル、其商風ノ活氣アル、而シテ平民的ナル、寔ニ中央商業界ノ精華ナリ、コレ尠クトモ君ノ手腕ヲ語ルベク、君ノ人格ヲ語ルベク好箇ノ雄辯ナラズヤ、君ハ山梨縣人内藤朝政氏ノ長男ニシテ慶應元年七月六日ヲ以テ生ル、少壯實業ニ志シ、去ル十八年萬里ノ波濤ヲ蹴テ北米桑港ニ航シ、大學教授アンダーソン氏ニ就テ修學シ造詣大ニ加ハル、會々紐育ノ貿易商丹波男九郎ノ經然ニ成ル大日本商會ニ入ラントス、不幸先考ノ喪ニ會ヒ、遂ニ行李ヲ收メテ故山ニ歸朝スルニ至レリ、時正ニ明治二十三年ナリ、暫ク母郷ノ山水ニ親ミシガ、全二十四年ヲ以テ横濱鶴屋吳服店ニ使備セラレ、ニ至レリ、爾來義父古屋徳兵衛氏ヲ補佐シ、同店ヲシテ發展ノ緒ニ就カシメタリ、後年同店ノ分身松屋吳服店ヲ支配スルヤ、時代ヲ推移ヲ洞察シテ、一大奮闘ヲ開始シ、堂々トシテ先輩同業者ノ壘ニ肉薄シ、遂ニ之レヲ凌駕シテ第一流ニ伍ス、今ヤ三越ト併稱シテ東都二大吳服店トナル、其顧客ノ待遇ニ至ツテハ一種ノ松屋式ヲ示シ、懇切丁寧、各種ノ階級ニ通ジテ好評アリ、如斯ハ確カニ君ガ人格ノ具体現サレタルモノニシテ、多方面ナル趣味ト經驗ニヨツテ鍊ラレタル商店經營ハ、君ヲシテ今日ノ聲名ヲナサシメシ所以ナリ、君尙銀座街ノ一角ニ煙草店菊水ヲ開キ、獨立ノ事業トシテ餘力ヲ傾注シツ、アリ、吾人敢テ君ニ對シテ何等ノ思怨ヲ有スルニ非ズト雖モ、同店ノ活動ヲ目撃シテ快感禁スル能ハザルモノアリ、即チ草シテ本章トナス。

電話新橋 四百五十三番

濱名信平氏

茨城縣郡部選出衆議院議員

茨城縣眞壁郡關本町

君ハ安政二年十月十日ヲ以テ茨城縣眞壁郡關本町大字關本上ニ生ル、幕臣大澤順軒及ビ土井七郎、信夫如軒ニ就キ漢學ヲ研究シ後結城藩立乘葬館ニ通學ス、夙ニ實業獎勵ノ急務ヲ論ジ茨城縣蠶糸共進會ヲ鄉里關本町ニ開ク時ニ明治十五年ニシテ本縣共進會ノ嚆矢タリ、十五年選バレテ茨城勸業世話役トナル、同年八月縣會議員ニ當選ス、又十九年再選セラレテ縣會議員トナル、同年常置委員トナリ、廿二年三度縣會議員ニ選バル、同十月縣會議長ニ當選ス、廿五年縣會議長ニ再選セララル、尙三十五年ノ總選舉ニ大多數ヲ以テ當選ス、其他土木委員ヲ命ゼラル、政友會組織以來評議員及ビ政務調查局員ヲ囑托セララル、三十四年伊藤總裁歐米漫遊不在中協議員ヲ囑托セララル、衆議員ニ於テハ第八議會ニ請願委員長トナル爾來每會豫算委員ニ當選シ遞信農商務兩省ノ調査ヲ擔當ス、爾來引續イテ當選シ立憲政友會ノ古參トシテ青年政客ノ瞻仰ヲ受ケツ、アリ、

君人トナリ温良恭謙克ク世ノ溥命者ヲ救濟シテ隱德ヲ施シツ、アリ、而シテ其政界ニ於ケルハ聲望既ニ之レヲ督々スルヲ須ヒスト雖モ、連年自由黨ノ鮮血ガ、關東ノ平野ニ灑キタル時代ヨリノ經驗ハ、遂ニ今日ノ政友會ノ基礎ヲナセルノ一事ハ既ニ世ノ認識スル處ナリ、往年ノ青年志士、今ノ濱名代議士妙シク安ンシテ可ナラムヤ。



丹羽藤吉郎氏

藥學博士

本郷區湯島新花町九五番地

名聲噴々トシテ中外ニ普ク、令聞又社會ノ模範タルニ足ルモノアリト雖モ、是レヲ以テ直チニ人生ノ事足レリト斷ヅベカラズ、其主義性格ノ奈何ニ由リテ其人ノ價值ハ定マルモノタリ、君カ名聲名聞タル況ク斯界ニ喧傳セララル、モノ多カラズト雖モ暗々裡ニ一大潛勢力ヲ保チテ隱然重キヲナシ、开ガ德望ト信用トハ優ニ後進者ノ標的トシテ崇敬スルモノ故ナシトセンヤ、君ハ佐賀縣士族、丹羽與左衛門氏ノ二男ニシテ安政二年二月二日ヲ以テ生ル、夙ニ藩費ニ漢學ヲ修業シ、秀才拔群藩ノ選拔ヲ以テ東京ニ遊學ヲ命セララル、明治四年大學南校ニ入り、獨逸學ヲ研鑽スルコト二年餘造詣愈々深ク後轉ジテ大學東校ニ入り、製藥學ヲ研修ス、卒業後製藥士ノ學位ヲ受ク、爾來製藥局雇兼製藥化學講義ヲ托セララル、尋テ東京大學醫學部助教、東京大學豫備門分校教授ヲ兼務ス、十八年四月脚氣病審査委員、東京地方衛生會委員等トナリ、翌年醫科大學第二醫院藥局監督ヲ命セララル、從六位ニ叙セラレ勳六等瑞寶章ヲ賜ハル、後更ニ藥學博士ノ學位ヲ授ケラレ、勳五等ニ叙セラレ、帝國大學醫科大學助教ヲ命セラレ現今ニ及ブ。

君稟性、温順頭腦明晰ニシテ極メテ研究的天才ヲ有シ今日迄幾多ノ藥物ヲ發明シテ斯界ニ貢獻セシ事舉ケテ數フルニ遑アラザルナリ、尙一面仁俠ニ富ミ幾多私財ヲ投ジテ弱者ヲ賑恤スルナド稀レニ見ル所ノ士トイフ希クハ自重加餐以テ益々社會ノメ健在ナラン。

電話下谷 三千二百〇八番

古屋徳兵衛氏

實業家

神田區鍛冶町三十四番地

神田今川橋ヲ南北ニ走ル電車ノ聳々タル處、巍然タル松屋呉服店ノ洋館、既ニ東京名物ノ一ト稱セラレ、コレナン君ガ統括ニナル者、其營業振リニ至ツテハ世既ニ定評アリ、今其閱歴ノ梗概ヲ掲グレバ、君ハ山梨縣人故古屋長吉氏ノ長男ニシテ嘉永二年四月十日ヲ以テ生ル、少壯志ス處アツテ横濱ニ出デ、徐ロニ世ノ趨勢ヲ觀測シテ期スルアリ、同市石川町ノ一角ニ地ヲ相シテ吳服店鶴屋ヲ創始ス、當時恰モ開港ニ際シ、同地ノ事業革命ヲ惹起スルノ時ナリキ、爾來苦心慘憺幾多ノ春秋ヲ經、三十六年組織ヲ變更シテ合名會社トナシ、同時ニ從來其分身トシテ東都ニ置カレタル松屋呉服店モ、等シク合名會社トナシ、前者ハ小池春次郎氏ニ後者ハ内藤彦一氏ニ支配セシメ自ラ之レヲ統一シ、京濱二箇ノ策源地ニヨリ、日本流行界ノ先鞭ヲ以テ任シツ、アリ、松屋ノ如キハ、既ニ中央第一流トシテ幾多ノ老舗ヲ凌駕シ其供給力面ノ廣キ事斯界ノ首位ニアリ、而シテ顧客ノ待遇ノ如キニ至ツテハコレ亦獨特ノ長所アリ、吾人ヲシテ忌憚ナク云ハシメバ、三越ノ稍上流趣味ヲ加味スルヲ覺ユルト同時ニ松屋ノ全然平民趣味ナルヲ多トス、前者ノ營業振リハフロツクコート式ニシテ後者ノ營業振ハ背廣式ナリ、敢テ長所ヲ是非セズト雖モ、コレ君及高級幹部ノ人格ヲ語ツテ餘蘊ナク、亦以テ同店近時ノ勃興ニ徴シテ意味アル現象ナラズヤ、外ニ横濱實業界ニ於ケル企業トシテ、去ル二十九年金子、小泉氏等ト共ニ創立シタル横濱實業銀行、及三十三年石川、朝田氏等ト共ニ創立シタル横濱實業銀行及全貯蓄銀行ノ如キイツレモ重役トシテ其發展ヲ計リツ、アリ、

稿ヲ結フニ當ツテ同家ノ繁榮ヲ祝シ、世ニ薦メテ君ヲ明治立志傳中ノ一異才トナス、敢テ中レルヤ否ヤ。

電話本局 五百八十八番 六百八十八番 七百四十七番

菊嶋生宜氏

實業家

小石川區諏訪町五十三番地

中央實業界中、異材ヲ以テ喧傳セラレツ、アル、菊嶋生宜氏、ソモ如何ナル閱歴ヲ有スルカ、君ハ安政四年十月ヲ以テ、山梨縣甲府ニ生ル嚴父定右衛門氏ノ長男ナリ、家世々里正トシテ地方自治ニ盡瘁シテ功勞渺ナカラズ、君幼ニシテ讀書ヲ好ミ、明治十三年山梨郡書記トナリ、同十六年故アツテ其職ヲ辞ス、翌十七年選バレテ學事會員トナリ、同年十二月更ニ縣會議員トナリ、同十九年十二月山梨縣蠶糸業取締所議員ニ推舉セラレ翌二十年東山梨蠶糸組合第十六區七里村委員トナリ、同年十二月同組合委員長トナリ、同廿一年一月再ビ縣會議員トナリ、同廿四年一月七里村尋常小學校所屬學區會議員トナリ、同年五月同郡所得稅調查委員等ニ推舉セラレシ如何ニ其與望厚キカラ推察スルニ餘リアリ、同廿七年株式會社米穀取引所支配人トナリ在職八年貢獻亦渺ナカラズ、後更ニ選バレテ東京商品取引所專務理事トナリ奮勵些ノ怠リナク今日ニ及ブ、君其重職ニアリ亦兼ネテ東京商業會議所議員トナリ今尙其職ニアリ、明治卅六年第三回衆議院議員總選舉ニ際シ、衆望ハ遂ニ君ニ歸着スル處トナリ同年推サレテ衆議院議員トナリ、山梨縣郡部ヨリ選出セラレタリキ、次デ一昨四十壹年滿期更ニ總選舉ニ際シ再ビ縣民ノ與望ハ君ニ歸サントシツ、アリシモ君固辭シテ再ビ政界ノ人タラズ、爾來直進實業ノ發展ニ全力ヲ注ギツ、アリ、現ニ商品取引所理事長タリ亦當代ノ用材ナルカナ。

電話番号 一千七百六十六番

田島達策氏

實業家

神田區佐久間町一ノ二九

日本交通界ノ東半部ヲ扼スル神田秋葉原策源地中君ハ人格識見共ニ群ヲ抜キ、多年純民間運送業者ノ爲ニ、清節并テ改メズ、幾多ノ誤解幾多ノ迫害ニ甘ンジテ其本分ヲ全フシ、剛健ノ意志、常ニ斯界ノ先鞭者ヲ以テ居ル、由來交通業者ノ歴史ハ、遺憾乍ラ精彩華麗ノ形跡ヨリモ、聊カ汚レタル多クノ缺點ヲ以テ表明セラレ、業ニ從フ者、多クハ見識ナク、所謂勞働者ノ缺點ヲ發揮シテ、世ノ惡意味ノ解釋ニ定評セラレツ、アリキ、然リ事實ニ於テ、此傾向ヲ有シタルハ何等ノ疑ヲ要セサルナリキ、君茲ニ慨スル處アリ、奮然起ツテ斯界ノ習慣ニ抗シ、彼ノ隱忍極マリナキ、舉輩ノ妨害ニ耐ヘ、嚴トシテ其主張ヲ托クルナシ、寔ニ日本ニ於ケル近世交通史上決シテ忘ルベカラサルノ士ナラスンハアルベカラザルナリ、然リ隱レタル功績ノ大ナル丈ケ、苟クモ操觚者ノ使命ヲ帶スル吾人ニ於テハ、決シテ不問ニ附スベキ問題ニアラサルナリ、聞ク君ハ、群馬縣平民、亡田島長十郎氏ノ次男ニシテ安政五年五月二日ヲ以テ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ、早クモ理財ノ學ニ志ス、會々、相馬永胤、田尾稻次郎氏等計ツテ東京專修學校設立ノ事アルヤ、入ツテ同校ニ學ビ苦學數年業大ニ進ム、卒業後日本交通業界ノ不振ヲ歎ジ、直ニ新進ノ學識ヲ應用シテ運送業ヲ始ム、次テ組織上ニ就テ研究スル處アリ、三隣合資會社ヲ創設シ、其代表社員トシテ當面ノ局ニ當リ、市内樞要ノ地區ニ支店或ハ、出張所ヲ設ケ、赤キ三ツ隣ノ旗色ハ、妙ナクトモ、中央交通界ノ權威ヲ值セリ、尙、餘力ヲ提ケテ運業株式會社ノ創業ニ從事シタリキ。

君ガ月亘其大約冒頭ノ辭句ニ盡スト雖モ、更ニ亮筆ヲ呵シテ傳ヘサル可ラサルハ君ノ人格ナリ、放膽ノ如クニシテ而カモ綿密、冷カナル如クシテ而カモ熱情アリ、一諾千金ヲ重ンスルノ奇骨ハ、當世運送業界ノ精タル華タルヲ失ハサルナリ。

電話下谷 一千二百三十三番

田坂初太郎氏

實業家

芝區下高輪町三拾番地

君ハ愛媛縣ノ人、嘉永四年十二月八日ヲ以テ生ル先代田坂富五郎氏ノ長男ナリ、家代々郷土ノ素封ヲ以テ夙ニ近郷ニ聞ユ、幼ニシテ讀書ヲ好ミ年漸ク八才自性寺ニ入り讀書習字ヲ修ム、居ル事七歲造詣大ニ加ハル、後不幸ニシテ家道商業上ノ失敗ヲ重ネ、加之乃父ハ國事犯ノ連累者トシテ獄ニ繋ガレシヲ以テ一入ノ困難ニ陥リ遂ニ祖先以來ノ家作地所等ハ悉ク債權者ノ手ニ移ル、茲ニ於テカ君大ニ期スル處アツテ、奮然郷土ヲ辭シ曰ク、『業若シ成ラズンバ死ストモ還ラズ』ト心ニ誓ヒテ立去リシナリ、時恰モ年十八歳ナリキ、即チ、木枯スサフ三月ノ餘寒慈母ノ手ヨリ、拾二枚ト金子二分トヲ貰フテ出掛ケタルナリ、扱テ何處ヲ目指シテ行カウ當モナイ、偶々胸ニ浮ビシハ當時和歌山藩ノ汽船明光丸ニ伯父ノ『コック』手傳ヲシテ居ル一事ナリ、君乃チ往イテ伯父ニ哀訴シテ船員見習トシテ明光丸ニ乗船スルヲ得タリサレド新參ノ辛ラサニ常ニ他輩ノ嫌ム、靴磨ギ、雪隠掃除等ニ甘ンジ、他日ノ大成ヲ期セント、密カニ悟ルアリ、雖テ明光丸ヲ辭シテ、千里丸ニ移リ、尋テ神奈川丸、玄海丸、兵庫丸、等ニ移リ遂ニ萬里丸ニ乗船シテ月給十三圓ヲ受クルニ至ル、而シテ品川地邊ニ始メテ小家ヲ構ヘ、カバカリノ給料ヲ以テ食客八名餘ヲ置キ、一家和合暖氣互ニ勃々トシテ消光シツ、アリキ、當時君ノ胸量ヲ試驗スベキ一珍談アリ、『ソハ君ガ神戶ノ或ル船主カラ懇ニ招聘セラレタルノ事ニシテ、俸給モ比較的良ク、仕事モ仲々面白イノデ、君ハ早速之ニ應ジテ神戶ニ行ク事ニシタ、就テハ久シク世話ニナツタ品川ノ若衆ニ之ト云フテ、禮ノ仕様モナイノデイロノ考ヘタ末、自分ノ家財ヲ殘ラズ遣ツテ行ク事ニ決定シ、積年丹精シテ集メタル庭園ノ燈籠樹木迄殘ラズ與ヘテ出立セリ、ソレハヨシトシテ、是迄在京中大勢ガ食ツテ居タ肝腎ナ『米屋』ノ仕拂ヲコロリト忘レテ行ツタノデ、後デ米屋ガ蒼青ニナリ、夜逃ゲデモサレタ事ト心得、遙々神戶マデ追ヒカケテ頻リノ催促ニ、氏モ始メテ其氣ノ毒サヲ思ヒ、細君ト相談シテ早速其金ヲ工面シテ拂ヲ濟マセタト云フ事ガ

アル、夫レカラ久シイ後ニ氏ガ數十萬圓ノ財産ヲ拵ヘテ、高輪ヘ立派邸宅ヲ拵ヘタ時ニ、其昔品川ノ若衆ヘ遺ツタ物ノ内ニ一ツノ珍シイ庭石ノ有ツタ事ヲ思ヒ出シ俄ニソレガ欲シクナヅテ堪ラナイデ、自身品川ヘ出掛ケ昔若衆ヘ話シ、大金ヲ投ジ懇請シテ件ノ石ヲ買ヒ求メタト云フ事ガアル」之ヨリ先キ君警視廳御用掛トナリ、品川灣警備船仁風丸ノ船長ニ推サル、當時君航海上ノ學理ヲ深ク究メ首尾試験ニ合格シテ船長タルノ證書ヲ受ク、後其職ヲ辭シテ更ニ中野悟一氏ノ創立セシ同福社ニ入り西洋形帆走船ノ船長トナル、茲ニ於テ乎君愈々大志ヲ抱キ終ニ發展シテ清韓航路ヲ開クニ至ル、之レ抑モ未開時代ノ鎖港地ヲ開キシ嚆矢ナリト謂ツベキナリ、君此計籌ニ與ツテ中野氏ヲ益セシ功績亦大ナリト云フベキナリ、次デ期滿テテ同社ヲ辭シ更ニ大坂千足ノ全國丸、日本丸、皇國丸等ノ船長ヲ經テ千早丸ニ轉ジ居ル事四歳終ニ三井物産會社ノ開成丸ノ船長トナレリ、後チ獨力以テ英サムツン商會ヨリ巨船佐渡國丸ヲ買受ケ始メテ船主トナル、爾來多年ノ苦心頓ニ餘慶ヲ迎ヘ、後年傍ラ身ヲ實業界ニ投ジ、明治廿九年六月同志ヲ叫合シテ株式會社品川銀行ヲ創立シ推サレテ其頭取トナル、同卅一年一月日本「ベイント」株式會社ヲ創立シテ其社長トナリ、尙因ノ嶋造船株式會社取締役、愛媛縣石炭合資會社理事、弓削商業會社社長、又獨力私財ヲ投ジテ北海道後志國岩内町附近ニ數百町歩ヲ開墾シテ田阪農場ヲ設ケ郷土弓削郡長タリシ小松崎吉造氏ヲ監督トシテ幾百ノ農民ヲ移住セシメテ農事ヲ奨励セシメツ、アリ、今ヤ悉ク其全職ヲ令息友吉氏ニ譲リ、長ヘニ靜養シツ、アリ、殊ニ君ニ向ツテ感謝セザルベカラザルハ、彼ノ海事業ニ貢獻シタルノ一事ナリ、君往年斯道ヲ鼓舞セシ時代、私財ヲ投ジ建設セル商船學校ハ今ヤ後者ニ譲ルト雖モ其胚胎セル者ハ輒近甲種海員ノ養成機關トシテ著名ナルモノナリ。

電話芝 五百五十八番

内野 延 氏

熊本縣郡部選出衆議院議員

熊本縣玉名郡春富村

男子ノ主義ナキハ女子ノ貞操ヲ欠キタルニ等々共ニコンマ以下ノ人間ノミ此コンマ以下ナラサルハ眞ニ稀ナリ、内野延氏ノ如キハ當代ノ珍トナスベキ充分ノ價値アルヲ信ズ、君ハ安政三年九月、肥後ノ國玉名郡春富村ニ生ル銀行業ヲ以テ近郷ニ名アリ、君早クモ和漢ノ學ヲ修メ且ツ又博愛公共ノ心情ニ富ミ長ズルニ及ビ戸長ニ推サレ大ヒニ公務ハ爲ニ盡瘁スル所アリ漸々地方人士ノ信任ヲ收メ名聲年ヲ追フテ高シ常ニ政治法律ノ書ニ眼ヲ注ギテ修養ヲ怠ラズ、後玉名郡會議員、同參事會員、熊本縣會議員、同常置委員等ニ舉ゲラレ名望次第ニ高キヲ加フ、其主義トスル所ハ民權ノ自由ト憲政ノ完美トニアリテ行クモ此主義ニヨリ止マルモ之レニ依ツテス、遂ヒニ明治四十壹年第十回總選ニ際シ多數ノ推ストコロトナリ席ヲ衆議院ニ有スルニ至レリ今ヤ主義愈々堅クシテ名聲益々舉リ熊本縣下第一流ノ俊才トシテ民望眞ニ大ナルモノアリ、大同俱樂部ニ屬シ常ニ國家主義ノ鼓吹ニ努力シツ、アリ、過般同志ト共ニ入ツテ中央俱樂部員タリ、君亦一方銀行業者トシテ語ルニ足ルノ人物ナリ頭腦頗ル明快進取ノ氣象ニ富ミ常ニ好ンデ難事務ニ當リ其手腕ヲ振フヲ喜ブ、現ニ玉名銀行常務取締役トシテ專念經營ノ方針ヨロシキヲ得且營業ノ方法商工業者ノ金融機關タルニ背カサル等職トシテ氏ノ力與ツテ大ナルモノアリ、又經濟整理ノ才幹ニ豊富ナルハ其閱歷ヲ知ルモノ、皆疑ハザル所ナリ。

服部與兵衛氏

實業家

深川區伊澤町七番地

龍ハ雲ヲ獲テ益々靈ニ虎ハ風ヲ得テ益々猛ナリ實業家タルモノ先其學ヲ修メテ愈々其術ニ達スベキト云フベキカ茲ニ連綿十一代其星霜殆ンド三百年同一事業ヲ經營セル老舖石材問屋伊豆屋アリ當主服部與兵衛君ハ安政元年一月十八日ヲ以テ京橋區靈岸島銀町二丁目ニ生ル、父ヲ與兵衛氏ト云ヒ君ハ其三男ニシテ幼名ヲ重松ト稱ス年齡漸ク十三年ニシテ日本橋區瀬戸物町繪具問屋島海辨助氏方ニ入りテ店員トナリ勤勉忠直熱誠眞摯大ニ心力ヲ盡シテ主家ニ仕ヘシカバ頗ル主人ノ信用ヲ得好僱雇人中ノ龜鑑ナリトテ賞讃ヲ博シタリト云フ抑モ君ガ長兄ハ病ヲ以テ早世シ次兄與之吉君ハ六歳ニシテ家督ヲ相續シタルモ又二十五歳ヲ以テ明治七年遂ニ長逝シヌ君ハ明治七年八月主家ヲ退キテ家督ヲ繼承シ専ラ家業ヲ輔ケテ是レガ修業ニ從事シケルガ、明治二十三年五月從來ノ出張店タリシ現所伊澤町ニ新築シテ移轉シ益々奮勵事ニ當リ業務ニ勤メシカバ家運盛大厥路非常ニ擴張シテ今ヤ東都石材問屋中屈指ノ大賈トシテ其名噴々タリ、明治三十五年一月東京石材問屋協商會ノ會長トナリ、同三十六年七月同會委員長ニ推選セラレ、又君ガ信用ト重望トハ明治二十五年以來引キ續キ區會議員所得稅調查委員、相續稅審查委員等ノ榮職ニ在ルヲ以テ見ルモ是ヲ推察スルヲ得ン、明治三十六年四月商業會議所議員ニ舉ケラレテ斯界ニ貢獻スルコト尠ナカラズ、又深川銀行相談役ニナリテ其擴張發展ニ努メ其他社會公共ノ事業盡瘁奔走シテ寧日ナシト云フ。

君資性温厚篤實ニシテ未ダ會テ人ト争ヒタルコトナク隨テ雇人ニ對スル親切ヲ極メ待遇甚ダ豊裕ナリ故ニ雇人モ亦君ヲ父ト親ミ一意業務ニ精勵シテ倦ムコトヲ知ラズ、其業務日ヲ追フテ益々盛大ニ赴キ遂ニ海内第一ノ名ヲ擅ニスルニ至レルモノ亦故ナキニアラザルナリ、君又博愛慈善ノ念ニ富ミ、社會公共ノ心深ク義措施與ヲ以テ樂シミトナセリト云フ。

電話浪花 二一四四番

川眞田德三郎氏

德島縣郡部選出衆議院議員

德島縣麻植郡鴨鳴町

精神一到何事不成哉至言ト謂フベシ、與廢浮沈交々襲來セシモ毫モ避易セズ挫屈セズ以テ遂ニ今日ニ至リ得タルハ吾人全ク君カ如上ノ金言ヲ確守セシニ因ルト斷言スルヲ得ベシ、君ハ萬延元年二月阿波國麻植郡鴨鳴町ニ生ル早クヨリ公共事業ニ熱中シ爲ニ金品ヲ寄附スルコト前後通ジテ三十有餘回ナリト云フ藍製造ヲ業トナシ専ラ其改良ト進歩トニ意ヲ傾ケ殆ント晝夜兼行ノ有様ナリシトイフ、明治十年地租改正會議員トナリ次デ小區會議員、麻植郡三十二ヶ村聯合會議員阿波麻植兩郡聯合會議員其他聯合村會議員及議長ニ推舉セラレ、十八年縣會議員ニ舉ケラル、二十三年同縣舊三區ヨリ衆議院議員ニ當選シ第六議會迄引續キ其席ニアリタリ、三十壹年再ビ衆議院議員トナリテ今尙依然タリ而シテ主義アリ識見アリ堂々タル自信ヲ唱道シテ已マズ、困固モ屈セズ迫害モ意トセザルモノ是レ豈ニ政治家ノ本領ニアラズヤ川眞田氏ノ如キハ能ク此本領ヲ發揮シタル政治家ト云フベシ、尙一方ノ勢ヲ割ヒテ實業ニ盡シツ、アリ現ニ阿波共同汽船株式會社取締役、阿波藍株式會社社長、德島鐵道株式會社社長及ビ阿波商業會議所會員全會頭阿波藍研究會々頭、阿波藍製造販賣同業組合會議長等ノ職責ヲ帯ビテ名聲遠近ニ高ク而シテ其思フトコロハ國利民福ノ事ニ關セサルハナシ、氏ヲシテ今日此處ニ有ルヲ致サシメタルハナンゾ曰ク不屈不撓ノ精神、曰ク正義仁愛ノ念ニ外ナラサルナリ偉ナルカナ敬スベキカナ。

西村治兵衛氏

京都府京都市選出衆議院議員

京都市下京區三條途
室町西入衣棚町

當今代議士中ニハ學者アリ、德望家アリ、富豪アリ、名望アルモアリ、然レトモ一人ニシテ上記ノ學德富名共ニ備ハルモノ多アリヤ實ニ寂寥タル感ナクムバアラズ、眞ニ西村治兵衛氏ノ如キハ學德富名ヲ兼有セルノ士ナリ、是ニ於テカ國家ノ代表タルノ價値アルヲ認メテ疑ハサルナリ。

君ハ文久二年三月丹波國南桑名郡龜岡村ニ生ル、夙ニ學ニ志シ漢書法律學ヲ研鑽シテ濫蓄豐富ナリ、尙ホ京都機業界ニ盡瘁セシ所甚ダ多シトスベシ彼ノ有名ナル西陣織ノ爲ニ殊更奔勞セラレシナド特筆シテ賞贊ノ辭ヲ吝マズ、京都市會議員、同參事會員ニ舉ケラレ、又臨時博覽會評議員、第四回内國博覽會評議員、日本大博覽會評議員、東洋拓殖株式會社設立委員、京都商業會議所會頭トナル、今尙京都商工銀行副頭取、京都織物株式會社取締役、京都銀行集會所委員長、京都染吳服店組合長タリ、且ツテ商工視察ノ爲メ歐米各國ヲ巡遊シ炯眼ヨク實況ヲ視察シテ歸朝シ後又聖路易萬國博覽會ニ於テ織物審査官ヲ囑託セラレ副議長トナル、遂ヒニ明治四十壹年第十回總選舉ニ際シ京都市ヨリ選ハレテ衆議院議員トナリ其本分ヲ盡シテ餘リアリト云フヲ得ベシ、尙本年渡米實業團ノ幹部トシテ米國ニ至リ遺憾ナク彼我ノ親善ヲ計リ其勞苦ヤ各視察ト歡迎トノ爲メノ愉快ヨリ以上ナルモノアルヲ謝ス君等ノ一舉一動ヤ實ニ日本國民全體ノ動止ニシテ其實ヤ大ナリ、是レヲ全フシ無事歸朝スル事ヲ得タル欣然惜ク能ハザルナリ。

君溫厚篤實ノ好紳士トシテ世ノ尊敬ヲ受クベキノ人タルハ喃喃々贅言ヲ要セス、是ニ略記シテ稿ヲ脱セントス、乞フ紙數制限ノ爲メ詳細ヲ説ク能ハズ吾曹遺憾トスレトモ如何セム、君ノ逸話山ノ如キハ多日大冊ヲ錄シテ紹介セム事ヲ約ス。

沖 牙太郎氏

實 業 家

芝區田町四ノ二、三、四、

工業ノ發達ハ廿世紀ノ著名事實ナリ、而シテ工業中最モ發達シツ、アルハ電氣事業ナリ、然リ當今或ル立脚地ヨリスル一國ノ文明觀ハ、電氣事業ノ盛衰ヲ以テ衡トシツ、アリ、願ミテ電氣發明以來ノ進歩ノ跡ヲ尋ネ、更ニ現今ノ趨勢ヨリ打算シテ將來ヲトセバ、有望元ヨリ冗言ヲ要セザルナリ、東都有數ノ電氣商トシテ既ニ老舖ノ稱ヲ冠セラレツ、アル沖商會ノ如キハ、多年本邦電氣事業界ノ先覺者トシテ人ニ知ラレ常ニ新運ニ併行シテ克ク新機軸ヲ出シ、營業振リノ堅實ニ至ツテハ斯界ノ第一位ト稱セラレ、商品ノ如キモ亦獨特ノ長所ヲ有シ、中央ニ於ケル同業者中五指ニ屈セラレツ、アリ、シカモ其組織ニ至ツテ純然タル箇人ノ獨立事業ニシテ、先代竹太郎氏、不出世ノ大才ヲ抱イテ此大事業ノ基礎ヲ樹ツルニ至リシナリ、由來同商會ノ歴史ハ、一面ニ於ケル本邦電氣機械ノ發達史ヲ意味シ、經營者ノ献身の努力ト相待ツテ尊重ベキ偉績ヲ有ス、先代竹太郎氏、夙ニ身ヲ投ジテ實業界ノ人トナリ、苦心慘憺ヲ經テ商道ニ通ズ會々電氣事業ノ將來ヲ洞察シ、精探多年同機械商ヲ營ム、當時未ダ同業ノ發達頗ル緩漫ニシテ、到底今日ノ如キ旺盛時代ノ比ニアラズ、此間ニ處シテ屢々苦境ニ陥テ、百折撓マズ、最善ノ努力ヲ拂ツテ難關ヲ通過ス、一念轍石遂ニ前途ニ光明ヲ認ムルニ至リシナリ、然ルニ不幸一陣ノ狂風ニ誘ハレテ落花ト散リヌ、當主牙太郎君ハ其長男ニシテ明治二十年四月十一日ヲ以テ生ル、幼名正信ト稱シ、先代ノ歿後家督ヲ相續シテ現名ニ改ム、早クモ愛父ヲ失シテ孤トナリ、世ノ辛酸ヲ嘗ム、既ニシテ家督ヲ繼承シテ事業ノ首腦者トナルヤ、克ク二代ノ忠臣タル使備人ニ就テ、適材ヲ適所ニ配置シテ一段ノ奮闘ヲナサシメ、巧ミニ部下ヲ心服セシメテ業務愈々隆盛ナリ、未ダ經驗ニ於テ若干ノ遺憾ナキ能ハスト雖モ、遺傳的商才ト、修養意ヲサル人格ハ聽テ斯界ヲ縱斷スルヤ豫言スルヲ憚ラサルナリ、即チ青年實業家中卓越セルノ士ナルヲ信シ、敢テ物色シテ未來ノ大成ヲ至願ス。

電話芝

百四十八番

全

百四十九番

全

百五十番

佐々熊太郎氏

實業家

府下北豊多摩郡百瀬谷ヶ原宿一四〇

試ニ足ヲ支那ニ入レテ、其處ニ行ハレツ、アル商戦ヲ看ヨ、殆ント永久的ニ作戦計劃ヲ樹テ、獨米商人ノ奮闘スル壯觀ハ、蓋シ島國根性ノ日本人輩ノ企テ及ブ處ニアラサルナリ、茲ニ東亞煙草近時ノ大活動ヲ多トシ、社長佐々君ヲ物色シテ本章ノ『ヒーロイン』トナサンカナ。

君ハ岐阜縣士族佐々仙八郎氏ノ長男ニシテ元治元年二月三日ヲ以テ生ル、夙ニ教育家タラント欲シ明治十四年六月岐阜縣立中學校ヲ卒業シ、直ニ同縣師範學校ニ入り翌十五年七月ヲ以テ卒業ス、翌十六年七月、東京師範學校ニ入ル、會々二登ノ襲ス處トナリ、在學半途ニシテ退學スルノ止ナムキニ至レリ、全十八年大藏省主稅局ニ入り翌年二月九等主稅局ニ任セラレ鹿兒島縣ニ轉任ス、爾來遞信省、東京府、警視廳、岐阜縣、京都府等ノ諸官衛ニ歷任シ、少壯敏腕ヲ以テ到ル處可ナカラサルハナシ、同三十年再ビ大藏省ニ入り一等煙草專賣所長ニ任セラレ同所創業當時ノ難關ニ處シ、聲名隆々省内ヲ歴ス、同三十二年專賣局事務官作業部長トナリ尋テ專賣支局長ニ任セラル、爾來仁尾長官唯一ノ股肱トシテ大藏省有數ノ能吏ト稱セラル、同三十七年五月東京第一煙草製造所長トナリ、從六位勳六等ニ叙セラル、同三十九年四月、三十七八年戰役ノ功ニヨリ、勳五等双光旭日章并ヒニ金八百圓ヲ賜ハル、此年十月官ヲ辞シテ野ニ下リ、江副廉藏氏、久米民之助氏等ト計ツテ株式會社東亞煙草ヲ創立シ社長ノ選定ヲ專賣局ニ申請ス、君此選ニ當リ推サレテ社長トナル、爾來苦心經營、汎ク滿韓ノ曠野ニ向ツテ商戦ヲ開始ス、即チ本社ヲ東京ニ、支社ヲ遼陽、營口、大連、京城、元山、仁川、平壤、釜山、長春、ハルビンノ十ヶ所ニ置キ、幾多ノ外國同業者ト競争シテ常ニ優勢ヲ占メツ、アリ、君尙春秋ニ富ム、多年ノ經驗ト天賦ノ敏腕ハ、蓋シ同社ノ爲メ絶好ノ適任者ナリ、希クハ更ニ一段ノ努力ヲ拂ツテ大ナル成功ヲ遂ケラレン事ヲ。

電話新橋 四千百九十八番

志水直氏

豫備陸軍歩兵大佐 前衆議院議員

牛込區市ヶ谷仲町 五十七番地

藝キニ武人トシテ斯界ニ其合間ヲ喧傳セラレ、亦夙ニ日比谷ニ議席ヲ有セリ國士トシテ政界ニ噴々タル合間ヲ有シ、亦曾テハ模範的市長トシテ其重望ヲ完フセリ、誠ニ當代殊勝ノ老練家タリ、今ヤ野ニアツテ靜養ヲサシ好メル道ニ閑ヲ拂ヒツ、アリ、今茲ニ其小歴ヲ按ズルニ。

君ハ出身愛知縣名古屋ノ人、嘉永二年四月廿一日ヲ以テ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ、夙ニ漢佛ノ諸學ニ通ジ亦清語並ニ時文四六式等ヲ究メ造詣亦深シ、明治四年兵部省ニ出仕シ累進シテ遂ニ歩兵大佐トナル此間參謀本部次副官、陸軍卿傳令使、總務局報告課長、太政官統計委員、陸軍卿官房副長、陸軍大臣秘書官陸軍省總務局第一課長、官報々告主任陸軍省副官、陸軍省參事官、帝國議會ニ對スル同政府委員ニ屬スル事務取扱、臺灣總督府民政局事務官、澎湖列嶋行政事務官、基隆支廳長、臺灣總督府參事官、臺北書記官等ヲ歷任シ功績大ニ舉ガル、後官ヲ辞シテ野ニ下リ市民ノ懇請ヲ享ケテ名古屋市長トナル、同卅五年八月衆議院議員總選舉ニ際シ縣民ノ重望ハ遂ニ全ク君ニ期シ同年名古屋市ヨリ推選セラレテ衆議院議員トナリ、日比谷原頭ノ名士トナリシモ今ハ閑地ニアツテ靜ヲ養ヒツ、アリ、其趣味トシテ書畫、骨董、詩文ニ遊ヒ、殊ニ漢詩ノ如キハ、詩人森槐南氏ノ隨陽吟社ニ入りテ研修シ、香夢ト號シテ吟風亦閑雅ノ裏雄大ヲ含蓄ス。

電話番町 千三百三十四番

土居通博氏

貴族院議員 土居銀行頭取

岡山縣菅田郡田邑村

海ヲ有セサル州土ノ一トシテ、古來交通機關ノ利便ヲ有セザリシ山陽美作國、今ヤ中國鐵道ノ貫通ニヨ
 ヲテ面目ヲ一新セリ、君等關係者ノ得意、蓋シ思フベキナリ。
 由來土居家ハ、土地唯一ノ富豪ニシテ、家系連綿トシテ當主通博君ニ至ル、先代ハ通信氏ト稱シ、夙ニ
 産業ノ發達ニ意ヲ用ヒ、先見ノ明、卓拔ノ識、同家ノ中興トシテ名聲アリ、彼ノ社長トシテ經營シタル
 津山製絲合資會社、及多年重役トシテ大出資者タリシ、津山米穀取引所、津山銀行、津山貯蓄銀行、及
 殆シド同家ノ單獨事業タル合名會社土居銀行ノ如キハ、同地企業界ニ於ケル『オウソリチー』トシテ隆盛
 今尙名聲ト共ニ聞ヘツ、アリ、通博君ハ其息男ニシテ明治元年四月ヲ以テ生ル、少壯出テ、東都ノ游子
 トナリ、明治法律學校(明治大學ノ前身)ニ入ツテ法律學ヲ修ム、研修三年業卒ツテ故山ノ人トナリ、新進
 ノ學識ヲ應用シテ乃父薰陶ノ下ニ立チ、才鋒漸ク認めラレテ興望亦伴フ、一ト度家督ヲ繼承スルヤ、銳
 意計策一ノ弛怠ナシ、殊ニ中國鐵道ノ經營ノ如キ、日常當面ノ局ニコソ當ラザレ、同社必須ノ後援ト
 シテ信頼愈々加ハル、同社ノ發達ハ到底君ヲ離シテ語ルベカラズトハ、コレ記者ガ關西實業界ノ消息通ヨ
 リ耳ニシタル處ナリ、尙先代ノ遺業タル、土居銀行、津山製絲合資會社、津山銀行、全貯蓄銀行ノ如キ
 モ、創業當時ノ野生品ニ對シ、今ノ堅實完備ヲ遂想セバ、君ガ守成ノ器亦偉ナリトセズヤ、三十九年七
 月同縣多額納稅議員、野崎武吉郎氏ノ辭任ニ際シ、全年十二月補闕選舉ニヨリ、推サレテ貴族院議員ト
 ナリ、而シテ以テ今日ニ至ル。

武田貞之助氏

滋賀縣郡部選出衆議院議員

辯護士

大坂市西區江戶堀北近
二丁目百番地

世人ノ希望ニ背カサルノ強硬ナル外交家ナリト言ハ、殆ンド君ノ全豹ヲ窺フニ足ルベシ、加之一辯以テ
 天下ノ名家ヲ罵倒シ盡シ、一舉以テ社會ノ擾亂ヲ釀スニ足ル、實ニ當代手腕家ノ謂ハ斯クノ如キニ求ム
 ベキカ、君ハ明治元年四月近江國伊香郡高時村ニ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ村塾ニ有ツテハ常ニ優等ノ成
 績ヲ占メ教師モ將來頼ムベキヲ知リテ薰育セリト、既ニ滋賀縣立師範學校ニ入りテ教育家タラムトシ卒
 業ノ後二三小學校ニ教鞭ヲ執リ専心教育ニ從事セリ、或曰君徐ニ以爲ラク一小學校教師ニシテ碌々タレ
 バ天下ニ名ヲ爲スノ日又幾日ナルヤト、茲ニ決然起テ關西法律學校ニ入り専ラ研鑽同校ヲ卒業シテ辯
 護士試驗ニ及第シ今ヤ益々事績ノ見ルベキモノ多シ、其事務ニ對シ誠意熱心懇切叮嚀依頼スルモノ門前
 市ヲナスノ有様、豈偶然ニアラサルヲ信シテ疑ハサルナリ。

尙又大阪私立商業學校ヲ創設シ之レニ校主トナリ數多ノ商界ニ有爲ノオヲ出シタル君ノ力與カツテ大ナ
 ルモノアルベシ、漸クニシテ衆望君ニ歸スル大ニシテ昨四十壹年第十回總選舉ノ事アルヤ、滋賀縣郡部
 コリ推サレテ衆議院議員トナル、君亦憲政本黨員トシテ同黨ノ爲奔走シ、今ヤ入ツテ立憲國民黨ニアリ
 必スヤ他日其鋒銜ヲ露ハシ政界ニ一新機軸ヲ案出シテ異彩ヲ放ツベキノ士ナリ。
 君ハ無比ノ攝生家ナリト聞ク、ソレ健全ナル精神ハ健全ナル身体ニ宿ルトハ古來識者ノ唱ヘテ已マサル
 所君夙ニ此理ヲ認メ常ニ常ニ體育ノ進歩普及ヲ計リテ自ラモヨク其範タルベキヲ努メタルナリ。

齋藤 宇一郎氏

秋田縣郡部選出衆議院議員

秋田縣山利郡平澤町

二十五議會ニ於ケル議會ノ經過ハ、一見平凡ニ似タリト雖モ各政黨幹部ノ苦心ハ、蓋シ局外者ノ窺フ能ハザル處ナリ、君亦憲政本黨院內幹事トシテ局ニ當リタル人ナリ。

君ハ慶應二年五月十八日秋田縣山利郡平澤町ニ生ル、明治二十三年七月農科大學林學科ヲ卒業ス、二十三年志願兵トシテ近衛歩兵第四聯隊ヘ入隊ス、同二十五年陸軍歩兵少尉ニ任ジ正八位ニ叙セラレ豫備仰付ケラル、二十六年後備仰付ラル、二十八年陸軍歩兵中尉ニ任ゼラル、二十九年農商務局ニ任ゼラル、同年從七位ニ叙セラル、三十年林務官ニ任ゼラレ高等官八等ニ叙セラル、三十壹年高等官七等ニ叙セラル同年依願本官ヲ免ゼラル、三十三年秋田縣山利郡平澤郵便局長ヲ命ゼラル、同年十月平澤町郵便電信局長ヲ命ゼラル三十五年陸軍歩兵大尉ニ任ゼラル、同年局長ヲ辞ス、三十三年平澤農會長トナル同年十一月秋田縣山利郡農會副會長トナル二十八年三月從軍渡清海城ニ到ル同年七月歸朝同年十一月二十七八年戰役ノ功ニ依リ勳六等瑞寶章及金百圓ヲ下賜セラル、同月從軍紀章ヲ付與セラル、二十九年二月召集解除明治三十三年八月山利農會名譽會員トナル、三十五年第七回總選舉以來秋田縣郡部ヨリ選ハレテ衆議院議員トナリ、爾來引續キ當選シテ今日ニ及ブ、今ヤ憲政本黨ノ少壯政客トシテ、多年ノ逆境ニ處シテ、黨ト消長ヲ共ニシ、純然タル在野政客トシテ未來ノ玉成ヲ期望セラレツ、アリシガ、今ヤ同志ト共ニ立憲國民黨ニ加ハル。

成瀬 正恭氏

實業家

芝區白金三光町百七十三番地

十五ノ成瀬、三井ノ池田、コレ中央銀行界ノ少壯家トシテ未來ノ大成ヲ期待サル、處ニシテ、幾多ノ實業評論記者ガ筆ヲ等フシテ『模範的少壯實業家』ト稀スル所以ナリ、今其略傳ヲ草シテ本籍ノ精華タラシメンカ。君ハ香川縣ノ富豪、舊高松藩士成瀬岩太郎氏ノ七男ナリ、明治元年五月二十一日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、年十五、笈ヲ負フテ東都ノ人トナリ、三田ノ偉人福澤諭吉先生ノ門下トナル、同十九年大志ヲ抱イテ北米合衆國ニ航シ、同國シカゴ市『ブライアント、アンド、ストラットン』商業學校ニ入ル、卒業後紐育市『コーネル』大學法學部ニ入ツテ斯學ヲ研究ス、二十二年業卒ツテ『パチエロー、オブ、アーツ』ノ學位ヲ受ク、更ニ大學院ニ進ンテ深奥ノ學ヲ修メ二十三年『マスターオブロー』ノ學位ヲ領スルニ至レリ、此間專心學ヲ修ムルト共ニ汎ク實務ヲ觀察シ。同地商會社ノ經營ヲ探知シテ造詣頗ル大ナリ、此年錦衣歸朝シテ母國ノ團樂ニ入ル、幾モナクシテ迎ヘラレテ横濱正金銀行ニ入ル、新進ノ學識、多年ノ蘊蓄、巧ミニ行務ヲ處理シテ名聲漸ク高シ、尋イテ二十八年ニ至リ、日本貿易銀行ニ轉ジテ同行支配人トナル徐々ニ加ヘラレタル經驗ハ、各種ノ方面ニ向ツテ新機軸ヲ出シ、早クモ其手腕ハ眼識アル先輩ノ認容スル處トナル、遂ニ三十一年ヲ以テ十五銀行ニ入り、登用セラレテ支配人トナル、十五銀行ノ世評ニ至ツテ既ニ定マル者アリ敢テ我徒ノ冗言スルヲ須ヒスト雖モ、同行現時ノ隆盛ハ、尠ナクトモ君ノ努力ト而シテ手腕ノ一面ヲ語ルモノニアラスシテ何ゾヤ、株主ノ上流社會ナルト、頭取園田氏ノ人格ノ影響モ亦一因トスルニ足レドモ吾人消息通ヲシテ云ハシメバ、日常當面ノ局ニ任ズル君ヲ舉ゲテ殊勳者トナスヲ憚ラサルナリ、尙餘力ヲ提ゲテ水戸鐵道株式會社及、帝國倉庫株式會社ノ重役ニ列ス、願フニ來ルベキ若干後ノ時代ハ、君等ノ獨擅トシテ中央實業界ヲ縱斷スベキ豫想ハ、敢テ吾徒ノミ爾力稱スルニアラサルナリ、即チ附記シテ君ノ成功ヲ待タン哉。

電話芝 一千三百六十七番

芹澤幸太郎氏

辯護士

京橋區日吉町十二番地

曰フ勿レ、東北邊陲ノ地ト、曾テハ伊達政宗公ヲ出シ、上杉鷹山公ヲ出ス、現代亦有材ノ士續出ス、其敦厚朴訥ニシテ而カモ、雄大ノ氣ニ富ム處、將來ノ向上ヲ察知スルニ足レリ、茲ニ説ク芹澤君豪傑卓拔此ノ地出身ノ人ナリ。

聞ク君ハ山形縣士族、故芹澤政温氏ノ長男ナリ、乃父政温氏ハ、明治三年米澤藩大屬トナリ尋テ置玉縣權參事、五年正七位ニ叙セラレ、十年判事ニ任ジ秋田始審裁判所長控訴院評定官ニ陞任シ勳六等ニ叙セラレ、後福井始審裁判所長、福井地方裁判所長ニ補シ、廿三年大審院判事ニ任ジ陞進シテ正五位勳四等ニ叙セラレ、明晰ナル頭腦ヲ以テ如何ナル難事モ即席裁斷スルヨク先輩ノ推服スル處タリシモ、惜シイ哉逝キテ歸ラサル噫、君先考ノ意志ヲ繼ギ思想堅實邁往勇奮如何ナル難事モ解決セザレバ止マザルノ氣アリ、君ハ慶應二年四月十五日ヲ以テ其藩邸ニ生ル幼少學ヲ好ミ夙ニ和漢ノ學ヲ修メ造詣頗ル深ク、後東京大學法科大學ニ入り、螢雪ノ功ヲ積ンデ廿三年全校優位ノ成績ヲ以テ卒業シ、法學士ノ稱號ヲ得後辯護士ノ登録ヲ受ケ一般法律事務ニ鞅掌シ傍ラ法學院其他ノ法律學校ニ教鞭ヲ執リ、其職ニ忠實ニ勉勵些ノ倦怠ナク後進扶掖ニ盡瘁スト、寔ニ君ノ如キ當代法曹界中稀レニ見ルノ士希クハ加重シテ益々邦家ノタメ且ツハ後進子弟ノタメ盡シテ吝ナル勿レ。

電話 新橋 一千五百〇九番
全 三千三百四十九番

横田千之助氏

辯護士 實業家

芝區金杉新濱町一番地

君ハ明治三年足利織ヲ以テ其地名ヲ天下ニ致セル野州足利ニ生ル、嚴父市太郎氏ノ長男ナリ、家世々機械ノ業ヲ營ミ微ヨリ細、少ヨリ大ト其基礎ノ鞏固ヲ計リ、家運漸ク見ルベキノ觀アリシモ、嚴父ノ時ニ至リ一朝商機ヲ誤リ殆ド倒産ノ悲境ニ沈淪セントスルノ際、君年齒僅ニ十歲呼嗚世ノ温カキ家庭ノ兒等ハ未ダ慈母ノ手ニ愛育ヲ受ケテ嬉々タルノ時君ハ其地ニ織物仲買ヲ業トセル一商店ノ許ニ丁稚トシテ早クモ世ノ辛酸ヲ嘗メ盡セリ、天資穎敏聰悟ニシテ讀書ヲ好ミ寸暇ヲ得レバ書冊ヲ手ニシ、筆硯ニ親シミヤ、長ズルニ從ヒ常識圓滿ノ發達ト機敏ノ活動ハ熱誠ノ意志ト相待ツテ主人ヲシテ優ニ余ノ片腕トシテ頼ムニタルト感賞セシム、儉且ツ勤信重日ニ加ル、然リト雖モ蛟龍久敷池澤ノ者ニアラズ、青雲ノ志鬱勃トシテ禁ズル能ハズ遂ニ明治二十年機ヲ得テ篋ヲ東都ニ負ヒ同郷ノ先輩川口萬之助氏ニ投ズ、初志軍人タラントシタルモ講學ノ爲メ視力ヲ傷ヒ其意ヲ果サズ、更メテ法制經濟ニ志シ直チニ東京法學院ニ入ル、時ナル哉天ハ君ヲ砥勵スルニ據ル所ヲ失ナハシム、即チ川口氏故アリテ東京ヲ去ル、而シテ益々獨立自活ノ神聖ヲ教ユルガ如シ、是ニ於テカ大ニ決心スルアリ或ハ雇吏トナリ或ハ新聞配達夫トモナリテ千艱萬難敢テ介意セズ専心講學ニ餘念ナシ、會々故星亨氏夫人綱子其篤學ニ感ジ後願ノ憂ナカラシムルヤ學業大ヒニ進ミ二十六年同院ヲ卒業シ、尋テ辯護士試驗ニ及第ス、爾來星氏ノ事務所ニ職掌シテ忽チ頭角ヲ儕輩ノ間ニ顯ス、星氏就官ノ事アルヤ君ノ學殖經驗ニ信賴シ囑スルニ事務所一切ノ事ヲ以テス、其職ニ當リテ忠實懇到訴訟ノ依頼アルヤ能ク事實ヲ調査シテ最モ其責任ヲ慎シミ苟モセズ、故ニ關與セル事件ニシテ成功セザルモノ實ニ少ナリシト、尙群馬縣戶倉山林ノ經營ニ潛心スル殆十年胸算漸ク成ツテ四十年六月日本木材輸出株式會社ノ創立ヲ見ルニ至リ推サレテ專務取締役ト爲ル、專念同社ノ經營ニ當ラムト欲シ斷然辯護士ノ職ヲ廢ス君尙春秋ニ富ム而カモ此ノ英斷前途ノ發展興隆期シテ待ツベキナリ 電話芝一五六番

藤村喜七氏

株式會社三越吳服店常務取締役

芝區下高輪五十五番地

思慮綿密ニシテ輕々ニ事ヲ決セズ、然レ共一度決スレバ斷々乎トシテ其志ヲ達セズンバ已マズ、着々トシテ職責ノ進歩ヲ謀リ遂ニ偉大ナル功ヲナセルモノ吾人云フ、三越吳服店常務取締役藤村喜七君其者ナリ今其閱歷ノ概要ヲ掲ゲンニ。

君ハ三重縣松阪ノ人『嘉永四年十一月ノ誕生ナリ、年齒僅カ八歳ニシテ乃父ヲ失ヒ早クモ世ノ辛酸ト戰ヒ慈母ニ撫育セラレツ、アリシガ、偶々東都日本橋區駿河町越後屋吳服店ニ入ル時ニ年正ニ十一才、時ノ店頭山岡庄次氏早クモ君ノ秀才ヲ認識シ明治六年桐生出張所請トナル、後更ニ京都請トナリ遂ニ漸次累進シテ東京本店請トナル、爾來專ラ同店仕入部ニアリテ盡瘁忘リナシ、明治十年佛國大博覽會開設セラル、ヤ、同博覽會事務官前田正名氏ノ發議ニヨリ同店ヨリ羽二重、縮緬等ノ廣幅ナルモノヲ精製出品スルノ好機ニ會ス、君其責任ヲ負ヒテ東奔西走遂ニ好結果ヲ見ルニ至ル、同時尙羽二重「ハンカチーフ」ヲ賣出シ共ニ満足ナル結果ヲ得タリ、明治十七年洋風ノ頻ニ流行セラレントスルヤ其趨勢ヲ看破シ大ニ感ズル處アツテ同十九年十二月店命ヲ帶ビテ仕入及ビ實地視察トシテ歐洲ニ航シ先ヅ佛國巴里ニ至ル、次デ同國「リヨン」ヲ經テ更ニ英京倫敦等ヲ視察シ專ラ婦人服ニ研究ヲ注ギ婦人裁縫師三名ヲ備テ歸朝ス、後洋服部開店ト共ニ其取締役トナリ、更ニ吳服部擴張ニ就テ一時中止ス、明治卅七年組織ヲ變ジテ株式會社トナスヤ推サレテ常務取締役トナリ以テ其異彩ヲ恣ニシツ、アリ。君ハ亦博愛慈善ノ志ニ富ミ社會公共ノ事業ニ熱心ニシテ爾來其レ等ノ爲ニ理想ノ實力ニ餘力ヲ傾注シツ、アリ、吾人ハ君ガ已往ノ事蹟ニ徴シテ其社會ヲ裨益セシ事ノ鮮少ナラザルヲ信ジ尙且好個實業家ノ鑑トシテ後昆ニ傳フル所以ナリ。

電話芝 一千百四十九番

渡邊修氏

愛媛縣郡部選出衆議院議員

澁川區軍町十一

許テ官海ニアツテ少壯敏腕ノ名ヲ逞フシ、今ハ在野ノ政客トシテ一出色アリ、試ニ其閱歷ノ梗概ヲ案ズルニ、君ハ愛媛縣北宇和郡泉村大字岩谷ノ人ニシテ、安政六年十二月十日ヲ以テ生ル、夙ニ大志ヲ抱キ少壯出テ、東都ノ遊子トナリ、三田慶應義塾ニ入ツテ理財ノ學ヲ修ム、研索數年業ヲ卒ルヤ、仕官シテ農商務省御用掛、外務省御用掛、太政官御用掛等ニ歷任ス、次テ其才能優ク關ノ要求スル處トナリ、交際官試補トナリ外務省參事官トナル、幾モナクシテ副領事ニ任ゼラレ克ク其重任ヲ完フス、後農商務省特許局審判官ニ轉任シ更ニ遞信書記官ニ榮轉ス、累進シテ遞信省參事官、遞信大臣秘書官心得トナリ『過渡期ノ遞信行政ニ參劃シテ獻策最モ力メタリ、其後一年郵便電信局長トナリ。更ニ遞信事務官トナル、間モナク臨時臺灣電信運搬部事務官トナリ、新領土創制々々ノ遞信業務ノ施行ニ關シ、計籌改革到ラサルナシ、君身ヲ本邦遞信業務ニ投シテ歲月永キニ非スト雖モ、天稟ノ材能ハ、不斷ノ努力ヲ以テシ、值ヒシタル功績ハ、コレ決シテ不問ニ附スベキニ非ルナリ、後年愛媛縣書記官、香川縣書記官、等ニ歷任シ正六位勳六等ニ叙セラレ、卅五年官ヲ辭シテ佐世保市長ニ推舉セラレ、多年練磨ノ手腕ヲ擁シテ施政ノ改善ニ勉メ一方汎ク公共事業ニ盡瘁シ、長崎商業會議所特別會員、海員救濟會、武德會、神苑會、水產會、水難救濟會等ノ役員トナル全年衆議院議員選舉法ノ改正セラレテ、大選區區制ノ實施セラル、ヤ郷里愛媛縣郡部ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ爾來引續イテ每期ニ當選シ以テ今日ニ及ブ、前年來政友會ノ院內幹事タリ、先ニ日露戰役ノ功ニヨリ勳四等ニ叙セラル、往年市長ヲ辭シテ專ラ政治實業兩方面ニ活動シ、立憲政友會員トシテ其名聲ヲ知ラル、ト共ニ、日本電氣協會副會頭、大坂三品取引所理事、大坂電燈株式會社常務取締役、大坂電球株式會社取締役トシテ發展ノ途ヲ講シツ、アルアリ、君亦多能ノ士ナルカナ。

澁川區町 一千三百四十九番

佃 一 豫 氏

實 業 家

府下豊多摩郡千駄ヶ谷
宇原宿百八十一番地

九ノ内常盤橋々畔、塚ヲ介シテ相對持スル二箇ノ洋館、コレナン本邦金融界ノ双壁ニシテ一ハ日銀一ハ興銀ナリ、君ハ後者ノ副總裁トシテ令名斯界ヲ聳動シ、少壯實業家トシテ學識手腕世已ニ定評アリ、今其閱歷ノ一端ヲ聞クヲ得加フルニ寸評ヲ以テシテ本篇トナス、君ハ愛媛縣ノ人ニシテ元治元年ヲ以テ生ル原姓山路氏明治四年出テ、佃十信ノ養子トナリ、其家名ヲ襲グ資性英敏ニシテ奇才アリ幼ニシテ學ヲ好ミ夙ニ普通學ヲ修ム、後奮然筴ヲ負ヒ東都ニ來リテ帝國法科大學ニ入校シ專バラ政治學ヲ研究シ益辛雪苦數年學成リ明治二十三年七月同科ヲ卒業シ法學士ノ稱號ヲ得タリ、次ヒテ官海ニ入り累進シテ大藏省參事官トナリ、爾來大藏大臣秘書官同書記官同參事官等ニ歷任シ、尙ホ神戸稅關長兼大阪稅關長ヲ勤務シ、三十四年七月更ニ陸軍省參事官ニ轉任ス、當時省内ノ俊秀トシテ重ク用ヒラレ要務ニ參與シテ獻策シタル事舉ケテ數フヘカラズ、偶々清廷ノ英傑北洋大臣袁世凱ガ財政顧問トシテ日本ノ精粹ヲ求メ來ルヤ、君選拔セラレテ其任ニ就キ天津ニ滞在シテ袁氏ノ偉業ヲ扶ケ計畫發案、清廷ヲ扶ケ以テ改革刷新シタルノ偉業ハ決シテ埋沒スヘカサルナリ、留任四年、功成リ業遂ケテ錦衣歸朝ノ光榮ヲ荷フ、已ニシテ日本實業ノ振起ハ興業銀行ノ設立ヲ要求シ、三十五年三月ヲ以テ創立ヲ見ルニ至ル、君歸朝後選ハレテ副總裁トナル爾來專心行務ヲ進捗セシメ以テ今日ニ至ル、此間幾多財界ノ變亂ニ處シ添田總裁ト共ニ克ク時勢ニ適スルノ措置ヲ執ル、吾人曩ニ興銀重役二三ニ就テ所論セル如ク、添田總裁以下悉ク當代ノ銳銳ヲテ實力ノ發揮ニカメ情弊ナク悶累ナク現今實業界ノ一奇觀ヲナス、之レヲ總括スル君ノ任亦決シテ輕カラサルナリ、人格識見亦以テ想像スルニ足ラスヤ、希クハ日本財界ノ爲ニ加養アラシム事ヲ。

電話新橋 二千七百八十一番

齊 藤 二 郎 氏

宮城縣郡部選出衆議院議員

芝區愛宕下町二丁目十四番地

堂々能ク快辯ヲ振ツテ議場ニ鳴リ、諸衆ヲシテ仰望セシムル所謂才氣英邁ニシテ傑風美質ノ議論家タルハ之レ即チ齊處二郎氏ナリ。

君ハ明治元年十一月磐城國刈田郡白石町ニ生ル、早ク普通ノ學ヲ卒ヘテ英吉利法律學校ニ於テ法律學ヲ專攻シテ業大ニ進ミ後チ辯護士トナリテ民間訴訟ノ事ニ携ハル、大凡一事一業ヲ學ビテ其堂奥ニ上リ敏腕俊才ト仰ガル、事豈容易ノ業ナラムヤ、君ハ行クモ之レ義ノ爲メナリ、留マルモ亦義ノタメナリ、渾身皆之レ義豈ニ感ズ可シトセザランヤ、又求メテ名ヲ成スノ人ニアラズ、名ヲ買フノ人ニモアラズ即チ自主自由以テ確固タル自信ト自重ヲ以テ天職ヲ完フスルノ人ニシテ敢テ多望ヲ求ムルニアラザルモ自然衆望ハ君ニ歸シテ大事ヲ托スルノ功ナルヲ知ルニ至ル、當今三百代議中君ノ如クヨク民望ヲ負ヒテ衆議院議員ノ榮冠求メスシテ頭上ニ降ルモノ幾人カアル、蓋シ曉天ノ星トハ實ニ斯クノ如キヲ評スルノ語ナルヲ君ニ於テ初メテ首肯スルヲ得タリ、曾テ韓國法部補佐官、遞信大臣秘書官等ニ任セラレ些ノ間失スルトコロナク熱誠以テ新進ノ快膺ヲ濫ギ盡シテ事蹟費スベキモノ多キヲ知ル、又破産管理人トナリテハ宜敷其本分ヲ全フシタルモノナリ、明治四十壹年第十回總選舉ニ際シ宮城縣郡部ヨリ舉ケラレテ衆議院議員トナリ立憲政友會ニ屬ス、君ノ前途又多望ナリトイフベシ。

電話芝 八百〇番

谷崎久兵衛氏

實業家

日本橋區蠣殼町一ノ二

(二六〇)

日本橋區ノ中樞、昔語りニ由緒アル鏡橋ヲ挾ミ、北ニ米穀商ニ株式、熱鬧場裏ノ商戦ハ、寔ニ天下ノ一偉觀ナリ、茲ニ米屋町有數ノ古暖廉トシテ、聲望隆平トシテ斯界ニ聳動シ、一舉一動衆目ノ注視ヲ値シツ、アルモノハ山十商店ナリ、コレガ經營ノ任ニ當ルモノ即チ谷崎君ナリ、乞フ妙シク其歴ヲ語ラシメヨ。君ハ江戸ノ生レニシテ時ハ安政三年七月二十日ナリ、實父ハ江澤馬之助氏ト呼ビ君其二男ナリ、後故アツテ谷崎家ヲ繼グ、明治十一年三月、蠣殼町ノ米商會所仲買人免許ヲ受ケ、號シテ山十商店トナス、爾來幾多ノ變亂ニ處シテ手腕ヲ發揮シ、早クモ斯界ノ名物ヲ以テ目セラル、尙同取引所ハ、種々ノ進歩ニヨツテ、明治十六年東京米商會所トナリ、全二十年東京米穀取引所ト稱ヲ變ジ、變轉刻時モ休止スル時ナク、同業者ノ多數ハ、或ハ倒レ、或ハ削ムル事。極リナキ波瀾ニ左右セラレシモ、單リ君ニ於テハ然ラズ、榮枯盛衰場ニ超然トシテ愈々其店務ヲ擴張シ、未タ嘗テ其暖廉ニ傷キタルヲ聞カサルナリ、十九年仲買常置委員ニ選任セラレ、忠實ヲ以テ市場ノ發展ニ盡瘁シ、同地ノ爲ニ盡シタル貢獻頗ル大ナル者タリキ、爾來衆望君ニ歸シ、仲買委員トナリ、仲買委員長トナル誠意ノ奔走皆人ノ知ル處ナルヲ以テ敢テ吾人ノ喋々ヲ要セサルナリ、尙推サレテ東京商業會議所議員トシテ市實業界ノ爲ニ致シ、多年一日毫モ變渝スル處ナシ、願ミテ其營業狀態ヲ觀察スレバ、鏡北第一ノ老舖ハ元ヨリ、營業成績常ニ首班ニアリ亦以テ一般ヲ窺フニ足ラズヤ。

君爲人謙約謹篤、人呼ンデ米屋町ノ長者トナス、寔ニ得易スカラサルノ人材ニシテ、店員ノ如キモ其董化ヲ受ケテ孜孜汲々タリ、然リ山十ノ暖廉ハ、長ヘニ脈カニ而シテ振フハ必然ナリ、記シテ隆昌ヲ祝福セン哉。

電話浪花 一千九百番

全 六百五十九番

白石元治郎氏

實業家

麻布區廣尾町三十三番地

西歐ノ俚諺ニ曰ク、家庭ハ主人ノ反映ナリト然リ家庭ニシテ春風花園ノ如ク、シカモ琴瑟相和シテ暖カナルニ於テハ其主人ノ以テ濃厚ニシテ理想的紳士タルハ疑フベカラザルナリ、吾人ハ冒頭ノ意味ニ於テ君ノ閱歷ヲ草センニ。

抑モ君ハ福嶋縣西白河郡釜子村ノ人前山彌九郎氏ノ男ニシテ、慶應三年七月廿一日ヲ以テ生ル、夙ニ普通學ヲ修メ、更ニ帝都ノ游子トナリ進ンデ帝國大學法科ニ入り、明治廿五年七月業完ク卒ハリテ法學士ノ稱號ヲ受ク、尋デ淺野商會ニ入ル當時早クモ君ノ才能ハ主腦者淺野總一郎氏ノ認識スル處トナリ入りテ其養嗣タリ、偶々東洋汽船會社ノ創立セラル、ヤ、君擧ゲラレテ其支配人トナリ、其計籌遂ニ社運ヲシテ益々隆昌ナラシムルニ至レリ、明治卅一年社命ヲ以テ歐洲ニ航シ、親シク彼土ノ航業ヲ視察シテ歸朝スルヤ專ラ同社ノ發展ニ改革ヲ斷行セシノミナラズ本邦海運界ニ努力貢獻シタルモノ尠ナカラズ、君由來我國海運界ノ萎微ヲ慨シ、前年日露戰役媾和ヲ締結セラル、ヤ直ニ年來ノ抱負ヲ實現シテ直ニ南米航路ヲ創始シ親シク彼土ヲ視察シテ通商移民ヲ獎勵セリ、尋デ淺野ノ意ヲ得テ汽船天洋地洋ヲ新造シ、再ビ渡航シテ基礎ノ樹立ニ努メタリ、サレド前年來世界海運業ノ悲境ハ頗ル劇甚ナルモノニシテ、君ノ經營亦其餘末ヲ蒙リ支障續出一大頓挫ヲ與ヘラレタリト雖モ、前年組織ヲ變更シテ同社常務取締役トナリ、其劃策空シカラズ遂ニ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ、君亦曩キニ同志ヲ叫合シテ南米研究團ヲ組織シ邦國ノ爲メニ奔走劃策スル處大ナリ。

君資性敦厚極メテ慈善ノ志深ク、温謙自ラ眉目ノ間ニ存シ所謂洋行歸リノ「ハイカラ」臭味ノ如キハ一點モ止メザル處蓋シ其美性ノ一面トシテ敬服スルニ足ル、殊ニ後進扶掖ニ對シテ忠實ナルハ當世稀ニ見ル處ナリ、尙君ハ其趣味ノ多方面ナルガ如ク其事業モ多方面ニ亘ツテ傑出シツ、アリ。電話芝 一五四番

(二六一)

福井重治氏 實業家

本郷區駒込千駄木町一三

滔々タル實業界中、炯眼達識ノ士雲ノ如ク、敏腕辣手ノ人林ノ如シ、然リト雖モ一度牙齦ヲ執ツテ商界ニ臨メバ、施設經營一々肯綮ニ當リ、斯界ノ偉材タルモノハ福井氏ナルカ。

君ハ明治十九年十二月廿日ヲ以テ本郷區駒込千駄木町五十番地ニ生ル、夙ニ學ヲ好メリ、早ク普通學ヲ卒業シ、志ス處アリテ藥學校ニ入ル、而シテ日夜勉勵專心ナク遂ニ腦病ヲ惹起スル所トナリ、素志ヲ果タサズ中途學ヲ廢ス、後チ漢醫新井氏ノ調劑員トナリタリ、當時新井氏製藥ヲ割スニ至リ患者治療ノ傍ラ諸種ノ製藥發明ニ腐心シ、大ニ資産ヲ傾ケタリ、如何トナレバ製藥ノ結果ヨロシカラズ殆ント藥種ノ廢物トナリテ用ユベカラサルニ至リタレバナリ、君亦此舉ヲ扶ケテ苦心經營シ、既ニ人類學ノ泰斗ヲ以テ稱セラル、『ギニーン』氏ノ發見ニ係ル、糖燐酸ノ製造ヲナスニ至ル、時ハ明治三十九年、其ヨリ百歲生合資會社ナルモノヲ創設シテ之レガ社長トナリ、一面製劑技師トナリテ普ク製藥ノ事ニ從ヒ、專念之レガ普及ト開發ニ努力シ、身心ヲ捧持シテ或ハ廣告ヲ利用シ、或ハ志士ヲ遊說シ以テ、其主旨ト効用ヲ明ニシ、今日ニ及ビテ社運隆々見ルベキモノ多シ、只管君ノ手腕ニ待ツ大ナルモノナリ、實ニ達見ノ士ニシテ敬服スベシ爲ニ社會ヲ利スル幾許ナルヤヲ知ラズ、眞ニ殖産興國ノ事業ト讚セサルベカラズ、茲ニ至ルノ間世ノ凡俗君ヲ評スルニ、善意ヲ用ヒズ、常ニ罵詈謗到ラサルナシ、君敢テ之レ等ノ事ニ介意セズ、益々勉勵發奮ノ功顯ハレテ今日ニ於テハ全國到ル處ア藥店ニ糖燐酸ノ看板ヲ見ルナリ、依ツテ其需用者如何ニ多キカモ亦窺フニ難カラズトス、君少壯實業家トシテ如上ノ成功到底常人ノ企及スル所ニアラズ、加フルニ材識非凡未ダ春秋ニ富ム、益々其獨特ノ手腕斯界ニ振フテ異彩ヲ放ツベキノ士タルヤ信ジテ疑ハズ。君資性温厚篤實、頗ル慈善ノ志ニ富ミ、貧窮ヲ賑ハシ、公共ノ爲ニ私利ヲ顧ミズト、以テ人格ヤ知ルヲ得ベシ。

電話下谷 二千五百三十一番

一柳友次郎氏 實業家

芝公園六號地ノ三

艱難ハ幸福ノ母ナリ彼ノ梅花ノ清香馥郁嬋妍其ノ美ヲ縱マニスルモ先ヅ嚴寒ニ遭ヒ凜冽ノ朔風ヲ凌ガザルベカラズ凡ソ人ニ於ケル亦此ノ如シ、苟モ事ヲ成スモノ先ヅ辛苦ヲ經テ泰然之レニ當ルニアラズンハ焉、ゾ、其成功ノ彼岸ニ達スルコトヲ得ンヤ、君ハ萬延元年十二月ヲ以テ但馬國出石町ニ生ル、父ヲ彌五作ト稱シ出石藩ノ重臣タリ、君幼ニシテ鄉賢ニ學ビ明治九年上京シテ普通學ヲ修ム同十一年石川縣廳ノ會計吏ヲ奉ジ、十六年富山縣廳ノ創設ニ關シ該地ニ轉任セリ、十八年十二月遞信省ノ設ケラル、ニ及ビ同省屬トナリ同二十年ニ至リ同省會計局檢査課長ニ昇進シ、二十一年香川縣ノ創立セラル、ニ及ビ同廳屬ニ轉ジ、同年同廳會計課長ヲ命ゼラレ、廿三年更ニ兵庫縣屬トナリ會計課長タリ、廿五年再ビ遞信省屬トナリ、翌廿六年北海道廳屬ニ轉任シ財務部歳出課長ニ補セラル、同廿七年依願免官トナリ爾來全ク官海ヲ脱シ同年十二月北海道炭鑛鐵道株式會社ニ入り支配人取扱ト爲リ、三十一年倉庫係長ニ命ゼラレ、三十五年會計課長ニ轉ジ同年東京支店重役附トナリ、翌三十六年庶務係長ニ任ジ、三十七年計算檢査事務主任ト爲リシガ同年十月思フ所アリテ退社シ三十八年二月更ニ東洋護謨會社事務長ト爲リタルガ卅九年八月主唱シテ東奔西走シ茲ニ日本電線株式會社設立セラル、ヤ其專務取締役トシテ困難ナル創業ヲ終リ、前年十二月辭シテ閑地ニアリ、雲ヲ呼ビ龍ヲ起スノ日果シテ何レニカアル、肚裏三寸ノ計籌今何物ヲ指シツ、アルカ、創業的天才バ、決シテ永ク君ヲ閑地ニ置クモノニアラズ、例ヘハ夫レ山雨到ラント欲シテ風樓ニ滿ツノ氣運カ、願ミテ私生涯ヲ窺ヘハ、辣潑タル實業的手腕ニ比シテ温厚閑雅義ニ富ミ情ニ厚キ圓滿ノ好紳士ナリ、希クハ捲土重來一段ノ奮闘アラン事ヲ。

電話芝 七百十五番

川竹駒吉氏

實業家

日本橋區兜町六番地

山栗商店ノ主人公、コレ鏡南屈指ノ快男兒ニシテ其一投手足ハ、斯界ノ「バロメートル」トシテ注目ヲ值ス
 電光石火端睨スベカラサル活動ハ、時ニ雲ヲ起シ雨ヲ喚ブ、其參謀官トシテ帷幕ノ功ヲ奏シツ、アルハ即
 チ君ナリ、君ハ海南土佐ノ産ナリ、由來土佐人士ノ面目ハ意志剛健ナルニアリ、而シテ奮闘的ニ才華ヲ發
 スルニアリ、進莫、明治憲政ノ萌芽、自由ノ聲ハ茲ニ擧ケラレタリキ、君亦茲ニ人トナル、渺ナクトモ此
 型ヲ脱スル能ハサルナリ、然リ定ニ君ハ國士的態度ヲ具備ス、少壯出デ、東都ノ人トナリ、舊知ヲ頼ツ
 テ其處ニ寄寓ス、當時ノ交友悉クコレ慷慨悲歌ノ士、自由ヲ論シ民權ヲ説ク、君亦青年志士トシテ東奔
 西走スル處アリ、忽チニシテ彼ノ保安條令ニ觸レ。帝都ヲ撤退セサルベカラサルニ至レリ、即チ去ツテ
 神奈川ニ赴キ、次テ横濱ニ走ル、當時同縣警察署長タリシ田健次郎氏ニ身ヲ寄セ、假面ヲ被ツテ同縣廳
 雇トナル、此頃大ニ感ズル處アリ、專ラ修養ニ意ヲ用ヒ、歐米先輩ノ著書ヲ涉獵シ、頗ル人格ノ鍛冶ニ
 資スル處アリ、サリ乍ラ、醇勃タル野心ト、熱烈ナル主張ハ、腰ヲ屈シテ安官吏ニ甘ニスル能ハズ、更
 ニ上京シテ心機一轉實業ニ志シ、先ヅ東京倉庫ニ入ツテ辛辣ノ手腕ヲ恣ニシ、次デ二三ノ商會社ニ入
 リ、大ニ其才幹ヲ發揮ス、手腕ノ非凡ハ栗生氏ノ認容スル處トナリ、招致セラレテ同氏ノ株式部ニ入
 ル、爾來年ト共ニ其經驗ヲ増進シ斯界ノ機微ヲ捕捉シテ之ヲ消化シ、君獨得ノ英材ヲ須ヒテ同所理事トナ
 リ、常ニ樞機ニ參與シテ山栗ノ名ヲナサシム、サレド赫々タル表面ノ功績ニ憧憬セズシテ、自重ノ態度
 フ以テ臨ミツ、アルハ亦他輩ノ擬スベカラザルモノアリ。
 君資性豪猛、而カモ尙綿密ノ經營ヲ取テスル處海南男兒特有ノ長所アリ、亦以テ一種ノ敏腕家ナリトセ
 ズヤ。

電話浪花 十三番 全 五百十七番

北田彦三郎氏

保險學家

神田區新小川町二ノ一

保險學家ノ少壯家北田君ノ閱歷ヲ概記シテ聊カ後進子弟ノ興奮資料ニ供セント欲ス。君ハ千葉縣山武郡
 太平村ノ素封家北田權三郎氏ノ長男、明治十年七月ヲ以テ生ル、家代々豪家ヲ以テ近郷ニ聞ユ、幼ニシテ
 學ニ志シ夙ニ成田英漢義塾ニ入り業卒ハルヤ尋テ東都ノ游子トナリ直ニ東京府立尋常中學校ニ入ル、卒
 業スルヤ進デ第一高等學校ノ競争試験ニ應ジテ合格ス在學三年首席ヲ以テ業卒ハル、更ニ進ンデ帝國大
 學法科ニ入ル、當時君本邦保險業ノ發達セザルヲ深ク慨シ意ヲ茲ニ注ギ普ク西歐專門書ニ就テ研究ノ功
 ヲ積ミ遂ニ明治卅七年七月全科ヲ終ヘテ法學士ノ稱號ヲ受ク、尋テ直ニ東京海上保險株式會社ニ入ル居
 ル事二年同社ノ經營方針ニ參訓シ功績抄ナカラザリシトイフ、卅九年遂ニ大志ヲ抱イテ斯學ノ根源獨逸
 ニ航シ同國「ゲチンゲン」大學ニ入り研究些ノ怠リナシ、後更ニ斯學ノ泰斗「エーレンベルヒ、レキシス」兩
 師ノ監督ニ係ハル「ゼミナール」ニ入りテ愈々斯學ノ蘊奧ヲ究メ、其頭腦ノ秀拔ナル如上諸教授ヲシテ驚
 嘆セシメタリト已ニシテ兩博士ノ推薦ニヨリ獨文ヲ以テ委付ニ干シ和洋國法ノ怪偉ヲ以テ比較評論ノ論
 文ヲ起草シ「ライプチツヒ」市ニ於テ出版シ斯道大家ノ賞讃ヲ博セシノミナラズ且「ライプチツヒ」ノ保險
 雜誌及ビ伯林ノ獨逸保險同盟雜誌ハ其論文ノ梗概ヲ轉載シテ批評精細ヲ極メ其論旨綿密ニシテ引證誘博
 ナルニ畏服シ種々ノ贊辭ヲ以テ君ヲ喧傳スルニ至ル、後「ハンブルヒ」保險同盟事務所ニ入り保險組織ノ
 研究ニ從事ス、此間屢々彼土ノ碩學ト交ヲ結ビ都度所説ヲ發表シテ賞贊セラレ遂ニ第一流ノ保險學者ヲ
 以テ推サル、ニ至ル、明治四十一年汎ク各國保險制度及其實情ヲ視察セント志シ先ヅ丁抹ニ入ル、次デ
 露、埃、伊、瑞、匈等ニ遊ビ專門大家ニ接シ更ニ一段ノ識見ヲ高フス「後倫敦ニ入り」ロイドコーボレーショ
 ン」ニ入り實務ヲ研鑽スル事半歲遂ニ昨四十二年歸朝スルニ至レリ、定ニ君ノ如キハ現代斯學ノ篤學者ト
 シテ、世ト共ニ其將來ノ大成ヲ囑スルニ足レルヲ信ズ。

電話本局 一千〇〇八番

中村雄次郎氏

男爵陸軍中將、製鐵所長官、貴族院議員

四ツ谷區仲町
三ノ二八

技光製鐵所長官トシテ多年帝國軍事上ニ貢獻シ、至誠一貫邦家ノ爲メニ盡瘁シツ、ツルハ君ナリ、茲ニ一片感謝ノ意ヲ以テ其官歴ヲ概記セントス、君ハ元三重縣ノ人、嘉永五年二月ヲ以テ生ル、夙ニ身ヲ軍籍ニ投ジ、明治七年陸軍中尉ニ任セラレ爾來累進シテ現官ニ至ル、試ニ其職蹟ヲ窺ヘハ、初メ大坂鎮臺砲兵第七大隊附トナリ以來、第四軍管區徵兵副使タル事二回、次テ同砲兵第四大隊第二小隊、同豫備砲兵第二大隊附同大隊、第一小隊及第二小隊豫備隊長心得、砲兵支隊附、同火工所鑄工所、大坂砲兵工廠製砲所兼同廠製彈所等各監勤、士官學校教官(兼官)東部檢閱監軍部長屬員、砲兵學教官、陸軍大學校教授心得、參謀本部海防局御用係兼務、中部檢閱監軍部長屬員、陸軍大學校教授兼士官學校砲兵教官、東部檢閱使屬員兼砲兵會議議案掛、士官學校御用兼務、參謀本部陸軍部第二局課員、砲兵會議々員、參謀本部陸軍部第一局課長、陸軍大學御用掛兼勤、軍務局砲兵事務課長、參謀本部御用掛、砲兵會議事務官砲兵第一方面提理、砲兵會議御用掛兼勤、東京兵砲工廠御用掛兼務、製鐵事務取調、軍務局第一軍事課長、兼砲兵會議々長、士官學校長、陸軍次官、陸軍省軍務局長、兼臨時廣島軍用水道布設部長、鐵道會議々員兼理事、陸軍省法官部長、陸軍總務長官、同法務局長、同軍務局長ニ歷任ス、三十五年製鐵所ノ創始セラル、ヤ、任セラレテ長官トナリ、爾來引續イテ今日ニ至ル、此間各種ノ委員長及委員トナリ、外ニ山縣陸軍中將歐洲各國巡回ニ際シテ隨行員トナリ、又御用有之清國へ差遣仰付ラル、三十七年貴族院議員ニ勅任セラル、今ヤ正四位勳一等功四級ノ榮ヲ享ケ、特ニ華族ニ列セラレテ男爵ヲ賜ル、寔ニ當代武官中、稀有ノ人材ニシテ其勳功亦日本陸軍史ト離ルベカラサル關係アリ、加之人格高潔、超然トシテ群ヲ拔クニ至ツテハ、吾人亦襟ヲ正フセサルヲ得サルナリ。

電話番号 二千〇七十八番

串田萬藏氏

實業家

芝區西久保明舟町十七番地

「堅實」コレ三菱ノ、代名詞ナリ、動モスレバ、消極ノ觀アリト雖モ、彼ノ虛業一派ノ夫レト異ナリ、牢トシテ拔クベカラザルハ三菱ノ經營ナリ、一長一短直ニ其半面ヲ見テ早計ノ評ヲ加フルハ事實ヲ没却スルノ恐アリ、三菱式經營ノ代表タル銀行部ノ事業ハ果シテ就テ全般ニ學フベキ者カ、コレ抄シク解答ニ苦ム處ナリト雖モ、豊富ナル資本金ヲ擁ストハ云へ、堅實ナル點ニ於テハ學バサルベカラサル處ニシテ、同時ニ何人モ否定シ能ハサル處ナラン、同行副部長トシテ多年其難衝ニ當リ、三菱系ノ少壯家トシテ定評アルモノ亦何等カノ長スル者ナクンバアラサルナリ、即チ他ナシ、人格ト而シテ手腕コレナリ、願フニ同行豊川部長ノ外交的任務ヲシテ常ニ遺憾ナク發揮セシメツ、アル者、君ノ在ルアツテ内顧ノ憂ナカラシメツ、アル所以ナリ、即チ同行ノ熾盛ハ、辣潑タル豊川氏ノ活動ハ、堅實ナル君ノ計劃ト、富豪岩崎ノ信望相渾和シテ現實シ、以テ一體ヲナシツ、アルニ因ラサルカ、傳ニ曰ク、君ハ先代孫三郎氏ノ男ニシテ、慶應三年二月十日ヲ以テ生ルト、學卒ツテ直ニ合資會社三菱銀行ニ入り、爾來漸進的ニ其手腕ヲ發揮シテ前部副部長ニ進ム、其貢獻シタル偉績ニ至ツテハ、多ク功ヲ先輩ニ歸シ、淡如トシテ自己ハ與ラサルガ如キモ、已ニ業ニ世論ノ定評アリ、中央實業界ノ少壯家トシテ當代流行兒ノ一員ナリト稱セラル、者、亦以テ故ナキニ非ルナリ。

電話新橋 七百三十三番

永江純一氏

福岡縣郡部選出衆議院議員

君ハ嘉永六年二月ヲ以テ福岡縣三池郡江浦村ニ生ル、夙ニ和漢學ヲ修メ造詣頗ル深カリキ、後長ズルニ及ビ早クモ政界ニ身ヲ投シ青年志士ヲ以テ嚆望セラレ先ヅ郡會議員、郡參事會員トナリ尋テ縣會議員タリ此間縣下ノ治水、産業、土木等ニ盡力シ貢獻スル處亦大ナリ、明治卅一年縣下第六區ヨリ推サレテ衆議院議員タリ、全年議會解散セラレ、改選ニ際シ再ビ當選ノ光榮ヲ負フ、爾來數年感ズル處アツテ政海ノ人タラザリシガ、遂ニ一昨四十一年來第十回總選舉ニ際シ逐鹿場裡ニ出デ當選ノ光榮ヲ荷フニ至レリ、尙君ハ繁劇ノ餘力ヲ提グ實業方面ニ其勢力ヲ恣ニシツ、アリ、今其主ナルモノヲ摘記スレバ曰ク株式會社三池銀行頭取曰ク三池土木株式會社取締役ニシテ九州北部ニ棟腕ヲ揮ヒツ、アリ。

由來九州男兒ノ面目ハ、大膽ニシテ細心ナルニアリ、然リ放膽ノ如クニシテシカモ綿密、豪磊ノ半面アルト共ニ小心ノ半面アリ、斯クシテ併ビ進ンテ完全ナルモノ克ク名ヲナス、君ノ如キハ其實例トシテ掲クルニ足ル、之レヲ實業ニ、之レヲ政治ニ、一貫セル此氣アツテ能ク進歩ス、亦以テ立憲政友會九州團員中ノ一異材ナリ。

望月右内氏

和歌山縣郡部選出議員

芝公園五號地ノ二

政友會ノ重鎮トシテ又能辯家トシテ其ノ名望宇内ニ噴々タルノ氏ハ安政五年和歌山縣下ニ生ス、幼ニシテ聰明伶俐ヲ以テ聞コニ、長ズルニ從ヒ磊落ヲ以テ人皆ナ之ヲ傳フ然リ氏ハ磊々落落々タリ、然レドモ之レ一ノ表貌ニ過ギズ、氏ハ常ニ老ヲ輔ケ幼ヲ愛シ、慈悲心ニ富饒セリ、即チ或ハ慈善事業ニ、或ハ貧者ノ教育費ニ資金ヲ投ズルコト茲ニ數次、衆望漸ク重ナリ舉ケラレテ和歌山縣會議員トナリ累進一躍シテ同會議長ニ推サル、茲ニ於テカ氏ガ多年ノ宿望ヲ達スベキノ一階段トナリ粉骨碎身以テ縣會ヲ安全ニ維持シ良ク其ノ責ヲ致セリ、議長ノ席ヲ他人ニ讓ルヤ人氏ヲ舉ゲテ衆議院議員タラシム即チ直ニ立憲政友會ニ入會シ敏腕ヲ振イテ其ノ衝ニ當リ一たび擅上ニ立ツヤ滔々數萬言、恰モ瀧水ノ如ク、爲メニ人ヲシテ顔色ナカラシメ一意専心其ノ職ヲ全フシ世人ノ嚆望益々厚ク已ニ六回ノ當選ヲ得タルヲ見ルモ其ノ一般ヲ知悉スル又難キニアラザルベシ、氏嘗テ想フラク東洋ノ一獨立國否世界ノ一大富強國タラント欲セバ須ラク交通機關ノ完備ヲ俟タザル可カラザルナリトシ、切ニ知已名士ヲ説キテ全國鐵道同志會ヲ組織シ自ラ其ノ會頭トナリ鐵道ノ敷設ニ關シ大ニ盡粹スルトコロアリタリ、今ヤ氏ノ庇蔭ニヨリテ寒鄉僻地到ル處鐵道ノ敷設到ラザルナキニ到リ尙ホ進ンデ商工農ノ發展日ニ月ニ隆盛トナリ、世界第一等列強國ノ列ニ加ハルヲ得ルニ到レルハ實ニ氏ノ貢獻スル處、大ナリト言フ可シ。

氏ハ現ニ東京電燈株式會社總支配人ヲ勤メ市民ノ爲メニハ良ク其ノ職ヲ盡シテ毫モ過誤ナカラシメ、會社ニ對シテハ氏ガ明晰ナル頭腦ト不撓不屈果斷力ニ盡カナル精神ト俱ニ如何ナル難問題ヲモ解決シ爲メニ益々隆盛ニ趣ケリ一ニ之レ氏ノ在ルヲ以テナリ、嗚呼實ニ氏ハ現代ノ一偉人タリト稱スルヲ得ン乎。

電話芝 二千〇六十一番

田村利七氏

實業家

神田區駿河臺北甲賀町八番地

新日本ノ興隆ハ之レヲ實業ニ待タザルベカラズ、乃チ冒頭ノ意味ニ於テ、本邦紡績界ニ先覺者トシテ幾多ノ改良發展ヲ遂行シ、貢獻セラレタル處尠ナカラザル、君ノ閱歴ヲ草シテ聊カ後進輩ノ、興奮資料ニ供セント欲スル所以ナリ。

聞ク君ハ江戸ノ人、嘉永元年三月ヲ以テ深川區仲町ニ生ル、先代宮崎義右衛門氏ノ男ナリ、家代々酒商ヲ營ム、中年三野村利左衛門氏ニ養ハレ、後年姓ヲ田村ト改ム、年十三ニシテ金座附、『ヨシヤ』兩替店ニ入り、後チ三井御用所ニ入ル、當時横濱支店ニ改革ノ舉アリ、君此局ニ當リ鋭才克ク解決ノ實ヲ舉グ、明治九年三井御用所組織ヲ革メテ三井銀行トナルヤ、君選バレテ横濱支店長トナル、由來君紡績界ニ着眼シ種々調査スル處アリ、茲ニ於テカ當時ノ猛省ヲ促サント欲シ、時ノ大藏卿ニ建白スル處アリ、時恰モ松方侯ノ恭西紡績事業ヲ視察シテ歸ルアリ、次デ斯業ヲ獎勵セント計リ官費ヲ以テ機械ヲ講入シ汎ク民間ニ貸與シテ十數ヶ所ニ開設セシム、君大ニ察シ期スル處アツテ其職ヲ辞シ直ニ、同志數名ヲ提携シテ現所（深川區東大工町四十番地）ニ資本金廿五萬圓ヲ以テ東京紡績株式會社ヲ創立ス、時明治十九年ニシテ實ニ本邦斯業會社ノ嚆矢ナリトス、爾來努力奮勵席温マルノ時ナク、幾多ノ困苦ト戰ツテ遂ニ輓近ノ盛況ニ至ラシメシナリ、前年淺草橋場ニ一大支工場ヲ開設シ規模全ク完備ス、明治卅六年秋、南清視察ノ途ニ上リ上海、漢江、武昌等ヲ歴遊シテ親シク彼土ノ紡績事業ヲ視察シテ歸朝ス、今ヤ資本總額四百八十萬圓ノ大組織トナシ、頃日ノ盛況定ニ見ルベキアリ。

君資性仁慈ノ美質アリ、曾テ幾多ノ逆境者ヲ救済セシ事一々枚舉ニ遑アラザルナリ、亦有栖川宮家ノ希望ニ應ジ、麻布盛岡町ノ地二萬數千坪ヲ賣上タル如キハ當代ノ美舉ナルカナ。

電話本局 二百〇二番

長谷川茂吉氏

實業家

青森縣青森市馬喰町

夫レ潜龍ハ池中ノモノニアラズ雛鵬豈天ニ搏ツナクシテ止マランヤ、サレバ動中ノ靜々中ノ動哲人ニアラズンバ其機ヲ伺フ能ハズ、由來東北ノ野功名富貴ニ馳スル人ヲ得ザレドモ一度蹶起スレバ即チ回天動地ノ業ヲナス難キニアラズ、好シ世人ノ望ミヲ充スニ足ラズトモ一人ノ清潔ヲ天下ニ露ハスニ餘リアリ蓋シ宛轉活脫俗ニ媚ビルノ策ニ於テ固ヨリ、西南ノ人士ニ及バサル遠シ、然レトモ靜默自謙ノ面抑モ潛勢力ヲ養フニアラザルナキヲ得ンヤ。

君ハ青森縣青森市ノ人、吳服太物商及古着商ヲ以テ業トス幼少學ヲ好ミ夙ニ和漢英ノ學ヲ修メ大ニ造詣スル所アリ、明治廿七年八月大坂、田中、宇野等ノ有志ト相謀リ青森市濱町ニ株式會社青森商業銀行ヲ創設シ之レカ取締役タリ、着實業務ノ發展ヲ謀リ、部員ヲ統督スル事其宜シキヲ得業務着々隆盛ノ好況ニ到來シ青森市在三十有餘ノ同業界中嶄然頭角ヲ顯ハシ堅實無比ト稱セラル、ニ至リシモノ蓋シ君ノ献身的精神努力ノ高價ヲ拂ヒタルニ外ナラザルナリ、尙同市商業會議所議員トシテ多年産業ノ發達ニ盡シタル功績亦大ナリ。

君資性温厚篤實人ニ接スルニ極メテ丁寧ノ態度ヲ以テス、然レトモ一旦事ニ當ルヤ熱心奔命、不言實行其途行ヲ見ズンバ止マズトイフ、乞フ自重加餐益々斯界ノ爲メ奮勵セラレントヲ。

佐藤和一郎氏

醫師

神田區東紺屋町四十八番地

醫師ノ劇烈ナル病毒ヲ胃シテ是ガ研究治療ニ從事スル哉戰場ノ間泰然トシテ彈丸雨中ノ中ヲ胃シ國ニ盡シタル其効蹟ト比スベキナリ。

君ハ東京府ノ人佐藤爲彦君ノ養子ニシテ明治五年三月廿二日ヲ以テ生ル天資温順誠直ニシテ幼少曾テ疎放ノ態ナク凜乎タル秀英ノ氣自ラ優美ノ間ヲ溢シ人ヲシテ愛着セシムルノ概アリ年漸ク長ズルニ及ンデ普通學ヲ修メ孜々錐股ノ苦學ヲ積ミ造詣スル處多シ、後醫學ノ尤モ必要ナルヲ感ジ之レニ依リテ其驥足ヲ伸ベント志シ、明治卅年十月濟生學舎ニ入校シ銳意研鑽餘念ナク在學スル事數年遂ニ全三十二年十月ニ至リ全科ヲ卒業シ、尋テ同年十一月ヨリ本郷湯島順天堂病院ノ醫學研究生トナリ實務的練習ニ服シ、卅三年四月同病院ヲ去リ尙專心一意斯學ヲ研磨シ其深奧ニ通ズ全卅四年十月終ニ內務省醫術開業試驗ニ應ジ優等ノ成績ヲ以テ及第シ、後卅五年二月ヨリ長野縣小縣郡中鹽田村ニ於テ醫術ヲ開業ス、時ニ五官ノ中最モ必用ナル眼科ノ大家比較的尠ナキヲ慨シ尙一層研究セント欲シ、同地ヲ去リテ同年十月ヨリ帝都神田區東紺屋町ニ開業シ旁ヲ河本醫學博士ニ就キ充分ニ研究ス、尙卅六年十月ヨリ翌年九月迄東京醫科大學眼科學選科生トナリ修業ノ證書ヲ受領ス偶マ日露ノ戰役起ル哉、卅八年二月君ハ豫備役見習醫官ヲ命セラレ、歩兵第三聯隊補充大隊ニ勤務シ、後東京豫備病院附キニ轉任シ、同年六月陸軍三等軍醫ニ任セラレ、同七月正八位ニ叙シ、同年十一月召集解除トナリ卅九年四月一日瑞寶章勳六等ニ叙セラレ、除隊後現住所ニ於テ依然醫術ヲ開業シ深遠ナル學理ヲ應用シ患者ニ接スル親切ニシテ其天職ヲ全フスルニ忠實ナリ。

電話本局 一千八百五十九番

今井彦四郎氏

實業家

芝區神明町二十五番地

禍福ハ糾ヘル繩ノ如シ、成敗ハ固是レ天ノ數、天運ノ消長人事ノ循環、豈夫レ限リアル人力ノ能ク制シ得ル處ナラムヤ、唯理ニ從ヒ義ニ斷ジ、信ズル處ヲ守ラバ人道即チ足ル亦以テ他ニ求ムル處世ノ一路ナシ、吾人此意味ノ敬意ヲ拂ツテ今井彦四郎君ヲ物色セント欲ス。

實業界ノ新進トシテ、其名聲ヲ喧傳セラル、ノ君ハ正ニ冒頭ノ一句ヲ處世ノ大方針トナシ、孜々乎トシテ業ニ安堵スルノ人ナリ、君ハ神奈川縣ノ人萬延元年十月一日ヲ以テ生ル、幼ニシテ伶俐、嚴格ナル先考ノ訓陶ヲ享受シテ人格修養ニ努ム、早クモ實業ニ志シテ其大要ニ通ズ、全業ノ多クハ片ニ戯ムレ花ニ浮カル、ノ時、節操嚴トシテ其誘惑ヲ排除シ具サニ商道ノ秘奧ヲ窺察ス、夙ニ株式會社帝國商業銀行ニ入り、副支配人トシテ全行ノ經營發展ニ參劃ス、悠揚迫ラザルノ商風ト君等主腦ノ人格トハ常ニ全行ノ信用ヲシテ一段ノ高キニ到ラシメタリ、其間幾多財界ノ亂調ニ際シ、著名ノ同業者ニシテ破産スルモノ比々タルノ時、君等主宰ノ銀行ノ堅實ナル事、不動盤石益々世人ヲシテ信ヲ置カシメタリ、今ヤ十年一日其高級幹部トシテ盡瘁シツ、アリ。

君資性仁俠、區内有力家トシテ公共事業ニカムルノミナラズ、廣ク世ノ弱者ニ同情シ、常ニ私財ヲ投ジテ之レニ盡ス、宣ナル哉實業界中且ツハ區内ノ名望家トシテ傳ヘラレタル事ヤ、彼ノ日露戰役ノ當時卒先シテ國民後援ノ實ヲ示シタル如キ蓋シ其一例ナリ、願クハ其主義ヲ狂グルナク、益々世ノタメニ奮闘セラレん事ヲ。

電話新橋 三千二百二十九番

三嶋 爾太郎氏

子爵 貴族院議員

府下豊多摩郡千駄ヶ谷
七百六十二番地

先考ハ明治令尹中ノ錚々トシテ知ラレ、當主ハ上院有數ノ辣腕家トシテ知ラル。

當家ハ本姓越智世々鹿兒嶋藩士タリ、先考正三位勳二等三嶋通庸氏ヨリ其家名ヲ揚グ、通庸通稱ヲ彌兵衛トイフ天保六年六月ヲ以テ生ル、明治四年東京府ニ出仕シ、次テ權參事ニ補セラレ、同五年從六位ニ叙シ、同七年酒田縣令ニ任ズ、時ニ縣下ノ人民暴動セルニ際シ之ヲ鎮撫ス、同八年五等判事ヲ兼任ス、次テ山形縣令ニ任ズ、同十六年栃木縣令ニ任シ正六位勳任官トナル、爾來下野佐野ヨリ上野桐生ニ通ルノ道路ヲ開拓ス、同十七年内務省三等出仕土木局長ヲ命ゼラル、翌年警視總監ニ任ジ同廿年地方ノ壯士上京シ三大事件ノ建白ヲナスヤ人心頗ブル恟々タリ、政府保安條例ヲ發布スルヤ通庸即夜ニ之ヲ實行シ壯士ヲ悉ク皇城三里以外ニ退去セシム、之ヨリ威名旭日昇天ノ觀アリ、同廿年特旨ヲ以テ華族ニ列シ子爵ヲ授ケラレ、翌年十月正三位勳二等ニ叙セラル是日病ヲ以テ薨ズ、陛下哀悼當ナラズ、侍從子爵堀河康隆ヲ遣ハシテ幣帛ヲ賜ヒ祭料三千圓ヲ下賜セラレ、亦皇后陛下ヨリモ金五百圓ヲ賜ハル、君ハ其男ニシテ慶應三年四月朔日ヲ以テ生ル、明治十七年米國ニ留學シ、同廿一年十月歸朝ス同月家督ヲ相續シ、同十二月北海道廳技師補トナリ、同廿二年再ビ米國ニ留學シ、同廿五年二月歸朝ス、同卅年七月貴族院議員ニ推薦セラレ、爾來連續シテ今日ニ至ル、此間第五回勸業博覽會評議員、博覽會開設臨時調查會員、南滿洲鐵道株式會社設立委員、正金銀行取締役、大日本農會副會長等ノ職ヲ帶ブ、尙研究會ノ補領トシテ敏腕辣手ハ世ノ定評ニ任ズ、政敵秋元子ヲシテ賞辭ヲ發セシメタルガ如キ亦以テ察スルニ餘アリ、今ヤ事實上研究會ノ操縦者トシテ一舉一動政治評論ノ材タラザルハナシ、君モ亦偉才ナル哉。

電話新橋 一千〇四十一番

米井源治郎氏

實業家

京橋區銀座二丁目拾二番地

敏活ナル手腕ト活達ナル奇才ト有シ兼ネテ堅忍不拔ノ精神ヲ備ヘタルモノニアラザレバ焉ヅ我國主都ノ商業界ニ起ツテ激烈ナル競争ニ打テ勝テ以テ自覺マシキ成巧ヲ遂ゲ得ンヤ、我米井君ノ如キハ慥カニ異數ノ手腕ト才能ト有シカネテ勤勉力行艱難ニ打テ得タルノ人ナリ吾人ハ茲ニ君カ小傳ヲ録シテ以テ後進子弟ノ範トナス。

君ハ岡山縣ノ人、米井仲平氏ノ二男ニシテ文久元年九月十六日ヲ以テ生ル、幼ニシテ穎悟活達頗ル豪放ニシテ小節ヲ省ミズ常ニ群童ト趣ヲ異ニス夙ニ和漢ノ學ヲ修メ造詣頗ル深シ、後笈ヲ負フテ東都ニ出デ慶應義塾ニ遊ビ時運ノ趨勢ヲ察シテ卒業後實業界ニ入り、京橋銀座街ニ米井商店ヲ開キ、直輸入商ヲ營ム爾來事務隆盛ニ赴キ現時其隆盛推シテ知ルベキノミ、是レヨリ先キ麒麟麥酒株式會社ノ創立ニ與リ盡瘁スルコト僅少ナラズ其成ルニ及ビ推サレテ常務取締役トナリ、兼ネテ合名會社明治屋ノ業務擔當社員トシテ尙ホ現職ニアリ、曾テハ合資會社明治護謨製造所ヲ設立シテ其代表社員トナリ業務ヲ主宰スルナド其他公共事業ニ盡瘁スル一々舉ゲテ數フルニ遑アラザルナリ。

君天性活潑果斷ニ富ミ一旦志ヲ立ツルヤ、勇往奮進シテ是レヲ決行セズンバ止マズ常ニ人ニ語ツテ曰ク成功ノ要ハ決斷ニアリト蓋シ實驗ヨリ出ヅル至言トイフベシ、此ノ意氣アリ今日ノ盛運偶然ナラザルヲ知ルベシ。

身長

電話 新橋 六百八十五番
番町 二千三百二十四番

宇佐川一正氏

東洋拓殖株式會社總裁、男爵

麹町車町十一番地

一國ノ安危存亡ノ係ルトコロ即チ我陸海軍備ノ消長ニ由ル、君ハ前者ニ身ヲ委ネ、天資敦厚度量寬裕名利ニ淡ナリ其陸軍ヲ治ムルヤ敢テ巧智ヲ弄セズ、才識ヲ術ハズ眞摯率直循々トシテ能ク人ヲ導ク故人ヲ望自ヲ集注ス而シテ機變ヲ見ルノ明軍ニ將タル器アルノミナラズ能ク言笑ノ間ニ人ヲ諷刺シ又難事ニ當リテ裁決溢ル、如シ、世ニハ彈丸雨中ヲ奔馳スル猛將アリ、又謀ヲ帷幕ノ裡ニ回ラシ勝ヲ千里ノ外ニ決スル名將アリ君ノ經歷ヲ窺フニ蓋シ兩者完備ノ實蹟アルヲ知ル、君ハ山口縣士族藤村太郎右衛門氏ノ四男ニシテ嘉永二年十一月十日ヲ以テ生レ、同縣士族宇佐川久平ノ養子トナリ年少ニシテ英敏俊才ノ聞エ高ク長ジテ益々其卓絶セルヲ見ル、雄志勃々トシテ善ク苦節ニ耐エ不撓不屈ノ膽略遂ニ君ヲシテ今日我陸軍部内ニ鉅鎡ヲ顯ハスノ一名將タラシメタリ、君ハ實ニ縱橫ノ機略ニ長ジ電光石火、苟モ機會ノ乘ズベキアラバ疾風迅雷ノ間巧ニ果斷決行シ其駢引ノ卓絶セルハ消息通ノ知ル處ニシテ此レ君ガ嶄然トシテ頭角ヲ顯ス所以ナランカ、能ク明治三年伏見教導隊へ入隊シ、全七年少尉ニ任ジ同十二年陸軍中尉ニ任セラレ、爾來身ヲ軍籍ニ列シ累進シテ三十九年七月陸軍中將ニ陞レリ、其間第一師團參謀近衛師團參謀第十師團參謀○長、軍務局軍事課長、步兵第二十旅團長ニ歷補セラレ、同三十五年現職ニ補セラル、君日清戰役ノ際第一軍參謀トシテ出征シ、翌二十八年功ニヨリ功四級金鵄勳章ヲ賜ヒ三十九年日露戰役ニ際シ軍務局長トシテ功アリ勳二等ニ叙シ功二級金鵄勳章ヲ賜ハリ特ニ華族ニ列シ男爵ヲ授ケラル、前年東洋拓殖會社設立ノ舉アルヤ、君其創立委員長トナリ、次テ總裁ニ推舉セラレ銳才辣腕良ク其重任ヲ全フシツ、アリ。

電話番号 二千四百〇三番

朝吹英二氏

實業家

京橋區木挽町九丁目三十三番地

文明ノ新思想未ダ東漸セズ、從ツテ人智未發ニシテ百般ノ事物悉ク舊套ヲ脱セザル鎖國始息ノ時代ニ於テハ、概テ農ヲ以テ國家經綸ノ大策トナセリ、然カモ一度泰西文化ノ風潮ニ浴シ、其光明燦トシテ吾國民ニ反影スルヤ、立國ノ大本茲ニ一轉シテ商工界ノ發達ヲ以テ國是トナスニ至レリ、蓋シ各國共ニ富國強兵ノ競爭時代、一國ノ盛衰ハ實業ノ消長ニ至大影響ヲ有スルヲ以テテリ、サレバ斯業ノ盛否ハ當局人士ノ才腕ニ俟ツ事多大ナル敢テ吾人ノ警言ヲ要セザル所、而シテ此ノ向上發展ヲ企劃スルノ上ニ於テ緊要必需ナル棟梁有爲ノ人材タリ、此感ヲ抱キテ特ニ吾人ハ之レヲ嚮望スルニ朝吹氏ヲ以テス、君ハ嘉永二年二月豊前國下毛郡下郷村ニ生ル、幼ニシテ群童ト戯テ異ニス、夙ニ實業界ニ志シ、年漸ク長シテ三田慶應義塾ニ學ビ造詣頗ル深ク、本邦ハ勿論海外ニ至ルモ三井家ヲ知ラサルモノナク又三井家ヲ知リテ亦朝吹君ヲ知ラサルモノナシ、今ヤ同家理事トシテ四天王ノ一人タルハ世既ニ定評アリ、三井家ノ今日ノ盛名元ヨリ基礎ノ強固ニアリト雖モ保守ヲ避ケテ他クマテ進取的ナルモノ蓋シ君等ノ功トシテ贊辭ヲ呈セサルベカラズ、中央實業界ノ明星トシテモ亦其德ヲ頌スルニ足ル、君實性温厚頗ル同情ニ富ム、殊ニ後進扶掖ニ對シテ忠實ナル俠氣豊カナル當世稀ニ見ル處ナリ、尙君ハ其趣味多方面ニシテ骨董ニ最モ嗜好ヲ有シ閑隙風月ヲ侶トス、以テ其人格優雅高尚窺知スルニ餘リアリ、實ニ君ノ如キハ現代實業界ノオツソワテイト稱スベキノ士ニシテ、其詳傳、逸話ノ如キ、操觚者ノ筆ニヨツテ細述セラレタルモノ汗牛充棟モ管ナラズ、吾人ハ特ニ之レヲ省略シ、氏ノ骨董鑑識ノ凡ナラサルト、大阪ノ遺臣石田三成ノ孤忠ヲ憐ミ、後世ノ阿諛的史家ニヨツテ誤ラレタル彼ニ同情シ、「稿本石田三成」ヲ編シテ地下ノ英雄ヲ吊ヒ、敢テ世ニ問ヒタルノ義氣ヲ德トス、希々ハ夫レ健在ナレ。

電話橋樑 三千六百六十八番

長嶋弘太郎氏

千葉縣郡部選出衆議院議員

東京市京橋區築地
三丁目十四番地

關東政友團中學識人格共ニ一頭地ヲ拔クモノコレ即チ君ナリ、今ハ籍ヲ政治界ニ置クモ優ニ學者トシテ獨立スルノ價值アリ、今ハ月旦ヲ休メテ概歴ヲ物セン哉。

君ハ明治元年四月安房國安房郡勝山町ニ生ル、夙ニ普通學及大學豫備教育ヲ卒ヘテ帝國大學法律科ニ入リテ卒業シ、司法省參事官試補ヲ命セラレ、又日本法律學校講師、和佛法律學校講師、明治法律學校講師、東京法學院講師、專修學校講師及日本法律學校幹事等トナル、其學殖深遠ニシテ最モ教育ニ長シタルコトハ以上列記セル諸法律學校ノ講師トシテ專ラ寢食ヲ忘レツ、アルニ徴シテ窺フベシ、又歐米各國ヲ歴遊シテ炯眼ヨク文明先進國ノ實狀ヲ觀察シ我ガ法曹界ニ貢獻シタル所鮮少ナラズ、君亦理想高遠、天資清廉潔白、世俗ノ評ヲ省ミズ確固拔クベカラサル主義ヲ以テ一代ヲ風靡セントスルモノ、何レノ點ヨリ見ルモ可ナラザルハナシ、呼君ノ如キ熱誠ノ政治家ニシテ始メ一方ニ雄視スルニ足ル、況ンヤ涓滴タモ名利ニ馳セサルニ於テヲヤ、今ヤ立憲政友會ニ屬シ、遂ニ昨明治四十壹年第十回總選舉ニ際シ中野ノ鹿君ノモノトナリ、衆議院議員トシテ民望ヲ負ヒテ政壇ニ立ツ、果シテ如何ノ活劇ヲ政界ノ舞臺ニ演スベキカ、吾人世ト階ニ鳴リヲ靜メテ謙望セントス、請フ君下院ニ於ケル老齡ト云ヒ難シ、尙春秋ニ富ムノ方ナラン、然ラハ益々邦家ノ爲靜養セラレテ健在ナラムコトヲ、君等ノ舉手投足ヤ直チニ國民利福ノ消長ニ負スルモノナレバ其責ヤ實ニ大ナリ、故ニ身心健全萬苦排除確信スル主義ノ主張ヲナシテ責ヲ負ハサルベカラス、之レヲ望マバ必ズ攝養怠ルベカラサレハナリ。

電話新橋 三千百三十三番

千坂高雅氏

貴族院議員

赤坂區青山町六丁目百十九番地

明治聖代突如トシテ新進人物ヲ供給シタルハ東北地方ナリ、君此地ノ先輩トシテ直接間接後進ヲ誘導シタルハ確カニ感謝スベキノ一事ナリ、君ハ舊米澤藩士ニシテ天保十二年正月廿九日其地城下ニ生ル、家代々藩ノ重臣トシテ威德併ビ行ハル幼ニシテ文武兩道ヲ研練シ其技共ニ同輩ヲ凌駕ス慶應元年十一月歲恰モ廿六ニシテ藩ノ奉行職トナリ幕末頻多ノ藩務ヲ處理シテ名聲アリ維新ノ際上洛シテ鳥羽伏見ノ役ニ參加ス尙早クモ勤王ノ大義ヲ唱道シテ先ヅ同藩ノ輿論ヲ一定シ更ニ各藩ニ遊説シテ光榮アル解決ヲ得ツシメタリ、明治三年十二月舊上杉藩主上杉義憲ヲ奉ジテ英國ニ留學シ同四年岩倉右大臣、木戸、大久保、伊藤ノ諸參議歐米ニ使命ヲ奉ジ米國ヲ經テ英國ニ來ルヤ國家ノ爲メ尾崎三良氏ト建議セシコトアリ大久保參議特ニ君ヲ招キ養蠶製絲ノ事ヲ尋問セラル、蓋シ米澤ハ鷹山公以來養蠶製絲業特ニ發達セルガ爲ナラシテ茲ニ於テカ命ヲ受テ伊太利及佛國ニ赴キテ製絲事業ヲ調査ス即チ本邦製絲界ニ一新紀元ヲ出シタル者其因全ク茲ニ存ス彼ノ富岡其他ノ製絲工場ノ起源モ亦此結果ニ起因スルモノナリ、同六年十二月期滿チテ母國ノ人トナルヤ其新進ノ造詣官途ニ迎ヘラレ内務書記官陸軍中佐警視等ノ諸官ニ歷任シ、累進シテ石川縣知事トナリ更ニ轉ジテ岡山縣知事ニ轉任シ、到ル處良二千石トシテ縣民ノ興望ニ副フ、同廿八年貴族院議員ニ勅選セラレ會テ錦鷄間祇候ヲ仰付ケラレ、前年精力ヲ削キテ實業ニ志シ横濱鐵道株式會社ノ取締役、横濱倉庫株式會社取締役會長、株式會社兩羽銀行取締役東京主任タリ、尙君半生ノ逸事トシテ洩ス能ハザルモノ決シテ渺カラズト雖モ彼ノ廿三年同志ト謀リ淀川治水ニ盡力シタルノ功ニヨリ、大坂、京都、滋賀各府縣ノ知事ヨリ感謝狀并ニ水利委員各町長五百餘名ノ感謝狀ヲ相添ヘ物品ヲ受ケタル如キ又岡山水災救濟ノ功ニ依リ同縣會ノ決議ヲ以テ感謝狀ヲ送ラレタルガ如キ是レナリ、現今正四位勳三等貴族院議員ヲ以テ朝廷ノ優遇スル所トナリ君ノ如キハ所謂世ニ廟食スベキモノカ。電話新橋一六〇〇番

高橋政右衛門氏

滋賀縣郡部選出衆議院議員

小石川區白山御前町六二

眞面目ト勇氣、コレ人生成功ノ秘訣ニシテシカモ人トシテ導奉セサルベカラザルノ大教訓ナリ、辭問ハ平凡ニ似タリト雖モ、事實ハ容易ノ事ニアラザルナリ、乞フ見ヨ古今ノ人傑ヲ、一人トシテ眞面目ナラザルハナク、一人トシテ勇氣ニ富マザルハナキニ非ズヤ、高橋代議士ノ如キハ、寔ニ這箇ノ適例トシテ世ニ示スニ足ルヲ信ズ、其實業界ニ投ズルヤ、敢テ何等ノ權謀ヲ試ムルナク、敢テ何等ノ術數ヲ施スナク、自己ノ信スル宇宙ノ大道ヲ直進シ、即チ眞面目ト勇氣ノ武器ヲ擁シテ運命ヲ開拓スルニ出テシノミ。其具體現ハ各種ノ事業ニ歴然トシテ顯ハル、必竟君ノ如キハ、當代後進ノ好範タルノミナラズ、紳士ノ好典タリト頌スルニ適スルヲ思フ、傳ニ曰ク、文久元年八月近江國愛知郡日枝村ニ生ルト、幼ニシテ和漢ノ學ヲ修メ早クモ選ハレテ村長トナリ、至誠ヲ以テ村政ノ改善ヲ計リ幾多ノ公共事業ニ盡瘁シ、滋賀縣會議員トシテ更ニ縣政ノ善美ニ向ツテ努力ヲ提供セリ、尙一面實業家トシテ縣下產物機織業ノ爲ニ發展策ヲ講ジ窮モ亦商賈トシテ連ニ販路ノ擴張ニ從事セリ、而シテ店舗ヲ小石川白山前町ニ置キ號シテ吉田屋ト稱シ、吳服一切ノ發賣ヲナシ、別ニ日本橋元濱町ニ風呂敷「ハンカチーフ」ノ商舖ヲ設ケテ織ニ業務ヲ營ミツ、アリ、前年選ハレテ東京織物問屋同業組合評議員、吳服太物同業組合幹事トシテ中央斯界ノ先覺ヲ以テ許サル、往年東京實業聯合會及關東州民政署ノ囑托ニヨリ滿州利源調査ノ爲メ該地ヲ視察ス、會々四十壹年第十回總選舉アルヤ郷里滋賀縣郡部ヨリ第一位ノ高點ヲ以テ衆議院議員ニ選舉セラレ、同志ト共ニ戊申俱樂部ヲ組織シテ實業黨ノ旗幟ヲシテ其色ヲ鮮明ナラシム、尙院內ニアツテハ決算委員ニ選舉セラレ、新選代議士中ノ一異彩ヲ以テ目シツ、アリ、如斯シテ君健在ナリ供問ス吾人冒頭ノ一句ソレ誤レルヤ否ヤ。

電話番号 五十二番

關 清 英 氏

貴族院議員

本郷區西片町十番地ノ十號

嘉永安政ノ交ハ、我國孤島隔絶ノ惰眠ヲ覺醒セラレタルノ時ナリ、爾來國事多端ニ泰西文明東漸ノ氣運將ニ臻ラントス、時シモ嘉永四年五月七日君ハ佐賀市赤松町ニ生ル、關廷翁氏ノ三男ニシテ實ニ有名ナル故勳王家關新平氏ノ令弟ナリ、幼ヨリ學ヲ好ミ夙ニ藩ノ講道館ニ學ビ、維新後長崎橫濱等ニ於テ外國語ヲ研修シ傍ラ法律學ヲ修メ造詣頗ル加ハル、明治九年出仕シ司法省十二等出仕トナリ、尋テ檢事補ニ任セラレ檢事ニ陞任シ、明治十年鹿兒嶋、廿六年仙臺、廿九年名古屋等ニ各地方裁判所ノ檢事正ニ就職シテ令聞アリ、明治三十年佐賀縣知事ニ任ジ、三十四年群馬縣知事ニ轉ジ全三十五年二月長野縣知事ニ轉ジ地方官中良能明達ノ聞ヘ高ク在職中郷里縣代議士トシテ選バレ後三十八年九月日露媾和談判決定ニ對スル國民大會ノ騷擾ヨリ、内務大臣警視總監共ニ引退シ内閣ノ進退谷マルノ危急アルニ瀕シテ桂總理大臣推薦シテ君ヲ警視總監ニ任ズ後桂内閣突然職ヲ辭スルニ及ビ更ラニ次内閣ニ繼續セシメントシタルドモ血誠ナル君ハ之ヲ屑トセズ強ヒテ辭職ナス後内閣ハ君ノ志ヲ壯トシテ更ラニ貴族院議員勅選ノ奏請ヲナシ其職ニ舉ケラレタルハ明治三十九年一月ナリキ自來今日ニ至ル迄繼續シテ其職ニアリ、明治四十年日露戰局ノ功ニ依リ勳二等ニ叙セラレ正四位ニ陞ル、尙特筆スルニ足ルノ事ハ、君ガ推サレテ愛國婦人會顧問トナリシハ明治四十年ニシテ當時同會内部ノ弊風病已ニ奮肯ニ入ルモノアリキ、即チ君ガ英斷ニヨリ幾多ノ情實幾多ノ迫害ト戰ツテ一大改革ヲ遂ケ、遂ニ今日ノ隆盛ニ至ラシメシ事實ナリ寔ニ君ノ如キハ一貫ノ至誠ヲ以テ邦家ノ爲メニ致スノ高士ニシテ當代滔々タル時流ヲ抜イテ超然タル處亦以テ敬スベキニアラズヤ。

電話下谷 二千七百六十七番

徳光好文氏

實業家

麹町區富士見町四丁目十一番地

偉ナルカナ、君ノ成功ヤ、世ノ業ヲ擧ケ名ヲ爲スモノヲ見ルニ多クハ初メヨリ一定ノ見識ヲ立テ千辛萬苦ヲ排シテ遂ニ其所企ノ目的ヲ達スルニ終ル蓋シ君ノ如ク屢々方面ニ轉ジテ然モ臨機應變ノ才ヲ揮ヒ同ジク成功者ト軌ヲ一ニスル如キハ甚ダ異數トスベキナリ、高位高官ヲ夢ミルナカレ、錦衣玉食ヲ夢ミル勿レ要職顯名ヲ夢ミル勿レ、然カモ遁世晦跡ヲ夢ミル勿レ、角袖ニシテ股引ヲ穿ツモ前垂ヲ下ゲテ雪駄ヲ穿モ犁鋤ヲ擔ヒテ野ニ立ツトモ要ハ殖産興業ヲ夢ミヨ、富國強兵ヲ夢ミヨ國家ニ犠牲タルヲ夢ミヨ、君ノ立志タルヤ誠ニ逆般ノ感應ニヨラズシテ何ゾヤ、噫後進ノ迷路ニ多大ノ光明ヲ與フルモノト云フベキナリ、君ハ大分縣士族徳光五郎左衛門ノ男ニシテ明治十三年七月十九日ヲ以テ生ル、年甫メテ十八陸軍騎兵ヲ志願シ爾後身ヲ軍籍ニ列ス同三十八年感ズル處アツテ日本大學高等專攻科ニ入り業ヲ卒ヘテ日本法律學士ノ稱號ヲ得後チ同三十九年初メテ身ヲ實業界ニ投ズ、即チ三井銀行ニ入り忠實勉勵ヲ聞ニ高カリキ然ルニ君ノ雄志ハ此一事務員タルノ職ニ甘スル能ハズ明治四十一年二月同志長森藤吉郎氏、松尾寛三氏、武田豊次郎氏、關周藏氏及ビ法曹界ノ傑物上原鹿造氏等ト共ニ資本金五十萬圓ノ帝國運輸自動車株式會社ヲ創立シ、爾來銳意社務ノ擴張ニ奮勵シ漸次盛大ノ佳域ニ至ラレコトヲ期シ大ニ盡瘁スル所アリ、後推サレテ其專務取締役トナリ、努力經營良ク其重任ヲ全フシツ、軌イテ現今ニ及ベリ、君天資明敏潤達忠誠篤實毫モ舉世ノ虛榮ニ泥マズ優然一大異彩ヲ放チ確乎不拔ノ定見ヲ保持ス、氣骨能ク世ヲ恐レズ、人ヲ憚カラザルモノニヨラズンバアラザルナリ。君其要職タルヤ全ク早川千吉郎、朝吹英二兩氏ノ推薦セシ處ニシテ、今ヤ前記ノ外千代田瓦斯株式會社專務取締役、京王電氣株式會社、臺東精糖株式會社、京濱電氣株式會社等ノ各創立委員トシテ餘力ヲ傾注シツ、アリ。君資性謹厚仁慈ノ情ニ富ム、宛然君子ノ風格アリ亦以テ當代實業界ノ異材トシテ愧ヂザルナリ。

電話番町 二〇〇二番

岸敬二郎氏

芝區金杉新濱町一番地

人格ノ高尚ナルヲ欲セバ、美育ヲ獎勵スベシ、美育ノ材料ハ光ナリ光ヲ離レテ萬物闇黒索窺ノ鬼類界トナル造化ノ妙用須ラク是ヲ説クヲ用ヒズ、人工ニ由ル光ノ妙ハ電氣ナル事云フヲ待タズ、君ハ即チ電機ヲ發明シテ日本ノ電氣ヲ改良發達セシメタル偉功アル人ナリ、君ハ嚴父新作氏ノ二男ニシテ明治三年三月ヲ以テ生レ、舊和歌山藩士タリ、父新作氏ハ藩ノ教育ニ身心ヲ委ネ後徳義社ヲ起シ大イニ武士道教育ニ盡瘁ス、明治維新後專ラ實業界ニ身ヲ投ジ、四十三銀行ハ氏ノ主宰スル處ニ屬ス、即チ敬二郎君モ不幸ニシテ九才ノ時其父ヲ失ヒ稍々人生ノ苦樂ヲ味ヒタリト雖モ固ト恒産ノ家庭ニ成育シタルモノ幸ニ母ノ温キ鞠育ヲ受ケ十八年ノ時慶應義塾ニ入り、更ニ高等中學校ニ轉ジ益窓雪案以テ帝國大學ニ入ル業卒ヘテ芝浦製作所ノ招聘スル處トナリ、銳意專念所務ニ執掌スル事數年、明治卅七年米國ニ航シ、普ク電氣事業ヲ視察シテ大ニ得ル所アリ、卅八年歸朝益奮勵努力製作品ノ爲ニ盡スコト頗ル多大ナリ、君ハ天資穎敏頭腦明快亦凡庸ノ學者ニアラズ、君ガ發明ニ係ル發電機、電働機、自轉鐵針油、入變壓機ノ冷却裝置、グアボセネ「レタ」ノ三器ハ日本ノ發明界ニ於ケル嶄新ナル新機械トシテ大ニ世ノ賞讚ヲ博セリ宜ナル哉、君ガ發明的天才ト技術トハ遍ク斯界ノ歡迎スル所トナリ、高崎水力電氣會社、長野電燈會社、上越電氣會社、富士紡績會社電氣部、千住製紙會社ノ顧問役トシテ優ニ其技術ヲ發揮シツ、アリ、盛名隆々トシテ旭日東天ニ昇ルガ如キ勢ヒヲ以テ學界ノ重ンズル所トナリ、更ニ實業界ニ其敏腕ヲ揮ヒ以テ他日ノ大成ヲ期セントス君ヤ春秋正ニ富ム、前半生ノ成巧ヲ以テ豫メ期スベカラズト雖モ、其今日マテ努力遂行シツ、來リタル精力主義ハ懸テ大發展ノ美化ヲ見ン事蓋シ疑ヒナカルベシ。

電話芝 九百〇六番

藤井新兵衛氏

前橋商業會議所會頭、實業家群馬縣前橋市細澤町

夫レ時世ヲ知ルハ俊才傑物ニアラズンバ能ハズ、赫々タル事業ヲ舉グルハ堅忍不拔ノ人ナラズンバ能ハズ天下卓逸雄大ノ士、鮮少ナラズト雖モ能ク世潮ノ起ス所トナラズ、循々トシテ進ミ營々トシテ勤ムルモノニ到ツテハ豈夫レ然リ求メ易カラシヤ、思フニ、我實業家中能ク立身榮達ト共ニ世利公益ヲ起シ確信アリ牢トシテ拔クベカラズ、熱誠アリ炎トシテ冷ヤス可ラズ、心身靈肉舉ケテ一事一業ニ傾注シ斷乎トシテ所信ヲ貫徹シ千艱萬難ヲ排シテ終ニ目的ノ彼岸ニ到達シ得ルモノ寥寥長星ノ如シ偶マ君ガ我實業界ニ燦然異彩ヲ放テツ、アルヲ目睹ス吾人ハ茲ニ君ノ闢塵大要ヲ叙シ以テ後進立志ノ龜鑑タラシメントス、聞ク君ハ前橋市ノ人文久二年ヲ以テ生ル。先代新平氏ノ養嗣トナル家世々金銀貸附及質業ヲ營ミ同地唯一ノ老舖ナリ君夙ニ學ヲ好ミ其郷黨初學ノ當時才智群童ニ秀テ郷黨ヲシテ展々驚愕セシメシ事アリト長ズルニ及ンデ益々其奇才ヲ發起シテ種々ノ事業ニ頭角ヲ顯ハシ推サレテ前橋市會議員市參事會員トナリ公共ノ事業ニ干與スル事枚擧ニ遑アラズ、殊ニ市參事會員トシテ市政ニ參劃スル事前後十五年ナリトイフ亦以テ殊勳ナラズヤ去ル三十年三月時勢ニ鑑ミ土地ノ富家並ニ二三ノ人ト相謀リ上毛貯蓄銀行ナルモノヲ設立シ是レガ頭取トナリ、着實業務ノ發展ヲ計リ部員ヲ統督スルコト共宜シキヲ得着々隆盛ノ好況ニ到來セシモノ君ノ献身的精神努力ノ高價ヲ拂ヒタル結果ニ外ナラザルナリ、外ニ商業會議所議員及會頭トシテノ努力ハ常ニ市民ノ感謝スル處ナリ、君人トナリ濃厚篤實ニシテ猥リニ爭ハズ名譽ノ奴隸トナル又好ム所ニアラズサレト主義ヲ實行スルニ方ツテノ其氣銳宛然人ヲ異ニスルノ觀アリ亦以テ當世後進ノ範トスルニ足ラン、

高木兼二氏

ドクトル 醫學博士

京橋區西紺屋町十番地

日本杏林界ニ雷名アル、博士(男爵)高木兼寬氏ハ本邦國手先覺者ノ一トシテ、斯界ニ貢獻スル處渺ナカラズ、亦幾多斯道ニ志ス後進青年ヲ薰育シテ、國家社會ノ要路ニ供セシメシモノ亦擧ゲテ數フルニ遑アラザルナリ、寔ニ本邦期界ノ柱石トシテ、時代刀圭史ノ存在セン限リハ、特筆大書シテ後世ニ傳フルニ足ル、而シテ茲ニ掲グル、兼二君ハ其次男ニシテ、明治十四年九月九日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、幼ニシテ學ヲ好ミ夙ニ群童ト異ナリ、年齒十八歳ニシテ東京高等師範學校附屬中學校ノ課程ヲ卒業ス、元來高木家ハ十七歳ヨリ兩親ノ側ヲ離レ、獨立シテ身ヲ起ツルヲ以テ家憲ノ一ツトス、君亦此齡ニ達スルヤ、早クモ嚴父ニ懇請シテ遠ク海外ノ游子タラント志シ、故國ヲ去ツテ英國ニ航シ、直チニ倫敦大學ニ入ル、居ル事七歳刻苦勉勵些ノ怠リナク造詣大ニ加ハリ、在學中常ニ首席ヲ占メ、級中ノ秀才ヲ以テ目セラル、此間前後二回ノ競争試験ニ應ジ、其都度賞牌賞狀等ヲ授ケラル、終ニ學成リ業遂グルヤ、更ニ進ンデ獨、佛兩國ニ渡リテ、就中永ク獨國ニ駐リ其蘊奧ヲ究メ次デ歐米諸國ヲ歴遊シ、昨四十二年五月ヲ以テ錦衣歸朝ス爾來數月間、父君ノ首腦スル東京病院ニ於テ、其蘊蓄ヲ披瀝シテ専ラ内科患者ノ診療ニ從事セシガ、同年十二月兵役ニ服シテ見習醫官トナリ、近衛師團第二聯隊附トナル、今ヤ君多年ノ蘊蓄ハ遂ニ博士會ノ認識スル處トナリ、這般論交ヲ提出シテ美見合格シ、醫學博士ノ學位ヲ授ケラル、ニ至リシナリ、君年齒漸ク三十、サレド手腕ハ宛然先輩諸博士ヲ壓スルノ概アリ、誠ニ君ノ如キハ本邦刀圭界中ノ最年少敏腕ノ博士トシテ、世ト共ニ其未來ヲ嚮望スルニ堪ヘタリ。

電話新橋 二百十六番

藤岡市助氏

工學博士

麻布區東町二十四番地

電氣學ノ泰斗本邦電氣燈及電氣鐵道ノ先導者藤岡市助君ハ山口縣周防國岩國錦見村ノ人、安政四年三月ヲ以テ生ル、資性銳敏幻ヨリ學ヲ好ム長スルニ及ンデ東京ニ出デ工部大學ニ入リテ電氣工學科ヲ修ム其才學秀修常ニ儕輩ノ長敬スル所タリ、明治十四年五月優等ヲ以テ卒業シ工學士ノ稱號ヲ受ク爾來工部大學助教教授ノ席ニアリテ教鞭ヲ取リ十七年三月外國教師歸國ニ際シ、君ハ其後任トシテ遂ニ教授ニ擧ケラレ翌年米國「ヒラデルヒヤ」ニ於テ萬國電氣博覽會ノ開設アルヤ官命ヲ帶ビ渡米シテ審査委員トナル、歸朝後幾モナク學理ヲ慶用シ意匠ヲ凝ラシ發電機ヲ創作シテ銀行集會所ニ白熱及孤光燈ヲ點シ始テ電燈ヲ我國ニ紹介ス是實ニ本邦電燈ノ嬌矢ナリ彼ノ宮城內ニ光輝ヲ放ツ電燈モ全ク君ガ設計ニ係ルモノナリト云フ以後電燈ノ需用ハ噸ニ増加シテ増々君ノ手腕ヲ發揮セシム爾來各地ニ設ケラレタル電燈業ハ君ノ設計考案ニ出テタルモノ實ニ其過半ニ及ベリ、明治十九年十二月東京電燈會社ノ招聘ニ應シテ同社ノ技師長トナリ、電燈事業視察ノ爲メ同月三十一日歐米諸國漫遊ノ途ニ就ケリ、歸朝後同社中央發電所ノ設計ニ其手腕ヲ顯シ名聲愈々斯界ニ揚レリ此間工科大學講師ノ囑托ヲ受ケ或ハ政府ノ電氣事業取締規則制定調査委員等ニ擧ケラレ益々電氣事業ノ發展ヲ促ス所アリ、明治二十四年八月工學博士ノ學位ヲ授ケラレ二十五年四月我國電氣事業者ヲ料合シテ日本電燈協會ヲ創立シ推サレテ會長トナル、此團體ハ電氣事業ニ關シ政府ト民業者ノ間ニ意志ノ疏通ヲ圖リ以テ斯業ノ進步發達ヲ期スル有益ノモノニシテ今ノ日本電氣協會是レナリ、三十一年ニハ勳六等ニ叙セラル後思フ所アリテ公私ノ職ヲ去リ同年更ニ歐米各國ヲ巡視シ電氣鐵道、水力電氣電、機製造事業等ニ關スル諸般ノ調査ヲ遂グ歸朝後小田原電氣鐵道、京濱電氣鐵道、坂神電氣鐵道、東京電車鐵道等諸會社ノ顧問トナリテ大ニ其手腕ヲ揮ヒ斯界ノ爲メ益スル所大ナリ又東京電氣株式會社ノ取締役ニ推サレテ電機製造業ニ其熱誠ヲ致シ、米國某大會社等ト結約スル所アリ

テ外資輸入ノ道ヲ講ス又幾ニ東京鐵道會社技師長ノ重任ニアリテ工事設計ノ首腦ニ當リ市内交通機關ノ完成ニ盡瘁シ常ニ寢食ヲ忘ル、ニ至ル、現時帝都街上縱橫無盡ニ電車ノ運轉シツ、アルハ蓋シ君ノ賜ナリト云フベシ、又同會社深川發電所ノ如キハ當時最モ新式ナリト稱セラレタル汽機「スチーム、タービン」ヲ採用シ東洋第一ナル一萬馬力ノ大發電所タラシムルニ至レリ、三十九年又歐米各國ヲ漫遊シテ以テ彼國ニ於ケル電氣事業長足ノ進步ヲ視察シ得ル所尠カラス、歸朝スルニ及ンデ大ニ水力電氣遠距離輸送事業ヲ鼓吹シ又同志ト謀リ東京市内ノ高架電氣鐵道並ニ東京大坂間ノ高速度第三軌條式電氣鐵道ノ敷設ヲ發起セリ爾來自ラ藤岡電氣事務所ヲ設ケ斯界事業家ノ顧問ニ應シ以テ大ニ世益ヲ謀リツ、アリ。嗚呼世ハ既ニ電氣世界ノ觀ヲ呈セントスルノ今日幸ニ俊邁敢爲學理ニ途ク經驗ニ富ミタル君ノ如キ人アリ斯界將來ノ進步發達ハ期シテ待ツベキナリ。

電話芝 五百四十番



下郷傳平氏

貴族院議員

芝罘三田小山町三十七番地

先代ハ精力絶倫努力ヲ傾注シテ巨萬ノ富ヲナシ、好箇立志篇中ノ人物トシテ奇行屢々操觚者ニヨツテ世ニ示サル、一言一行悉クコレ金玉ノ條、後進就テ學ブベキ者抄ナカラズ、君ハ其長男ニシテ明治五年三月江州長濱ニ生ル、少時滋賀縣商業學校ニ入り業卒ルヤ笈ヲ負テ洛陽ノ遊子トナリ第三高等學校ニ學ブ、後轉シテ東都慶應義塾ニ入り理財ノ學ヲ修ム、卒業後五二翁前田正名氏ト共ニ東北及北海道ヲ巡遊シ産業上ノ視察ヲ遂ケテ造詣アリ、二十七年先代ノ家督ヲ繼承シテ實業界ニ打テ出ヅ、天京ノ商才ハ富ノ後援ト相待ツテ斯界ヲ縱斷シ銳意其精力ヲ注イテ幾多ノ商會社ヲ經營ス、試ニ其主要ナル者ヲ列記スレバ、大坂生命保險株式會社社長、長濱銀行、金巾製織株式會社、日本絹糸紡績株式會社、京都電氣鐵道株式會社、近江麻糸織會社、日本興業株式會社、關西鐵道株式會社、日本海陸保險株式會社、帝國火災保險株式會社、西陣然糸再整株式會社、日本貿易倉庫株式會社等ノ出資者ニシテ重役タリシガ今ハ專ラ本業製織事業ニ全力ヲ注ギ、舊來ヨリノ關係上、近江製絲株式會社々々長、仲之島製織株式會社々々長濱生糸米穀取引理事長等ニ對シテ一半ノ努力ヲ割キツ、アリ、如斯シテ乃父遺傳ノ大精力ハ、加味スルニ新進ノ知識ヲ以テシ、刻時モ止マサル奮闘ヲ以テ事ニ任ズ、豈夫レ碌々タル富豪ト等シキモノナラシヤ、往年多額納稅者ノ互選ニヨリ、郷里滋賀縣ヨリ選出セラレ上院議員トナリ、少壯氣銳ヲ以テ群衆頭中一頭地ヲ拔ク。

君資性温厚、果斷ニ富ミ、一ト度事ヲ劃シテ猛進スルヤ、貫透セシムバ止マサルノ痛快ハ、宛トシテ先考ノ面影アリ、君亦上院少壯家中ノ白眉ナリ。

電話新機 一千百〇八番

高田小次郎氏

實業家

芝罘松本町四十四番地

東都ノ第一流純民間經營ノ銀行中嶄然トシテ頭角ヲ顯スモノハ第百銀行ナリ頭取高田君ハ抑モ如何ナル經歷ヲ有スルカ。

君ハモト因州池田侯ノ藩士ナリ維新ノ大業全ク成リ廢藩置縣モ實行セラレ舊來ノ藩士多クハ四方ニ離散セル後チ君ハ主家ノ舊恩ヲ思ヒ後ニ殘リテ忠勤ヲ勵ミツ、アリシガ熟々世ノ大勢ヲ察シ亦將來主家ノ變遷ヲ思ヒ私カニ感スル所アリ、遂ニ原六郎氏ト計リ池田侯ヲ以テ第一ノ株主トナシ一大銀行ヲ設立シ之ニ依リテ直接間接舊主家ノ繁榮ヲ計ラント欲シ、遂ニ今ノ第百銀行ヲ創立スルニ至レリ、茲ニ於テカ君ハ先ヅ事務長トシテ汲々専心一意行務ノ經營ニ盡瘁シ、當時銀行家ノ流弊タル華奢ノ風習ニ泥ムコトナク勤儉以テ己レヲ持シ行務ノ整正行員ノ督勵ニ任スルコト多年一日ノ如ク些末ノ倦怠アルナシ、之レヲ以テ行名一世ニ譽リ信用益々高シ、君尙勤儉ノ美風ヲ國民ノ間ニ普及セシメントノ志望ヲ以テ第百ノ分身東京貯藏銀行ヲ設立シテ重役トナル、次テ又明治火災保險會社ヲ設立シ推サレ其重役トナル之レガ隆盛ヲ觀シタルコト甚ダ大ナリ、サレド全力ハ前記ニ銀行ニ注ギ、日本銀行界異數ノ人材ニシテ人格ノ高潔ナル當代希ニ見ル處ト稱セラル、尙外ニ商業倉庫株式會社取締役、東明火災海上保險株式會社監查役トシテ高田式熱心ヲ以テ事ニ當リツ、アリ、想フニ第百今日ノ隆盛ハ、堅實無比ナル君ノ内守ト快腕縱橫ナル池田君ノ外交トニヨリ、寔ニ同行首腦者人物ノ性格ガ巧妙ニ配劑サレタル結果タラヌンハアラザルナリ、即チ世ノ稱シテ理想的ト稱スルモノ亦茲ニ因ス、即チ附記シテ世ノ後進ヲ教エト爾云。

電話新機 一千四百二十番

佐藤 佐氏

醫學士 順天堂病院副院長

本郷湯島新花町九十八番地

君ハ安政四年二月ヲ以テ千葉縣ニ生ル、幼名ヲ虎三ト稱シ、夙ニ同藩士宇都木常藏氏ノ家塾ニ於テ和漢ノ學ヲ修メ、穎悟聰敏素行群童ヲ拔ケリ、實ニ萬綠叢中ノ紅一點トハ君ノ如キヲ評スルノ語タリ、年漸ク十ニ佐藤塾ニ入り専心學術ヲ勉勵シ一日ノ怠リナカリシガ、先師尙中氏ノ大學ニ登用セラル、ニ從ヒテ東京ニ出デタリ、明治四年市メテ大學東校ニ開設セラレタル獨逸式醫學教育ニ幼年生トシテ入學シ、早クモ官費生トナリ神童ノ聞ヘアリ、其後大忠ニ罹リ學ヲ廢スルコト二年、明治八年再ビ入學ヲ志シ首尾ヨク入學試験ニ及第シ、貸費生ニ編入セラル、明治十四年優等ノ成績ヲ以テ大學ヲ卒業シ醫學士ノ稱號ヲ受領ス、茲ニ於テ下總ニ其人アリト知ラレタル古傑佐藤繼信氏ノ後洋醫術ノ祖タル佐藤泰然氏ノ裔、佐藤尙中氏ノ養フ所トナリ其性ヲ胃ス、君實ハ舊佐倉藩士井上信利氏ノ三男ナリ、明治十五年二月佛埃二國ニ留學シ、伯林維那ノ大學ニ內科學ヲ研究シ、得ル所アリ、十九年歸朝スルヤ、都下ハ勿論全國ニ病院ト云ハハ順天堂病院ヲ指シテ第一トナス、諸般ノ設備シ實ニ模範病院トシテ其名聲隆々タル順天堂病院ニ副院長トナリ、院長佐藤進氏ヲ補ケ外術以外ニ內科ノ一生面ヲ開キ同院ノ光輝一段ノ美ヲナセリ、尙院長ノ軍醫總監ナルヲ以テ日清戰役ノ際廣嶋大本營ニ又馬關講和談判地ニ出張セラレ、近クハ日露事件ニ當リ出征ノ時等ニ於テハ、君一身ヲ以テ院長ノ事務ヲ處理シ院務ノ完キヲ計リ、內科兩科診察ニ從事シ寸毫ノ遺憾ナク益々院名ヲ擧ケタルハ到底凡醫ノ倣フ能ハサル所ナリ、明治三十年宮中侍醫ニ召サレテ正六位ヲ賜ヒ、同三十五年日本藥局法調査委員ヲ命セラル、君ハ虛名ヲ悅フノ士ニアラズ、旨トスル所實際ノ治療ニ意ヲ注ギ、敢テ博士等ノ學位ヲ欲セス、超然內科醫學及衛生法上ノ改發ノ力ヲ致シ、以テ實果ヲ修ムムコトヲ之レ理想トセルカ如シ、吁真ニ斯シテコソ尊敬スベク、技量モ亦與堂ニ達スベキ也。

電話下谷 二千二十番

池貝庄太郎氏

工業家 池貝鐵工場主

芝區本芝入横町一番地

君ハ明治二年十月廿三日東京本郷湯島妻戀町ニ生ル、先代重右衛門氏ノ長男ナリ、幼ニシテ穎悟機警年甫メテ十四、横濱ニ出デ、西村器械製造所ニ雇ハレテ徒弟トナル、實地ノ練習茲ニ雁燕三度明治十八年志ヲ決シテ歸京シ田中工場ニ於テ千辛萬苦鍛練ニ邁マナク、業務ニ從フコト數年實驗大ニ加ハリ、技倆愈々熟シ殆ント遺憾ナキニ至レリ、卓識遠觀氏ハ在萬他人ノ使用者トシテ永ク甘スルヲ得ズ奮然起テ、芝區金杉川口ニ於テ獨立經營ノ器械製造所ヲ創設シタルハ明治二十三年十一月ノ初メナリ、次テ同區柴井町ニ移リ精勵業務ニ勤勉セシヲ以テ暮年ナラズシテ盛途ニ赴キタリ、後チ更ニ進ミテ三十四年芝區本芝入横町一番地ニ轉シ基礎益々鞏固トナリ地盤容易ニ抜クベカラザルニ至ル、依ツテ卅九年合資組織トナシ池貝鐵工場ト改稱ス、之レナン電車薩摩原停留場ノ北方轟々ノ音ト和シ鐵槌丁々タル一工場ナリ、目今ノ製作品中主ナルモノヲ列記セバ石油發動器、工業用器械其他海軍省御用品等ニシテ數多製作品ヲ枚舉スル遑アラズ、實ニ信用ノ大ナルト又盛大ナルヲ窺知スルニ難カラサルナリ、思フニ輓近我が工業界ノ進歩著シク技術ノ精巧ヲ欲スルノ時ニ際シ其要求ヲ充タシテ遺憾ナカラシムルヲ得ルハ君ノ如キ機敏ニシテ才知ニ富ミ加フルニ實地ノ習練家ニシテ一層ノ奮勵ヲナサバ歐人ヲ凌駕スル亦易々タルニ、由來我が邦ノ技術歐米ノ其レニ遜色アル所以ハ主トシテ精巧緻密ナル腦頭ヲ缺キ又修練ノ不良ナルニ由ラズンバアラス、吾儕君ニ期待スル所切ナル亦何ンゾ故ナキニアラズ。

電話芝 六百九十九番

織田昇次郎氏

實業家

和歌山上三番町十四番地

中央實業界中稀ニ見ル偉傑トシテ唱ヘラレツ、アルハ君ナリ、今其略傳ヲ録センニ。
 君ハ和歌山縣ノ人安政二年三月ヲ以テ産ル、夙ニ實業ヲ以テ身ヲ樹テント志シ、明治九年奮然東都ニ登
 リ早クモ時運ノ趨勢ヲ洞察シテ大ニ期スル處アリ、爾來幾多ノ辛苦ヲ經山シ遂ニ米穀取引所仲買業ヲ創
 始スルニ至ル、後更ニ轉ジテ株式界ニ入り巧妙ナル手腕ヲ以テ仲買業ヲ開始スルニ至リシナリ、爾來三
 十有餘年此間世人ノ云フ織田式商風ハ愈々顧客ノ信用ヲ博シ從テ取引額ノ大ナル、今ヤ斯界ノ第一流ト
 稱セラレ。

君實性温厚篤實、加フルニ慈善仁俠ノ美風ニ富ム、今其一ニノ實例ヲ舉ゲンニ君、遂平銀婚式紀念ノ爲メ滿
 韓駐屯軍和歌山學生會、其他公私各種ノ慈善團體等ニ寄附シタル金品ハ實ニ其額ヲ八萬ヲ超ユルトイフ、
 如斯キ美風ハ到底條々タル長者ノ企テ及ブ處ニアラザルナリ、蓋シ「ヲ印」ノ旗鮮明ニ、鏡南市場ヲ縦斷シ
 ツ、アル當時ト其昔南海ノ一角ヨリ單身中央實業界ニ投シタル頃生ト想ヒ較ベバ、成功ニ裏面ニ潜ミタ
 ル苦心慘憺ト、高キ價ノ玉ノ汗、尊敬スベキ努力ヲ發見スルニ難カラサルナリ、即チ特ニ君ヲ物色シタ
 ル所以亦茲ニ存ス、所謂世ノ成功家ト趣ヲ異ニセルノ基礎ヲ了解セサルベカラズ、敢テ問フ天下ノ青年
 諸君、渺シク奮起シテ眞箇成功者ノ苦心ヲ學ハントセサルカ。

電話番号 二百二十四番

本莊壽巨氏

子爵 貴族院議員

本郷區元町一丁目五十五番地

上院屈指ノ法律學者トシテ將亦初期議會以來連續シテ其席ニアルハ君ナリ。
 當家ハ饒連日命ノ後胤、從五位上有道宿禰氏道ノ後裔、本莊六郎左衛門時家ノ後ナリ、ソレヨリ十四世ヲ
 經テ從五位下宮内少輔道芳ニ至ル、道芳五代將軍綱吉ニ仕ヘ、濃州高富ノ城主トナリ封邑一萬石ヲ領ス
 ソレヨリ十一世ヲ經テ道美ニ至ル、君其後ヲ承ク實ハ熊本縣宇土藩主從五位下左衛門尉細川行芬ノ第十
 子ニシテ、安政二年七月七日ヲ以テ生ル、明治十年先代道美ノ女久米子ノ女婿トナリ、其家督ヲ相續シ、同
 十七年七月特旨ヲ以テ子爵ヲ授ケラル、明治九年一月司法省等外一等出仕ニ任ジ、同十一年五月内務省地
 理局雇ヲ命ゼラレ、翌十二年七月内務十等屬ニ任ジ、同十三年七月司法省十六等出仕ニ任ジ、同十二月判
 事補ニ任シ鹿兒嶋縣治安裁判所詰ヲ命ゼラレ、尋テ累進シテ都城治安裁判所長トナル、同廿六年六月治安裁
 判所判事ニ補シ都城治安裁判所詰トナリ、同廿三年七月貴族院議員ニ選舉セラレ、同年八月檢事ニ任ジ同
 年十月延岡區裁判所檢事兼宮崎地方裁判所檢事トナリ、同廿四年九月宮崎地方裁判所檢事トナリ、同廿六
 年十一月麴町區裁判所檢事トナリ、同廿七年二月兼京橋區裁判所檢事、兼東京地方裁判所檢事ニ補セラレ
 同卅年六月東京區裁判所管内公證人トナル、卅七年改選期ニ際シ三度ヒ當選シテ貴族院議員トナル、此間
 各種ノ委員ニ選バレ其造詣ヲ披キテ立法ニ貢獻シタルモノ其功顯著ナリ、上院議員ノ活動ハ近時花々シ
 キモノアリト雖モ、元來此催進ノ原因ハ君等子爵議員殊ニ扶桑會、談話會、(君ハ常任幹事)員諸氏ガ多年
 ノ活動ニ基因セズンバアルベカラズ、即チ上院ノ中堅ニシテ而シテ硬分子ノ多數ヲ有シタレバナリ、外
 ニ實業界ニ指ヲ染メ、日本信託株式會社、株式會社東華銀行ノ創立者トシテ取締役タリ、希クハ侃々諤々
 長ヘニ健全ナラン事ヲ。

電話下谷 二千七百二十二番

高木喜寬氏

東京病院副院長

芝區西久保城山町八番

親子共ニ我國醫界ノ重器トシテ世人ニ推重セラレツ、アルハ蓋シ家門ノ光榮實ニ大ナルモノカナ、君ハ醫學博士男爵高木兼寛氏ノ長子ニシテ明治七年十一月芝高輪ニ生ル、早ク學習院ニ普通學ヲ卒ヘ年僅ニ十六歳ニシテ大志ヲ抱ク殊ニ深窓ニ人トナリ而モ貴族ノ若君タルモノ驟然奮起、單身萬里ノ波濤ヲ越ヘテ英京倫敦ニ航ス、其進取雄膽ノ氣性凡俗ニアラサルヲ知ルベシ、「キングス」中學ニ入りテ其國語ヲ究ム、而シテ後志ヲ果タサントス實ニ用意周到秩序的寸ヲ追フテ尺ヲナシ、少ヲ集メテ大ヲナスの敢テ成功ヲ急キ以テ不秩序速成ヲ欲シテ級々タルノ徒ト同日ノ論ニアラズ君ガ今日アル豈偶然ニアラザルベシ、斯クノ如クニシテ在學二年後「セントトマス」醫科大學ニ入學ス、刻苦勉勵五年ノ辛酸ヲ嘗メテ遂ニ良成績ヲ以テ卒業シ白人ヲシテ感歎措ク能ハザラシメタリ、時正ニ年二十三歳、君小成ニ安ンゼス更ニ實地ノ研究ヲ企テ以テ「セントトマス」病院外科助手トナル、攻研二年其妙域ニ達ス、君天資向上ノ精神ニ富ミ、之レヲ以テ足レリトセズ、茲ニ於テ英國ヲ去リ獨逸伯林ニ至リ、居ルコト一歳、只管比較研鑽ニ意ヲ注ギ、短日月ヨク同國醫學ノ狀態ハ勿論専門の見地ヨリ種々ノ研究ヲ遂果シ、斯學ノ奧堂ヲ極メ、歩ヲ進メテ亞米利加ニ渡航シ、見學スルコト二ヶ月明治三十五年七月歸朝ス、回顧スレバ西歐二年ヲ閱スル十有餘年其間泰西文明ノ風格ヲ吸收シテ最モ新邦ノ俊才故アルカナ、母國ノ人トナルヤ直ニ東京病院副院長トナリ次デ、東京慈惠會醫院醫學專門學校教授、東京慈惠會醫院外科主任トシテ今日ニ及ブ、今時漸ク醫界ノ弊風ヲ見聞ス、之レヲ改發掃排ノ責ヲ負フモノ學識人格高遠ナル君ノ如キ青年少壯氣銳ノ士ニアリ、社會ノ要求スル所モ亦高木君ノ如キ好個ノ人材ニアルナリ。

電話芝 一千九百五十二番

伊東卿之助氏

藥學得業士

東京市神田區美倉橋通
眞島町一番地

學術技能共ニ並ンデ本邦藥劑界ノ雄鎮タルモノ吾人之レヲ君ニ於テ見ル。
君ハ東京ノ人嚴父ヲ與三郎氏ト云ヒ其ノ長男ニシテ明治十二年五月七日日本橋檜物町ニ呱呱ノ聲ヲ擧グ幼ヨリ敏穎才識衆ニ拔ンデ夙ニ城東學校番町小學校等ニ普通學ヲ修メ暫ク伊庭塾ニ遊ビ學習院ニ學ビ廿九年府立第一中學校ニ入ル、常ニ優等ノ成績ヲ以テ三十二年四月全校ヲ卒業シ後想フ處アリ意ヲ決シテ千葉醫學專門學校ニ入り勉勵精三十六年十一月遂ヒニ校中優數ノ成績ヲ以テ卒業シ尋デ三十七年一月帝國大學藥學科撰科ニ入り、研鑽頗ル勉メ造詣愈々加ハル、全年六月君ガ才識技能ハ遂ヒニ池中ノ者ニ非ラズ矚目サレテ助教授ヲ命ゼラレ退學シテ藥學博士下山順一郎氏ノ助手トナル、全三十八年六月辭任、全年九月東京藥學校講師ヲ命ゼラル、全四十年四月是レヲ辭シ爾來東京神田區美倉橋通眞島町ニ一大藥舖ヲ啓キ、諸種ノ藥品有効賣藥並ニ醫療機械等ノ發賣ヲ兼ネ普ク斯界ノ供給ニ力メ一方藥劑局ヲ設ケ、一般患者ノ處方調劑ヲ施シ其深切且ツ叮嚀ナル風評ハ漸ク高ク讚ヲカヘシテ、君カ店頭ニ立ツノ盛況ニ到リシモノハ管ニ君カ技能ノミニ非ズシテ亦以テ美德ノ然ラシムル處、殊ニ頭痛患者ノ福音トイハ、ツベキハ、君カ多年研鑽ノ結果發見セル、「アノタイン」ナル靈藥ノアルアリ如何ナル難症ト雖モ一服以テ全瘥スト聞カバ其功顯著ナルニ驚カザルヲ得ズ、今ヤ販路海外ニ及ビ需用者ノ多大ナル而シテ全瘥ノ禮狀積ンデ山ヲナスニ及ンデハ、寔ニ君ガ技能德行並セテ特筆大書以テ世ニ示スニ足ルヲ信ズ。
君資性溫良、職務ニ忠實且ツ熱心ナルハ勿論克ク責任アル行動ヲ全フスル、流石ハ「父ノ子」ナリト首肯セシムルニ足ル。

長電話下谷 一千三百十八番

振替貯金口座 一五三九八番

電信零號 (イ ト)

高橋嘉太郎氏

岩手毎日新聞社長
岩手縣郡部選出衆議院議員

岩手縣盛岡町、岩手毎日新聞社内

西南人士ハ、進取的開拓的ニ、東北人士ハ、統治的建設的ナリ、前者ハ華麗ニシテ後者ハ整實ナリ、此二箇ノ相反セル對照ハ一合シ一離シテ日本ノ文明ヲナス、高橋君亦東北ノ精粹岩手ノ人、蹶起一番同地ノ開拓ニ努力ス、多年ノ功勞克ク此小冊子ノ盡スベキニアラス、今ハ只實行の人物トシテ建設的天資ヲ具有シ好箇東北人物ノ型典トシテ稱セラル、ヲノ一事ヲ特筆スルノミ試ミニ其閱歷ノ一節ヲ抄録スレバ君ハ陸中因和賀郡二子村ノ出身ニシテ嘉永五年三月ヲ以テ生ル、乃父嘉平氏ハ、南部家ノ寵ヲ受ケテ厚遇セラレ多數鹿人ノ頭トシテ帶刀ヲ許サレ、夙ニ愛國ノ志士トシテ國防上ニ意ヲ注キ函館在住當時露國人ト干涉アリキ、維新ノ際、五稜廓ノ變ト共ニ同地ヲ引揚ケ奥羽ノ一戰ニ加ハツテ郷里ニ歸ル、爾來地方ノ産業發達ニ意ヲ用ユ、君其薰化ニヨツテ人トナリ、明治九年勤業寮下總御料局牧養場生徒トナル、蓋シ全場ハ、各縣ヨリ一名宛ノ選拔者ヲ出シ、洋式農業ヲ教習スルニアリキ、卒業後岩手縣御用係トナリ、宮内省御料局外山牧場ノ經營ニ任ズ、後年辭シテ郷里ニ歸リ、專ラ地方産業ノ發展ニ意ヲ用ヒ、銳意公共事業ニ參與ス十五年選バレテ縣會議員トナリ連續シテ三十一年ニ至ル、此間常置委員タル事前後八年、其功績ニ至ツテハ一々枚舉スルニ遑アラサルナリ、翌三十二年新聞事業ノ經營ニ任ズ即チ岩手毎日新聞是ナリ、爾來獨力其私財ヲ投ジテ發展ヲ計リ、遂ニ隆盛今日ニ至ラシメタリ、此前後同縣進步黨支部ノ重鎮トシテ幾多ノ逆境ニ處シテ計籌意ヲサリシガ、連年ノ内町見ルニ忍ビズ暫ク黨ト關係ヲ斷チ、專ラ筆ニヨツテ縣民ノ開發ヲ催スト共ニ、着々實行シテ其面目ヲ全フス、第十回總選舉アルヤ、選ハレテ衆議院議員トナリ、中央政界ニ一指ヲ染ムルノ機會ニ接セリ、次テ籍ヲ立憲政友會ニ置キ、着實ニシテ熱誠而シテ老熟ナル確カニ一方ノ雄トシテ重視セラレツ、アリ。君爲人醇朴、人ヲ見ルノ明ト、人ヲ容ル、ノ雅量ハ、自然ノ間部下ヲシテ心服セシムル、美點ニシテ亦君ヲ大ナラシム所以ナリ、君亦東北出身ノ錚々タリ。

笹井愼二郎氏

實業家

京橋區南小田原町四丁目六番地

實業家ニ求ムベキハ果シテ手腕カ人格カ、手腕亦要スベク人格亦要スベシ、サレド滔々タル現代ニ處シ其手腕ヲシテ確的ナラシメント欲セバ、人格ノ伴フモノアツテ始メテ見ハル、蓋シ君ハ二者兼備ノ士トシテ謳ハレツ、アルヲ聞ク。

君ハ慶應元年七月ヲ以テ千葉縣市原郡五井村ニ生ル、父ヲ五郎右衛門ト云フ、君ハ其長子ナリ幼ニシテ郷ノ小學校ニ入り後チ縣立千葉中學校ニ入り、明治十八年業ヲ卒フ明治二十年意ヲ決シテ上京シ河居盛常氏ガ設立セシ商業學校ニ入學シ精勵奮闘ヲ凌グ二十二年業ヲ卒ヘ、二十四年東海銀行ノ行員トナレリ是君ガ實業界ニ身ヲ投ジタル端緒ニシテ又今日ノ地位ニ上レル第一着歩タリシナリ、是ヨリ刻苦精勵能ク業務ニ從事シ蹉跌セズ頓挫セズ坦々トシテ恰モ順風ニ帆ヲ孕マセ平靜ナル水流ヲ馳スルガ如ク遂ニ實業ノ大海ニ乗り出シタリ明治二十七年累進シテ東海銀行ノ支配人トナリ、行務ヲ整理シ手腕決シテ凡ナラザルヲ稱セラル、想フニ同行ノ歴史ハ、純民間銀行中堅實ノ點ニ於テ、動カスベカラル定評アリ、彼ノ日露戰後ノ經濟的大波瀾ニ際シ若干ノ動搖ハ各商會社ニ於テ免ルベカラザル處ナリキ、然ルニ君當面ノ局ニ立ツテ奔走盡力ハ是足ラズ遂ニ同行ヲシテ大過ナカラシメタル如キ到底凡手ノ輩ノ克クナシ得ベキニアラザルナリ。

君資性温厚ニシテ篤實手腕ノ辣潑タリト稱センヨリモ寧ロ高潔ナル人格ニ長アリ、龐大ナル東海銀行ヲシテ愈々益々向上セシメツ、アル者、君人格ノ反影ガ價值スル處決シテ尠ナカラザルナリ。

電話新橋 一千四百〇五番

松岡 辨氏 實業家

赤坂區青山北町六丁目三十三番地

變化ハ物ノ常ノミナラズ又人ノ常ナリ然レドモ物變化ヲ起スニ動機アリ人ノ境遇變ズルモ固ヨリ動機アラズンハアラズ、思フニ君ハ前途尙遠遠今後幾多ノ變化アルヤ知ルベカラズ、吾人ハ好ム所ノ科學ハ其資性ニ正比例スルコトヲ知レリ大丈夫志ヲ立テ、事ヲ行ハントスル何ノ恐ル、所アリテカ孤疑躊躇スルヲ要セン我レ内ニ顧ミテ一點ノ疾シキナク天地ニ俯仰シテ些ノ恥スル可キナシ、況ンヤ濟世愛民ノ至誠容易ニ汚スベカラザルナリ、世間群盲ノ反抗俗論我ニ於テ何カアラン、眼前山積ノ妨害障壁亦何ヲカ恐レン聞カズヤ斷ジテ行ヘバ鬼神モ避クト云フニアラズヤ、行ケ進メ斷々トシテ行ヘトハ是レ實ニ松岡辨君ガ胸中ノ覺悟亦以テ偉大ナル君ガ人格相見ルニ足ルベシ、君ハ岡山縣山縣平民松岡恒七郎ノ次男ニシテ明治二年二月二十八日ヲ以テ生ル、正ニ四十有二年幼ニシテ聰慧穎悟類ヲ離レ群ヲ絶ツ意氣壯烈其志ヲ持シテ終始渝ラザルモノ能ク君ノ快活タルヲ保セリ、君體軀肥大酒ハ好マズ宜ク食ヒ宜ク味フ一方ナリ、常ニ圍碁將棋ヲ嗜ム偶々時ノ移ルヲ知ラス而シテ能ク談ジヨク語ル家庭圓滿ニシテ和氣緩々トシテ堂ニ滿ツ常ニ非常ナル讀書家ニシテ法律書類ヲ讀クコトニ餘念ナキ程ナリ同二十七年七月帝國大學法科大學ヲ卒業シ内務省ニ出仕シ、同二十九年十二月兵庫縣參事官トナリ同三十年八月東京府參事官ニ轉ジ、同三十一年臺北縣書記官兼臺灣總督府事務官トナリ、同三十五年六月獨乙ニ航シ、伯林大學ニ留學シ商政學ヲ專攻シ、同三十六年八月英國ニ轉ジ倫敦ニ留學シ、同三十七年一月歸朝後君農商務參事官會社課長ニ任セラシ、同三十九年十一月會社ノ招聘ニ應ジ官ヲ辭シ東京株式取引所ニ入り理事ニ選任セラシ、現今其職ニアリテ君寡黙深沈温容親シムベク其何人ニ接セルモ卑辭厚禮極メテ謙遜ノ態度ヲ保テリ現時ノ椅子ニアリテ經濟社會ニ貢獻セントスル滿腔ノ赤誠ハ君ヲ知レルモノ、齊シク認ムル所ナリ。

電話新橋 二千〇六十四番

星野 錫氏 實業家

日本橋區濱町二丁目十四番地

君明治實業界ニ令聲高ク國家社會ノ爲メニ盡瘁シテ敢テ私利ヲ省ブザル、誠ニ當世濁流中ノ一蕪傑トシテ崇仰スルニ足ル。

君ハ東京ノ人安政元年十二月ヲ以テ生ル、乃父ハ舊姫路藩士ニシテ星野乾八氏ト稱シ嚴格ヲ以テ藩中ニ知ラレタルノ人、君幼ニシテ漢籍ヲ修メ尋テ泰西文明ノ學ニ及ブ、明治十二年其家督ヲ相續シ始メ意ヲ政界ニ抱キ、將ニ爲スアラントセシカ會々感ズル處アリテ實業ニ志シ、先ヅ王子製紙株式會社ニ入り間モナク推サレテ東京分社長トナル、之レヨリ先キ明治二十年九月印刷業視察ノタメ亞米利加合衆國ニ渡航シ、親シク現業ヲ見學シテ大ニ得ル處アリ、歸朝後前記分社ヲ改造シテ東京印刷株式會社ヲ起シ推サレテ其社長トナル、時將ニ明治廿九年五月ナリキ、爾來所謂法律上ノ社長ニ非ズシテ眞個其重職ヲ全フシ兼ヌルニ專務取締役ヲ以テス、拮据經營東都唯一ノ印刷業所トシテ地盤容易ニ動カスベカラザル者アリ、三十年東洋硝子株式會社ヲ起シテ其監査役トナリ、越ヘテ翌年三十一年田中、笠原氏等ト謀テ、東亞石油株式會社ヲ起シ爾來引續キ取締役タリ、明治四十年三月對清貿易ヲ目的トスル泰東同文局ヲ創設シテ取締役トナリ、尙其面目ノ一面トシテ傳フベキモノハ這般友人藤山氏ト共ニ日糖重役トシテ整理發展ニ盡シツ、アルノ一事ナリ、尙前記ノ他東京印刷業組合頭取、東京製本業組合長、東京商業會議所議員及同副會頭、東京實業組合聯合會々頭トシテ首都實業界ニ貢獻スル處一々枚舉ニ遑アラザルナリ、殊ニ印刷、製本事業ニ與ヘタル功績ハ決シテ之ヲ不問ニ附スベキニ非サルナリ。

電話浪花 三百八十三番

井上

勝氏

子爵 貴族院議員

赤坂區榎町一番地

鐵道事業ノ發達ハ、一國ノ文明ヲ左右スルノ勢力アリ、吾人ハ君往年本邦鐵道界ニ貢獻シタルノ功績ヲ追想シテ聊カ其小歴ヲ摘載シテ後昆ニ傳ヘント欲スルモノナリ。

君ハ山口藩士從四位井上逸波氏ノ三男ニシテ、天保十四年八月一日ヲ以テ生ル、舊名ヲ彌吉ト稱ス後實兄齊治氏ノ養子トナリ家ヲ嗣グ、明治二年仕官シテ造幣頭鑛山正ニ任ジ、同五年鐵道頭トナリ、同十八年累進シテ鐵道局長トナル、君由來忠君愛國ノ志士トシテ同僚間ニ重キヲナシ、夙ニ富國ノ一策トシテ鐵業ノ不發達、鐵道ノ不完備ヲ深ク慨シ、躬ラ主唱シテ之レガ發達完備ニ盡瘁シ終ニ偉大ナル功ヲ奏シテ輓近ノ盛況ニ至ラシメシモノ、本邦鐵道史ヲ編ムモノ、必ズシモ特筆記載シテ其功績ヲ後世ニ傳フルニ足ル、宜ナル哉其功績遂ニ皇上ノ認識スル處トナリ、明治廿年五月特旨ヲ以テ華族ニ列シ子爵ヲ授ケラル、同廿二年十月多年ノ功勞ヲ思召サレ勳一等ニ叙セラル、先是明治十年一月工部少輔ニ任ジ、同年八月兼工部技監トナリ同十八年十二月鐵道局長官兼技監ニ任ジ、尋テ亞細亞大博覽會開設組織取調委員、東京市區改正審査委員、帝室博物館藝術課共議人、鐵道會議々員、南滿州鐵道株式會社設立委員等トナリ治績大ニ擧ガル、亦日比谷原頭ノ上院議員トシテ初期議會以來其重任ヲ完フシ延イテ現今ニ及ベリ、君亦故陸奧伯ト會見セシ時ノ逸話アリ、事明治ノ初年ナリキ、君一日某顯官ノ邸ヲ訪フ、宗光座ニアリ、君ヲ顧ミ嚴然トシテ問フテ曰ク、足下何人ナルヤ、君答ヘテ曰ク、吾ハ日本人ナリト、白眼相見ル、君亦繁劇ノ餘暇明治廿九年九月同志ヲ糾合シテ瀛車製造合資會社ヲ創立シ、推サレテ其社長トナリ發展計劃怠リナシ、誠ニ君ノ如キハ政治實業兩界ニ亘ツテ、明治偉傑中ノ一異材トシテ尊敬スルニ餘リアリ

電話新橋 一千九百〇五番

白杉政愛氏

實業家

府下北登島郡日暮里村
大字金杉百五十三番地

君平素名利ニ淡ク、功ヲ人ニ讓ツテ紛々タル形而上ノ段譽ニ關セズ、亦以テ當代ノ珍トスルニ足ル、試ニ其閱歷ヲ摘記スレバ、君ハ江戸ノ生、天野菅十郎氏ノ次男ニシテ天保十四年三月十九日ヲ生ル、後先代白杉專九郎氏ノ養子トナリ、出テ、九睡熊本ニ赴キ、碩儒木下新太郎氏ニ就テ漢籍ヲ修ム、長シテ志ヲ軍務ニ寄セ、維新當時熊本藩ノ兵隊長トナリ、廢藩ノ際舊藩兵ヲ率ヒテ廣島ニ出張シ、幾モナクシテ陸軍少佐鎮西鎮臺少貳心得トナル、後陸軍本省ニ出仕シ、或ハ讃州丸龜營所ニ到リ、同所ノ長官トシテ手腕ヲ發揮セリ、後黒木爲楨氏(例ノ黒木大將)ト更代シテ熊本ニ歸還ス、後感スル處アツテ野ニ下リ、専ラ産業ノ發達ニ意ヲ用ヒ、竊カニ鐵道ノ國家有用事業タルヲ看破シ、大ニ之レヲ鼓吹スル處アリシモ、當時郷人産業ノ何タルヲ解スル者尠ナキノ狀、況ンヤ鐵道事業ニ於テオヤ、於茲乎終ニ意ヲ決シテ明治十三年東上ス、直ニ日本鐵道會社ノ創立ニ參劃シ、委員トシテ東奔西走日モコレ足テズ、遂ニ彼ノ大鐵道會社ノ整理ヲ引受ケ、其社長トナツテ依托ノ重任ヲ完フセリ、又一方同志ト共ニ日出行行ヲ起スナド、直接間接、日本ノ産業界ニ盡瘁シタル事一々枚舉ニ遑アラサルナリ、三十九年十二月箱根水力電氣株式會社ヲ起シテ社長トナル、當時恰モ經濟界ノ萎靡困難ヲ告ケツ、アルノ際、百難ヲ排シテ之レヲ完成セシメ、又同志ト共ニ肥後精酒會社ヲ起ス等、多年老熟ノ手腕ヲ揮シテ有望ナル前途ヲ望ミツ、アリ。如斯シテ一念ノ至誠ヲ以テ事ニ任ズ、尠ナクトモ肥後出身者トシテ有力ナル先輩タルヤ明カナリ、然ルニ往年「日本及日本人」記者ノナサレタル肥後人物評論中君ノ名ヲ逸セシハ、吾人怪疑ナキ能ハズ、ヨシ君ガ輸入人物ニモセヨ、肥後ナル舞臺面ニハ君ノ登場必須ノ事ニ屬ス、即チ附記シテ餘憤ヲ洩ス所以ナリ

電話下谷 千二百二十八番

前田兼七氏

實業家

日本橋區宮澤町二十八番地

純粹ナル商業家トシテ所謂半官的實業家ト赴キヲ異ニスルハ堀留、富澤町、ヲ中心トスル、各問屋連ナリ、然リ中央商業界ノ振否ヲ窺ハント欲セバ、先ヅ足ヲ此地ニ入レテ車馬ノ洛釋ヲ見サルベカラズ、軒ヲ併ヘテ櫛比スル老舗、繩埃ノ煙ル處ヲ徂來スルニ非スンバ到底中央商業狀態ノ真相ヲ看破スル能ハサルナリ、君亦此一廓ノ雄者トシテ、見識ニ於テ品性ニ於テ、將亦其信望ニ於テ、嶄然頭角ヲ顯シツ、アルモノナリ、動モスレバ頑迷ニ陥リ易スキ此一廓ニアツテ、而カモ新進ノ知識ト人心ヲ收攬スルノ長所トハ、君ヲシテ益々大ナラシメツ、アリ、君ハ先代兼七氏ノ長男ニシテ慶應二年九月九日ヲ以テ生ル、家號ヲ大野屋ト稱シ、太物問屋トシテ營業振斯界ニ定評アリ、君夙ニ共立學校ニ學ビ業卒ルヤ直ニ家業ニ志ス、忠實ナル努力ハ、家運ヲシテ益々向上セシメ、先代ノ經營ヲ繼承シテ克ク時運ノ趨勢ニ合適セシム、尙三十九年、吉村、久保田、市原、等ノ諸氏ト計ツテ株式會社有恒社ヲ起シ、爾來其監查役トシテ今日ニ至ル、四十年同志、前川、菊池、安田、ノ諸氏及舊日鐵ノ少壯家、神戸、久米氏等ト計リ、東洋「モスリン」株式會社ヲ發起シ取締役トシテ發展ニ參劃シ、有望ナル前途ヲ望ンデ其重任ヲ全フシツツ、アリ、更ニ東京商業會議所常議員及議員トシテ多年中央產業界ノ爲ニ奔走ス、更ニ區政ニ至ツテハ、二十九年來一昨年迄區會議員トシテ各種ノ重要問題ニ關與シ其功績頗ル大ナルモノアリシガ、今ハ固辭シテ復タ當面ニ起タスト雖モ、間接ノ盡瘁亦蔽フベカラサル事實アリ、コレ實業家トシ君ノ一面ヲ描寫シタルモノニシテ、更ニ他ノ半面トシテ特筆大書スベキハ、教育事業ニ熱心ナル事ニシテ表面專修大學ノ評議員タルノ外、常ニ私財ノ巨萬ヲ投ジ、天下ノ苦學生ヲ補育シ、既ニ其恩惠ニヨツテ卒業シ社會ニ新進ノ秀才ヲ以テ目セラレツ、アルモノ頗ル多數ヲ算シ現ニ修學中ノモノ亦多數ヲ有ストイフ、亦以テ高潔ナル人格ヲ窺フニ足ラズヤ。

電話浪浪 八百五十五番

洲戶吉漸氏

實業家

東京市芝區神谷町十八番地

「桃李ハ云ハネド下自ラ深ヲナス」自ラ名利ヲ求メントシテ人ヲ排スルハ紛々タル現下ノ世俗思想ナリ、サレド未ダ若干ノ具眼者ヲ有ス、營々努メテ止サレバ自然ノ發露アリ、君ノ如サハ正ニ後者ニ屬スル者乎、ソノ眞面目ナル、其忠實ナル、蓋シ當代稀レニ見ル所ニシテ人格ノ高潔ナル而シテ眞摯ナル實業家トシテ好典型ヲ有ス、乞吾從ヲシテ暫ク其略傳ヲ語ラシメヨ。

君ハ舊丸龜藩士、先考典昌氏ノ男、文久四年四月二十六日ヲ以テ生ル、先考典昌氏ハ郡奉行トシテ德政ヲ敷キテ其名アリ、君其薰化ヲ得テ得テ夙ニ令聞アリ、幼ニシテ好學才幹衆ニ拔ンデ將來爲スアルノ人トシテ矚目サリ、明治十二年男子須ラク成ス所アラントナシ、決然郷關ヲ辭シ大坂ニ出デ藤澤南岳ノ門ニ遊ビ造詣頗ル課シ、尙英數學ヲ某ノ門ニ入りテ修メ共ニ侮ル可ラザル者アリ、明治十四年大坂商船會社ニ入り効力能ク先輩ノ推服スル所タリシガ十七年考フル所アリ辭シテ海外ニ航シ大ニ自己ノ識見ヲ嵩メ、廿三年歸朝ス、廿四年ニ至リ人ノ勸メニ依リ十五銀行ニ入りテ手代トナル、左レド君ガ學才ト識見トハ永ク下僚ニ潛居スル所ニ在ラズ、累進シテ出納課長トナリ、其敏活ナル手腕ト下僚ニ對スル德望トスルヤ、擢ンデラレテ同店ノ支配人トナル、亦以テ君カ如何ニ業務ニ精勵ニシテ將亦其手腕ノ凡ナラザルヲ窺フニ足ラズヤ。

嗚呼入りテハ家庭ノ團樂ニ其英氣ヲ養ヒ出デ、ハ銀行ノ經營ニ任シ奮闘亦更ラニ余念ナシ、希クハ同行ノタメ且ツハ本邦金融界ノタメ益々貢獻シテ其好果ヲ修メラレンコトヲ。

電話芝 千五百九十番

山本久三郎氏

實業家

會社 日本橋區坂本町三十番地
自宅 本所區横綱二丁目七番地

花謝シテ三春ノ行樂夢ト過ギ、青葉ヲ洩ル、初夏ノ風、既ニシテ炎帝威ヲ逞フシ、流汗瀧ノ如ク、サラテシ
 モ黄塵萬丈ノ都大路、常ニ思ヒ出サル、一盃ノ好飲料、三ツ矢平野水、三ツ矢「シヤンペンサイダー」三ツ
 矢「オレンジ」ハ、獨リ奇抜ノ廣告ニ其名ヲ知ルノミナラズ、各種ノ階級ヲ通シテ需用シツ、アル處ナリ
 不正ナル非衛生飲料ノ續出スルノ際、如上ヲ供給スル常國礦泉ノ功績亦營利一片トノミ見ル能ハサルナ
 リ、東京支店經營ノ重職ヲ帶ビ、日常一切ノ方面ヲ擔當シテ辣腕ヲ揮ヒツ、アル、山本支配人ソモ如何ナ
 ル經歷ヲ有スルカ、君ハ群馬縣駒形町ノ出身ニシテ龜井家ニ生ル、後山本氏ノ養嗣トナツテ現姓ヲ冠ス
 夙ニ慶應義塾ニ入ツテ理財ノ學ヲ修ム、級中腕白ヲ以テ自他共ニ任ズ、シカモ資性ノ敏慧ハ確カニ將來有
 爲ヲ以テ矚目セラレタルハ事實ナリキ、卒業後、北海炭礦鐵道會社ニ入り、幾モナクシテ故中上川彦治郎
 氏ノ知遇ヲ得、其經營ニナル山陽鐵道ニ入り運輸課ノ下級社員トシテ忠實ナル精勵ヲ以テス、此幸捧前後
 三年、遂ニ拔擢セラレテ徳山車船連絡所ノ所長トナリ、海陸連絡ノ大任ニ當ル、時ニ年僅カニ二十五、爾來
 鋒芒屢々發露シテ手腕亦進境ニ入り、多度津運輸事務所所長ニ累進シ將ニナスアランドシテ鐵道國有ノ事
 アリ、時ニ日清紡績會社創立ニ際シ、招カレテ事務長トナリシガ、四十二年春盟友中谷整治氏ト相倚リ相
 扶ケテ帝國礦泉ノ經營ニ任ジ、以來支配人トシテ東奔西走席温ルナク、殊ニ盛夏ノ頃ノ活動ニ至ツテハ
 彼ノ十時ニ出勤シテ食堂ニ二時間ヲ費シ、旨判ヲ捺シテ三時ニ退ク底ノ所謂當世重役支配人連ト日ヲ同
 フシテ語ルベカラサル、顧フニ該飲料ノ需用ニ至ツテハ、去ル三十年以來引續キテ宮内省並ニ東宮職御買
 上ノ光榮ヲ賜リツ、アルノ外、東西大學醫科病院其他私立病院ヲ始メ、公園ニ、宴會ニ、「ホテル」ニ、劇場
 ニ、俱樂部ニ、集會ニ、運動競技場ニ、將家庭ニ、缺クベカラサル常備品ナリ、外ニ其過半ヲ割イテ輸出シツ
 、アアル如キ、蓋シ君等活動ノ具體現ト稱スルニ足ル、好漢願クハ健在ナレ。電話浪四〇九番下三一三三

水品平右衛門氏

長野縣長野市選出衆議院議員

神田區西小川一丁目一番地

實業界ニ身ヲ投シテ天職ヲ全フシ、國富培養ヲ以テ君國ニ報ユルノ道トシ、孜々怠リナク實果ヲ揚ケテ
 世ニ致サムトスルハ君ガ理想トスベキ所ナラザルカ、君ハ文久元年九月ヲ以テ長野市ニ生ル、幼ニシテ
 上田藩ノ儒者加藤天山ノ門ニ入りテ苦學シ次デ師範校ニ上リ後東京ニ出デ尺振八ノ塾ニ英學ヲ修メ又明
 治法律學校ニ學ベリ、明治二十年以來信濃毎日新聞社ノ取締役トナリ、長野市制實施セラル、ヤ直ニ市
 會議員并ビニ參事會員及ビ議長トナリ、次デ同地選出縣會議員ト爲ル、此間公共事業ニ盡瘁スル所甚ダ
 大ナリ、尙實業上ノ方面ニ至ツテハ長野倉庫株式會社社長、長野電燈株式會社取締役、信濃林業商會取
 締役、信濃毎日新聞社副社長、信濃新聞取締役等ノ任ニアツテ奔走計籌シタル處決シテ妙カラサルナリ
 現ニ其大部分ハ關係スル處ニシテ、殊ニ同地商業會議所會頭トシテ産業ノ發展ニ努力シタルモノ、市民
 ノ感謝シテ措カザル處ナリ、既ニシテ衆望ノ推ス處トナリ、三十五年新選舉法實施ト共ニ選出セラレテ
 衆議院議員トナリ、更ニ四十一年第十回總選舉ニ再選シ、立憲政友會ニ所屬シテ北信八州團中ノ錚々タ
 リ、曩日其關係ノ長野貯蓄銀行ガ商業的ノ不可抗力ニ依テ蹉跌ヲ生スルヤ君亦若干ノ餘波ヲ受ケタリシモ
 今ハ整理ヲ終ツテ舊狀ニ復活セントシツ、アリ、這般、野田轉通男、池上伸三郎氏ト計ツテ日本建築用
 製紙株式會社ヲ起シ、君選ハレテ社長トナリ、孜々トシテ同社ノ發展ヲ劃シ、江東松倉町ニ事務所及工
 場ヲ設ケ、新式機械ノ据付、新工場ノ増築等、大活動ノ準備中ニアリ、同社事業ノ性質ハ頗ル眞摯ノ者
 ニシテ、經營者タル君ノ人格ト手腕、并ニ主要目的(輸入品驅逐)等ヲ綜合シ、更ニ社會進步ノ趨勢ヨリ
 觀スレバ、未來ノ有望亦豫メ期スルニ足ル、殊ニ過般初陣トシテ前橋共進會ノ建築ニ用ヒタル狀況及專
 門家ノ鑑賞シテ止マサル等ハ、既ニ品質ヲ證明シツ、アリ、社運ノ盛否ハ當ニ君等ノ努力如何ノミ、希
 クハ君健在ナレ。

金谷藤次郎氏

實業家

下谷區谷中清水町一番地

氣宇軒達ニシテ、清廉潔白ナルコト宛カモ光風霽月ノ如ク操行泰然トシテ確乎不拔ナルニト狂瀾怒濤中ニ屹立シテ動カサル巖ノ如ク、抱負雄大ニシテ眼中權勢富貴ナキハ是レ倉庫銀行重役、金谷藤次郎君ニ非ズヤ、君ハ埼玉縣ノ人、先考喜平氏ノ長男ニシテ安政四年三月十六日ヲ以テ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ漢籍並ニ數學ヲ郷里ノ兩誼塾ニ學ビ、尙ホ儒者鈴木本交陵ニ就テ漢籍ヲ學ビ、造詣亦侮ル可ラザルモノアリ、嘗ツテ郷里ニ晴耕學舍ナルモノヲ設ケ郷童ノ教育普及ニ努メ、後明治十七年官選四ヶ村聯合戶長トナリ次デ學務委員、蠶紙検査委員等ヲ經テ、廿三年埼玉縣浦和郡役所ニ勤メ、郡書記トナリ居ルコト一年郷里出身ノ緣故ニ依リテ濫澤男ノ知遇ヲ得引見スル所トナリ、明治二十三年第一銀行ニ入り庶務係トシテ十年一日ノ如ク孜々トシテ努メ精勵些ノ倦怠ナク、其間能ク蓄財シテ友人ノ危急ヲ救ヒ、或ハ資ヲ投ジテ勉學セシメシナド友情ノ厚キ稀ニ見ル處ト稱セラル、如斯キハ云フ可クシテ行ヒ難キ事ニシテ君ノ友人等ハ常ニ其徳ヲ頌シテ止マザリキト、明治三十五年ノ春、福田、中村、稻茂登、齋藤、等ノ諸氏相寄リテ株式會社倉庫銀行ヲ設立シ君ヲ聘シテ同行ノ支配人トナス、茲ニ於テカ君斯界從來ノ弊風ヲ矯メ、同行ヲシテ堅實隆盛ニ趣カシメント欲シ、拮据經營一日ノ如シ、遂ニ其功空シカラス今ヤ同行ガ堅實ナル銀行トシテ同業間ニ喧傳セラレツ、アルモノ、寔ニ君ガ精勵ナル高價ヲ拂ヒタルニ因ラズンバアル可ラズ、宜ナル哉、倉庫銀行ノ隆盛ナルト共ニ金谷支配人ノ名聲噴々タル、次デ四十一年取締役トナリ支配人タル事舊ノ如シ、吁、滔々トシテ德義地ヲ拂フノ今日君ノ如キ篤實ノ士アルハ吾人苟カニ意ヲ強フスルニ足ルモノアリ、君人トナリ温良慈心ニ富ミ、幾多公共事業ニ盡瘁シツ、アルヤ數フルニ遑アラザルナリ希クハ自重加養益々公共ノタメ貢獻セラレンコトヲ。

電話下谷 千八百九番

上田千次郎氏

實業家

日本橋區元濱町一番地

吳服、風呂敷、『ハンカチーフ』ノ問屋、吉田屋ノ經營者ハ衆議院議員高橋政右衛門氏ナリ、而シテ氏唯一ノ股肱トシテ勤績茲ニ三十年、精勵勤格模範的使備人ト稱セラレツ、アルハ君ナリ、本年一月、店主ニヨツテ勤績滿三十ヶ年功勞紀念ノ式ヲ舉ゲラレ汎ク世ニ紹介セラレタルヲ知ル、茲ニ其閱歷ノ摘記ヲ掲ゲ、世ノ後進ノ模範タラシメントス、君ハ出身近江國愛知郡日枝村字吉田ノ人ニシテ、明治元年二月ヲ以テ生ル、夙ニ實業ヲ以テ家道ノ興復ヲ計ラントシ同郷ノ好ヲ以テ東都高橋氏ニ身ヲ寄ス、爾來忠實一貫全力ヲ盡シテ主家ノ爲ニス、其間ノ功績ニ至ツテハ到底具體示スルニ遑アラスト雖モ、彼ノ紀念式ニ於テ店主高橋代議士ガ、滿腔ノ謝意ヲ拂ツテ涙ト共ニ朗讀シタル式辭ノ一節ヲ以テ窺フニ足ル、曰ク『三代ノ主ニ仕ヘテ忠勤渝ラズ』曰ク『特ニ明治十五年ノ財界不況商業大恐慌ニ遭遇スルヤ、本店亦意外ノ危機ニ陥リキ、時ニ氏齡猶若シト雖モ、至誠克ク主家ヲ思ヒ、苦辛慘憺店運ノ挽回ニ盡瘁シ、努力經營其道ニ適シ、竟ニ本店今日ノ盛運ヲ見ルニ至ラシム、嗚呼氏ハ實ニ我が家ノ柱石ニシテ其勞其功多大ナリ……』トコレ簡潔ニシテ而カモ良ク其功蹟ヲ語ルモノニシテ同店今日ノ繁榮ハ、店主ノ徳ト、總監督タル君ノ献身の努力ニ外ナラサルナリ、其品性ノ美トシテ傳ヘラレタル逸話亦尠ナカラスト雖モ、曾テ故父君ノ生前ヨリ家屋地所等ノ他ニ抵當トナリシモノアリシガ、十九歳ノ折、豫ネテ貯蓄シタル賞與金等ヲ以テ其負債ヲ償却シテ所有ヲ復歸セシメタルガ如キ、亦十三歳ヨリ四十三歳ノ今日迄一夜タリトモ主家ヲ明ケタルナシトイフガ如キ、店主屢々獨立營業ヲ勸ムルモ、君尙主家ヲ思ヒテ店務ヲ營ミ、日夜孜々トシテ怠ルナク、店員ヲ獎勵シ、後進ヲ指導シ忠實今モ昔モ變渝ナキ等實ニ尊キ君ノ經歷ハ、亦以テ生意氣盛リノ青年ノ訓トナスニ足ル、敢テ物色シテ天下ニ推薦スル所以ナリ。

電話浪花 九百十八番

田中常徳氏

實業家

龜町區中六番町二十一番地

三菱式實業ナル實業界トシテ君ノ手腕ハ、郵船會社時代ヨリ定評アル處ナリ、資性ノ忠實ハ各種ノ事業上ニ流露シテシカモ蔽ハントシテ能ハズ、今其概歴ヲ摘センニ、君ハ東京府士族田中常則氏ノ二男ニシテ萬延元年正月八日ヲ以テ生ル、明治十六年七月兄常作氏方ヨリ分家シテ一家ヲ創立ス、夙ニ三菱商業學校ニ入ツテ勉學シ、成績常ニ優等ニシテ早クモ未來ノ大成ヲ嚮望セラル、卒業後直ニ同校ニ教鞭ヲ執ルヤ熱心ヲ以テ事ニ任ジ、幾多後進ノ爲ニ盡シタルモノ亦尠ナカラサリキ、既ニシテ聘セラレテ日本郵船株式會社ニ入ルヤ、精勵勤格同輩ヲ壓シ、屢々重用セラレテ樞機ニ參ス、累進シテ同社調度課長トナリ、復雜繁多ノ業務ヲ處理シテ一糸亂レズ、後年辭シテ麒麟麥酒株式會社ノ取締役トナル、蓋シ同社ノ出資者ハ、岩崎家ヲ中心トシテ、三菱系ノ實業家ヲ以テ成立シ、或ル意味ニ於テ三菱ノ間接事業ト稱セラル、即チ君ガ此任ニ就キシ所以、如何ニ手腕ト人格トヲ信賴セラレタルカヲ知ルニ足ラズヤ、尙靜岡縣ノ茶葉家ト共ニ謀ツテ日本共同製茶株式會社ヲ起シ、選ハレテ監查役タリ、這般、日本『セルロイド』株式會社ヲ創立シ專務取締役トシテ渾身ノ精力ヲ灑キツ、ケリ、即チ『セルロイド』(人造護謨)ノ汎ク世ニ行ハレタルハ最近ノ事ニシテ、需用方面ノ廣キ事亦頗ル大ニシテ當時加工品ノ範圍亦極メテ廣大ナリ然ルニ其大部分ハ原料ヲ仰クニ外國ヲ以テシ、年々ノ輸入亦巨額ヲ示シツ、アリキ、爾來君等ノ奮勵如何ハ、影響スル處尠ナカラサルモノアリ、今ヤ播州ノ一角ニ根據地ヲ置キ、大ナル希望ヲ擁シテ、君一流ノ實質ナル活動ヲ以テシツ、アリ、事業ノ性質ト經營者ノ手腕及人格ハ、同社ノ隆昌豫メトスルニ足ル、即チ此祝福ヲ意味シテ蛇足ヲ加ヘ、以テ本稿ヲ結ハムト欲ス。

電話番号 千五百十三番

日比重明氏

沖繩縣知事

沖繩縣知事官舎

老熟圓滿ヲ以テ同儕ニ信望ヲ有シ、克ク下情ニ通シテ民意ヲ容ル、沖繩令尹日比重明君、當代地方官中稀ニ見ルノ有材ト稱セラル、試ニ其概歴ヲ究ムレバ、君ハ勢州三重郡菰野藩主土方家ノ舊臣ニシテ、嘉永元年五月廿七日ヲ以テ其城下ニ生ル、夙ニ藩ノ碩儒ニ就テ學ヲ修メテ英才ノ名ヲ恣ニス、明治三年五月菰野藩々議院副議長トナリ兼ヌルニ學校少參事ヲ以テス、コレ君ガ身ヲ官界ニ投ズルノ動機ニシテ、シカモ維新勿々ノ難務ニ處シテ手腕ノ凡ナラサルヲ認容セラレキ、同年十一月菰野藩大參事ニ就職シ、爾來熱心勤格ヲ以テ事ニ任ジ、同七年五月三重縣第一大區々長仰付ラル、地方ニ於ケル君ノ行政的手腕ハ遺憾ナク發揮シ、同十一年六月出テ、東京府御用掛仰付ラル、同年十一月東京六等屬ニ任ズ、爾後累進シテ三等屬トナル、同十六年九月、高知縣一等屬ニ榮轉ス、榮進シテ同十九年九月高知縣書記官トナル同廿三年十月和歌山縣參事官ニ任ジ、在職六年頗ル縣政ノ發展ニ盡瘁ス、廿八年四月同縣書記官トナリ卅年八月千葉縣書記官ニ轉ズ、卅二年一月更ニ沖繩縣書記官ニ轉ズ、コレ君ガ今日ノ位置ヲ得テ縣民ニ瞻仰セラル、ノ端緒ナリ、同年二月、兼任臨時沖繩縣土地整理事務官トナル、卅八年四月同縣事務官トナル、卅九年四月、日露事件ノ功ニヨリ勳四等旭日小綬章及金千圓ヲ下賜サル、四十一年四月、沖繩縣知事ニ任ジ、高等官二等ニ昇進ス、コレ君ノ官歴ノ大要ニシテ、永キ官生活中各任地ニ於ケル功績ニ至ツテハ一々具體示スルニ遑アラスト雖モ、前後九年沖繩諸島民ノ爲ニ計圖スル忠實ハ、君ガ地方長官トシテ初陣ナルニ係ハラズ、早クモ令聞ヲ傳ヘラル、所以ナリ、況ンヤ温厚ナル同情アル老紳トシテノ私生活ヲ窮フニ於テ、一層敬慕ノ念ヲ禁スル能ハサルナリ。

福島九兵衛氏

實業家

日本橋區通二丁目十八番地

正直ハ無形ノ資本ニシテ又成功ノ要素ナリ、故ニ人苟モ正直ナランカ天幸福ヲ下シ盛運ヲ齎スコト必然ナリ誠ニ君ノ如キハ正直ト勤勉ノ力ニヨルノ人ナリ。

聞ク君ハ尾州ノ人森善六氏ノ三男ニシテ明治二年十二月ヲ以テ呱呱ノ産聲ヲ揚グ、早クモ實業ヲ以テ身ヲ立テント欲シテ明治二十年上京シテ銀座三丁目ノ松島佐助氏方ニ仕ヘ忠實ニ主家ヲ守リテ大ニ信用ヲ得タリ、時ニ福島九兵衛氏、君ノ正直ニシテ且ツ敏腕ナルヲ知リ懇望サレテ同家ノ養子トナリ襲名シ克ク家業ニ努メ、測量器ヲ製造シテ大ニ改良ヲ加ヘタリ、明治二十七年舶來品ヲ模造シテ其精巧實ニ完美ナリ、明治三十七八年日露戰役紀念五二會品評會アルヤ、測量器械造圖器械ヲ出陳シテ二等賞銀牌ヲ得大ニ同業者ニ頭角ヲ顯ハシ益々製品ヲ完全ナラシムルニ至レリ、君常ニ心懸清ク佛ヲ信仰シ尤モ日蓮上人ヲ信シ厘毛ト雖モ決シテ道ナラザル利慾ニ心ヲ寄セズト云フ而カモ資性温厚ニシテ決シテ他ト爭ハズ日常ノ勤務家業ニ熱心精勵ニシテ慧眼機敏商略ニ富ミ斯業界ニ鼻祖ト仰ガレシヲ以テ其才能卓越ノ人タルコトヲ推想スルヲ得ルナリ、即チ堅實ナル信仰ノ上ニ樹テラレタル安心立命ハ、君ノ家運ヲシテ繁昌ナラシムル唯一ノ原動力ニシテ、君ノ品性ヲシテ愈々向上セシメツ、アル所以ナリ、希クハ福祉永ク同家ノ上ニアラン事ヲ。

電話本局 七十一番



清水虎吉氏

實業家

本郷區向ヶ岡彌生町三番地

『柔カナル手綱モテ、怒レル馬ヲ繋ギ得ベク、吹ク風ニ逆ラハデ柳ハ枝ヲ折ラヌゾカシ』トハ之レ千古ノ金言ナリ剛直ハ一時ノ勇謙順ハ百年ノ壽、識ルトモ褒ムトモ人ハ人、我ハ我レナリ、知ラレタリト喜バズ知ラズトモ慍ラズ、這般ノ主義ニヨリ悠々自適業務ニ耽リ其職ヲ全フシツ、アルハ君ナリ、而シテ其人ヤ主義アリ識見アリ、堂々タル自信ヲ唱導シテ會テ屈セズ、吾人ハ君ヲ評シテ眞面目ナル實業家ト稱ス蓋シ如上ノ性格ヲ有スレバナリ、君ノ人物ヲ評論セルモノハ前年其實業雜誌ニ之レアルモ餘リニ尊敬ノ情溢レテ徒ラニ贊辭ヲ以テ紙面ヲ埋ム、想フニ如斯ハ君ノ知遇タルノ所以ニアラズ、吾徒ハ管ニ君ノ小傳ニ止メ敢テ評語ヲ省略ス。

聞ク君ハ元ト古河藩士、先考清水四兵衛氏ノ長男ニシテ慶應二年八月ヲ以テ呱呱ノ産聲ヲ揚グ、夙ニ實業界ニ身ヲ投ジ曩キニ第三銀行營業部長ニ推舉セラレ良ク其重任ヲ全フシツ、現時ニ及ベリ、此間幾多ノ行務ニ軼掌シテ愈々其手腕ヲ發揮シテ成績大ニ擧ガリ令聞亦行名ト共ニ噴々タルモノアリ、君亦中央實業界中新進氣鋭ヲ以テ喧傳セラレツ、アリ、顧フニ安田門下ノ實業家ハ、多數ハ同一型ニシテ、手腕ノ辛辣ト稱センヨリモ、寧ロ堅實ヲ以テ定評アリ、而カモ機ヲ見ルノ明ト、一度決定シテ事ニ從フヤ勇往邁進初一念ヲ貫徹セズンハ止マサルノ意氣ハ共通性ナリ、君亦一面ノ代表者トシテ推舉スルニ足ル、希クハ他ク迄モ實實ニ、而シテ最後ノ玉成ヲ遂ケラレン事ヲ。

電話下谷 八百十番

伴田六之助氏

實業家

自宅 麹町區五番町九番地
商店 日本橋區兜町四番地

商戰場裡ニ於ケル勝敗ノ數ハ機先ヲ制スルト否トニ依リテ岐ル、先ズレバ人ヲ制スト古人既ニ是ト言フ
機ヲ見ルノ明ト、先ズルノ敏捷トハ商人タル者ノ最大要素也、殊ニ株式仲買業ノ如キ最モ具體的ニ這般
ノ理ヲ表象シテ餘リナシト言フ可シ、而モ是萬人ノ宜ク成ス處ニアラズ、亦難イ哉、九六商店主伴田六
之助氏ノ如キ、眞ニ宜ク機微ヲ得タル人ト云フ可ク、其成功亦當然ノ事而已。

氏ハ大坂府平民伴田六三郎氏ノ長男トシテ文久三年五月五日ヲ以テ生ル、幼時ヲ商業ノ地ニ育チ、既ニ
商才横溢ス、明治十年居テ東京ニ轉ジタリシガ、氏恒ニ外國人相手ノ商業ニ注目スルアリ、依ツテ横濱
ニ於テ外國商館ニ絹物類及雜貨ノ賣込店ヲ開キ、天京ノ商才ヲ揮ツテ巨利ヲ得、偶外國ニ於ケル日本雜
貨ノ販賣ノ好望ヲ聞キ、一ハ商業研究ヲ兼ネテ明治二十年米國ニ渡航シ、日本雜貨商店ヲ開始シ、經營
スル事五年間、巨萬ノ富ハ遂ニ成ル、於茲二十五年歸朝ス、日清戰後、諸事業ノ勃興ト共ニ株式賣買ノ
隆盛亦驚ク可キモノアリ、機ヲ見ルニ敏ナル氏ハ直チニ東京株式取引所仲買人ニ加入シ兜町ニ店舗ヲ開
キ仲買ノ業務ニ從フ、爾後今日ニ到ル十數年、精勵怠ラズ、着實ニシテ機敏ニ、店舗ヲ經營ス、其結果
九六商店ノ名ハ苟モ株式ニ心アル者ノ注意スル處トナリ、同業者ノ信用亦厚ク、駁々トシテ隆盛ニ趣キ
ヌ、顧客ノ信用ト確實ナル營業振トハ慥ニ同業者間ニ覇ヲ稱フルニ足ラン、株式ノ事タルヤ凡人ノ能ク
爲ズ處ニ非ズ氏ノ如キ商才亦稀ニ見ル處ト言フ可シ。

電話番町 千四百〇三番

電話浪花 八百九十四番

全 千六百二十番

辰野宗義氏

實業家

牛込區若松町五十五番地

昔者赤門ノ秀才トシテ未來ノ有爲ヲ囑望セラレ、今ハ臺銀理事トシテ熱誠一貫ヲ以テ事ニ任ズ、我辰野
君、ソモ如何ナル經歷ヲ有スルカ。

君ハ舊會津藩士辰野宗城氏ノ長男ニシテ明治二年ヲ以テ生ル、宗城氏ハ維新後仕官シテ北海道ニ到リ、各
區長、警部長等ニ歷任シテ北門ノ文明開拓ニ盡シタルノ功績アリ、君其人格ノ薰化ヲ受ケテ品性ニ及ホ
シタルモノ抄ナカラズ、明治十六年上京シテ三島中洲翁ノ二松學舎ニ入り、専ラ漢學ヲ修ム、後獨逸協
會ニ入り、高等中學ヲ經テ同二十四年帝國大學法科(獨法)ニ入り、刻苦精勵同廿七年ヲ以テ卒業ス、當
時ノ同窓皆當代ニ異彩ヲ放ツ、曰ク國際法ニ於ケル中村進午博士、曰ク、憲法ニ於ケル副島義一博士曰ク
東京取引所ニ於ケル松岡辯理事等コレナリ、幾モナクシテ中村進午氏洋行ノ事アリ、其職タリシ早稻田大
學法律科講師ニ適任ナキヲ以テ、君ニ懇請シテ代理タラン事ヲ薦ム、友誼上之レヲ容レテ教鞭ヲ執ル、後
辭シテ大藏省ニ入り、奈良縣收稅長ニ任ズ、次テ陸軍省ニ入り、當時次官タリシ故兒玉大將ノ知遇ヲ得
テ同秘書官及參事官等ニ任ズ、更ニ大藏省熊本稅務管理局ニ榮轉ス、三十二年臺灣銀行ノ創立セラル、
ヤ舉ケラレテ理事トナル、當時未ダ政化全ク行ハレズ土匪ノ反抗熾盛ヲ極メタリキ、君赴任ノ當時、家
族ヲ從ヘテ渡臺セルヲ以テ、其邸宅ノ如キモ或意味ニ於ケル危險界ニシテ、時ニ一小隊ノ陸兵ヲ以テ警
衛シ、或ハ常用ノ守衛トシテ巡查ヲ充テシ如キ實狀ナリキ、此間、幾多ノ苦心ヲ以テ同行ノ發展ヲ量リ
同卅六年迄續勤セリ、偶々風土病ノ爲ト、數年來ノ大努力ニヨツテ疲勞シタル神心ヲ養フベク卅七年春
ヲ以テ歸朝ス、希クハ自愛シテ着々理想ノ實現ニ努メラレン事ヲ。

電話番町 千七百七十四番

天野七三郎氏 工業家

府下南葛飾郡隅田村隅田
千五百七十五番地

向嶋ノ上流、水神ノ森ニ程近キ處、四千餘坪ノ敷地ヲ有シ、宏莊目ヲ驚カス天野工場、今ヤ鐵道車輛及諸機械製造業者トシテ、設備ノ完全、規模ノ廣大、斯界ニ比儔ヲ見ズ、製作品ノ販路ニ至ツテハ、年々劇増ノ比率ヲ示シツ、アリ、吾人ガ日常市街電車内ニ於テ車體ノ一隅、天野工場製造ナル署名ヲ見ル、コレナン君ガ工場ノ製作ニ係ル處ナリ、茲ニ經營者天野君ノ概歴ヲ摘記スルモ亦徒爾ナラサルヲ信ズ。

聞ク君ハ京都市ノ人花井宗達氏ノ次男ナリ、家世々八幡宮ノ社司タリ、幼ニシテ學ヲ好ミ嬉戲群童ト異リ弱冠ニシテ京都同志社ニ入り登雪修學數年ニ及ブ、其ヨリ第一高等學校ニ轉シ、三十年卒業シテ更ニ進ンデ帝國大學工科大學ニ入ル、勉學怠リナク見ンゴト優等ノ成績ヲ以テ卒業シテ工學士ノ稱號ヲ得タリ時ニ天野仙輔氏、君カ伎倆ト爲人ヲ知り、乞フテ養子トナス、君同家ノ爲メ盡瘁スル處甚タ大ナリ三十九年養父仙輔氏ノ溘焉不歸ノ客トナルヤ、君ハ事業ノ經營ハ舉ゲテ双肩ニ懸リ、大ニ敏腕ヲ揮フテ縱橫奮進一日ノ休息ナシ、而シテ其事業ニ忠實ナル世ノ定評アル處ニシテ種々新機軸ヲ出ス、工場使用ノ材料タル橡槍「チーク」亞米利加松及金屬ノ如キ其需用ヲ仰グノ地域頗ル廣ク海外ニ迄發展シツ、アリ君カ今日ノ聲譽ヲ得タル一端ハ先代仙輔ノナス處ニアリト雖モ、則チ君ノ温厚ニシテ篤實勤勉ノシカラシムル處大ナルクンバアラサルナリ、君亦人ニ接スル極メテ親切公共慈善ノ事業等ニ盡瘁怠リナシ、寔ニ君ノ如キハ蓋シ當世得易ナザルノ實業家ナリト謂ベシ。

電話下谷 三百七十一番 九百四十二番

松木宗隆氏

伯爵 貴族院議員

府下豊多摩郡内藤新宿添地十三番地

上院ノ中堅、扶桑會ノ俊秀、正論硬議ヲ以テ同志ト共ニ奮闘ス、君亦偉器ナル哉。

當家ハ内大臣藤原鎌足十七世、法成寺關白太政大臣道長ノ第二子、從一位右大臣賴宗ノ後ナリ、賴宗ヨリ二十四世ヲ經テ、世々家職トシテ樂道ヲ採リ、納言大臣ノ間ニ任命シテ從二位宗有ニ至ル、君ハ其四男ニシテ明治元年六月二十八日ヲ以テ京都ニ生ル、幼名ヲ保丸トイフ、同十二年五月家督ヲ相續シ、同十七年七月伯爵ヲ授ケラル、同十八年二月現名ニ改ム、同二十一年六月拜謁シテ天盃ヲ賜ハル、夙ニ學習院ニ入リテ普通學ヲ修ム、當時恰モ同院錦町時代ニシテ、學風自ラ現時ト異ナル處アリ、鬱勃タル其元氣ハ到底一般若殿様ト伍シテ平凡ニ甘ンズル能ハズ、後年日本法律學校ニ入リテ法理ヲ研究ス、蓋シ其見識常隣凡介ノ徒ト日ヲ同フシテ語ルベカラザルナリ、吾人ハ疑キニ松平賴壽伯ヲ論ズルニ際シ、此意味ノ嘆美ヲ洩ス、今ハ再ビ君ニ向テ此言ヲナスノ愉快ヲ有ス、果セル哉卅七年ノ改選期、同族中ヨリ選バレテ貴族院議員トナリ、爾來少壯論客トシテ同志ト共ニ侃々諤々ノ議ヲ上下シ上院改革ヲ唱導シツ、アリキ、偶々扶桑會起リ同志會起ルニ際シ、卒先身ヲ投ジテ多年ノ抛負ヲ現實ス、今ヤ孤軍堅壘ニヨツテ敵軍ヲ瞰下シ、正ニ天下ヲ捲席セントスルノ概アリ、吾徒ハ君等少壯貴族ノ活躍ガ上院ノ迷夢ヲ覺醒スルノ警鐘タルヲ頌スルノミナラズ、動モスレバ消極ニ陥リ易キ上流界ニ此氣魄ヲ鼓吹シツ、アルヲ德トセザルベカラズ、稿ヲ終ルニ際シ不文測ラズ、却ツテ君ヲ傷ケタルヲ憂フ。

松角茂忠氏

實業家

下谷區練堀町五番地

君ヤ素ト學ヲ以テ身ヲ立テントシタルモ國家ノ繁盛ハ實業ニ俟ツアルヲ石破シ多年益雪ノ苦辛ヲ一朝ニ擲テテ實業界ニ投シタルモノ亦一世ノ快男子ナルカナ、君ハ幼少ニシテ學ヲ好ミ喜戯群童ト異リ神童ノ稱アリ、初メ東京英語學校ニ入り見シコト卒業シテ又大學豫備門ニ學ビ、明治十四年退學ス直ニ感スル處アリテ身ヲ實業界ニ投シ種々ナル事業ニ從事スルモ時運到ラズシテ不幸續發ス、サレド君敢テ屈セズ豪モ挫折スルコトナク、明治三十四年三月資本金三十萬圓ノ株式會社昌平銀行ヲ起シ其重役トナル即チ同行ノ出資者島田、鈴木、磯貝、其他ノ數名ハ是レ皆實業界ノ紳商ナリ、君推サレテ取締役トナリ益々業務ノ擴張ニ盡瘁シ、又選バレテ頭取トナル、又一方ニハ自治制施行ノ當時ヨリ下谷區會議員ニ選バレテ次デ府會議員ニ當選ノ榮譽ヲ荷ヘリ、其出身ハ金港ニシテ慶應三年ヲ以テ生ル、乃父ハ山下省二氏トテ舊幕臣タリ、君其次男ニシテ幼名ヲ秀郎ト云フ、幼ニシテ叔父松角武重氏ノ養子トナル君其ノ姓ヲ以テ現名ニ及ベリ、寔ニ君ノ如キハ多方面ノ事業ニ着手シテ屬次最後ノ事業ニ勝利ヲ占メ實業界ニ成功ノ旗幟ヲ樹テタルノ人吾人ハ是ニ於テ君ニ關シテ嚮望スル處益々多カラザルヲ得ズ、世ノ多數ハ權勢地位ヲ擁シテ惡辣手段ヲ弄シ僅カニ虛名ヲ贏チ得テ欣如タリ君ノ如ク誠意誠心ヲ以テ事ニ當ルモノ蓋シ珍ノミ、希クハ自愛シテ益々斯界ノ爲ニ盡瘁セラレン事ヲ。

電話下谷 百 一 番

池田禎政氏

侯爵

府下荏原郡大崎町大字下大崎八十九番地

皇統連綿茲ニ百二十一代、歷朝上ニ英明ノ君ヲ戴キ下ニ忠良ノ民ヲ有ス、系統山緒アツテ尙且君臣ナル善美ノ關係ヲ保ツモノ、眞個櫻花國ノ精華ナリ、而シテ臣民中最モ血統正シキモノ舊公卿及諸大名ニシテコレ亦列國其比ヲ見サル處ナリ、昔ハ山陽ノ雄トシテ三百諸侯ニ一頭地ヲ拔キ、今ハ榮爵ヲ授ケラレテ甲冑界ニ名望アルモノ、コレ舊備州岡山藩主侯爵池田家ナランカ、當家ハ清和天皇ノ皇孫六孫王經基五代ノ裔右馬允池田泰政ノ後胤、紀伊守恒利ノ男池田信輝ノ後ナリ、信輝豐臣秀吉ニ仕ヘテ軍功アリ、其子輝政徳川氏ニ屬シ、精勵忠實、諸侯ニ冠タリ、關ヶ原ノ役軍功アリ、役後播州姫路五十二萬石ヲ領シ、徳川家康ノ二女ヲ娶ル、其孫光政ニ至ツテ備前岡山山三十一萬五千二百石ニ轉ズ、光政天資ノ英明夙ニ學ヲ好ミ偉人態澤蕃山ヲ舉ケテ大ニ厚遇シ、銳意民治ニ努力シ、世稱シテ、新太郎少將トナス、コレ當家中興ノ祖ニシテ、徳川三百年中稀有ノ人材ナリシナリ、其偉績ニ至ツテハ今尙人口ニ膾炙セラレ、或ハ演劇ニ、或ハ稗史ニ、其主人公トシテ物色セラレ、或ハ單行本トシテ世ニ傳ヘラレタルモノ尠ナカラサルナリ、夫レヨリ綱政、繼政、宗政、治政、齊政、齊敏、慶政、茂政、悉ク英主ノ譽アリ、先々代章政ニ至ツテ維新ノ變革アリ、夙ニ勤王論ヲ唱導シ、國事ニ盡瘁シテ偉功アリ、三十六年六月薨去シテ先代詮政ニ至ル詮政ハ慶應元年十二月二十四日ヲ以テ生ル、夙ニ學ニ志シ謹厚ヲ以テ其名ヲ知ラル早クモ公共事業ニ力ヲ用ヒ、近クハ舊藩子弟ノ教育ニ意ヲ須ヒ、進ンテ各種ノ慈善事業ニ對シ、巨額ノ金品ヲ寄贈シテ不遇ヲ賑恤シタル事一々枚舉ニ遑アラサルナリ、思ヒ出多キ去ル四十二年六月一日、一陣ノ狂風荒ンテ永キ前途ノ嚮望ニ副フ能ハスシテ薨去ス、當主復政其後ヲ繼グ、君ハ先代詮政ノ長男ニシテ明治二十八年四月ヲ以テ生ル、今ヤ累代恩顧ノ老臣ノ補介ニヨリ、他日ノ玉成ヲ期シテ學窓ニ修養シツ、アリ、希クハ忠實ナル重臣ノ勤格ト、君ガ大ナル自奮トニヨリ、光榮アル家門ヲシテ長ヘニ發揮セラレン事ヲ。

電話芝 八百八十六番

淺羽靖氏

北海道札幌區選出衆議院議員

本郷區湯嶋三組町八十番地

人生限リアル日子ヲ以テ優勝劣敗ノ巷ニ驅逐シテ成効ノ月桂冠ヲ博スルハ只々時間ノ經濟ト活動ノ方法トニアリ、又易シトナスヲ得ベケンヤ、吾人ハ茲ニ淺羽靖君ヲ傳セントスルニ當リ、冒頭先ヅ君ガ徒歩主義的實行家タルニ敬意ヲ表スル者也、抑君ハ大坂府平民岡渡氏ノ三男ニシテ安政元年一月八日ヲ以テ生ル、幼ニシテ穎悟夙ニ學ニ志シテ東都ニ遊學ス、而シテ當時某家ノ食客トナリテ刻苦勉勵シ、後淺羽氏ノ懇請ニ依リテ其養子トナリ明治十二年分家ス、早クヨリ北海道ノ有望ナルニ着眼シ明治十六年先ヅ官吏トシテ渡道シ、後野ニ下リ天鹽木材株式會社ノ創立ニ盡瘁シ推サレテ其取締役トナル、三十六年札幌區ヨリ選出セラレテ代議士トナリ茲ニ政治的手腕ヲ振フ、其深遠ニシテ適切ナル持論ト、侃々諤々ノ辯ハ已ニ世ノ定評アリ、亦日比谷ノ原頭ニ於ケル一異彩タルヲ失ハズ、尋デ三十九年四月勳四等旭日小綬章ヲ授ケラル、君夙ニ人材養成ノ急ナルヲ悟リシガ、偶々明治二十年北海道ニ一ノ中學教育機關無キヲ慨シ、直ニ私財ヲ投ジテ同程度ノ學校ヲ開キテ先ヅ子弟教育ニ當ル、七年前純然タル中學校ニ改メ北海中學ト命名シテ人材養生ニ努ム、既ニ同校出身者數百名ニ達シ現今四百餘名ヲ收容シ、實踐躬行主義ノ教育ヲ爲シツ、アリ、君恒ニ彼ノ長袖連ヲ罵ツテ其力行的ナラザルヲ慨シ、勞働神聖ヲ呼號シテ北海道ノ曠野ニ自ラ鋤ヲ執リ、開墾ニ農作ニ從シ寸陰有ラバ讀書自修シテ怠ラズ、常ニ美衣ヲ着ケズ、俸給ヲ用ヒズ、粗服徒歩シテ却ツテ身ノ健康ヲ誇ル、眞ニ政界稀ニ睹ル處ノ人物ナリ、資性淡泊ニシテ豪快、理性ニ強クシテ而モ人ニ篤シ、志ハ常ニ國家ヲ放レズ、又後進ノ誘掖ニ勤メラル、故ニ區内ノ信望厚ク、北海道ノ天地亦他ニ見ザルノ覇ヲ稱スルニ至レリ、思フニ君ガ今日ヲ爲セルハ、一ニ空論ヲ離レテ實行ニ重キヲ置キ、精勵天意ニ忠ナリシニ據ラン、吾人ハ今後尙實業界ニ政治界ニ、君ノ手腕ニ待ツ事多キヲ識ルト俱ニ愈加重セラレン事ヲ祈ツテ已マザルナリ。

電話下谷 九百九十五番

磯長鐵之助氏

技 術 家

釧路區下二番町五十二番地

君ガ硫酸製造ノ爲ニ苦心シタルモノ頗ル大ナルモノニシテ、其偉勳ニ比シテ其名聲ノ副ハサルモノ、コレ吾徒ノ憤慨ニ耐ヘサルナリ、シカモ正々堂々男性的氣魄ノ發シテ壯烈ナル薩摩隼人ノ意氣ヲ示ス處、亦以テ輿ニ談スルニ足ル。君ハ文久二年十月鹿兒嶋ニ生ル、先考吉輔氏ハ嶋津ノ家臣ニシテ、維新以前ヨリ產業政策ニ意ヲ用ヒ、日本全土ヲ周遊シテ斯界ノ爲ニ盡シタル者極メテ大ナリ、君亦此薰化ヲ受ケテ人格修養ニ資スル處アリ、既ニシテ西南戰役起ルヤ、豫テ尊服スル南洲翁ノ陣ニ馳セント焦慮セシモ、一方ハ年少ノ故、一方ハ乃父ノ病臥等ノ故障ノ爲途ニ志ヲ果サズ、平定後出テ、東都ノ人トナリ、印刷局幼年技生トナル、爾來刻苦精勵製藥課ノ秀才ヲ以テ嚮望セラル、ニ至レリ、累進シテ技手トナリ、官制變更ノ爲メ御料局ニ轉ズ、此間前後十有餘年、技亦大ニ進歩ス、此當時博士西川虎之助氏ノ知遇ヲ得、君亦親炙シテ其高弟タリ、即チ同博士ガ、大坂硫酸株式會社ヲ創立スルヤ、君亦伴ハレテ同社ニ入り技師トシテ計策スル處極メテ大ナリキ、廿八年同博士ノ推薦ニヨリ、東京人造肥料株式會社技師トナリ、同社製產品ノ主要原料タル硫酸製造ノ任ニ當リ多年精勵ヲ以テ同社ノ發展ヲ助長セシメタルヤ爭フベカラサル事實ナリ、三十九年二月事業視察ノ爲メ歐米各國製造工場ヲ巡遊シ、歸來着々新機軸ヲ出サントス、會々重役更迭ノ事アリ、忠實ナル君等ノ策言却テ用ヒラレズ、快々トシテ樂マザルモノアリキ、然リ、新任某氏ハ、人格ノ下劣ナル、人物ノ狭少ナル、片々タル一小才子ニ過キササルハ、尠クトモ消息通ノ知ル處ナリ、君此下風ニ立ツテ節ヲ任クルヲ潔トセズ、主義ノ爲メ地位ヲ棄テ、高踏勇退シ、爾來浪人生活ニ甘ニスルモ、其造詣、其人物到底永ク池中ノ者ニアラサルベシ、今ノ世、主義ヲ售リ節ヲ任ゲテ「パン」ノ爲ニ犠牲トナルモノ比々皆然リ、嗚呼君ノ高潔吾人滿腔ノ敬意ト、同情ヲ拂フニ躊躇セサルナリ……喬木ハ兎角ニ風ニ惱マサル……吁

電話番町 一四四三番

田中武兵衛氏

實業家

麴町區單町十四番地

古聖賢ノ曰ク、志ヲ守リテ道ニ忠ナレバ事必ズ就ルト、眞ニ然リ、然ルニ現代ノ人多クハ多岐ニ涉リ廣クシテ淺ク精義入神ノ志ヲ守ル者鮮シ、是成功者ノ少キ所以ナル可シ、君ノ如ク宜ク自家信念ノ貫徹ニ忠ニシテ遂ニ今日ヲ成セル又稀ナリト云フ可シ。

君ハ嘉永五年先代武兵衛氏ノ長男トシテ江戸ニ生ル、幼名ヲ定二郎ト云ヒ家督ヲ相續スルト共ニ數名ス家代々酒類販賣及兩換ヲ業トス、今ヤ其富府下多額納稅者タリ、君夙ニ時代ノ風潮ヲ洞觀シ銀行業ノ有望ナルヲ悟リ、遂ニ明治二十年麴町銀行ヲ創立ス、時人尙經濟界ノ本義ヲ解セサル者多ク君ノ策ヲ以テ誤レル者トナシ、切々忠告シテ已マザリキ、然レ共君ハ斷々乎トシテ衆議ヲ排シテ曰ク、人何ゾ余ガ信據ヲ知ランヤ、余ハ其信ズル處ヲ爲サン而已、群妄ノ言ノ爲メニ信念ヲ狂グルハ是怯者ナリ、何ゾ逡巡センヤト、斯クテ銀行ノ設立セヨレテ業務開始セラル、ヤ、君ハ專心一意同行ノ爲メニ盡瘁ス、茲ニ於テ名望頓ニ揚リ業務大ニ振フ、明治二十八年田中銀行ヲ創立シ、自ラ其頭取トナリテ愈々敏腕ヲ振フ、斯クテ行務漸次多端トナルヤ、君ハ業ノ多岐ニ涉ルハ大ヲ成ササル基ト遂ニ舊來ノ店業ヲ全廢シテ純然タル銀行家トナリ終ル。

君ハ進取性抵抗性强ク、理性ニ厚ク、而シテ秩序ニ重ク、利殖ニ明シ、一度信ズレバ容易ニ改メズ、誠實道ニ忠ナル是成功ノ素因ナリト言フ可シ、今ヤ株式會社麴町銀行、田中銀行、中央蓄貯銀行ノ相談役木場銀行ノ顧問役ノ重職ヲ帶ビ、區民ニ推サレテ區會議員タリ、名聲錚々眞ニ實業界ノ一傑タルヲ失ハズ。

電話番号 八百八十番

濱口

擔氏

實業家

四ツ谷區駿河橋南町

和歌山ノ勤王家濱口梧陵先生ハ、維新當時愛國ノ志士トシテ邦家ノ爲ニ奔走シ、奇骨稜々一世ノ偉人ナリキ、世々當地ノ豪族トシテ名望遠近ニ聞ユ、先生夙ニ荻生徂徠ノ學風ヲ慕フテ親炙シ、天下ノ名士ト交遊シ、當時幕府ノ外交ニ就テ大ニ感スル處アリ、同志ヲ説破シテ遠航ヲ企テシモ、憚ル處アツテ果サズ、爾來故山ニ退耕シ、泰西新進ノ文武ヲ子弟ニ教ヘテ靜カニ大局ニ意ヲ灑ク、會々紀州侯ノ藩政改革ノ事アリ聘セラレ參政トナリ、爾來和歌山縣參事ニ出仕ス、後出テ、中央官府ノ人トナリ、驛遞正、驛遞頭トナル、既ニシテ野ニ下ルヤ全力ヲ縣下ノ公共事業ニ傾注シ、大堤防ヲ築造シテ連年被リタル海嘯ノ悲惨ヲ防ギタルヲ始メ、道路、橋梁學校等ノ爲ニ東奔西走ス、十二年和歌山縣會議長トナリ、政界ノ前途ヲ洞察シテ本國同友會ヲ組織ス、更ニナスアラントシテ歐米各國視察ノ途ニ就キシモ、其行米國ニ止マリ、不幸病ヲ得テ紐育ノ客舎ニ歿ス、即チ明治十八年四月二十日ニシテ、行年正ニ六十六嗚呼……當主擔君其息子ナリ、明治五年六月二日ヲ以テ生ル、夙ニ乃父ノ薰陶ニ享クル處アリ、明治二十四年成績優等ヲ以テ慶應義塾ヲ卒業シ、尋テ早稻田專門學校英語政治科ニ入り同二十七年卒業ス、更ニ英國「ケンブリッジ」大學ニ留學シ三十五年優等ヲ以テ卒業シ、「バチエロールオブアーツ」ノ學位ヲ領ス、暫ク各方面ノ視察ニ從事シ、三十七年歸朝ス、時ニ第九回衆議院議員總選舉ノ事アリ、何等政黨的地盤ヲ有セザル此新歸朝者ハ、縣民ノ強要スル處トナリ、郡部第一位ノ優勢ヲ以テ當選スルノ光榮ヲ有セリ、滿期後辭シテ復ヒ起タズ、綠族ト共ニ武總銀行ヲ經營シツ、アリシガ四十年ノ大合同ニヨリ、豊國銀行ノ創立セラル、ヤ入ツテ文書部長トナリ忠實ナル事務家トシテ定評セラレツ、アリ、君尙春秋ニ富ム、其英國紳士式ノ眞面ヲ發揮シテ、益々向上セラレシ事至囑ニ耐ヘサルナリ。

電話番号 千六百三十四番

矢木久太郎氏

技 術 家

下谷區谷中清水町十七番地

吾妻橋畔ノ一名物、大日本麥酒會社ノ工場ハ、規模ノ廣大ト庭園ノ閑雅ヲ以テ其名既ニ知ラレツ、アリ、即チ同工場ヲ主裁スルモノハ農學士矢木久太郎君ニシテ、札幌麥酒時代ヨリ拮据經營其任ニ當リツ、アリ試ニ其閱歷ヲ摘記スレバ。

君ハ出身石川縣金澤市、家ハ世々前田家ノ臣下タリキ、夙ニ普通學ヲ終ツテ農科大學ニ入り農藝化學科ヲ修ム、二十七年卒業シテ札幌麥酒會社ニ入ル、爾來少壯技師トシテ未來ヲ嚆望セラル、事頗ル大ナリキ、遂ニ會社ヨリ見學ノ爲メ海外ニ差遣セラル、コレ同社ヨリ技師ヲ留學セシメタル嚆矢ニシテ、在留前後三年間、英吉利、獨逸、亞米利加、『デンマーク』等ノ諸國ヲ巡歴ス、殊ニ伯林『ミュンヘン』等ニ於テハ特種ノ注意ヲ拂ヒタリキ、三十二年歸朝シ、時ノ事務取締役植村澄三郎氏ノ推薦ニヨリ、技師長ノ重任ヲ帶シ、往年大合同ニ至ル迄孜々トシテ發展ニ努力シ、由緒アル札幌『ビール』ノ聲價ヲシテ益々向上セシメツ、アリキ、先是明治三十六年、同社擴張準備ノ爲メ、植村專務渡歐ノ事アリ、君亦隨行シテ各方面ノ專問的調査ニ從事シ、歸來地ヲ吾妻橋畔ニ相シ、植村氏ト協力參劃シテ一大理想的工場ヲ建設スルニ至リシナリ、コレ現時ノ大日本麥酒會社吾妻橋工場ナリ、三十九年合同シテ大日本麥酒ノ創立成ルヤ、君亦同社ニ入り、前記工場長トシテ熱心例ニ依テ例ノ如ク、職名ニ於テ若干ノ變更ナリト雖モ身ヲ麥酒釀造ニ投シテ茲ニ十有七年、研究苦心一貫シテ變渝ナシ。

君爲人温厚篤實、極メテ質實ナル處技術家トシテ好型ヲ有ス、曾テ其功ヲ誇ラズ、謙讓ノ美自ラ具ハル、亦同社必須ノ人材タルノミナラズ、駒場出身ノ一異材タラズンバアルベカラサルナリ。

入江爲守氏

貴子 族院議員

麻布區筈町百十七番地

系ハ尊ク身ハ重ク、一家ノ榮へ幾世變ル處ナシ、實ニ譽高カル所以ヲ知ル可シ、當家ハ内大臣藤原鎌足十二代權大納言長家ノ裔、權中納言藤原爲條ノ二男相尙ノ後ナリ、相尙一家ヲ立テ、入江ト稱ス、數世ヲ經テ從五位爲福ニ至ル、是先代ナリ。

君ハ正二位伯爵冷泉爲理氏ノ第三子ニシテ明治元年四月二十日ヲ以テ生ル、幼名ヲ太美麿ト云フ、明治七年十二月先代爲福ノ養子トナリシガ、早ク父ヲ喪ヒテ其後ヲ襲ヒ、名ヲ改メテ爲守トナス、明治十二年十二月從五位ニ叙セラレ、十六年殿學ヲ仰付ケラル同十七年子爵ヲ授ケラル、同二十六年六月正五位ニ陞叙セラレ、同三十年六月從四位ニ叙セラル、明治三十年貴族院議員トナリ、次デ二回尙今日其職ニ在リ、君夙ニ三嶋中洲ノ二松學舎ニ入り漢學ヲ修メ、東洋道德ノ根本義ヲ闡明シ、中洲翁ノ人格ニ感化サル、處勢ナカラズ、殊ニ詩歌ニ堪能ニシテ清風光月ノ閑是文事ニ居ル、近時泰西文明ノ輸入ニ伴フテ東洋固有ノ道德思想ノ萎靡スルヲ慨シ、二松學舎出身ノ名士ト相謀リ、明治三十六年六月一日ヲ以テ二松義會ヲ興シ、自ラ其會長トナリ東洋道德ノ鼓吹ニ努メ、華奢柔弱ノ風ヲ矯メ、徹頭徹尾中洲翁ノ遺訓ヲ遵守シテ自ラ中流ノ柱砥トナリ、并セテ二松學舎ノ發展ト後進ノ誘掖トニ力ヲ致ス、君ハ推サレテ其會長トナリ、能ク衆望ヲ集メテ會ノ隆興ニ盡シ、昨四十二年七月二十一日ヲ以テ財團法人ノ認可ヲ受ク尙故翁ノ銅像建設ヲ劃シ今ヤ其ノ據金募集中ナリト。

君資性温雅ニシテ氣宇宏大、柔弱ニ陥ラズシテ而モ轉達、朝ニ立ツテ卓見衆ヲ壓シ、潛ミテ國家道德後進誘掖ノ事ニ盡サル、眞ニ當代華族社會稀ニ見ル人ト云フ可シ、吾人ハ評隲ス可ク多クヲ順ミルノ要ヲ見ズ、只推讃シテ其永キ將來ヲ待ツ而已。

電話芝 千九百九十八番

中谷 整治 氏

實業家

大坂市南區北橋谷町五四番地

三ツ矢印平野水ノ歴史ハ、彼ノ多田滿仲ノ發見セル者ニシテ、兵庫縣河邊郡多田村字平野ノ溪間ヨリ一晝夜二萬八千立方尺ノ炭酸瓦斯ト共ニ一萬五千石以上ヲ噴出シツ、アル鑛泉ナリ、爾來疾病ニ特效アル靈泉トシテ遠近ニ傳ヘラレ、春風秋雨茲ニ千有餘歲、去ル明治十六年ノ交、英人「ガラン」氏ガ其完全無缺ヲ世ニ紹介シ、翌年平野水ト命名シテ發賣シ、現時ノ三ツ矢印「シャンペンサイダー」「三ツ矢印」オレンヂ」等ノ原料トナスニ至リシモノニシテ今ヤ該鑛泉ハ「アポリナリス」「アルプス」「カル、ス」等ト共ニ世界四大鑛泉ト併稱セラレツ、アリ、近者其需用方面頓ニ激增シ、絶好ナル夏季ノ好飲料トシテ獨リ國內ノミナラズ、過半ヲ割イテ清、韓、浦鹽方面ニ輸出シツ、アリ、此盛況ハ、天然ノ恩惠ト、局ニ當ル君等ノ努力ト相渾和シテ具體現セラレタルモノニ外ナラサルナリ、然リ、中谷專務亦當代實業界ニ於ケル少壯有爲ノ士トシテ定評アリ、君ハ和歌山縣人中谷三次郎氏ノ次男ニシテ明治三年正月廿四日ヲ以テ生ル、後年親族中谷氏ノ養フ處トナツテ家督ヲ相續ス、夙ニ慶應義塾ニ入ル資性ノ奇峭磊落ハ苟クモ下ラズ、將來政界ニ驥足ヲ伸ヘント志シ、同友亦爾カク豫想シテ止マサリキ、然ルニ一朝感スル處アツテ同郷ノ先輩濱口吉右衛門氏ノ醬油店ヲ經營スルニ至リ、剛放ノ資、粗笨ノ性、到底牙籌ノ人タラスト思ヒキヤ、店務隆昌鬱然トシテ他ヲ厭シ、知人ヲシテ其手腕ニ敬服セシメタリ、卅八年辭シテ該鑛泉ヲ讓リ受ケ、同志ヲ叫合シテ帝國鑛泉株式會社ヲ組織ス、爾來振ハサリシ該事業モ一躍シテ大ナル發展ヲ遂行シ、進運容易ニ計リ知ルベカラサルモノアリ、即チ快刀亂麻ヲ斷ツ底ノ手腕ハ、盟友山本久三郎氏ノ辣腕ト相待ツテ常ニ這般ノ難關ヲ排シテ人ノ意表ニ出ツ、亦敢テ怪ムニ足ラサルナリ、吾人ハ専門的立脚地ニヨツテ同社ノ現狀ヲ觀察シ頗ル優勝ナル成績ヲ知悉スト雖モ、茲ニ數字ヲ以テ說示スルノ煩ヲ避ケ、當ニ責任ヲ以テ其熾盛ナルヲ云フノミ、其供給品ニ至ツテハ獨リ長興博士ノ裏書ノミナラス、當ニ公平ナル需用者ノ鑑識ニ任センノミ。

綾井 忠彦 氏

實業家

府下荏原郡入新井村千五百番地

中央少壯實業家中、人格高キヲ以テ知ラレタル者コレ君ナリ、創業未ダ日淺キニ拘ハラズ、今ヤ本邦第一流ノ銀行ト稱セラレツ、アル村井銀行ニ於テ、事實上日常ノ當面ニ立ツモノ君ナリ、元ヨリ富榮村井ノ信用的後援ノ力大ナリト雖モ、君ノ手腕人格ノ價值亦大ナラズンバアル可ラズ。

君ハ明治實業界少壯人物ノ叢源大分縣ノ人ナリ、實父ヲ伊東清藏氏ト稱シ、君其次男ニシテ明治四年一月十九日ヲ以テ生ル、幼名ヲ儀藏ト稱ス、二十八年十月、綾井忠吉郎氏ノ養子トナリ翌二十九年六月分家シテ一家ヲ立テ而シテ後現名ニ改ム、普通學終ルヤ笈ヲ負フテ東都ノ人トナリ、東京郵便電信學校ニ入ル、卒業後大志ヲ抱イテ北米合衆國ニ留學ス、時正ニ明治二十三年ニシテ年齒漸ク二十歳ノ青年ナリキ、在米前後六年、幾多ノ苦心ヲ經テ造詣大ニ加ハル、當時專ラ實業方面ノ研究ニ從ヒ得ル處亦淺カラサリキ、二十八年歸朝シ三十一年ニ至ツテ村井兄弟商會ニ入ル、此頃、村井氏ハ「ヒーロー」發賣ニヨツテ社會ノ趣好ニ適シ、實務ノ方法米國風ニ則リ、新機械ノ据附、新工場ノ建造、新人物ノ吸集、新販路ノ擴張等、第二期ノ商戰ニ臨ミツ、アルノ時ナリキ、君此要求ニ應ジテ出納役トナリ、彼ノ有名ナル業煙草千五百萬封度購入及「トラスト」成立等ニ際シ、屢々樞機ニ參シテ貢獻尠ナカラズ、遂ニ信任愈々厚クシテ愈々重用セララル、前年煙草專賣ノ實施セラレテ同社ノ解散セララル、ヤ、新ニ組織セラレタル合名會社村井銀行ニ入り、營業副部長トナリ更ニ進ンテ營業部長トナル、爾來複雜繁多ノ局ニ當リ、致々トシテ努力シツ、アリ、醜ツテ其居常ヲ窺ヘバ、品行方正趣味ノ高潔ナル、當代ノ所謂實業家ノ滔々ト軌ヲ異ニシ、常識圓滿英國式紳士ノ風格ヲ具フ、君尙春秋ニ富ム、希クハ奮闘ヲ吝ム勿レ、而シテ知遇ニ辜負スル事勿レ。

三枝代三郎氏

實業家

京橋區銀座町三丁目七番地

銀座街ノ一角、宏壯ナル洋館ヲ大本營トナシ、舶來雜貨ノ輸出入卸商ト食料品ノ輸出ヲ以テ商業戰線ノ延長ハ、歐米大陸南洋諸嶋ニ及ヒ日本ニ於ケル比隣ヲ見サルモノ、コレ君ガ管理シツ、アル伊勢與商店ナリ其祖先ハ甲州武田家廿四將ノ一人三枝勘由左衛門ノ裔ナリ、後世歸農シ土地ノ豪族ヲ以テ聞ユ、先代與三郎氏夙ニ大志アリ、二十四歳志ヲ決シテ郷里山梨縣東山梨郡岡部村字松本ヲ出テ相識ノ間ナル幕臣平田作之進ノ下ヲ訪フ、願レハ故山ノ樂園ヲ棄テ、好ンデ辛キ經驗ヲ求メント欲シタルナリキ、既ニシテ當時ノ英國公使館員「サトー」氏ニ邦語ヲ教ヘ、深ク其信賴ヲ受ク、君蓄積ノ資金六十五金ヲ以テ業ヲ起サントシ、「サトー」氏ヲ去ツテ古洋服古靴諸雜貨ヲ横濱ヨリ購入シ、店舗ヲ築地ニ設ケ更ニ麥酒、葡萄酒ヲ販賣ス、コレ三枝商店ノ創立ニシテ爾來克ク時機ヲ洞察シテ着々効ヲ奏ス、明治五年火災ノ爲ニ入船町ニ轉ジ三年ニシテ再ビ其厄ニ遭フ、次テ現所ニ轉ジ、爾來冲天ノ勢ヲ以テ日々繁榮シ、今ヤ其取引額ハ頗ル大ナル者ニシテ、韓國京城、布哇「ホノル」、府ニ支店ヲ置キ、目下大連ニ其計劃ヲ樹立ス、尙、二三銀行、會社ノ創立、商業會議所員、及府會議員トシテ盡瘁怠リナク、中央實業界ニ異彩ヲ放チ、彼ノ親族故舊屋龜五郎氏ト共ニ銀座ノ名物男トシテ好箇青年立志ノ龜鑑タリ、代三郎氏ハ其養子ニシテ、府下中野ノ富家淺田家ヨリ入ル、慶應三年二月ヲ以テ生ル、二十三年懇望セラレテ先代ノ養子トナル、爾來、拮据經營養父ノ事業ヲ介輔シ、新進氣鋭ノ器ヲ擁シテ業務ヲ擴張ヲ計ル、先年來養父依病俗事ヲ避クルヤ、君其箕裘ヲ繼承シテ一切ノ局ニ充ツ資性温厚篤實シカモ牢ト拔ク可ラサル見識ト、手腕トヲ有ス、前年馬來半嶋ニ於ケル護樹殖林、及小笠原、臺灣、兩嶋ニ於ケル同業計劃ニ大ナル熱心ヲ拂ヒ、日本ニ於ケル先覺者トシテ隱レタル偉功アリ、今尙多忙ノ時間ヲ割イテ研究シツ、アルモノ亦以テ徳トスルニ足ル。

電話新橋 十番 全 三千九百二十七番

平松末吉氏

技術家

芝區二本榎四町三番地

日本唯一ノ瓦斯會社トシテ、東京瓦斯ノ規模廣大ナル、敢テ吾徒ノ叟々ヲ要セサルナリ、年々歳々擴張ニ次クニ擴張ヲ以テシ、刻時モ底止スルナキ發展ハ、蓋シ一面ニ於テ社會ノ要求ニ合適スルト、一面ニ於テ經營者ノ人物ガ巧妙ニ配劑セラレタルニ依ラズンバアルベカラズ、君亦技術上ノ首腦トシテ同社ノ中樞ナルノミナラズ、日本ニ於ケル斯界ノ「オウソリチー」トシテ衆多ノ許シツ、アル處ナリ。

君ハ福岡縣士族狩野爲二氏ノ次男ニシテ明治二年九月七日ヲ以テ生ル、幼ニシテ先代圓平氏ノ養子トナリ現姓ヲ冠ス、夙ニ帝國大學工科ニ入り應用化學ヲ專攻シ、成績常ニ優著ヲ拔ク、在學中主トシテ瓦斯ニ關スル研究ニ腐心シ、早クモ該事業ヲ以テ世ニ立タント志ス、廿八年卒業シテ直ニ横濱瓦斯會社ニ入り、幾モナクシテ東京瓦斯會社ノ招聘ヲ受ケテ同社ニ轉ズ、三十年四月副支配人トナリ、一面技術上ノ造詣ヲ開披シテ新機軸ヲ出スト共ニ一面、事務家トシテ非凡ノ技量ヲ發揮セリ、三十三年瓦斯事業視察トシテ英、獨、二國ニ差遣セラレ、綿密ナル精査ヲ遂ケテ歸朝ス、翌三十四年工務課長トナリ、兼ネテ技師長トナル、爾來世ノ進運ト伴フテ尤大ナル同社ノ進歩ヲ輔ケ、孳々トシテ勩格ス、昨年七月取締役ニ舉ケラレ、工務部長トシテ活動亦例ノ如シ、而シテ入社以來君ガ努力ニヨツテ値シタル貢獻モ一々具體示スル能ハズト雖モ、隆々タル同社ノ盛況ヲ見バ、敢テ何等ノ引例ヲ要セサルナリ、尙頭腦ノ明晰ナル品行ノ方正ナル、同人間定評アル處ニシテ、技術家トシテ優逸ナルノミナラズ、事務家トシテ適當ノ手腕ヲ有スルハ、亦世人ノ知悉スル處ナリ、更ニ吾人ハ、君ガ直接ニ間接ニ瓦斯事業ノ發達ヲ企圖シツ、アル誠熱ヲ徳トセサルベカラズ、好漢幸ニ健在ナレ。

電話芝 千六百六十八番

村上義雄氏

石川縣知事

石川縣金澤市

君ハ舊熊本藩士ニシテ弘化二年五月ヲ以テ熊本縣熊本市大字内坪井町ニ生ル、明治七年七月初メテ職ヲ東京府十等出仕ニ奉ジ、編纂取扱ヲ命ゼラル、同八年四月東京府中屬ニ任ジ、翌九年六月東京府九等出仕ニ任ジ、同十年一月東京府二等屬ニ任ジ、此年八月東京府一等屬ニ任ゼラル、同十三年五月庶務課長ニ任ジ、翌十四年十二月參事院御用掛ニ任ゼラル、同十五年三月參事院議官補ニ任ジ、同年五月正七位ニ叙セラル、同十六年二月高知縣大書記官ニ任ジ、十八年四月内務省少書記官ニ任ゼラル、此年八月兼任參事院員外議官補ニ任ズ、同十九年三月内務省縣治局次長ニ任ジ、同年七月長野縣書記官ニ任ジ、同廿二年四月廣島縣書記官トナリ奏任官二等ニ叙セラル、同廿三年十月新潟縣書記官ニ轉任ス、同廿六年三月德島縣知事ニ任ゼラレ、高等官二等正五位ニ昇叙ス、同廿九年八月臺中縣知事ニ轉任シ、同卅一年五月臺北縣知事ニ任ジ、兼任新竹縣知事トナリ、從四位ニ叙セラル、同卅五年五月轉ジテ石川縣知事ニ任ゼラル、同卅九年日露戰役前後ノ功勞ニヨリ勳二等旭日重光章ヲ授ケラレ並ビニ金三千圓ヲ下賜セラ、今ヤ從三位高等官一等ノ高位ニアリ、而シテ君尙公務ノ傍ラ各種ノ公共事業ニ盡力奔走シテ賞牌賞金ヲ授ケラレシ事數フルニ追アラザルナリ、今ヤ縣民舉ツテ模範的能吏ヲ得タリト烈稱シツ、アリトイフ、而シテ試ニ在職中ノ逸事ヲ錄スレバ到底小篇本書ノ盡ス處ニアラサルモ、常ニ輿論ニ耳ヲ傾ケ、民情ヲ參酌シテ忠實ナル而シテ同情アル施政ノ方針ニ出テツ、アルハ其治蹟ノ上ニ流露シツ、アリ、嘗テ臺灣在職中ニ於ケル偉績ノ如キハ、儘カニ特筆大書スルニ足ル、即チ如上ノ實例トシテ其一ニヲ掲ケンニ、廿九年日清戰役了後、新ニ臺灣ヲ版圖ニ加フルノ事アリ、後故兒玉大將ガ、印綬ヲ帶ビテ總督トナルヤ、君切ニ乞フテ共ニ渡臺シ、故大將ニ親灸シテ屢々用ヒラル、一ト度臺中縣知事トナルヤ、當時治政ノ難務ハ瘴惡ナル生蕃ノ處置ナリキ、然ルニ是先本國政府ハ嚴命シテ日本式行政法ヲ施行セシメタ

ル結果未開ノ土民、安ンゾ能ク服セン、却テ益々反抗シ、禍乱底止スル處ヲ知ラサラントス、君深ク憂フル處アル、土民ノ風習性狀ヲ綜合シテ施政ノ誤レルヲ察知シ、精神的ニ彼等ヲ心服セシメント苦慮スル久矣、有ユル手段ヲ案ジ、時トシテ危險界ヲ冒シテ彼等ニ接近スルナド、辛ギ經驗ヲ以テ遂ニ土民中ノ德望家ヲ説キ、間接ニ彼ノ配下ノ徒ニ訓示シテ日本政府ノ同情アル統治方針ヲ、根本的ニ注入セシメ或ハ直接團徒ヲ集合シテ、人倫ノ大本ヨリ種々道德上ノ講話ヲ聞ク等、拮据精勵徐ロニ彼等ヲシテ理解セシムルニ努力ス、果セル哉、至誠天地ヲ貫キ、土民ヲシテ歸順セシメ上聖明ノ高恩ニ泣カシメヌ、如斯ハ到底戰勝ノ餘威ヲ以テスル極端ナル武斷政策ト結果ヲ異ニス即チ常ニ奇功ヲ奏シテ着々歩武ヲ進歩セシメタリ、亦天則會ナルモノヲ起シテ善良ナル習慣ニ薰化セシメント欲シ、先ヅ彼等婦女ノ幼時ニ於ケル纏足ノ弊ヲ一掃セシムルニ着手シ蠻風ナル所以ヲ説示シ遂ニ感化スルニ至レリ、如斯シテ間接ナル修養ニ成功スルヤ、更ニ局面展開武德會ヲ起シテ尙武ノ氣魂ヲ養成シ、熾ニ日本武士的美風ノ注入ニ盡力セシ如キ、機ヲ見ルノ明擒縱自由ノ妙、圓轉滑脫ノ味、到底常鮮凡介ノ企テ及フ處ニアラサルナリ又近クハ日露戰役當時國民後援ノ責務果サシムル爲ニ、東奔西走シタルガ如キハ、決シテ職務ニ對スル責任ノミニアラスシテヨク以上ノ大ナルモノアリシハ縣民等シク感謝シテ止マサル處ナリ。



市原盛宏氏

實業家

四谷區大番町四十三番地

君ハ安政五年四月肥後國阿蘇山麓宮地村ニ生ル、即チ同村ノ豪農井上氏ハ其生家ニシテ、幼ニシテ阿蘇家ノ舊臣市原氏ニ養ハル、幼ニシテ神童ノ稱アリ、明治六年選拔セラレテ熊本洋學校ニ入ル在學中教師「チエーンズ」氏ノ薫化ヲ受ケテ基督教信者トナル、同九年卒業シテ京都同志社ニ入り神學科ヲ修ム、卒業後同校ニ教鞭ヲ採ル事七ヶ年此間兼ヌルニ幹事ヲ以テシ、新嶋社長再度洋行中其代理タリ、同十九年仙臺東華學校ニ創立ニ際シテ其副校長ニ招聘セラレ經營三年基礎ノ樹立スルニ及ンテ任ヲ辭シ、渡米シテ「ニール」大學大学院ニ入り政治、經濟、社會ノ學ヲ修メ、在學三年「日本蠶糸貿易」ト題スル卒業論文ヲ提出シテ「ドクトル」オブ、フイロソフヒ」ノ學位ヲ受ク、廿五年秋英國ニ渡リ、更ニ佛、獨、埃、伊、等ヲ視察漫遊シテ歸朝ス、幾モナクシテ時ノ日銀總裁川田氏ノ知遇ヲ得テ同行ニ入ル、此前後英國貴族「スベンサー」卿、米國「ジョゼフ、クック」英國「ベレスフォード」卿ノ來遊ニ際シ、演說通譯ニヨツテ大ニ江湖ノ嘆賞ヲ受ク、廿九年日銀大坂支店長代理トナリ、大ニ手腕ヲ揮ヒ、再ビ本店附トナリ次テ名古屋支店長トナル、在職一年本店ニ復歸シテ金庫局長心得トナル、三十二年二月、山本總裁時代ノ大破綻トナリ君亦職ヲ辭シ第一銀行ニ入ツテ本店副支配人兼検査課長トナル三十二年六月渡韓シ各開港場及ビ内地ヲ巡遊ス、後同行橫濱支配人トナリ、三十五年濫澤男ニ隨ツテ歐米ヲ漫遊ス、歸來橫濱市民ノ推ス處トナツテ同市長トナリ、好評噴々タリシガ後辭シテ復ビ第一銀行ニ入り、取締役ヲ兼ヌルニ韓國支店長トナリ、熱誠以テ事ニ當リ、日露戰役當時隱レタル偉功ノ如キハ亦沒ヌベカラサルナリ、這般韓國ニ於ケル中央銀行トシテ韓國銀行ノ起ルヤ、推サレテ總裁トナル、定ニ絶好ノ適任者ト稱スルニ足ル。

電話番号 二百五十七番

三村 周氏

三村鐵工場主

京橋區月島東仲通三丁目二番地

近時我國ノ事業界ニ一畷ヲ投セバ、駁々トシテ冲天ノ概アル工業ノ勃興ニ一驚ヲ喫セザルヲ得ザル可シ、新事實ノ發見、新會社ノ創立、皆工業界ニ屬セザルナシ、眞ニ熾ナリト云フ可シ、斯ル間ニ立チテ、尤大ヲ欲セズ名聲ニ誣ラズ、誠實ヲ旨トシ、着々自家獨特ノ技能ヲ發揮シ、陰ニ斯界ノ一角ニ異彩ヲ放チツ、アル三村鐵工場ハ實ニ我三村周氏ノ經營スル處ナリトス、君ハ東京府士族島崎退藏氏ノ長男ニシテ嘉永五年九月四日ヲ以テ生レ、後三村家ニ入りテ回家ヲ幾フ、君幼ニシテ理數ニ長ジ、夙ニ機械學ニ趣味ヲ有シタリシガ、其一橋學校ヲ卒業スルヤ、橫濱ノ東臺學校ニ入り、西洋人ニ就キテ機械學ヲ研究シ、造詣淺カラズ、同校ヲ出ヅルヤ技師トシテ鐵道廳ニ出仕シ大ニ盡ス處アリ、明治二十九年日本鐵道株式會社ニ入り其保線課長ニ榮進シ、同三十年同社ノ幹部足立太郎氏ト共ニ、信號裝飾調査ノ爲メ歐米ニ派遣セラレ居ル事二年ニシテ歸朝、當時不完全ナリシ信號裝置ノ上ニ改良ヲ施シ名聲大ニ擧ル、次デ三十二年故アリテ同社ヲ退キシガ、氏熟々我鐵道界ヲ見テ其保安設備ニ缺ケタルヲ慨シ、自ラ犠牲トナツテ其研究ト發達ニ與ラントシ茲ニ決然意ヲ決シ私財ヲ投ジテ月島ノ一隅ニ工場ヲ設ケ、着々研究スルニ至リヌ、是現今ノ三村鐵工場ナリ、斯クテ研磨ヲ怠ラザリシト雖モ、元來雜事ヲ以テ知ラレタル信號裝置ノ如キ、素養ニ缺ケタル職工ヲ以テシテハ容易ニ効果ヲ見ズ、君ハ遂ニ自ラ鐵槌ヲ取ツテ職工ト伍シ、銳意熱心研究ト製作トヲ努メシ結果、遂ニ有名ナル聯動裝置信號機ヲ製出スルニ至リヌ、今ヤ同機ハ殆ド全國各停車場ニ使用セラレ唯一ノ保安設備トシテ賞讃サレツ、アリ、君ノ功亦空シカラズト云フ可シ、其他同工場ノ製造ニ拘ル鐵道用具一切ハ他ニ比鑄ヲ見ザル完全ナルモノトシテ、特ニ一段ノ名聲ヲ博シツ、アリ、吾人ハ君ノ小傳ヲ録スルニ當リ、偉大ナル功績ヲ讚スルト俱ニ、一層斯界ノ爲メ盡瘁セラレン事ヲ祈ル者也。

電話浪花 二千八百八十番

千澤 專助 氏

實業家

下谷區柴町二丁目十番地

西諺ニ曰ク欺カザルハ最上ノ商略ナリト、凡ソ商業ニ從フモノ一日モ此ノ心ナカルベカラズ、能ク此ノ理ヲ解シテ實踐躬行會テ懈ルナク、自助ノ功ヲ遂ゲタルモノ之レヲ千澤專助氏ト云フ、抑モ君ハ東京府ノ人先代專助氏ノ長男ニシテ安政四年四月四日ヲ以テ生ル、幼名ヲ重次郎氏ト云フ、後先代ノ名ヲ襲テ專助氏ト改ム、夙ニ和漢ノ學ヲ修メテ出藍ノ譽アリ、幾モナクシテ實業ニ志ヲ寄ス、蓋シ産業ノ發達ヲ計ツテ富國ノ實ヲ舉クルハ、其天資ト一致スル處ナリト自覺セルガ故ナリ、二十六年忍商店ヲ起シテ銀行業ヲ營ミ、徐々ニ發展ノ計策ヲ樹ツ、既ニシテ信用愈々加ハツテ手腕亦世ノ認容スル處トナル、遂ニ組織ヲ變更シテ合資會社ト改稱シ、選ハレテ其頭取トナル、三十一年十月、同志山田、守田山本ノ諸氏ト計ツテ株式會社東洋貯蓄銀行ヲ創立シ、推サレテ專務取締役トナリ日當面ノ局ニ執掌ス更ニ日本煙草輸出株式會社ヲ創立シテ監査役トナル、如斯シテ銳意専心、中央財界ノ一勢力トシテ實質ナル營業方針ニヨリ、幾何級數的ノ邁進ヲ避ケ、算術級數的ノ漸進ヲ以テ、一步ヲ得テ一步ヲ進メツ、アリ、尙一半ノ精力ヲ割愛シテ公共事業ニ盡瘁シ、早クモ區會議員ニ推舉セラレ、次テ市會議員、市參事會員トシテ帝都自治ノ爲ニ奔走計籌シタル事亦以テ偉勳トスルニ足ル、君ノ事業上ノ手腕ニ至ツテハ既ニ前記ノ如ク、而シテ其見易キ例證トシテ、直管ニナル銀行ノ成績ヲ窺ヘバ、敢テ第三者ヲ俟ツテ噉々スルノ要ヲ見サルナリ、換言スレバ、其營業振ノ堅實ニシテ實質ナルハ、即チコレ君ノ人格トナリ手腕ナル、三月花笑フ東莖ノホトリ、七月風薫ル不忍湖畔、其花ノ如ク、其香ノ如ク、長ヘニ君ヲ語ルト觀シテ而シテ敢テ中ラザル歟。

電話下谷 七百四十一番

小林 藤右衛門 氏

實業家

日本橋區通二丁目十八番地

外人本邦ヲ呼フナル『ジャパン』ノ稱ハ、元トコレ漆ノ意義ナリ、由來漆器ハ本邦獨特ノ美術品ナリ、日本橋ノ老舖近江屋漆器店、昔ヨリ斯界ノ問屋トシテ第一流ト稱セラル、代々藤右衛門ヲ襲名シ、土一升金一升ノ中樞ニ根據地ヲ置ク、先代藤右衛門氏ハ維新前種々ナル隱徳ヲ施シテ今ニ其名ヲ知ラル、君ハ其長男ニシテ嘉永三年八月十四日ヲ以テ生ル、幼名吉之助ト稱シ後箕裘ヲ繼クニ及ンデ現名ニ改ム、夙ニ家業ニ執掌シ、刻苦精勵使備人ト伍シテ具サニ商道ヲ研究ス、天資ノ敏俊克ク其秘奧ニ達ス、既ニシテ店務隆昌信用益々加ハリ、内閣賞勳局、陸軍省、日本赤十字社、帝國鐵道院、等ノ御用ヲ破リ、誠實ナル營業ハ俗稱『きん藤』ノ由緒ヲシテ益々向上セシメタリ、如斯シテ銳意自家ノ經營ヲ計ルト共ニ、一面同業者ヲ促シテ眞摯ナル注意ヲ拂ハシメ、不正濫造ヲ避ケ、専ラ德義ヲ主トシ日本特産ノ聲價ヲ復活セシメンス、即チ其頭取トシテ多年盡瘁シタル東京漆器組合ノ如キコレナリ、同時ニ多忙ノ時間ヲ割愛シテ公共事業ニ奔走シ或ハ公ニ或ハ私ニ、或ハ大ニ或ハ小ニ、其私財ヲ投ジテ世ノ孤獨ヲ賑恤シタル事一再ニシテ止マサルナリ尙其德望區民ノ懇請スル處トナツテ日本橋區會議員トナリ、政爭禍亂以外ニ超然トシテ自己ノ所信ヲ斷行シ、亦産業界ノ出資者トシテ將重役トシテ盡シタルモノ尠ナカラスト雖モ、彼ノ東京瓦斯株式會社、日本『セメント』株式會社ノ如キ其主ナル者ニ屬セリ、而シテ自家商品ノ優秀ナルハ、世既ニ定評アル處ニシテ敢テ吾徒ノ噉々ヲ須ヒズト雖モ三十二年第四次漆工競技會ニ於ケル一等金牌、三十三年佛國巴里萬國博覽會ニ於ケル名譽銀牌、卅六年第五回内國勸業博覽會ニ於ケル二等賞牌、同年『セントルイス』大博覽會ニ於ケル金牌、卅九年五二館共進會ニ於ケル有功銀牌、等其主ナルモノナリ、如斯シテ純日本式商人ノ型典ト定評セラル、モノ亦祖先傳來ノ信用地盤ト誠實敦厚ナル君ノ人格ノ具體化セラレタルモノニ外ナラサルナリ。

電話本局 五百〇六番 全 九百八十五番

拓植 咲五郎氏

醫師

府下荏原郡品川町大字北品川宿八十三番地

昔ハ「仁術」ナル尊キ稱ヲ受ケ、爾カモ超然トシテ名利ノ外ニ起ツ、今ハ「醫弊」ナル新熟字ヲ冠セラレテ尙且名利ニ汲々タリ、然リ科學ノ進歩ト共ニ醫術ノ進歩ハ亦爭フベカラサルナリ、サレド醫師ノ人格ニ至ツテハコレト反比例ヲ示シ、幾多ノ罪惡ヲ構成シツ、アル事ガ、匙加減ノ拙劣ニヨツテ生ズル災害(ヨリ以上)ノ害毒ヲ流シツ、アルモ亦實情ナリ、吾人ハ君ヲ評スベク此意味ノ感慨禁スル能ハルナリ、然リ君敢テ學士ノ肩書アルニ非ズ、況ンヤ「ドクトル」況ンヤ博士ノ肩書ニ於ラヤ、此見地ヨリ君ヲ觀スレハ妙タル市井ノ一開業醫ナリ、形式的肩書ト、門戸ノ堂々タルヲ以テ醫師ノ眞價ナリトセバ、此必要條件ニ合格スベク君餘リニ不適當ナリ、桃李ハ云ハネト下自ラ蹊ヲナス、城南刀圭界稀ニ見ル、人格ノ人トシテ推重サレツ、アル所以、亦何等カノ消息ナクンバアラサルナリ、願フニ君ガ高潔ナル品性ハ、青年時代苦辛慘憺ノ産物ニシテ、逆境ノ恩寵ナルニ外ナラサルナリ、夙ニ醫ニ志シ、決然郷里岐阜ヲ去リ東都ノ客トナツテ以來、去ル三十年開業資格受領マデノ學生生活ハ、到底凡介ノ企テ及ブ能ハサル奮闘ヲ以テスル苦學力行ナリキ、爾來誠意誠心、一切ノ虛榮ヲ避ケテ實質ヲ尙ビ、濃厚ナル刀圭趣味ト、懇切ナル性格トハ、患者ニ接シテ忠實ヲ極ム、シカモ此間ノ寸閑ヲ愈ンデ研究亦一日ノ怠リナシ、亦以テ其風格欣仰スルニ足ラスヤ、醫道ノ弊風其極ニ達シ、世ノ識者ヲシテ憂慮セシメツ、アルノ時、新進ノ君、常ニ人格ヲ以テ立ツヲ耳ニシ、物色シテ以テ寸評ヲ加フ、自白ス吾徒ハ君ト一面ノ識ナシト雖モ、日常接觸スル材料ニ於テ、君ヲ月旦スベク頗ル豊富ナリ、換言スレバ未見ノ知己ナリ、サレド過褒ノ辭ヲ陳シテ對問ヲ學フニ非ズ、若シソヲ學バントセバ、物質ニ於テ微々タル君ニ據ラストモ人選別ニアツテ存ス、即チ君ヲ推薦スベク責任ヲ明カニセント欲シ、敢テ附記シテ天下ニ示ス。

電話芝 千三百七十六番

池田 龍一氏

實業家

牛込區天神町十五番地

早稻田大學關係者ヲ中心トシテ、明治四十年ヲ以テ創立セラレタル日清生命保險株式會社ハ、創業未タ日淺キニモ拘ハラズ、新進氣鋭ノ意氣ヲ以テ幾多先輩同業者ヲ凌駕セントシツ、アリ、然リ其被保險人數、諸積立金、等ノ増加ハ、一ハ其組織ノ完全ナルニ因スト雖モ、一ハ主要出資者ノ人物ガ、當代ノ錚々ナルト日常當面ノ局ニ任シツ、アル君ノ人物手腕ガ非凡ナルトニ因セサルベカラズ、試ニ君ガ閱歷ヲ摘記スレバ、其出身ハ愛媛縣、明治五年十月二十六日ノ出生ニシテ池田晋吉氏ノ長男ナリ、即チ縣下有數ノ素封家ニシテ累世富ト徳トヲ以テ聞ヘタル由緒アリ、君夙ニ普通學ヲ終リ、志ス處アツテ二十六年東都ノ游子トナル、贊ヲ城北早稻田大學ニ執ル、三十一年獨逸國ニ航シ、「ライプツヒ」大學及柏林大學ニ學ブ、研究多年造詣大ニ加ハル、既ニシテ柏林大學ニ於テ法學博士ノ學位ヲ受領シ、次テ英、佛、諸國ヲ歴遊シテ見學スル處アリ、三十八年歸朝スルヤ、母校早稻田大學講師トシテ後輩ノ爲ニ指導誘掖ノ任ニ當リツ、アリシガ、日露戰後實業興隆ノ新氣運ニ際シ、前島男、牟田口元學、山田英太郎、田中唯一郎、上遠野富之助、ノ諸氏ト謀リ、日清生命保險株式會社ヲ起シ、君推サレテ專務取締役トナル、爾來精勵一日ノ如ク、深キ造詣ヲ開披シテ發展ニ次クニ發展、擴張ヲ以テシ、其進境測リ知ルベカラザルモノアリ。

君風采清洒、貴公子ノ如ク、其頭腦ノ明晰ナル、其品性ノ高潔ナル、當代實業界稀ニ見ル處ナリ、而シテ一面學究ノ風アルト共ニ、一面計劃ノ才ニ長ズ、堅實君ノ如キヲ得タルハ同社ノ基礎ヲ確立スルニ於テ、絶好ナル適任者ト稱スルニ足ル、希クハ自重シテ終末ノ美ヲ濟サレン事ヲ。

電話番号 千二百三十三番

小西新兵衛氏

實業家

日本橋區本町三丁目三十番地

藥種問屋ノ異屈トシテ知ラレタル日本橋區本町通、幾多頑固商店ノ間ニ介在シテ活動日モ維レ足ラズ、新進氣鋭先輩同業者ノ墨ヲ摩シツ、アル者コレ本章ノ主人公ナリ、君ノ生家ハ京都二條通ニ於テ、連綿六代老舗ヲ以テ知ラレタル藥種問屋小西屋ナリ、君幼ニシテ孤トナリ夙ニ出テ、金港ノ人トナリ、同地唯一ノ藥種商友田合資會社ニ入ル、同社ハ藥種貿易商トシテ由緒アル歴史ヲ有シ、日本斯界ノ雄鎮ヲ以テ鳴ル君有限責任社員トシテ經營ノ局ニ當ル事前後廿年、此間陶治サレタル商業手腕ハ、蓋シ君今日ノ素地ヲ作リタル因ナラム歟、四十年十二月多年ノ老技ヲ擁シテ地ヲ現所ニトシ、獨力ヲ以テ藥種貿易ヲ開業スルニ至レリ、爾來攻々乎トシテ奮闘ヲ持續シ、常ニ新生意面ヲ開クニ力メツ、アリ、友田以來鍛へ上ゲタル手腕ト、刻時モ忽諾ニセサル向上ノ念ハ、渾和シテ愈々店務ヲ發展セシメツ、アリ、吾人ハ君ノ身邊ニ關スル多クヲ傳聞シ、尙カニ至嚮スル處アリ、抄ナクトモ十年後ニ於ケル君ノ發展ハ、今日ナサレソ、アル幾何級數ノ進歩ヲ以テ豫想スベク頗ル快感禁スル能ハサル者ナリト雖モ、徒ニ君ヲ月旦シテ定評スルハコレ知己タルノ謂ニアラズ希望ニ充サレタル前途ヲ望ンテ奮進シツ、アルノ君、雖テ其完全ナル成功要素ヲ具體現シテ、新シキ『レコード』ヲ形成スルノ日ヲ期待スル事ノ妥當ナルヲ信ズ、サリ乍ラ稿未ヲ飾ルベク特筆セント欲スルハ、店員待遇法ニ於ケル新制定ナリ、願フニ君ノ理想トスル處ハ未ダ現實セラレタルモノ其一部ニ過キササルベシト雖モ、店員ヲ遇スル苦心トシテ、同棲ノ意義以上ニ於ケル純潔ナル情誼ニヨリ、温カキ絶体的ノ責任ヲ以テ迎ヘツ、アルハ吾徒ノ意ヲ得タルモノナリ、夜間店員ノ爲ニ講師ヲ聘シテ國語、漢文、英語、等ヲ修得セシムルガ如キ、或ハ種々タル方法ニヨツテ、從來ノ舊慣ヲ打破シタル店員休養法ヲ講シツ、アルカ如キ、蓋シ如上ノ一例ト稱スルニ足ル、希クハ時代ノ趨勢ト一致シテ飛躍一段ヲ加へ、吾徒青年ノ爲ニ萬丈ノ氣ヲ吐カレン事ヲ。

電話本局 二千六百八十番

山内勝明氏

宮内書記官兼式部官

小石川區水道町五十三番地

老齡鏗鏘トシテ壯者ヲ凌ギ、誠忠一貫亦他ヲ願ミズ、共清節ヤ幽香櫻花ノ如ク、其高趣ヤ神逸仙鶴ノ如シ、寔ニ明治聖世官海ノ君子タルモノ、我ガ山内式部官ニ於テ見ル、宜ナル哉、上陛下ノ御親任ヲ忝フシ、下萬民ノ尊敬ヲ受ケテ鞠躬如トシテ奉仕シツ、アリ、茲ニ筆硯ヲ清フシテ其閱歷ノ概要ヲ記サストスルモノ亦以テ此敬意ヲ拂フニ外ナラザルナリ。

聞ク君ハ元ト幕臣先考上川井東太郎氏ノ長男ニシテ、弘化四年三月廿五日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、後チ出デ、山内氏ノ養フ處トナリ其姓ヲ冒ス、幼少藩費ニ入り文武ノ兩道ヲ學ビ造詣大ニ加ハル、明治六年初メテ職ヲ官途ニ執リ入りテ文部省中得業生トナリ、後進子弟ノ教育ニ從ヒ後チ轉ジテ大藏省出仕ニ任ジ、次テ外務省出仕ヲ命セラル、後チ終ニ宮内省ニ入り累進シテ大膳亮ニ任ジ、後チ更ニ宮内省書記官兼式部官ニ任ゼラレ良ク其重任ヲ全フシツ、現今尙其職ニアリ、今ヤ不健全ナル思想ハ各種ノ階級ヲ通ジテ世ヲ荼毒シツ、アルノ時、或ハ貧富懸隔、或ハ富豪ノ桃梁、一種ノ不平分子ヲシテ喧轟タラシメツ、アルノ時、至誠一貫報國ノ爲メ盡シツ、アル君ノ如キヲ得タルハ蓋シ邦家ノ爲メ祝福セザルベカラザルナリ、殊ニ苟クモ職ヲ宮府ニ奉シテ式部ヲ司トル、其人格ト識見ト具備スルニアラズンバ到底此大任ヲ果ス能ハサルナリ、ソレカアラヌカ式部官ノ人物ハ、悉クコレ鐵中ノ錚々ヲ以テ知ラル、ノ群秀ヲ網羅ス、就中君ノ如キハ、老熟圓滿、多年ノ研究ト經驗ヲ以テ事ニ當ル、青年同官ヲシテ常ニ欣仰セシメツ、アルモノ亦以テ故ナキニアラサルナリ、尙家庭ニ於ケル君ノ半面ハ温健ナル老紳士ニシテ、常ニ後進子弟ノ爲ニ扶掖ヲ怠ラサルガ如キ、特ニ附記スルノ價值アルヲ認メサルベカラザルナリ。

電話番町 二 番

河合德兵衛氏

河合銀行頭取

麹町區平河町五丁目十六番地

生存競争ノ激甚ナル現代ノ社會ニ立ツテ、能ク成效ノ月桂冠ヲ得ント欲セバ、必ズヤ百折不撓ノ鞏固ナル意志ト、萬難ニ耐ヘ得ル秀拔ノ精力トヲ并セ有セザル可ラズ、我河合德兵衛氏ノ如キ真ニ其人ト云フ可シ。

君ハ東京府平民河合政藏氏ノ二男トシテ萬延元年三月二十二日ヲ以テ麹町區山本町二丁目ニ生ル、幼名ヲ繁次郎ト云ヒ家ハ代々越前屋ト稱シテ質商ヲ業トシ君ハ其四代目ニ當ル、明治十三年一月家督ヲ相續シ改名ス、夙ニ秀才ノ譽高カリシ君ハ長ズルニ隨ツテ圭角ヲ一層秀デ、勤格ノ性勉強ノ質發シテ家業隆興トナリ家名舊ニ倍シテ大ニ揚ル、明治二十二年株式會社麹町銀行ノ創立サル、ヤ其取締役トナリ、後重役間ヨリ推サレテ常務トナル、次デ明治三十二年十月獨力合資會社河合銀行ヲ創立シテ自ラ其頭取トナリ、拮据能ク行務ヲ整理經營シテ今ヤ巨額ノ積立金ト數十萬圓ノ預金ヲ有スルニ至リ、一般ノ信用厚ク、爲メニ芝區佐久間町ノ同行ハ常ニ繁忙ノ盛況ヲ見ルニ至リ、頃者同區神明町及麹町三番町ニ支店ヲ開設シ、共ニ行務ニ勤メテ一日ノ怠慢無シト真ニ絶大ナル精力ト云フ可シ、又市政發布以來區會議員トナリ現今ニ至ル迄繼續シ大ニ盡ス處アリ、君資性温厚篤實、而モ氣宇宏大ニシテ謙遜、偉大ナル決斷力ニ富ミ、萬根錯雜ノ事ニ出會スルモ鋭斧立處ニ處斷シテ毫モ誤ルナシ、亦博愛仁慈ノ性篤ク、社會公共ノ爲メ或ハ慈善救恤ノ事ニ當ルヤ財ヲ投ジテ吝マズ、定ニ稀ナル篤行家タリ、今ヤ世間滔々風ヲ作シテ人情紙ヨリモ薄ク道德地ヲ拂フノ折柄、君ノ如キ人ヲ實業界ニ得タル吾人ハ、重望推讃シテ尙一層社會ノ爲メ貢獻ノ勞ヲ吝マレザラン事ヲ祈ツテ己マザル也、傳ヲ錄スルニ蕪文能ク盡サズ、乞フ寛宥却ツテ垂教アラン事ヲ。

電話番町 三百七十七番

和合英太郎氏

實業家

京橋區南八丁堀一番地南極河岸五號

製氷事業ノ發達ハ、需用者ノ劇増ト、科學思想ノ發達ニ促サレテ今ヤ益々進歩ノ度ヲ昂メツ、アリ、彼ノ二十有餘年前ニ於ケル、澁澤男、西川工學博士等ノ製氷場設置當時ヲ追想セバ、轉々今昔ノ感ニ耐ヘサルナリ、爾カモ此長足ノ進歩ノ裡面ニハ、尊敬スベキ幾多犠牲ノ血痕ヲ跡メタルニ於テハ、コレ決シテ輕視スベキ問題ニアラサルナリ、君亦同業創立時代ヨリ、技師トシテ亦重役トシテ、其發展ニ參劃ス心勞蓋シ察スルニ餘アリ、君ハ舊蕪州淺野家ノ重臣ノ家ニ生レ、先考ハ同藩屈指ノ人物ニシテ、主家ノ厚遇ヲ受ケ同家ノ柱礎ヲ以テ自他共ニ任シツ、アリキ、君幼ニシテ工學博士西川虎之助氏ハ養ハル、博士ハ學識人格共ニ秀テ、碌々ヲ拔ク事一頭地、英國式紳士ノ好型ト定評セラレタルノ士ナリ、君此家庭ニ薰化ヲ受ケ、人格ノ修養ハ素ヨリ、専門學識ノ造詣亦茲ニ受ク、即チ製氷事業ニ關スル智識ハ、全然博士ノ衣鉢ヲ傳ヘラレタルナリキ、次デ機械製氷株式會社ノ設立セラル、ヤ、斯道専門ノ技師ヲ求ムル能ハス、君ヲ聘シテ萬端ノ設備ヲ任セシム、即チ製氷場失敗後、皮肉ノ歎ニ耐ヘサリシ君ハ、好機到レリトナシ、全力ヲ舉ケテ經營ニ從事シ、中川專務ト協力シ、西川博士ノ後援ニヨリ着々業務ヲ進捗セシメ、頗ル有利ナル事業トシテ世人ノ注目ヲ引クニ至リ、需用亦頗ル巨額ヲ呈示シ、到底其設備ヲ改ムルニ非ンバ、顧客ヲシテ満足ナラシムル能ハサルニ至レリ、遂ニ四十年組織ヲ變シテ増資シ、五十二萬五千圓ノ株式トナシ、稱ヲ日本製氷會社ト改メ、中川氏ヲ社長ニ君ハ專務取締役トシテ旗幟堂々商戰場裏ニ出現シタルナリ、如斯多年ノ苦心空シカラズシテ今日ノ成功ヲ見ル、吾人單ニ君ノ爲ニ祝福スル者ナランヤ、堅實ナル會社ノ營業方針ト、君ノ人格トハ、社務ヲシテ向上セシムベク絶好ノ武器ナリ、希クハ健闘更ニ一段ナラン事ヲ。

電話新橋 四千四百七十四番

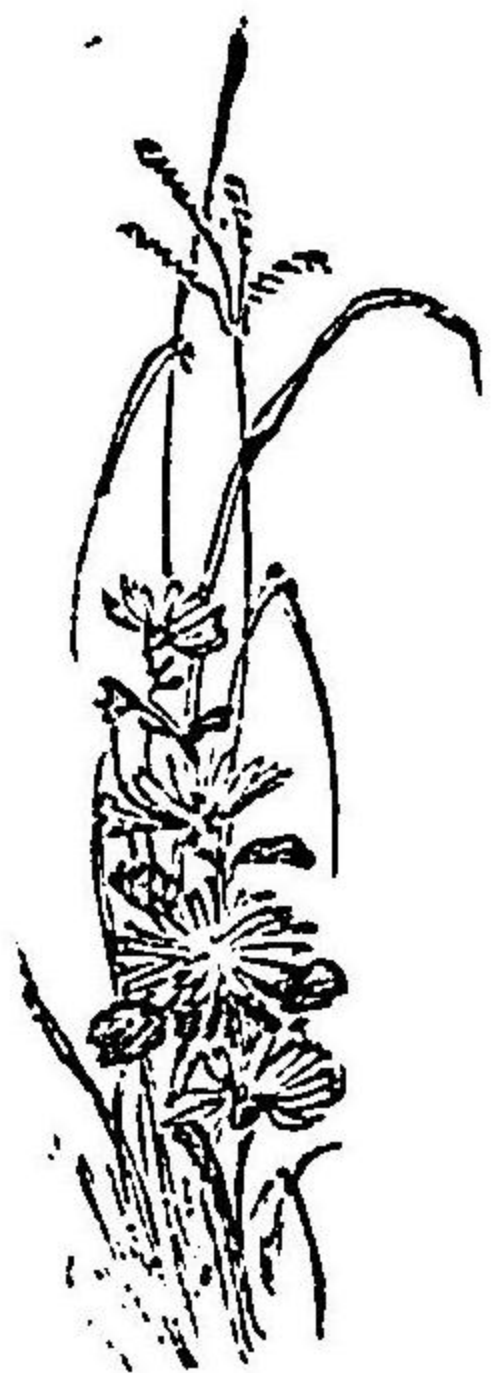
中村達太郎氏

工科大学教授
工學博士

小石川區原町十三番地

工學ノ發達ハ、日本文明ノ『バロメートル』ナリ、中村博士早クモ斯學ニ研鑽ヲ積ンデ、本邦造家學界ニ
 貢獻セラレシ、功績亦偉大ナリ、今茲ニ其閱歴ノ大要ヲ草センニ。
 君ハ舊名古屋藩士、萬延元年十一月ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、幼少夙ニ工學ニ趣味ヲ帶ビ、工學寮ニ入り
 業卒ハルヤ、直チニ工部八等技手ニ任ジ、營繕局勤務ヲ仰付ラル、次デ皇居御造事務局十四等出仕ヲ兼
 任セラル、明治二十年工科大学助教授トナル、同年工學士ノ稱號ヲ授ケラル、幾干モナクシテ内務省技
 師試補ニ任シ、同廿五年建築法研究ノ爲メ歐洪ヘ留學ヲ命ゼラレ、専門諸大家ニ親灸シテ大ニ得ル處ア
 リ、即チ翌廿六年歸朝ス、後チ工科大学教授ニ任ゼラレ、又震災豫防調査委員ニ推舉セラル、次デ卅年
 印度『アッサム』地方ヘ派遣セラレ親シク彼土ノ實況ヲ踏査シテ歸朝ス、明治卅二年終ニ工學博士ノ學位
 ヲ授ケラレ、並ニ勳六等單光旭日章ヲ賜ヒ、從五位ニ叙セラル、尙名古屋高等工業學校設立設計委員、臺
 灣總督府廳舍築設計審査委員等ヲ經テ、遂ニ正五位勳四等ニ叙セラル、君亦當代學術家中ノ一異材トシ
 テ後昆ニ傳フルニ足ル、現今ハ從四位勳三等ナリ。

電話番号 二千六百十八番



青田綱三氏

實業家

下谷區三ノ輪町八十九番地

吾徒一日子爵相馬順胤氏ヲ訪フ談會々舊藩人物ノ月旦ニ及ブ、子ハ舊臣青田君ガ、本邦鐵道事業ニ於ケ
 ル功績ヲ賞揚シテ止マザリキ、然リ吾徒モ亦君ガ市街高架鐵道ノ嚆矢トシテ、其勇斷ト高度ノ企業性ト
 ヲ多トスル者ナリ、往年總武線ヲ延長シテ兩國迄市街高架鐵道ヲラシメントスルヤ、區民ノ反對劇甚ヲ
 極メ、種々ナル形式ニヨツテ之レガ轍回ヲ運動セリ、サレド君此難關ヲ排シテ遂ニ今日ノ効果ヲ收ムル
 ニ至リシナリ、如斯シテ一度志スヤ、目的ヲ貫徹スベク意志ノ堅實ナル到底他輩ノ企テ及ブベカラサル
 アリ、聞ク君ハ舊相馬藩士ニシテ、弘化元年八月十九日ヲ以テ生ル、維新ノ際藩命ヲ以テ近習目付兼小
 納戸役ヲ命ゼラレ、明治三年更ニ同家ノ家扶トナル、同四年廢藩置縣ノ際藩主ニ從ツテ帝都ニ上リ爾來
 前後廿八年餘舊主ニ忠勤シ同家ノ財政ヲ整理シ功勞尠ナカラザリシトイフ、之ヨリ先キ君明治廿二年十
 二月彼ノ總武鐵道株式會社創立ノ舉アルヤ、選バレテ取締役トナリ、三十二年其社長ニ推舉セラレ經營
 參劃些ノ怠リナク着々トシテ隆盛ノ佳境ニ入ラシメシモノ至ク君ノ力大ナルモノナリト謂ツベシ、前年
 國有ニ歸シ其清算ヲ了ツテ完全ナル結果ヲ見ルニ至ラシム尙外ニ東武鐵道株式會社取締役ニ推舉セラレ
 之又着々隆盛ノ佳境ヲ見ルニ至レリ、而シテ令息幸吾氏並ニ敏氏亦少壯氣銳ヲ以テ聞ユ、前者ハ現今陸
 軍歩兵少佐ニシテ少壯軍人中ニ頭角ヲ顯ハシ、後者ハ曩キニ株式會社東京銀行神田支店長、城北煉瓦株
 式會社取締役トシテ令聞アリ、今ヤ父子相待テ其才腕ヲ恣ニシツ、アリ亦榮ナラズヤ。

電話下谷 六十九番

飯田又右衛門氏

實業家

豊多摩郡中野大字中野
三千九百六十四番地

天命ヲ知ルハ人生ノ機微ニ接シタルモノナリ、此信仰ハ人トシテ圓滿自在ノ境ニ入ラシム、セテ辛キ世ノ風波ニ航シテ彼岸ニ達セント欲ス、須ラク輕舉ヲ以テ此大事ヲ敢行シ得ベキニアラザルナリ。

急かすば濡れざらましを旅人の

あこより晴る、野路の村雨

寔ニ此消息ヲ解シテ餘リアルニアラズヤ、君ノ如キハ此古歌ヲ彩色スルニ文明ノ實質ヲ以テシタルノ士ナランカ、君ハ府下豊多摩郡中野町ノ人、嘉永三年十一月ヲ以テ生ル、先代又右衛門氏ノ長男ナリ代々雜穀味噌問屋ニシテ正直ヲ以テ聞ユ、君夙ニ村治ニ與リ去ル二十三年町村制施政以來町會議員、學務委員、等ノ名譽職ニ在リ、今ヤ株式会社中野貯蓄銀行ノ頭取トシテヨク守成の才腕ヲ振ツテ其本分ヲ全フシツ、アリ、抑モ中野貯蓄銀行ハ去ル三十三年七月ノ創立ニシテ淀橋ニ其支店ヲ置キ、堀江、栗原、田島、村田、ノ諸氏其重役トシテ參割シツ、アリ其規模コソ小ナレ、堅實ナル銀行トシテハ同業界中無比ト稱セラレツ、アリ、斯如ク堅實無比ト稱セラル、ニ至リシモノ一ニ君カ力與ツテ大ナリトイフベシ、君資性敦厚ニシテ謙遜其間自ラ任侠ノ美風ヲ有ス而カモ其行フ所、専ラ自己ノ信ズル範圍ニ於テ斷行シ、致々汲々トシテ過ナカランコトヲ期シツ、アリ、要スルニ眞面目ト熱心トハ其主義ニシテ、若干消極的處世法ニ則ルカ如シ、進ンデナサンヨリ退イテ大過ナカランコトヲ期スルハ其平生ナルカ如シ、急カズ、迫ラズ、悠然トシテ事ヲ處ス、而カモ一度發スルヤ伴テ誤マラズ、其態度ノ鎮重ナル到底世ノ輕薄輩ノ企テ及ブ所ニアラザルナリ、今ヤ、土地屈指ノ資産家トシテ終始渝ラザルノ態度ヲ以テ天命ニ順ヒツ、アリ、寔ニ當今實業家トシテ容易ニ得難キ、守成的人物ナリ。

高橋藤兵衛氏

實業家

赤坂區青山町二丁目八番地

屋上ノ猫ハ墜チズ、自ラ登レバナリ、樹上ノ狗ハ危シ、人ニ據リテ昇レバナリ、宇宙萬般ノ事夫レ皆如斯、一時風雲ニ乗ジ、能ク巨萬ノ富ヲ積ミ得ル者世間尠シトナサズ、而シテ永久不變ノ榮ヲ致ス者眞ニ曉天ノ星ヲ數フルガ如シ、是樹上ノ狗ニ似テ自力ヲ以テ秩序整然其地位ヲ得タルニ非ザルガ故ナリトス

氷山大ナト雖モ炎著ニ消ユ、粒々ノ積土ハ遂ニ溶ケズ、蓋シ自然ノ數ト云フ可シ。
君ノ家ハ代々伊勢屋ト號シ、質商ヲ營業ス、世間應々質商ヲ以テ暴利ヲ貪ル者トス、蓋シ是這般ノ事情ニ通ゼザルノ言、抑質商ハ眞ニ粒々タル細微ヲ積ムノ業、而シテ高橋家ノ今日ヲ見ル基礎ノ強固ナル言ヲ俟タザル處ナリ、君ハ文久三年二月六日高橋家先代藤兵衛氏ノ長男トシテ生ル、中年既ニ理財ノ事ニ明ク、家督ヲ相續スルヤ駸々トシテ家運ノ隆盛愈々加ハルニ至リ、現今貳百圓余ノ所得稅ヲ納ムルノ大ヲ成スニ至リヌ、明治三十二年三月青山麻生地方ノ諸士ト謀リ、資本金五萬圓ノ株式組織ヲ以テ旭貯金銀行ヲ創立シ、青山南町現今ノ地ニ營業ヲ開始シ、自ラ其取締役頭取トナリ行務ヲ見ル、素ヨリ理財ニ秀デタル君ノ事ナレバ經營宜豫行務日ニ榮エ隆々天ヲ衝クノ勢トナリ、茲ニ資金二十萬圓ニ増加シ、麻生區長坂町ニ支店ヲ設ケ、次デ麻生區三河原町、青山六丁目、千駄ヶ谷原宿ノ三個所ニ漸次支店ヲ増設シ、擴張發展ス、サレバ今ヤ預金五萬餘圓ヲ有シ、巨額ノ積立金亦其例ニ乏シキ程ナリト云フ、而シテ每期九分ノ配當ニ缺ケタル處ナシ、實ニ衆人ノ信用スル又當然ナル哉、君現ニ市會議員ノ職ニ在リテ市ノ爲メニ盡ス處亦尠ナリトセズ、其他公共ノ事業ニ勞ヲ吝マズト云フ、資性溫健、仁慈博愛ノ志篤ク事ニ當ツテ熱心誠實、眞ニ當代稀ニ見ル處ナリ、君尙春秋ニ富ム、希クハ自重益々社會ニ貢獻セラレン事ヲ。

電話新橋 二千〇〇四番

仁 杉 英 氏 本所區長

多年帝都ノ自治ニ參シテ努力ヲ提供シ、華々乎トシテ終始一貫ノ熱誠ヲ以テシツ、アルハ君ナリ。聞ク君ハ東京府士族仁杉幸昌氏ノ長男ニシテ嘉永六年八月ヲ以テ生ル、天資濃厚篤實幼少夙ニ讀書ヲ好ミ坪井秀藏氏ニ就キ漢籍ヲ修メ、後海保辨之助ニ依ツテ益雪亦數年亦大學ニ通學ス三年東京府中學校ニ入り翌年東洋第一校ニ轉ジテ獨逸語ヲ學ビ、後法律研究ニ從事シ法理ノ深奥ヲ究メ十一年免許代官人トナル爾來久シク其ノ事務ヲ以テ都門ニ其名ヲ知ラル、十九年組合常議員ニ選バレ尋テ副議長ニ推舉サル同年日本橋區ヨリ選出サレテ府會議員トナリ、其ノ後市會議員、府會議員、名譽職、市參事會員、區學務委員長、府會及市都會副議長、地方衛生委員、養育院委員、市區改正委員、水道監督員、日本赤十字協賛員、等ノ各名譽職ニ舉ゲラレ、亦辯護士組合ノ副會長ニ選バレ其他日本橋區ノ公共事業ニ參與シ其功績一々枚舉スルニ追アラズ、尙三十年日本橋區長ニ任ゼラレ次テ淺草區長ヲ兼任シ三十二年ニ至ツテ兼任ヲ解カル、三十五年ニ至ツテ日本橋區長ヲ辭職ス、同年八月衆議院議員總選舉ニ際シ東京市選出衆議院議員ニ當選スルノ榮ヲ得タリ、此間市會議長トシテ令名アリ三十六年深川區長ニ就キ尙三十八年八月本鄉區長ニ就任ス、三十九年六月ヨリ七月ニ亘ツテ小石川區長ヲ兼任ス、前年轉ジテ本所區長トナリ、例ニヨツテ勤格一日ノ怠リナシ、君今ヤ市内區長ノ古參トシテ孜孜々々區政ノ爲メニ其ノ全力ヲ傾注シツ、アリ、君爲人濃厚篤實、部下ヲ過スル極メテ厚シ、其手腕ニ至ツテハ辛辣ニアラスシテ寧ロ徳ヲ以テ部下ヲ服シ、其得意ノ手腕ヲシテ揮ハシムルノ長アルカ如シ、君亦現代十五區長中人格ニ於テ經歷ニ於テ優ニ一頭地ヲ拔クノ士ナリト謂ツベシ。

福島甲子三氏

實業家

本郷駒込神町七十番地

官ニ在リテハ敏腕ナル能吏トシテ先輩ノ推量スル所トナリ、野ニ在リテハ周到ナル實業家トシテ商工者間ノ信頼スル所トナリ、行ク所トシテ其利器ヲ現ハサルナキハ福島甲子三氏其人ナルカ。君ハ新潟縣ノ人安政五年十二月ヲ以テ越國ノ國長岡ニ生ル、先キノ米國總領事鬼頭悌二郎氏ノ實弟ナリ幼ニシテ穎悟學才夙ニ群童ニ冠タリ、明治十六年期スル處アリテ故國ヲ辭シテ千葉ニ至ル居ル事二年即チ十八年上京シテ内務省衛生課ニ出仕ス君熱誠事ニ當リ大ニ功績アリ、後土木課ニ轉任ヲ命ゼラレ水道掛リヲ擔任ス、廿五年水道改良事務所創設ニ際シ其事務ヲ掌ル、當時君早クモ水道工事ノ忽諸ニス可ラザルヲ知り具サニ意見ヲ陳述シテ神奈川縣西多摩、北多摩、及ビ南多摩ノ三郡ヲ東京府ノ管轄トシテ其改良ヲ計ル案ヲ立テ致々トシテ盡瘁セシカバ其勞空シカラズシテ遂ニ廿七年帝國議會ノ協賛ヲ得是ニ於テ君多年ノ宿志貫徹スルト共ニ水路調査ニ心力ヲ盡シタル功勞ニヨリ市參事會ヨリ金杯一個ヲ贈ラル、廿九年感スル所アリテ現職ヲ退キ民間ニ下リ、東京水力電氣會社創立委員ノ一人トナリ専心其事務ニ參與ス其事ニ當ルヤ常ニ誠實勉勵些ノ倦怠ナク大ニ其手腕ヲ重視セラル、ニ到ル、亦東京市ニ於テ衛生會ノ創設セラル、ヨリ爾來十有餘年間其幹事若シクハ評議員トシテ努力セラレ或ハ虎列刺病流行ノ際ノ如キ日夜其撲滅策ヲ講ジテ豫防心得書ヲ配布スル等ノ熱誠ヲ以テ該會趣旨ノ貫徹ヲ計リ、其功勞顯著ナルヲ以テ市參事會ハ遂ヒニ君ヲ以テ修身會員ニ推薦シ併セテ其勞ヲ犒ハンカタメ二組ノ木杯ヲ贈レリトイフ今ヤ東京瓦斯會社支配人トシテ敏腕ヲ揮フト共ニ獨力ヲ以テ女子美術學校ヲ經營シツ、アリ。君資性濃厚、氣品自ラ備ツテ侵スベカラズ殊ニ世ノ不遇者ニ對スル同情ハ常ニ幾多ノ私財ヲ投ジテ介補シツ、アルナリ寔ニ方今實業界ノ明星トシテ徳ヲ頌スルニ足ル。

電話下谷 四百〇七番

橋本武四郎氏

實業家

下谷區龍泉寺町八十二番地

下谷龍泉寺町ノホトリ、古キ當輔トシテ、屋號ノ伊勢屋ソレヨリモ、『釜鳴リ』ノ通稱ヲ以テ聞ヘタル橋本家ノアルアリ、其山來ニ至ツツテハ頗ル『クラシツク』ニシテ、亦棄テ難キ妙味ヲ有ス、同店ノ祖先ハ元伊勢ノ人、江戸ニ出テ、質業ヲ開キ、家運連綿トシテ今日ニ至ル、其記録ニ有スルモノ詳密ナラズト雖モ、元祿年間ニ於テ既ニ熾ニ營業シツ、アシハ事實ナリ、一日厨房ノ釜、自然ニ鳴ヲ發シタルヲ、家内ノ知ル處トナリ、爾來家運隆々トシテ今日ニ至ル『釜ノ鳴ル』ト云フ自然ノ一作用ハ、日本古來ヨリ一家ノ慶事トシテ稀有ノ事ト稱セラレ、如斯ハ到底淺薄ナル科學ノ力ヲ以テ解決スル能ハサル處ニシテ、尠クトモ玄幽ノ妙境ニ立ツテ觀ゼハ興味津々タルヲ覺ユ。

當主武四郎君ハ千葉縣ノ人、年十七出テ、尾張屋峯島家ニ仕ヘ、誠實忠勤使備人ノ模範ト稱セラレ、後同家ノ親戚橋本家ノ懇望スル處トナリ、養ハレテ其養子トナル、爾來多年ノ經驗ヲ擁シテ、其術ニ當リ、勤格精勵克ク家運ヲシテ隆昌ナラシム、這般株式會社尾張屋銀行本郷支店長、加藤照一氏病ヲ以テ職ヲ辞スルヤ、後任トシテ其術ニ當リツ、アリ。

君資性濃厚篤實、加フルニ謙讓ノ美風ニ富ム、既ニ君ガ就任早々其閱歷ヲ聞クベク本郷支店樓上ニ訪フ、シカモ君固辭シテ語ラズ、遂ニ具體的經歷ヲ索ムル能ハサリシ不明ハ、記者ノ責トシテ讀者ニ謝セサルベカラサルナリ。

宮崎光太郎氏

實業家

日本橋區通旅籠町二番地

艱難ハ幸福ノ母ナリ彼ノ梅花ノ清香馥郁妍妍其ノ美ヲ縱マニスルモ先ヅ嚴寒ニ遭ヒ凜烈ノ朔風ヲ凌ガザルベカラズ凡ソ人ニ於ケル亦此ノ如シ、聞ク君ハ山梨縣ノ人宮崎市左衛門氏ノ長男ナリ文久三年十月ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、先代清酒ノ醸造ヲ業トシ近郷ニ名アリ君ノ代ニ至リ養蠶生絲等ヲ業トセンガ故アリテ是レヲ廢シ後感ズル處アリテ、純粹葡萄酒ヲ醸造シテ名聲ヲ博シ後チ山梨縣下ノ有志者ト謀リ祝村葡萄酒醸造會社ヲ設立ス是レ即チ我邦純粹葡萄酒醸造ノ嚆矢ナリ、技師ヲ佛國ニ派遣シテ技術ヲ練習セシメシガ明治十二年ニ至リ歸朝ス、其ヨリ始メテ日本種葡萄果實ヲ以テ葡萄酒百十石ヲ醸造ス、後チ獨立シテ十九年甲斐産葡萄酒醸造場ヲ開キ廿一年三月東京ニ賣捌店ヲ設ケ汎ク新醸造葡萄酒ヲ發賣シ途ニ現今ノ如キ有名ナル逸品ヲ醸造スルニ至ル一ハ海外ノ輸入ヲ防キ一ハ未開ノ利源ヲ啓發シ將來有數ノ特産物タルノ端ヲ啓キシハ實ニ君カ多年ノ經營辛苦ノ結果ナリ、即チ大黒天印甲斐産葡萄酒ハ、本邦醸造ノ開祖ニシテ純良ナル生葡萄酒ナリ醫藥用トシテ適當ナルハ、世既ニ定評アリ、風味佳良ト價格ノ低廉ハ其長トスル處ナリ、尙大黒印宮崎葡萄酒ハ、四季共ニ甲斐産ノ葡萄酒ヲ食スルガ如ク、風味ノ良好ハ元ヨリ、他ノ果汁液ト異ナリ、何等防腐劑ヲ用エズシテ、毫モ腐敗セサルハ、君獨特ノ發明ナリト云フ、如斯シテ多年國産ノ爲ニ献身の努力ヲ以テス、シカモ其性格ニ至ツテハ、一片營利ニ偏シタル極端ナク、國益増進ノ立脚地ヨリスル處到底他輩ノ企テ及フ處ニアラサルナリ、身ハ眇タル市井ノ一商業家ト雖モ、其人格ニ於テ見識ニ於テ優ニ一頭地ヲ拔クモノアリ、其薰化ノ及ホス處統下店員ノ如キ、下町式ノ輕薄ナク、熱心ニ忠實ヲ以テ業ヲ勵ミツ、アリ。

電話浪花 八百七十番

血腸守之助氏

東京齒科醫學專門學校長

神田區三崎町二丁目九番地

君ガ或ル動機ニヨツテ齒科醫學ニ志シテヨリ以來、陰ニ陽ニ献身の努力ヲ以テ斯學ノ發達普及ヲ計圖セシ其殊勳ニ至ツテ世既ニ定評アリ、吾人ハ多年心血ヲ瀉キタル君ノ事業ガ着々其歩武ヲ進メツ、アルニ對シ至誠ノ尊ク而シテ重ズベキ所以ヲ自覺セリ、試ニ其小傳ヲ録スレバ、君ハ千葉縣我孫子町ノ出身ニシテ明治三年二月一日ヲ以テ生ル、本姓加藤氏、幼ニシテ孤々ト也、祖父母ノ手ニヨツテ養育セラル、長ジテ血腸家ヲ相續ス、年僅カニ十二、笈ヲ負フテ東都ノ人ト也、青山學院、共立學校ヲ經テ慶應義塾ニ入ル、此間ノ苦學力行ニ至ツテハ髓カニ後進學徒ノ範トスルニ足ル、十九歲同塾ヲ卒業シ、直ニ東京新報社ニ入ツテ編輯ヲ操ル、幾ナクシテ新潟縣米北學校ニ招カレテ英語科教員トナル、會々感スル所アツテ齒科醫學ニ志シ高山紀齊翁ニ就テ斯學ヲ研究ス、卒業後高山齒科醫院主幹ト也、日清戰後清國醫發ノ議起ルヤ、君同志ト共ニ相謀リ醫術ヲ以テ其目的ヲ貫徹スル徑捷ナルヲ主張シ、時ノ駐日欽差大臣祐庚氏ニ説ク處アリ、同志ヲ推ス處トナツテ清國芝罘ニ上陸シ、妙技ヲ施シテ名聲頗ル高キヲ致シ、新聞雜誌ハ筆ヲ極メテ賞讃セリ。卅二年七月、此効果ヲ值シ、此光榮ヲ荷ヒテ歸朝ス、爾來醫術ノ人ヲ感化スルニ有力ナルヲ認メ巨本邦ニ於ケル齒科醫學ノ幼稚ナルヲ憤慨シ、一面清國ニ於ケル事業ノ後繼者ヲ出スノ急ナルヲ感ジ、三十三年其關係ノ高山齒科醫院ヲ繼承シテ東京齒科醫學院ト改メ、私財ヲ投シテ現所ニ校舍及治療所ヲ創立シ、開業ノ餘智ヲ以テ後進ヲ扶掖ス、蓋シ方今日本ニ於ケル新進ノ齒科醫ハ、殆ンド君ノ門下ト稱スモ敢テ過言ニアラサルナリ、往年新進ニ伴フテ組織ヲ改メ東京齒科醫學專門學校トナシ、正則ナル制度ニヨツテ青年齒科醫ヲ養成シツ、アリシガ、本年當局ヨリノ指定ニヨツテ無試験ヲ以テ資格ヲ有セシムルノ特點ニ接セリ、コレ本邦ニ於ケル嚆矢ノ事例ニシテ君ノ苦心今空シカラスト謂フベシ、其他專門ノ團體及機關紙發行等數ヘ來レバ枚舉ニ遑アラサルナリ。

電話本局 二千五百七十五番

藪 幸三郎氏

實業家

深川區佐賀町二丁目十八番地

高邁ナル理想ト堅固ナル信仰トハ處世上第一ノ要素ニシテ唯一ノ武器也是アリテ初メテ人望ノ趣味ヲ解シ社會ノ事俱ニ談ズベキ乎然レドモコハ徒ラニ利ニ奔リ名ニ趨キ道徳理義ヲ顧ミザル徒輩ノ夢想ニダモ及バザル所ナリトス。

聞ク君ハ京都市ニ生ル、山下直和氏ノ三男ニシテ明治三年一月ヲ以テ孤々ノ産聲ヲ揚グ、幼少學ヲ好ミ書ヲ愛シ嚴格ナル家庭ニ育チ、京都中學校ニ入り見テ卒業シ、明治二十年笈ヲ負テ出京シ直ニ東京英語學校ニ入り卒業シテ第二高等學校ニ入學シ都合ニヨリ中途ニシテ退學シ感ズル處アリテ實業家タラント欲シ、三井物産會社ニ入り其肥料部ヲ擔任シテ大ニ辣腕ヲ揮ヘリ、三十四年故アリテ同社ヲ辭シ獨力朝日商會ヲ起シ其數年經驗シタル肥料販賣ニ從事シ益々業務ニ勉勵シテ區内石島町七番地ヲトシテ五百有餘坪ノ敷地ヲ購ヒ獨逸「タルップ」會社製造ニ係ル肥料製造機械ヲ購入シテ工場ニ備ヘ化學肥料ノ製造ニ努メ本土ハ勿論四國、九州、北海道、各地到ル處殆ンド使用セザル處ナク販路擴張頗ル目覺シキ者アリ、三十九年資本金五十萬圓ナル朝日肥料株式會社ヲ起シテ專務取締役トナリ同社ヲシテ日ヲ經年ヲ追テ益々隆盛ナラシム實ニ君ノ大成功ハ蓋シ偶然ニアラサルナリ、君克ク人ヲ愛シ、同業者ヨリ常ニ尊敬セラレツ、アリ、又公共慈善事業ノ如キ奮テ財ヲ惜マズ人ノ爲メニ事ヲナス、寔ニ當今商業界ニ稀ニ見ル紳士トシテ特筆大書スルニ足ル、希クハ自愛セヨ。

電話浪花長 二千五百六十八番

古川 阪次郎氏

鐵道院中部鐵道管理局長

赤阪區水川町廿六番地

松柏ノ寒暑ヲ凌ギテ色ヲ變ヘズ、修竹ノ風雪ニ逢フテ挫折セザルヲ以テ其節操ノ不撓不屈ナルヲ知ルニ足ル、君ノ如キ這般ノ經歷ヲ遺憾ナク盡サレ寒暑風雪ヲ凌ギテ其操ヲ爭ヒ以テ現時ノ成業ヲナスニ至ルハ頗ル羨望スルニ絶エタリ、抑モ工學ノ發達ハ日本文明ノ『パロメーター』ニシテ而シテ之レガ一面ノ識ヲ得ント欲セバ直ニ以テ君等ニ親灸セザルベカラズ、聞ク君ハ香川縣ノ人、先考山口吉十郎氏ノ二男ニシテ安政五年十一月ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、幼少學ヲ好ミ夙ニ工部大學ニ入り研鑽忘リナク業卒リテ工學士ノ稱號ヲ授ケラル、後チ初メテ職ヲ鐵道局ニ奉ジ、次チ累進シテ鐵道作業局八王子出張所長ニ任ゼラレ功勞尠ナカラズ治績大ニ揚ガル、後チ更ニ官制變革シテ帝國鐵道廳トナルヤ繼職シテ同廳技師ニ任ジ、後チ再ビ官制改革シテ鐵道院ト改名スルヤ君尙其職ヲ繼ギ、選ハレテ中部鐵道管理局長トナリ、位勳ヲ進メラレテ正五位勳二等タリ、是ヨリ先、明治卅六年鐵道事業視察トシテ歐洲ニ差遣セラレ、翌三十七年歸朝ス、當時恰モ日露戰役中ニシテ、直ニ野戰鐵道提理部技長トナリ、占領地東清鐵道ノ軌道ヲ改築シ、直ニ日本貨車ヲ應用運轉セシムベク、急速ノ計劃ヲ成就シ、輸送力ヲ劇増シテ、軍ノ策戰ニ與ヘタル功績、蓋シ、赫々タル武勳ニ比シテ何等ノ遜色ナシ、尙特筆大書スベキハ、寛城子停車場問題ニ對スル君ガ功績ナリ、同問題ハ、平和克復後ノ冒頭日露間ノ懸案トシテ輿論亦頗ル喧シク、當局爲ニ鼎ノ輕重ヲ問ハレントス、君一隨行トシテ此折衝ニ起チ、日露連絡停車場トナシ、土地ハ日本、停車場ハ露國ト權限ヲ定メ、其建設費トシテ六十萬圓ノ償還ヲ請求シテ結末ヲ告クルニ至リシモノ、即チコレ事實上君ノ手ニヨツテ締結セラレタルナリキ、(依功勳二等ニ叙セラル)亦以テ國民感謝ヲ拂ツテ可ナラズヤ。

電話新橋 千九百六十七番

青山 金彌氏

實業家

牛込區若宮町三十二番地

古河鑛業會社ノ事業ハ、其規模ノ廣大ナル、其設備ノ完全ナル、世既ニ定評アリ、一世ノ怪傑銅山翁ノ手腕ガ、此尤大ヲ致サシメシ者ナリト雖モ、シカモ部下俊邁ノ士ガ、之レヲ介補シタルニヨルハ亦以テ蔽フベカラサル事實ナリ、君亦同社ニアツテ其計劃ニ參シ、多年ノ功績頗ル大ナルモノアリ、試ニ其閱歷ヲ按ズルニ。

君ハ安政二年ヲ以テ秋田縣鹿野郡尾去澤鑛山ニ生ル、即チ家ハ舊南部落士ニシテ鑛山司ヲ世襲ス、先考庄造氏ハ殊ニ斯道ニ曉通シ、其偉蹟亦尠ナカラズ、明治十一年ノ交、會々古河市兵衛氏ト會シテ肝膽相照シ、爾來其爲人ニ服シテ精勵知遇ニ酬ヒ、亦重用セラレテ顧問トナル、君ハ其長男ニシテ、遺傳的ニ斯業ニ對スル趣味ヲ有シ、早クモ乃父ノ指導ニヨツテ鑛山探檢ノ道ニ長ズ、乃父ノ歿後古河氏ニ招聘セラレテ其局ニ立ツヤ、幾多ノ有望鑛山ヲ發見シテ之レヲ主家ニ買收セシム、試ニ其主要ナルモノ摘記セバ、山形縣長松鑛山、同縣水澤鑛山、同縣大島鑛山、新潟縣草倉鑛山、同縣廣谷鑛山、宮城縣伊佐子鑛山、靜岡縣久根鑛山、等ニシテ、何レモ附屬坑ノ多數ヲ有シ、今尙熾ンニ採掘シツ、アル處ナリ。是レヨリ先、古河家ニ入ツテ以來、各地鑛山事務長ヲ歷任スル事、一昨四十一年十二月迄ノ勤績廿有五年ニ及ブ、此間ノ苦心ト貢獻トニ至ツテハ、到底一々具體示スルニ暇アラサルナリ、現今古河鑛業會社參事ノ肩書ニヨリ、名ハ閑職ト雖モ常ニ同社ノ進運ヲ企圖シツ、アリ、如斯シテ父子併ンテ忠實勤格ス、同社ノ中樞ト稱セラル、モノ亦以テ故アル哉。

電話番町 千〇八十三番

岩原謙三氏

實業家

麻布區宮村町七十一番地

多士濟々タル三井物産、尤大ナル事業ヲ運用シテ本邦實業界ノ精華ト稱セララル、巧ミニ配劑セラレタル高級幹部ノ人物ニ至ツテハ、到底他ニ求ムベカラサル妙味アリ、試ニ性格ノ代表的人士ヲ物色セバ英國式ニ於テ渡邊君アリ、東洋式ニ於テ山本君アリ、米國式ニ於テ本章ノ主人公アリ、如斯シテ相反セル三箇ノ性格ガ膠着シテ短ヲ補ヒ長ヲ發シ、進境途ニ停止スル處ヲ知ラサルナリ、君ハ石川縣大聖寺ノ人、文久三年ヲ以テ生ル、家ハ累世藩ノ學者トシテ名聲アリ、祖父御ハ町奉行トシテ治績頗ル見ルベキモノアツテ今尙口碑ニ存ス、先考孝興先生亦儒者ヲ以テ一藩ノ崇仰ヲ受ク、君其長男ニシテ、夙ニ嚴格ナル武士的家庭ニ生育ス、年十三、金澤英學校ニ學ビ、同校ノ啓明學校トナリシ後、早川千吉郎、中橋徳五郎氏等ト共ニ茲ニ學修ス、次テ大坂英語學校ニ轉ジ、更ニ商船學校ニ入ル、同校卒業後、共同運輸會社顧問アルウイン氏ノ秘書役トナリ、英材上長ノ認ムル處トナツテ屢々重用セララル、當時同社ノ取締役益田孝氏ノ知ル處トナリ、始メテ三井物産會社ニ入ツテ其秘書役トナル、即チ今ヨリ二十八年前ニシテ、恰モ益田氏ガ一大手腕ヲ揮シテ、熾ンニ海外ニ向ツテ發展ヲ講シツ、アルノ時代ナリキ、爾來奮闘克ク其末務ヲ全フシ、機略縱橫、電光石火ノ快腕ハ活動家ノ好型トシテ未來ヲ嚮望セラレキ、即チ三井物産式氣風ヲ代表スベク好箇ノ青年ナリキ、明治十九年倫敦ニ派遣セラレ、各種ノ視察ヲ終ツテ同廿三年歸朝ス、直ニ大坂支店ノ副支配人トナリ、廿六年神戸支店長ニ榮轉ス、日清戰後三井ニ於テ米國事業ニ一指ヲ染メントスルヤ、君選拔セラレテ其視察ノ任ニ當リ、廿九年七月始メテ支店ヲ創設シテ其支店長トナル、在米滿十ヶ年、其功績ニ至ツテハ一々列舉スルニ遑アラスト雖モ、生絲輸出ニ於ケル偉勳ノ如キ、今日三井ノ手ニヨツテ三萬俵以上ノ輸出ヲ爲シ斯界消長ノ鍵ヲ握リツ、アルモノ蓋シ全然君ガ努力ニ外ナラサルナリ、亦輸入ニ就テノ功勞ニ至ツテハ、到底前者ノ比ニアラズ、支店開設同時ニ、先人末ダ着手

シ能ハサル新生面ニ向ツテ其手腕ヲ發揮シ、ゼネル電氣會社、製網會社、アメリカン、ロコモチーブ會社等同地第一流ノ大會社ト結び、電氣機械、鐵軌、橋梁材料、等ヲ非常ノ安價ニ輸入スルノ新運ヲ開キ今日三井物産ガ、此方面ヲ獨占シテ、日本工業界ニ貢獻シツ、アルハ、コレ君ノ賜ナリ、如斯シテ、世界商業ノ中心點ニ踞シ、常ニ機先ヲ制シテ幾多ノ貢獻ヲナス、名ハ眇タル一支店長ナリト雖モ、事實ニ於テ日末貿易ノ『オウソリチー』ナリキ、往年功ニ依テ理事トナリ、中央策源地ニアツテ専ラ機械、生絲絹物ノ主任トシテ精根ヲ盡シ、人ヲシテ事務家ノ好範ト稱セシム、前年澁澤男以下渡米實業團ノ組織セラル、ヤ、君亦加ハツテ此員ニアリ、昨歲末任終ツテ歸朝ス、先是三井組織ノ變更アツテ三井物産株式會社ノ創立セラル、ヤ、君舉ケラレテ常務取締役トナル、爾來精勵例ニ依テ例ノ如シ、如斯シテ多年貿上ニ大ナル功果ヲ值シタル者、一、三井ノ爲ニアラズシテ日本實業界ノ殊勳者ナリト稱スルモ敢テ過當ノ言辭ニアラサルナリ、夫レカアラスカ、貿易雜誌上ニ於ケル君ノ所論ト、時々貿易協會ニ於テスナル君ノ演說ハ、確カニ斯界ノ好指南ト稱セラレツ、アリ。

コレ君ガ事業上ニ於ケル面目ニシテ、試ニ其私生活ニ於ケル其半面ヲ窺ヘバ、奇峭磊落、克ク人ト對シテ城府ヲ設ケズ、一ト度ビ問題ニ接スレバ大局ヨリ打算シテ精到ナル解決ヲ下ス處、宛トシテ政治家ノ倅ヲ有ス、事務室ニ於ケル忠實ハ、頭腦ノ明晰ナル聊カ嚴格ノ觀アリト雖モ、其眞骨頭ニ至ツテハ、克ク人ヲ容ル、ノ雅量ト、稜々タル俠骨ヲ具有スルハ尠クトモ同人ノ知悉スル處ナリ、亦以テ鐵中ノ錚々ト稱スルニ足ル、敢テ其加重ヲ至囑ス。

電話芝 二千三百八十番

岩崎清七氏

實業家

深川區佐賀町二丁目三十三番地

世人君ノ成功ヲ以テ幸運ノ神ニ取捲カレタルモノトナシ只管羨望ス、或ハ然ル者有ラン、然レ共幸運徒
 ラニ至リ、運命故ナク人ヲ襲フモノニ非ズ、又幸運至ル必ズ成功ス可シトモ限ラズ、見ヨ幸運ニ會スル
 モ能ク是ニ乗ジテ自己ノ運命ヲ開拓スルヲ得ザル人アルニ非ズヤ、畢竟幸運兒成功者ト云フモノ、只不
 屈不撓ノ精神以テ千難ヲ凌ギ、剛毅勇猛ノ氣象以テ萬艱ヲ排シ、逆運ト奮闘シテ初メテ自己ノ運命ヲ開拓
 スル者ニ外ナラズ、我岩崎清七氏ノ如キ正ニ其人ト言ヲ可シ。

君ハ朽木縣ノ平民岩崎清兵衛氏ノ長男ニシテ、元治元年十二月十八日ヲ以テ生ル、幼ニシテ既ニ憐略凡
 ナラズ、群童ヲ歴シテ卓越セルヲ見ル、明治十六年十二月家督ヲ相續シテ父ノ經營ニナレル肥料雜穀ノ
 商權一切ヲ把握スルヤ君ノ面目躍如トシテ光輝ヲ發シ、家業頓ニ舉ル、熱心店業ノ擴張ヲ期シ、雜穀ノ
 請負、糧米ノ用途等ニ勉メツ、アリシガ、偶々日清ノ役起ルヤ、我運命ヲ開拓スル將ニ此時ニアリトナ
 シ、即チ起ツテ陸軍經理局ノ大麥ヲ請負ヒ、數十萬俵ヲ納メテ能ク誤ラズ、時ニ募舉ニ出デ、失敗亦有
 リシト雖モ、君ノ擔勇毫モ屈セズ、愈々出デ、愈々壯、眞ニ辛辣ヲ極ム、後日露ノ役起ルヤ、又立ツテ
 軍用ニ應ジ陸軍糧米ヲ請負フ事數次、利スル處尠ナカラザリシト云フ、又日本製粉株式會社ノ創立ニ際
 シ盡ス處アリ推サレテ監査設トナル。

君事ヲ書スルヤ大、處スルヤ勇、機ニ臨ムヤ直籤一糸モ不殘底ノ快腕ヲ揮ヒ、難ニ當ルヤ勇猛邁進毫モ
 退カズ、サレバ偶々失敗ヲ見ルト雖モ終ニ良果ヲ修メザルナシ、眞ニ實業界ノ勇者ト云フ可シ、資性慥
 快、豪仕ノ氣滿々氣宇宏大ニシテ轄達、又穎敏ニシテ細微能ク盡クス、商才ニ兼ヌルニ奇魂アリ、心骨
 共ニ稜々タル蓋シ當代ノ珍ト稱スルヲ得ベシ。

電話浪花 四百九十七番 全 千七百七十四番

安田源藏氏

實業家

日本橋區橋町一丁目六番地

近者輕跳浮華ノ輩、徒ラニ成功ヲ説キ、爲ニ天下ノ青年ヲ驅ツテ不健全ナル成功熱ニ憧憬セシム、愚モ
 亦甚タシカラズヤ、本末階級ヲ踏ムニアラスンハ到底墜實ナル最後ノ桂冠ヲ得ル事能ハサルナリ、吾人
 君ヲ物色スルニ當ツテ特ニ此感ヲ深フス、君ハ朽木縣足利ノ人安田佐右衛門氏ノ長男ニシテ文久三年一
 月十日ヲ以テ生ル、夙ニ學ニ志シ、村山格堂氏ニ就テ漢語ヲ學ビ、次テ尺振八先生ノ共立學舎ニ洋學ヲ
 研究ス、此當時ヨリ金井氏ニ贊ヲ執ル、世々足利ニ於テ同業ヲ營ミ、系譜ノ明カナルモノ君ニ至ツテ二
 十六代ヲ算ス、眞個老舖中ノ老舖トシテ「安源」ノ名ヲ傳ヘラル、幕府ノ晩年、江戸日本橋新和泉町ニ分
 店ヲ有シ、織ンニ業務ヲ經營シツ、アリシガ、後田所町ニ轉ジ。幾モナクシテ現所ニ轉ズルニ至リシナ
 リ、是ヨリ先キ、本業ノ傍ラ、金錢貸附業ヲ兼營シツ、アリシガ、彼ノ水野越州ノ斷案ニヨリ、貸金證
 文無効ノ布令ニ遭フテ頗ル打撃ヲ蒙ル、然ルニ先代源藏氏ノ自誓ハ遂ニ家名ノ復活ニ努力ス、君早クモ
 家業ニ執掌シ、父子協力シテ精勵一日ノ怠ナシ、君夙ニ急進ヲ棄テ、漸進ヲ採リ、秩序ヲ正シ、正鶴ヲ
 失ハサラントス、所謂牛歩主義ハ、即チ始終一貫セル君ノ綱領ニシテ、彼ノ華麗人目ヲ眩惑スルモノナ
 シト雖モ、コレ却テ君ノ信用ヲシテ愈々高フセシムル素因ナリ、尙一面同志ト共ニ株式會社東京銀行ヲ
 起シテ多年其監査役タリ、四十年、前川、前田、菊池氏、等ト計ツテ東洋「モスリ」株式會社ヲ創立シ、引
 續イテ監査役タリ、外ニ同業者ノ推ス處トナリ、大日本織物聯合會副會長、東京織物同業組合副組長、ト
 シテ拮据經營其任ニ當リツ、アリ、更ニ區會議員トシテノ盡力モ亦尠ナカラサルナリ、如斯シテ幾多ノ
 事業ニ執掌シ、本務トシテハ足利、東京ノ兩店ヲ總統ス、シカモ餘裕綽々、北涯ノ雅號ニヨツテ詩文ヲ
 草スル處簿書惟裡ノ風懷亦欣仰スベキニアラズヤ。

電話浪花 七百五十番 全 九 番

新莊直陳氏

從三位勳四等子爵
長族院議員

中野宮前四百〇六番地

華族ハ國民ノ儀表ナリ、苟クモ其一舉一動ハ是レ國民ノ範トシテ示スニ足ルベキ者方クンハアラザルナリ、然ルニ今ノ濁世惜ムラクハ名門右族ニシテ、尙其本分ヲ盡シ得ルモノ幾人カアル、今説ク君ノ如キハ其勤格ニシテ敦厚ナル、上流社會稀レニ見ル紳士トシテ之レヲ推スニ足ルベキヲ信ズル者ナリ、遠ク當家ノ經統ヲ按スルニ、藤原鎌足ノ末裔秀郷ノ二男千明ノ後ナリ、夫レヨリ十四代ヲ經テ俊名江州新莊ニ居ル依テ姓ヲ新莊ト稱ス、八代直賴豊臣氏ニ仕フ、以降十二代ヲ經テ直正ニ至ル、世々麻生壹萬石ヲ領ス、君ハ其後ニシテ實ハ茨城縣士族新莊鐸橋ノ長男ナリ、安政三年十一月二日ヲ以テ生ル、明治十一年先代直正ノ後ヲ繼グ、夙ニ司法官トナリ、後判事ニ任ジ同廿三年以來貴族院議員ニ選舉セララル、コト再三以テ今日ニ至ル、傳ヘ聞ク君ハ其上流ニ身ヲ置クト雖モ平素ノ主張ハ平民主義ヲ採リ、其趣味亦頗ル高尚ナルモノニシテ、殊ニ公共事業ニ對シテハ寔ニ熱心ナル既ニ世ノ知ル處ナリ、彼ノ日露戰役ノ際ノ如キハ卒先諸般ノ後援ニ盡瘁シ、其功ニ依リ、勳四等ニ叙シ旭日小綬章ヲ賜ハル、尙ホ明治三十一年四月資本金六拾萬圓ヲ以テ水戸市ニ株式會社茨城農工銀行ヲ創設シ推サレテ取締役トナリ、現ニ其職ニ在リテ、一意專念同行ノ隆盛ニ趣クヲ期シ熱心發展ニ努メツ、アリ、次デ四十年四月、山縣勇三郎氏、野田裕通氏、山田朔郎氏、等ト相談リ、日本硫黃株式會社ヲ起シ其監查役トナリシ事アリシガ、尙明治四十二年四月内田、鳥居ノ諸氏ト相談リ「スレート」株式會社ヲ創立シ推サレテ專務取締役トナリ、特得ノ手腕ヲ振ヒ同社ヲシテ益々向上セシメツ、アリ、寔ニ君ノ如キハ上流界稀レニ見ルノ好紳士トシテ信用頗ル高キモノ亦故アル哉。

電話番町 千七百十二番

前田園子女史

醫

師

牛込區北山伏十二番地

女史ハ明治五年八月六日長州萩町堀内ニ生ル、父ハ前田邦輔氏ト稱シ、前後廿年神田區長トシテ令名ヲ忝ニシタルノ人ナリ、女史ハ其長女ニシテ家ハ累代長州毛利公ノ藩士タリ故アリテ女史五才ノ折父ト共ニ一家ヲ從ヘテ上京ス、女史ハ體軀羸弱ノ故ヲ以テ嚴父ノ勸メニ由リ淺弱ノ身ヲ以テ男子モ及ハザル勇氣ト忍耐トヲ以テ終ニ醫道ニ志ヲ立テ妙齡ニシテ濟生學舎ニ學ビ、具ニ螢雪ノ苦辛ヲ嘗ム其間ノ刻苦精勵ハ實ニ筆舌ノ能ク盡クス所ニ非ズシテ廿四年業成リ開業試驗ニ及第ス、女史ノ校ニ在ルヤ他ノ奇羅ヲ飾リ流行ヲ遂フテ喜々得々虛榮心ニ囚ハレテ尙且愧テサル一派ノ嘲笑モ不顧收々トシテ一意研鑽ニ心身ヲ委ヌル事六春秋其精勵ノ効空シカラズ、明治廿四年成績優等ヲ以テ內務省醫術開業試驗ニ及第ス、當時廿才ノ若年ナリキ、女史ハ僅カニ麻ヲ得タル一小成功ニ安セスシテ研究向上ノ志禁スル能ハズ、進テ獨語ヲ研究スル事二年略大義ニ通ジ益々斯道ノ蘊奧ヲ修メテ研究怠リ無カリキ、一度縁アリテ本吉武氏ニ嫁シタルモ不幸ニシテ最愛ノ夫ハ病魔ノ犯ス處トナリ不歸ノ人トナリヌ女史ハ世ニ杖トモ柱トモ信賴セル夫ニ先立タレタル當時ノ如キハ殆ンド失望落膽悲慘ノ極ニ陥リシガ、奮然志ヲ立テ、高田病院ニ入リテ院務ニ服セリ幾多ノ辛苦練磨ハ忽チ其技術上ニ現ハレ院長ノ信賴ヲ得特ニ選バレテハ茅ヶ崎副院長トシテ手腕ヲ發揮セリ、在職數年卅四年斷然意ヲ決シテ韓國ニ赴キ韓城病院長トナリ、其學ビタル所ノ學理ヲ實際ニ施シ異國ノ人士ニ施療懇切ニ及ビシカハ忽チ女流刀圭家ノ名鷄林八道ニ響キヌ間モ無ク嚴父病ノ報ニ接シ行李ヲ納メテ歸朝シ、次テ現所ニ業ヲ開クト共ニ、女史大學校醫ニ聘セラシテ連續以テ今日ニ至ル、女史ハ熱心ナル基督教信者ニシテ、一度救主ノ福音ニ接シ、爾來健全ナル信仰ヲ以テシ、凡ヘテ此立脚地ニヨツテ患者ニ接シツ、アリ、亦以テ女流人物中ノ一異彩ト謂ッベシ。

電話番町 千九百十二番

笠原慶藏氏

實業家

芝區三田若塚町十四番地

『苦にやむな金は世間にあつたれ之れを欲しくば働いて取れ』ト此一句ヲ輕々看過セバ讀ンデ字ノ如クニシテ、何ノ妙味モ敢テ感ゼザルガ如シ、サレド此文字中ニ藏メル所ノ眞理ヲ趣味シ來レバ人ノ世ニ處スル教訓アルヲ知ルニ足ルベシ、苟モ人ハ教訓ヲ服膺シテ以テ立身榮達セザルベカラズ、之ヲ事實ニ徴シ來リテ苦心經營漸クニシテ身ヲ起シタル笠原慶藏君亦中央實業界ニ異彩ヲ放チツ、アリ茲ニ其半生ノ閱歷ヲ草スレバ。

君ハ代々江戸ノ人、先考慶藏氏ノ三男ニシテ安政五年九月ヲ以テ芝區三田臺町ニ生ル、幼名和三郎ト稱シ、年齒漸ク九才慈父ヲ失ヒ早クモ世ノ辛酸ヲ嘗メ辛クモ慈母ノ手ニ養育セラル、夙ニ實業ニ志シ十六歳ニシテ土木建築請負業ヲ始メ、見事失敗シテ終ニ遺産數萬圓ヲ失フ、サレド君年來ノ志望ハ爾來屈スルナク益々奮勵些ノ怠リナク漸クニシテ回復ノ實ヲ全フシ延イテ現今ノ盛況ヲ見ルニ至ラシメタリ、次デ明治三十一年十一月衆望ノ期スル處トナリ辭スルヲ得ズシテ芝區ヨリ選出セラレテ區會議員ニ推舉セラル、後チ更ニ同區兵事議會評議員ニ推舉セテ良ク其重望ヲ全フシ治績大ニ舉ガル、區民ニ感謝セラレシ處ナリトイフ、君尙繁劇ノ餘暇幾多ノ慈善公共事業ニ盡瘁シテ賞牌賞狀等ヲ贈ラレシ事一々舉ゲテ數フルニ遑アラザルナリ、君亦帝都實業界中ノ隠レタル異彩トシテ謳歌セラレツ、アリ、四十一年九月推舉セラレテ府會議員トナリ、銳意府政ノ爲ニ誠實ヲ盡シツ、アリ。

電話芝 千九百二十六番

田邊輝實氏

貴族院議員 錦鷄間祇候

牛込區市ヶ谷砂土原町三丁目七番地

老齡鏗鏘トシテ意氣尙壯者ヲ凌忽シ、誠忠一貫亦餘事ヲ顧ミズ、其清節其高趣、明治循吏ノ型典ト稱セラル、シカモ多年朝ニアツテ産業ノ發達ニ貢獻シタルモノ亦以テ多トスルニ足ル、吾人其芳歴ヲ德トシテ茲ニ梗概ヲ録セントス。

君ハ舊柏原藩主織田家ノ臣下タリ、夙ニ文武兩道ヲ學ンデ儕輩ニ冠タリ、維新當時憂國ノ志士ト交遊シテ天下ノ大事ヲ論ズ、王政復古ノ後、仕官シテ彈正少忠トナル、コレ君ガ官生活ノ初舞臺ニシテ實ニ明治二年ナリキ、既ニシテ英材上長ノ認ムル處トナリ、要路ノ樞機ニ參シテ屢々新機軸ヲ提供ス、次テ入間、群馬、熊ヶ谷、愛知、等ノ各縣勸業課ニ出仕シ、此間ニ盡シタル勳功ニ至ツテハ亦特筆ノ價值ナクンハアラサルナリ、次テ鹿兒島縣、內務省等ノ各屬官ヲ歴任シ、榮進シテ高知縣大書記官トナル、幾モナクシテ內務權大書記官トナリ、更ニ山林局長トナル、後チ土木局長ニ榮轉シテ益々其才能ヲ發揮シ、遂ニ學ケラレテ高知縣知事トナル、爾來宮崎、佐賀、三重、宮城、等ノ各縣知事ニ歴任ス、此間到處良二千石ノ好評ヲ博シ、各種ノ宿題ヲ解決シテ縣政ノ發展ヲ計ル、尙佐賀及高知ハ地方行政府中ノ難治ヲ以テ目セラレ、超越ノ技能ト、人ヲ畏服セシムル德トヲ具有スルニアラズンバ、到底其任ニ耐ヘサルナリ、歴代ノ令尹終ヲ全フスルモ極メテ鮮少ナリ、然ルニ君克ク此重職ヲ全フシ、其轉スルニ當リ縣民愛惜シテ止マサリキト云フ、往年骸骨ヲ乞フテ野ニ下リ、悠々自適、多年ノ勞苦ヲ慰シツ、アルモ、シカモ一念ノ至誠ハ今モ昔モ變渝アルナシ、三十八年貴族院議員ニ勅選セラレ、老熟ノ手腕ヲ擁シテ日比谷原頭政治季節ノ精粹ナリ。

コレ君ガ過去ノ公生涯ニシテ、顧ミテ渺シク性格ヲ窺ヘバ、正廉潔白、居常自ラ嚴格、風格宛トシテ古武士ノ如シ、君亦當代官人ノ先輩中ノ一異彩ナリ。

電話番町 一千八百四十八番

齊藤孝治氏

辯護士

神田區裏神保町四番地

東都法曹界中ニ於テ鉦々ノ聲名アル辯護士トシテ其ノ名ヲ知ラレタル齋藤孝治君可直ノ府ニ立チテ滔々
 懸河ノ辯ヲ振フヤ、或ハ學理ニ訴ヘ或ハ判例ヲ引用シテ論據正確立證適切而カモ言々句句直ニ人ノ肺腑
 ヲ衝キ滿場寂トシテ水ヲ打チタルガ如ク、被告ハ感極リテ流涕スルモノアリト、蓋シ此ノ如キ所以ノモ
 ノ其學殖ノ深奥ニシテ識見ノ高遠ナルニ因ラズンバアラズ、君ハ下總古河土井家ノ舊臣ナリ安政三年駒
 込ニ生ル乃父ハ三平氏ト云フ幼少ニシテ學ヲ好ミ、喜戯群童ト異リ家計頗ル困難ヲ極メ家人ト共ニ内職
 ニヨリテ漸ク糊口ヲ凌グ傍ラ學ニ志シ年十九ニシテ碩儒龜田篤谷先生ノ家塾ニ入りテ和漢ノ學ヲ修メ造
 詣スル處甚多大ナ明治八年、警察ニ職ヲ奉シ職務ニ忠實偶々西南ノ役起ルヤ君盡忠報國ノ念ニ耐ヘズシ
 テ軍ニ從ヒ熊本城ニ包圍ヲ受ケ惡戰苦闘途ニ連絡ヲ得テ各地ニ轉戦シテ屢々奇功アリ、君熟ラ時勢ノ大
 局ヲ洞察シ始メテ法律學ヲ修ムルノ志望ヲ抱キ職ヲ辭シテ故矢代操先生ノ講法學舎ニ入ル、當時學資ヲ
 得ルノ途ナク同舎ノ學僕トナリテ、苦學力行到底現時ノ學生輩ノ想像スル能ハザルノ困苦ヲ於テシ、遂
 ニ其大要ヲ通スルニ至レリ、明治十四年故宮城浩藏博士ノ歸朝スルヤ氏及ビ岸本磯部ノ諸氏ヲ説イテ明
 治法律學校ヲ起シ其校運ノ擴張ニカメ、尙第一期卒業生トシテ首席ヲ占メ今ニ至リテ同校紀念的人士ト
 シテ後進ノ崇仰ヲ受ケツ、アリ、爾來益々其真技ヲ發揮シテ今日ニ至リテ法律事件ト亦數フルニ違アラズ
 ト雖モ殊ニ安田家ノ法律顧問トシテ連綿二十年ニ及ベリ一方ニハ區内ノ有力家トシテ直接ノ貢獻ヲナシ
 推サレテ府會議員府會議長ノ職ニ在リ、君資性溫厚公共慈善ノ心ニ富ミ其努力ヲ惜マズ盡瘁スル等當世
 稀レニ見ルノ人ナリ。

電話本局 三百四十三番

高橋熊三氏

實業家

豊多摩郡千駄ヶ谷大
字新田八百三十四番地

本邦ニ於ケル最初ノ事業トシテ、シカモ當事者ノ苦心經營ニヨツテ着々功ヲ成シツ、アルモノ帝國冷蔵
 株式會社ナリ、其初メハ何等參照トスヘキ先例ナク、絶體的ノ意味ニ於テ創業ナリキ、加之事業ノ性質ガ
 本邦現在社會ノ状態ヨリ一步進ミタルモノナルヲ以テ、當時ニ於ケル君等ノ苦心到底一局外者ノ窺フ能
 ハサル處ナリ、今ヤ、業務頗ル隆盛ニ、方法亦月ト共ニ進歩シ果實、蔬菜各種肉類、卵、牛酪、毛皮及毛織物
 蠶卵紙ノ保管ニ至ツテハ、到底他ノ擬スヘカラサルモノアリ、其他附帶ノ事業トシテ委託販賣、冷蔵室ノ
 賃貸冷蔵物ノ運送、氷ノ製造販賣、冷蔵函及ヒ「アイスクリーム」器ノ製造販賣等ニ從事シツ、アリ、而シ
 テ本社ヲ築地明石町ニ置キ、築地、魚河岸、名古屋、横濱、大坂、ノ各所ニ冷蔵庫ヲ有シ、盛夏時代ノ活動ノ
 如キハ到底局外者ノ想像シ能ハサル處ナリ、コレ同社ノ現状ニシテ、即チ間接ニハ君等ノ忠實ナル奮闘ヲ
 語ルモノナリ、小傳ニ曰ク、君ハ同社ノ専務取締役高橋虎太氏ノ令弟ニシテ同社理事トシテ日常ノ局ニ當
 ル、出身ハ奥州仙臺ニシテ中學終ツテ第二高等學校ニ入り、卒業シテ將ニ大學ニ入ラントシテ病ノ爲ニ果
 サズ、方針ヲ變シテ水産講習所ニ入ル、業卒ツテ農商務省技手トナリ、次テ千葉縣勸業課ニ榮轉シ、高等五
 等ニ昇進ス、三十六年ノ頃、同縣農工銀行ノ客亂アルヤ君之レガ整理ヲ斷行シテ功アリ、官ヲ辭シテ同行
 支配人トナル、後敏腕川崎金三郎氏ノ知ル處トナリ、懇請ヲ受ケテ日本酒造火災保險株式會社神戸支店長
 トナル、是ヨリ先、水産講習所時代ヨリ冷蔵庫ニ就テ研究スル處アリ、會々神港ニ入港スル冷蔵船ガ、陸上
 設備ヲ有セサルヲ以テ徒ラニ通過スルノ實況ヲ目撃シ、尙カニ機會ノ到來ヲ待チ、遂ニ前記ノ苦心ヲ以テ
 兄弟相扶ケテ同社ノ創立ヲ見ルニ至リシナリ、尙大日本水産會理事、及東洋物産株式會社(在新潟)ノ重役
 タリ、君爲人豪磊、各種ノ問題ヲ捉ヘテ談論風ヲ生ズ、中央ニ於ケル少壯家中稀ニ見ルノ快男兒ナリ。

電話番町 二百七十八番

人見新助氏

實業家

本所區柳原町二丁目二十六番地

(三六二)

更衣ニハ未タ早キ五月上院、忘レモセヌ曇ノ日、本所ノ郊外熱鬧ノ黃塵ヲ避ケタル處、清洒閑雅ノ一搦、刺ヲ通シテ君ニ會ス、冒頭東京『モスリン』ノ現況ヲ問ヒ、更ニ専門上二三ノ見ヲ叩ク、語ル處極メテ要領ヲ得テ首肯スルニ足ルモノ亦尠ナカラズ、一轉シテ其經營苦心談ヲ需ム、君莞爾トシテ曰ク、僕平々凡々廿有餘年此片田舎ニ退キテ何等ナスナシ、願ミテ自ラ性恠タラザルヲ得ズ、恨ムラクハ君ヲ満足セシムベク何等ヲ有セサルナリ……云々、ト謙遜遂ニ語ラズ、應酬十數回尙且語ラズ記者曾テ對手ノ話緒ヲ索ムベク大ナル自信アリキ、然ルニ慣用ノ武器ハ君ニ對シテ何等ヲ值セザリキ、此場合ノ苦心ハ、經驗ヲ有スルモノニアラスンバ想像シ能ハサル處ナリ、嗚呼……人生記者トナル勿レ。

聞ク君ハ先代人見新助氏ノ長男ニシテ明治五年九月十五日ヲ以テ生ル、資性温厚篤實、夙ニ孝養ノ美風アリ、先考病ニ依テ明ヲ失フヤ、直ニ學ヲ廢シ、一切ノ野心ヲ棄テ、父君ノ慰撫ニ勉ム、一面ニハ年少ノ身ヲ以テ複雑ナル家務ニ鞅掌スル等青年時代ノ苦心ハ頗ル大ナルモノアリキ、二十九年、杉村甚兵衛、堀越角次郎氏等有方ナル日本橋商人ニヨツテ、東京『モスリン』紡績株式會社ノ成立スルヤ、聘セラレテ同社ノ一幹部トナリ、創業以來忠實ナル精勵ヲ以テ聞ユ、數年ニシテ同社監査役トナリ、爾來銳意同社ノ發展ニ參劃シ、引續キ以テ今日ニ至ル、而シテ其手腕ニ至ツテハ雲ヲ呼ビ風ヲ起ス底ノ敏腕辣手ニアラスシテ寧ロ牛歩的ニ堅實一方ト稱スノ適評ナルガ如シ、日常ノ行爲悉ク此風格ニ律セラレ敦厚謹嚴ヲ以テ一貫ス、シカモ同情ノ厚キ處、爭フベカラサル江戸ッ兒ノ通有性アリ、夫人とし子ハ往年土佐ノ志士トシテ盛名アリシ男爵片岡利和氏ノ長女ニシテ夙ニ叔德ヲ以テ聞ユ、亦以テ好内助タルニ愧チサルナリ、コレ君ヲ訪フテ數日後東京『モスリン』ニ某氏ヲ訪ヒ間接ニ聞キ得タル君ノ人物評ト、而シテ記者ノ掌中ニアリシ貧弱ナル調査資料トヲ綜合シ簡記シテ以テ責佐ヲ塞キシノミ。

電話浪花 千〇〇七番

宮崎道興氏

實業家

芝區高輪南町三十番地

價值アル生活トハ一個ノ理想ヲ有シ、信仰トシテ確信トシテ其レヲ何處迄モ追求スルニアリ、サレド世ハ俗物小人ノミ多クシテ價值アル生活ヲ營ムモノハ殆ンド稀ナリ、殊ニ歐米ノ文物輸入シ上下人心ノ激變シタル今日ノ思潮ハ所謂物質主義ニシテ靈性ノ大ニ尊フベキモノタルヲ知ラザルナリ、サレバ俗物小人ノ日ニ月ニ増シテ其理想ヲ追ヒ價值アル生活ヲ營ムモノヲ以テ却テ愚人トシ時代後レトシテ相手ニセザル如キハ理性ヲ以テ立テル人類界ノ最モ誤マレル最モ卑シムベキ惡思潮ト云ハザルベカラズ、而シテ君ノ如キモ亦實ニ誤マラレシ人トイフベシ、聞ク君ハ東京府ノ人、故坂井仁右衛門氏ノ長男ニシテ嘉永六年一月廿七日ヲ以テ呱呱ノ産聲ヲ揚グ、後チ先考宮崎米藏氏ノ養フ處トナリ明治九年分家シテ一家ヲ創立ス、早クモ實業界ニ身ヲ投ジ夙ニ石油業ヲ營ミ其商風ノ佳美ナルヲ以テ大ニ顧客ノ信望ヲ増ス、前年日本共同石材株式會社ノ設立ナルヲ選バレテ其監査役トナリ、以テ現今ニ及ブ、君資性温厚篤實ニシテ猥リニ人ト爭ハズ、サリトテ一見識ヲ有シ、苟クモ自己ノ主義ヲ貫徹セントスルニ際シ、正道ニ準シテ一步モ假借スルナシ、此際ニ於ケル熱烈鐵火ノ主張ハ、全然人ヲ異ニスルノ觀アリ、而シテ資性ノ一面トシテ、慈善公事業ニ盡瘁スルガ如キハ、既ニ人ノ知ル處ニシテ、且ツ家庭ノ平和ナル、常ニ模範的ト稱セラレツ、アリ、長男道三氏ハ一橋高等商業學校出身ニシテ日下東洋汽船會社ニ勤務シ、次男鐵次氏ハ慶應義塾出身ニシテ現ニ日本銀行員タリ、而カモ共ニ有爲ノ青年トシテ未來ヲ嚆望ヒラレツ、アリ。

電話芝 一千七百九十五番

(三六三)

前田 利定氏

子爵 貴族院議員

府下豊多摩郡大久保
西大久保四十三番地

當家ハ天穗日命ノ後胤、從五位菅原古人ノ裔、贈從一位大納言前田利家ノ五男、大和守利孝ノ後ナリ、利孝徳川氏ヨリ別ニ所領一萬石ヲ賜ヒ、上州七日市ノ城主トナル、ソレヨリ利意、利廣、利慶、利英、利理、利尚、利以、利和、利裕、ヲ經テ從四位子爵利昭ニ至ル、君ハ其長男ナリ、明治七年十二月十日ヲ以テ藩邸ニ呱呱ノ聲ヲ揚グ、同十六年十二月一年志願兵トシテ、近衛歩兵第二聯隊第五中隊ニ入り、同廿八年八月陸軍歩兵少尉ニ任セラレ、同二十九年一月十三日家督ヲ相續シテ襲爵仰付ラレ、同年三月、廿七八年戰役ノ功ヲ嘉シ、金百圓ヲ賜ハル、爾來累進シテ歩兵中尉ニ任ジ勳四等ニ叙セラレ、翌キニ近衛後備歩兵第四聯隊附同大隊副官等ニ選任セラレタリ、是ヨリ先キ第一高等學校ノ競争試験ニ美事合格シ、更ラニ進ンデ東京帝國大學法科ニ入り四年ノ後遂ニ拔群ノ成績ヲ以テ卒業シ法學士ノ稱號ヲ得、後司法官試補(東京區裁判所檢事代理)トシテ令名アリシカ明治三十七年貴族院議員改選ニ際シ同族ヨリ選ハレテ議員トナリ、上院中堅ノ一團員トシテ少壯有爲ノ盛名ヲ恣ニシツ、アリ年々歳々各種ノ委員トシテ議事ニ軼堂ス、聞ク君ハ同族中屈指ノ新知識ニシテ、見識亦超然トシテ群ヲ抜クモノアリト、シカモ其人ヤ温淳閑雅、信義ノ厚キヲ以テ同人間ニ知ラル、加フルニ趣味ノ高尚ナル當代上流界中稀有ノ士ナリト稱セラレツ、アリ、尙君カ嗜好トスルモノハ文學ニシテ隨テ三十一文字ニ趣味ヲ持テ佐々木信綱氏ヲ師トシテ修業シツ、アリ茲ニ最近ノ風交ヲ揚ゲテ稿ヲ結ブ。

電話番町 千八百八十九番

春の山

山風に焰あほりて城落ちの櫻の中の矢さけひの聲

偶 感

馬車過ぎぬ自働車過ぎぬ柳景翠引くごせに芥あひせて

鶏百首の

朝餌煮る薪さし置きて若どりの清き聲聞く秋の朝かな

内二首

換羽して雪より白き庭どりの垂尾ゆるかす秋の朝風

太田 衛氏

實業家

芝區愛宕町四丁目一番地

人ノ徳望ヲ得ル所以ノモノハ其衣冠整々堂々トシテ言語端壯ナル時ニ胚胎セル時ニアリ、其ノ寬禍ヲ着テ燕居裏心ヲ披キ怡々タル時ニアリ、此ノ故ニ臨時的表面ノ言動ヲ以テ得タル徳望ハ久シカラズシテ消滅シ経續的忠誠ノ言行ヲ以テ得タル徳望ハ永キニ亘リテ益々光アリ、抑モ君ハ東京府ノ人佐伯美佐太氏ノ三男ニシテ元治元年十一月十五日ヲ以テ江戸ニ生ル、幼少ニシテ學ヲ好ミ嚴格ナル父君ノ膝下ニアリテ教育ヲラレ嬉戲群童ト異リ夙ニ神童ノ稱アリ、早クモ和漢ノ學ヲ深ク修メテ出藍ノ譽アリ幾クモナク實業ヲ以テ身ヲ立テ國家ニ貢獻セント欲シ、實業ニ志シ三十六年太田家ノ養子トナリ、益々家業ヲ發達セシメ時ニ東京帽子製造組合ノ組織セラル、ヤ、君選バレテ特ニ頭取ニ推舉セラレ、明治三十三年七月多知、酒井、松原、齋藤、小澤、林、ノ諸氏ト謀リ資本金數萬圓ヲ投シテ株式會社橋貯金銀行ヲ創立シテ社務ノ擴張ヲ計リ推サレテ取締役トナリ、又一方ニハ區會議員ニ當選シテ縱橫敏腕ヲ揮ヒテ區内ノ各種事業ニ向テ盡力怠リナシ、君資性敦厚ニシテ頭腦明晰謹嚴自ラ持シ音吐朗々トシテ論理整然一絲ノ紊ル、無シ同業者間ニ信用頗ル高嶽然トシテ頭角ヲ顯ハシ君又公共事業慈善事業等繁忙ナル身モ不厭進ンデ盡瘁シツ、アリ、寔ニ君ノ如キハ實力ト實驗トヲ以テ地位ヲ得ルノ經路ヲ示サレシモノト謂フベシ、尙日米博覽會出品幹事トシテノ努力ノ如キモ明白ニ直卒ニ君ノ性格ヲ發露シテ遺憾ナキモノト謂フベシ君亦城南人物中ノ一異彩ナリ。

電話芝 二千二百三十六番

增田禮作氏

元鐵道廳技監 工學博士

赤坂區靈南坂町十四番地

本邦鐵道界ノ巨人トシテ功勳既ニ定評アル者即チ君ナリ、君ハ九睡豊後國府内ノ出身ニシテ嘉永六年十二月ヲ以テ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ、夙ニ藩設遊藝館ニ入ツテ文武兩道ヲ學ブ、年十五出テ、在長崎廣運館ニ英學ヲ修ム、成績優秀一年餘ニシテ選拔セラレテ貢進生トナリ大學南校ニ入ル、尋テ開成學校ニ轉ズ、明治六年同校ニ専門科ヲ設置スルヤ、君卒先シテ工科ニ入ル、同九年六月五ケ年間英國留學ノ命ヲ受ケ、同國「グラスゴー」府大學ニ入り、専ラ工學ヲ修ム、刻苦精勵成績亦群ヲ抜キ、在學二年ニシテ卒業シ、特別試験ニ合格シテ「プロフェッショナル」及「エンジニール」及「パチエロル」ヲフ、サイエンス」ノ學位ヲ受ク、明治十一年八月「グラスゴー」大學ヲ辞シ、「エンジンホルグ」府ニ到リ、「ブライス」及「カニンングハム」工業社ニ入ル、(即チ此社ハ英國屈指ノ「カンドニヤン」大鐵道會社ノ顧問ニシテ會社全般ノ設計工業ヲ請負ヒ、又一般ノ水道下水築港橋梁河心改修ノ工事ヲ計畫施行セリ)此會社ニ在ツテ工業上實地ニ研究スル事滿三年技倆亦頗ル進歩シテ白人ヲシテ其天才ニ驚カシメタリ、遂ニ其卓絶ノ技能ヲ證スルノ賞狀ヲ受ケ、十四年七月錦ヲ着テ母國ノ團樂ニ入ル、當時恰モ日本鐵道株式會社創業ニ際シ、新進ノ技術家ヲ要求スルヤ切ナリ、君迎ヘラレテ同社技師長トナリ、東京青森間鐵道布設ノ大計畫ヲ企ツ後該線路ノ工部省鐵道局ノ經營ニ歸スルニ至ルヤ、又同省ニ出仕シ、權少技長ニ任ジ、引續キテ其事業ニ關與シ、爾來東北鐵道工事ノ設計監督ニ從事ス、此偉功ニ至ツテハ本邦鐵道發達史中特筆大書セサルベカラサルナリ、二十三年鐵道廳建築課長トナリ、東海道鐵道ヲ監督ス、翌廿四年工學博士メ學位ヲ受ク、二十五年鐵道敷設法ニヨリ工事準備ノ爲メ、鐵道線路取調委員及監督員ヲ命セラル、爾來主トシテ山陰、山陽、及九州線路ノ調査ニ從事ス、廿六年橫濱築港工用材料混凝調査ノ囑托ヲ受ケ、精ナル調査ニヨツテ其任ヲ完フス、次テ敦賀鐵道局出張所長トナリ、敦賀富山間鐵道線路ノ設計及監督ニ從事

ス、如斯シテ本邦大鐵道ノ大部分ハ君ノ設計監督ニヨツテ成立ス、技術家トシテナサレタル功績ハ、交通界ノ恩人トシテ敬意ヲ拂フニ足ル、廿九年臺灣鐵道線路調査ノ囑托ヲ受ケ、基隆打狗間ノ線路ヲ測定シ、設計豫算等ヲ調製ス、同年鐵道局建築部長トナリ、官設鐵道ノ新設路建設ニ係ル計畫監督ヲナス、コレ亦重要任務ニシテ斯業ノ爲ニ貢獻シタル者亦大ナリ、三十一年鐵道技監ニ任セラレ工務部長ヲ兼任ス三十三年鐵道規程取調委員ヲ命セラル、三十八年陸軍省御用掛兼勤ヲ命セラレ、清韓兩國へ派遣セラレ軍用ニ關スル鐵道事務取調ヲナス、四十年四月帝國鐵道廳技監トナリ専ラ技術ニ關スル事務ヲ監督掌理ス、同年九月日本大博覽會工事計劃調査委員ヲ囑托セララル。

コレ君ガ本邦鐵道事業ト關係セル半生ノ閱歷ノ梗概ニシテ、尠シク詳記セバ本邦鐵道史ヲナス、吾人ハ茲ニ滿腔ノ敬意ヲ拂ツテ其多年ノ努力ヲ感謝ス、即チ先哲ノ云フナル、至人ノ境ハ宇宙ト同一ニ、而シテ眞人ノ生涯ハ本體ト合適スル底ノ人物カ、其鐵道生活中一貫スルモノコレ忠實、功利ノ念ナク、俗氣ノ影ナシ、實ニ技術ト同化シテ形而上ニ超脱ス、亦以テ本邦鐵道界ノ恩人ナルノミナラズ、確カニ循吏ノ好型ト謂ツベシ。

電話新橋 千八百十八番



石黒五十二氏

工學博士 錦鷄間祇候

赤坂區壺町二番地

聞ク君ハ舊金澤藩石黒尋氏ノ次男安政二年六月父君ノ家ニ誕生シ、幼ニシテ藩ノ經武館明論堂ニ和漢文武ノ學ヲ講ジ又時勢ノ必要ニ應ジテ西洋砲術ヲ藩立猶館ニ修メテ早ク砲術教授ニ班シ、皇政復古ノ後ハ三宅復一岡田一六氏ニ英學ヲ學ビ、明治三年能登國七尾藩立ノ英學校雇英人ニ英學ト數學ヲ受ケ、之レヲ金澤ニ移スニ當リ更ニ金澤藩英學校ニ入り後テ藩主ノ命ヲ以テ大學南校ニ轉學シタリ然ルニ同四年廢藩置縣ノ變革アリ、君一旦學費ノ出處ヲ失ヒタルモ進ンテ政府ノ官試ニ及第シテ、文部省ノ貸費生トナリ開成學校ニ在テ土木學ヲ專修シ同十一年東京大學ニ於テ土木學科ヲ卒業シ工學士ノ學位ヲ受ケタリ、是ニ於テ神奈川縣土木課ニ出仕シ土木改良ノ爲メニ盡ス所アリシガ君優等ノ學績ナルヲ以テ同十二年文部省ヨリ英國留學生ヲ命ゼラレ、倫敦市土木工師『ニドワードイートストン』氏ノ工業會社ニ入り業務ヲ實習スル事數年、後土木工師ノ稱號ヲ許サレ、英國學術進步協會ノ會員及ビ『インスチューション、オフシビル、インジニヤ』ノ會員ニ推薦セラレ、其ノ後政府ノ官費留學ヲ辭シ尙數年間英國ニテ土木ノ實業ニ從事シ其得所モ少クニ有ラザリシト聞ク、斯クノ如クニシテ君滯英中ハ土木工事諸般ノ設計々劃ニ從事シ精勵熟達ノ技師トシテ工師界ニ信用ヲ博シタリ、而シテ君ガ海外ニ於テ實行シタル工事中ノ著名ナルモノハ埃及國『アレキサンドリヤ』港ノ水道工事、亞非利加州『サワラ』大砂漠ニ接シ「ベヘラ」地方ノ灌溉工事ノ如キ即チ之レナリ、ベヘラ地方ノ灌溉工事ニ從事中ノ如キハ十有五個月間モ砂漠中ニテント住居ヲナシ寒暖計ハ華氏百二十度以上ヲ示シ炎熱灼ガ如クナリシニモ係ラズ病ニ冒サレズ精神剛堅ナルニ因ラズンバアラザルナリ、特ニ今日「ベヘラ」地方ノ豊饒ノ地ト化シタルモ實ニ君ニ受クルノ恩德ト云フベシ、之レヨリ君ハ再ビ英國ニ歸リ土木工師『エドワードイートストン』ノ工業會社ニ出勤シ英國内各所ノ土木工事ニ從事シテ功勳アリ又『ケンブリッジ』大學教授『ドクトル、フリミング』氏ト共ニ電氣『インシラ

イト』ニ使用スル硝子器ヲ發明シテ製造會社ニ許多ノ利益ヲ收メシメタリ、時ニ明治十六年我國ニ於テ電燈會社創設ノ舉アリ君ヲ招聘シタルニヨリ君ハ國利ヲ鑑ミテ歸朝シタルモ故アリテ同會社ヲ去リ内務省御用掛衛生局勤務ニ出仕シ、各地ノ飲用水改良工事等衛生上ノ施設ヲ完成シ尋デ文部省ニ兼務大學理學部講師トナリ、衛生工學ヲ教授シタリ、蓋シ君ノ技倆ハ土木工事ノ實業ヲ以テ本領トシタルニ於テ遂ニ内務省技師ニ任ジ、土木局勤務ニ轉ジテ土木工事ノ爲メニ全身ノ力ヲ用ユルニ至ル、宜ナル哉、君土木局ニ轉任シテヨリハ各地ノ土木ヲ擔當シテ良成績ヲ得ザルナク先ヅ福岡、佐賀、大分、熊本、等土木工事ノ監督トシテ福岡縣ニ在勤シ、明治十九年政府吳佐保ノ兩鎮守府建築委員トナリ、專ラ鎮守府設備ニ要スル土木建築ノ工事ヲ擔當セリ、尋デ君ハ土木監督署長補セラレ當時ノ六土木監督區内第四區土木監督署ヲ除クノ外其他ノ各土木監督署ノ署長ヲ歴任シ、明治二十四年八月工學博士ノ學位ヲ授ケラレ、同卅年土木監督署技監正五位ニ陞リ、後海軍技監ニ轉任シ正四位勳二等海軍ノ勅任技師ニ任セラレ、但シ君ノ海軍ニ轉任セラレタルハ廿七八年戰役後海軍擴張ニ際シ、舞鶴鎮守府ヲ新設セラレントスルニ當リ適任者タルヲ認メ廟議一決斯ノ如クナリシナリ、又君ハ明治卅二年ヨリ卅三年ニ掛ケ官命ヲ以テ歐米各國ノ軍港商港等ヲ視察シ、我海軍及海事々業ニ利益セシ處少カラズトス、先是君ハ多年ノ勳功ニ依ツテ貴族院議員ニ勅選セラレ以テ現今ニ至レリ、加之ナラズ、君ハ各地重要ナル土木工事ノ爲メニ專ラ力ヲ盡サル、所多ク門司若松ノ築港工事ノ如キアリ、近キハ湖南瀛船會社ノ爲メ清國湖南省長沙府湘潭等ニ出張シ湖南沿岸ニ於ケル繫船壁計劃ノ如キ、亦彼ノ大會社宇治川水電ノ計劃シ如キ、遠クハ數年前君ガ擔當セラレタル福島縣猪苗代湖疏水工事大破復舊ノ如キ地方人民ノ爲メニ福利ヲ起シタルモノナリトス君ハ之レガ爲メ各所ヨリ頌狀金牌ヲ代テ勳績ヲ表旌セラル、モ少ナカラスト云フ實ニ工業界ノ泰斗ト云フベキナリ。

電話新橋 二千二百六十番

菅野盛次郎氏

東京稅務監督局長

東京市小石川區指ヶ谷町四十九番地

君ハ明治五年七月廿八日ヲ以テ東京市下谷ニ生ル、先考松本讓之助氏ノ二男ナリ、父ハ松江藩士ニシテ忠勤ノ聞エ高カリキ、後菅野家ノ養フ處トナリ其姓ヲ胃ス、養父菅野景正氏ハ藤堂家ニ仕ヘ御家政評議員タリ、代々醫ヲ以テ仕フ是正氏ハ蘭學ノ造詣深ク以テ藤堂家ノ重臣トシテ知ラレタリキ、君幼ニシテ學ニ志シ、普通學ヲ卒ルヤ、明治二十二年第一高等學校ニ入り明治二十六年同校卒業直チニ帝國大學法科大學ニ入り、登雪ノ功空シカラズ同三十年同科ヲ目出度ク卒業シ法學士ノ號ヲ得、直チニ身ヲ大藏省ニ奉ジ、大藏屬トナリ、三十二年十一月司稅官トナリ、明治三十三年秋田稅務局長ニ轉任、翌年函館稅務局長ニ轉ジ、翌年金澤稅務局長ニ轉ジ、三十五年大藏省書記官ニ榮轉、明治三十八年九月現職ニ就任ス爾來十年一日ノ如ク忠勤忘リナク精勵渝ルナシ。

君頭腦明晰、加フルニ當今官界稀レニ見ル篤實ノ士ニシテ下僚ニ對スル極メテ懇切ナリ、資性ノ半面トシテ特筆スベキハ、後進扶掖ニシテ、君ノ直接幫助ニヨツテ一角ノ人材トナリタルモノ鮮少ナラズトイフ、亦他ノ半面トシテ傳フベキハ清廉潔白ナルアリ、當時混濁タル間ニ處シテ其節操ヲ保ツ、明治循吏ノ好型トシテ嘔歌サルモノ亦以故ナシトセズ。

電話番町 八百六十九番

佐野小兵衛氏

實業家

日本橋區通リ驛町五番地

時世ノ變遷ニ伴ヒ諸般ノ事物モ亦變更セザル可ラザルモノアリ、變ズル能ハサルモノアリ、大識見アルノ人能ク時勢ノ變遷ヲ達觀シテ其變更セザル可ラザルモノヲ變更シテ時代ノ要求ニ應ズルノ業ヲ創ム君ハ明治七年十月一日現所ニ生ル、父君モ亦小兵衛氏ト云フ君ハ其ノ次男ナリ、幼名ヲ芳三郎氏ト云フ明治三十年横山町ニ茶店ヲ開業シ、同年ニシテ實兄ノ業ヲ罷ムルヤ相續シテ藥店ヲ佐野英二郎氏ニ讓リテ同店ヲ支店トナス、君又白粉石鹼各種ノ化粧品ヲ盛ニ製造販賣シテ名聲斯業界ニ一等地ヲ拔ク、又博ク海外諸國ノ化粧品直輸入ヲ開始シテ商業家運益々繁榮ヲ生シ都下一流ノ大商店ト稱ラル同業者間ノ小問物商組合、町内組合ノ理事其他ノ各組合員等ニ推サレテ名望アリ、君ガ祖先ハ遠ク豊臣家ノ臣ニシテ大坂落城ノ砌リ脱走シテ江戸ニ來リ節義ヲ守ツテ一時浪人タリシガ後チ商業ニ志シ、藥種香具商ヲ營ミ二百有餘年連綿トシテ代ヲ累ヌ、君資性温厚篤實ニシテ、身ヲ公私ノ劇務ニ置キ心神馳スレバ則チ紙ヲ展ベテ芳墨ヲ染ム君人トナリ既ニ前記ノ如シ、新ニ雇人ヲ遇スルニモ極メテ親切懇篤ニシテ君子ノ風アリ雇人モ又能ク君ノ意ヲ體シテ其ノ職務ニ精勵スト云フ、寔ニ家庭圓滿ニシテ春風暖キ生活ハ寔ニ尊敬スル價值アル人ト云ベシ。

電話浪花 八十一番
全 千八百四十六番

山中清兵衛氏

實業家

日本橋區本村木町一丁目十番地

苦心慘憺ノ實例トシテ、茲ニ龜清兩替店主、株式仲買人山中清兵衛君ヲ物色ス、即チ其七頭八倒史ハ、亦以テ世ノ薄志弱行輩ヲ教ユルニ足ル、君ハ山中清左衛門氏ノ長男ニシテ文久二年六月ヲ以テ生ル、乃父ハ日本橋照降町ニ龜清兩替店ヲ開キシガ、前後兩度ノ火災ニ踵イテ各種ノ災難ニ遭遇シ、家道亦衰退ノ極ニ達ス、君十六歳ニシテ此借財ヲ負ヒ、十九歳ニシテ安田商店ニ入ツテ忠實ナル精勵ヲ以テス、同店ガ安田銀行トナルニ及ンデ尙引續キ茲ニ精勵シ、滿十八年ノ臥薪嘗膽ハ、流石ニ安田翁ノ知遇ヲ得テ重用セララル、此間粒々辛苦ノ高價ヲ拂ツテ遂ニ負債ヲ償却ス、既ニシテ安田翁ノ勸告ニヨツテ三千餘圓ノ資金ヲ得、獨立シテ現物屋ヲ開キ、次デ株式仲買人トナルニ至レリ、茲ニモ亦運命ノ弄フ處トナリ、卅五年限月短縮令發布ノ爲メ、東株ノ大暴落ヲ告ゲ、一敗肝腦地ニ塗レテ一策一籌ノ施スナク、新大橋々畔死ヲ決セシモ、遂ニ思ヒ止マツテ再ビ奇シキ運命ト奮闘ス、爾來一低一高、幾多ノ波瀾ニ處シ、三十七年大蹉跌ニヨリ再ヒ墨堤橋畔ニ死ヲ決シテ復々思ヒ返ス、會々石田某、松辰、其他二三子ノ同情ニヨリテ一段落ヲ着ケ、三十八年一月軍容ヲ整ヘテ必勝ヲ期シ、鐵南ノ商戰場裡ニ立ツ、爾來幾多ノ變動アリシモ多年ノ辛キ經驗ト、至誠天ヲ憾カシテカ、日ニ月ニ發展スルノ幸運ニ際セリ、如斯シテ數年運命ト戦ヒテ、遂ニ今日ニ至ル一ハ君ノ手腕ニアリト雖モ、忠實ナル活動ハ、心アル人ヲシテ同情セシメタル結果ト斷言スルヲ憚ラサルナリ、逆境時代ノ舊債ヲ全部償却シタル如キ心掛モ亦以テ凡輩ノ企テ及ブ處ニアラサルナリ、動モスレハ德義ヲ沒却スル斯界ニ處シ、誠實君ノ如キハ蓋シ珍トスルニ足ル、實ニ安田門下ノ名ニ愧サルモノト謂ツベシ。

- 電話本局 四三四 六一六 九五八 九七三 九七六 九七九

西野惠之助氏

實業家

芝區白金三光町三十四番地

志ハ大ナルヲ要シ、事ハ壯ナルヲ要ス、然リト雖モ、妄想盲動ハ是戒メザル可ラズ、君ハ常ニ部下ヲ戒ムルニ是ヲ以テス、而シテ、曰ク、余ハ今日主義ノ信者也、前年薄給ノ時代尙且大ナル野心ヲ有セズ唯日々ノ業務ヲ處分ス可ク全力ヲ傾注セリト云々ト、是君ガ今日有ル所以ナリト云フモ背反スル處アラザル可シ、聞ク君ハ京都府相樂郡稻田村ノ人、幼ニシテ既ニ才氣群ヲ抜ク、後年三田慶應義塾ニ學ビ、福澤翁ノ感化ヲ受ケテ、山間ノ素玉ハ克ク練磨セラレ、一度實業界ニ投ズルヤ端嚴ニシテ誠實ナル質ト、所謂君ガ今日主義ノ勤勉トハ直ニ長上ノ注目スル處トナリ、累進ニ次グニ累進ヲ以テシ、同輩ヲシテ常ニ畏敬セシメシト云フ、嘗テハ中上川彦治郎氏ノ部下ニ屬シテ 山陽鐵道株式會社ニアリテ 其手腕ヲ振ヒ今ヤ澁澤氏ニ拔擢セラレテ帝國劇場株式會社ノ専務取締役トナル、君ノ眞價ハ當ニ此ニ見ルヲ得ン乎、聊事業ノ難シトスルハ其創設ニ在リ、君ハ當ニ帝國劇場創設ノ樞機ニ參シ、日夜肝膽ヲ碎ク、其ノ勞ヤ眞ニ思フ可シ、帝國劇場ノ設立ハ時代文明ノ要求ニ立ツ、而シテ天下ノ注目亦他ノ比ニ非ズ、其ノ衝ニ當ル者如何デカ易シトスルヲ得ンヤ、吾人ハ君ガ辛辣ナル手腕ニ信賴スルト共ニ、滿腔ノ敬意ヲ拂フテ已マザル也、他日工成リ、帝國劇場ノ名ノ喧傳セラル、時、君ガ活動ノ光彩ハ陸離トシテ四邊ニ普カラン吾人ハ、春秋ニ富メル君ノ、來ル可キ將來ニ多大ノ期望ヲ有スルガ故ニ茲ニ多クヲ須ヒズ後日ノ活躍ヲ待ツテ大ニ月旦ノ筆ヲ新ニセントス、自重自愛、一尉ノ向上ヲ祈ツテ已マザル也。

電話芝 千六百三十四番

土方久元氏

前宮内大臣 伯爵

小石川臨林町六十二番地

君ハ舊高知藩士土方久用氏ノ男ニシテ天保四年十月ヲ以テ高知ニ生ル、幼名楠左衛門ト稱シ後チ現名ニ改ム、幼ヨリ忠君愛國ノ意氣ニ富ミ、弱冠江戸ニ遊ビ好シク經書ヲ涉獵ス幕末ノ際卒先大義ヲ唱ヘ普ク憂國ノ志士ト交ハル會々文久三年八月十八日三條實美公以下七卿西走ノ事アリ君大坂ニ赴キ岩倉公ニ接シテ樞機ニ參ス時恰モ君ハ徵士學習院御用掛被仰中ニシテ至誠禁ズル能ハザルアリ翌年四月同志佐久間佐兵衛、野村靖之助兩士ト共ニ筑前ニ渡リ藩主及士臣ニ接シテ大ニ説ク處アリ、翌年一月幕命ヲ以テ五卿ヲ擁シテ再ビ筑前ニ渡リ薩摩、肥後、筑前肥前、久留米、五藩ニ説イテ諸卿ノ身ヲ托スルニ至レリ時ニ高知藩令ヲ下シ脱士ヲ索ムル事頗ル急ナリ君薩邸ニ潜ンデ辛クモ免レ得タリ慶應三年十二月終ニ五卿ニ隨伴シテ京師ニ着シ本藩ニ復歸セリ、次デ伏見鳥羽ノ戰爭ニ際シ屢々京攝間ヲ往來シテ諸卿等ヲ訪問シ苦心慘憺國事ニ奔走ス、一度江戸城ノ定マルヤ君 有栖川宮總督ニ直屬シテ江戸鎮臺判事仰付ラレ、次デ時ノ南町奉行佐久間番五郎ヨリ事務ヲ繼承シ市政裁判所判事トナリ良ク政務ヲ修メ合間天鼓ニ達シ優渥ナル御沙汰書賜ハル、爾來皇居御造營掛、中辯樞密大使、地方官會議御用掛、議定官、調查局長兼議定官、大書記官一等待補宮中少輔、内務大輔、東京檢疫局總理、中央衛生會長、日本藥局方總纂總裁、參事院議定官等ヲ歴任シ同十八年内閣書記官長ヲ兼任ス、次デ太政官庶務會計主管等ヲ經テ治績大ニ揚ガル、後チ制度視察トシテ獨逸ニ差遣セラレ碩學グナイス及ビ「モツセ」氏ニ就テ政體憲法ニ關スル諸説ヲ質ス、歸朝後宮中顧問官兼明宮御用掛仰付ラレ後更ニ農商務大臣ニ榮進シ、次デ宮内大臣ニ榮轉シ在職前後十有二年些ノ荒怠ナク至誠一貫奉公ノ實ヲ全フシタリ、同廿一年勳一等旭日大綬章ヲ賜リ特旨ヲ以テ伯爵ニ陞叙セラル、同卅二年骸骨ヲ乞ヒテ其職ヲ辞シ野ニ下リ優々トシテ風月吟咏餘生世外ニ閑送シツ、アリ、同卅六年更桃花大綬章ヲ授ケラル、後チ更ニ宮内省御用掛ニ任セラレ現今尙其職ニアリ。 電話番号 百六十番

阿部 吾市氏

實業家

京橋區南新堀二丁目四番地

記者曾テ先輩白石元次郎氏ヲ東洋汽船ニ訪フ、淺野系下ノ俊才トシテ阿部君ニ對スル批評ヲ求ム、氏ノ曰ク、御説ノ通り感心ナ人物デス、機敏ハ彼ノ生命デス、夫レニ一日デモ向上ノ念ヲ忘レタ事ハナク、青年時代ニ修學ノ閑ガナカツタノヲ補ハントシテ當時尙寸暇ヲ得テ新知識ヲ求メントシツ、アルノハ事實デス……云々ト、亦以テ君ノ面目ヲ窺フニ足ラン、聞ク君ハ出身岐阜縣美濃國稻葉郡ノ人ニシテ明治六年三月十五日ヲ以テ生ル、嚴父ヲ喜市氏ト云ヒ、君其長男ナリ、家計富裕ナラザル貧窶場裡ニ人トナリ、嚴父ハ日夕腕車ヲ挽キテ漸ク家計ヲ支ユルノ悲境ニ際シ、君亦之ヲ安座傍見スルニ忍ビズ、可憐ノ少年、街上氷塊ヲ賣リ以テ僅カニ一家ノ生計ヲ維持スルヲ得タリ、然モ蛟龍豈何ゾ池中ノ物ナランヤ、年漸ク十六、初メテ淺野總一郎氏營業ノ石炭部ニ雇ハレ銳意熱誠業務ノ上ニ心血ヲ灑ギ事業伸張殊ニ著シク遂ニ同部主任トナリ、益々其敏腕ヲ揮ヒツ、名聲漸ク高シ、明治三十四年中君ガ發起首唱ノ下ニ、澁澤男及淺野總一郎氏等ノ贊助ヲ得茨城探炭株式會社ヲ創立シ、快腕縱橫、奇策百出、能ク社運ヲシテ現今ノ隆昌ニ到來セシメ得タリ、君一面東京瓦斯「コーコス」會社長、日本染織株式會社、日本「ゴム」會社取締役、萬歲生命保險株式會社監査役、小名濱製鹽株式會社長、株式會社「のせつた」ホテル監査役等ニ努力シタル貢獻皆人ノ知ル處ナリ君資性明敏快濶ニシテ度量寬厚能ク人ヲ容レ、其流暢ナル辯舌ハ滾々トシテ源泉ノ如ク、莞爾タル風采一見人ヲシテ春風ニ接スルガ如キ快感ヲ抱カシム、君ノ幼年時代ノ閱歷ヲ詳記セバ、或時ハ慈母ト或時ハ嚴死別シ、父ト生別シ、純然タル孤獨ヲ以テ丁稚生活ニ入り、更ニ嚴父ニ際會スル等優ニ一部ノ立志小説ヲナスモ、今ハ僅ニ其梗概ニ止メ他日ヲ期シテ細密説ク處アラントス、

電話浪花 千二百三十六番 全 三千九百三十九番

須藤 鑛作 氏

横濱病院長

横濱市若葉町三丁目二十九番地

君ガ先祖ハ下野國安蘇郡伊井掃頭守領地越名川岸ノ住人ニテ代々苗字帶刀ス父貞次氏ハ酒造業ヲ營ミ二十歳ノ頃領主ヨリ苗字帶刀ヲ免サレ村年寄役ヲ仰付ラレ又櫻田騷動ノ際村民ノ採領役ヲ仰付ラレ江戸ニ出張ス、文久年間村民協議シ水神社ヲ設立セント佐野川ノ下流越名川岸ノ中央ニ土工ヲ起シ川ノ中央ヨリ埋立地ヲ作り公道ニ繼續セシメテ水神ヲ祭ル時ニ川上ノ十七ヶ村ハ下流ノ水路ヲ障害セルヲ以テ洪水ノ際殊ニ格外ナル被害ヲ蒙ルヲ理由トナシ此所ニ越名村ヲ相手取リテ訴訟ヲ提起ス此時貞次氏ハ村民ヲ代表シ其術ニ當ル而テ公議役人ノ出張アリタルモ終ニ敗訴トナリ役議取放チ手錠ヲ申付ラレ青竹ニテ閉門セラル、明治初年ニハ江戸市中取締ヲ拜命シ、三年ニテ碎職シ後長ヲ務ム氏性來文武ニ堪能ナリ俳諧ヲ能クシ書ニ巧ナリ、殊ニ大字ハ特意ニシテ八疊敷ニ一字ヲ書ス、養華堂紫雲ト號ス、齡六十七ニテ歿ス、君ハ其長男ニシテ安政元年正月十五日ヲ以テ生ル、十三歳ノ頃足利藩醫平塚承啓氏ノ門人トナリ、今ノ醫學士小林廣氏ト同塾セリ而シテ維新後上州館林秋元但馬守殿醫士田新水氏ノ門ニ入り十六歳ノ頃同殿醫松本文省氏ノ養子トナリ藩主ノ學校ニ於テ漢書ヲ學ブ繼テ同藩洋學校ニ於テ英學專業ヲ仰付ラレ、今ノ親任官樋山資之等モ一庭ニ學ビタルモノナリ、廢藩ノ頃友人相會シテ時事ヲ談論スルニ勝沼五郎氏海軍ニ總テ星野延太郎氏地質合蜜學ニ氏ハ醫學ニ志ス同氣相求メ茲ニ血ヲ啜リ誓テ兄弟ノ義ヲ結ブ、而シテ君思ヘラク余不忠ヲ免レサレトモ成業ノ上其罪ヲ償フベシト斷然藩ヲ脱シテ東京ニ遊ブ九段坂下龍門義塾ニ獨逸學ヲ、本所割下水ノ田中彌五郎氏ノ塾ニ漢學ヲ、下谷練堀町司馬益之氏ノ塾ニ獨逸書ヲ學ビ、明治八九年ノ頃東京帝國醫科大學校ニ入學ス然レトモ氏元ヨリ餘裕ノ學資アルニ非ラズ、日夜勉學ノ傍ラ一方阿堵物ノタメニ頭ヲ悩マサレタルモ當時神奈川縣知事野村靖氏ニ上書シ遂ニ神奈川縣貸費生トナリ、明治十五年醫科全科ヲ卒業シ神奈川縣ニ奉職シテ檢疫掛ヲ拜命シ、十全醫院ニ當

直醫ヲ申付ラレ蘭醫「ブツケマン」氏米醫「ウイルトリツチ」氏英醫「ウイラー」氏ノ助手ヲ務メ、梅毒本病院御用掛醫術開業試驗委員、横濱地方裁判所鑑定醫、三菱會社郵船會社囑托醫、避病院監督、帝國生命保險會社審査醫、稅關官吏體格審査、愛國生命保險會社取締役、横濱市醫檢疫豫防委員、横濱市會議員衛生常設委員、吉田學校、横濱高等女學校、等ノ校醫ヲ務ム、醫術ノ開業ハ明治十六年ノ春ニシテ十全病院奉職ノ傍患者ノ診療ニ從事シ、明治二十二年ノ春頃十全病院ヲ辭シ、明治二十二年頃辨天通三丁目ニ株式組織ノ病院ヲ設ケ、櫻村清徳氏、佐藤三吉氏、青山胤通氏、甲野葉氏、櫻井郁二郎氏、「ワンド」ハ「イテン」氏、等諸大家ノ出診ヲ受ケ、横濱病院ヲ創立ス、明治廿四年ノ頃若葉町三丁目二十九番地ニ第二横濱病院ヲ設立セリ今ノ横濱病院即チ是レナリ、明治廿八年東京傳染病研究所ニ於テ細菌學ヲ修ム加テ帝國醫科大學教授「ドクトル」ワンド「ハイテン」氏ガ佛國細菌學ノ泰斗「バストール」先生ノ研究所ニ於テ修學シ歸朝後横濱市衛生顧問ニ聘セラル、ヤ、先生ニ從ヒ佛國「バストール」式細菌學教授ヲ受ク又氏ハ「ベスト」病ノ初メテ横濱ニ侵入セシコトヲ慮リ衛生幻燈會ヲ設ケ率先シテ傳染病各種ノ細菌ヲ寫シ劇場、席亭、學校等ニ關没シテ其ノ説明ヲナシ市民ニ警告ス傍ラ市衛生ノ不備ノ點ヲ演說ス、尙氏ノ性格ノ一面トシテ明治五年脱走ノ砌リ勝沼五郎氏星野延太郎氏ニ送リタル文意ノ皇尊慷慨時世ヲ憤慨セルコト同九年二十歳ニシテ大臣ノ朋堂朝鮮征伐政府亂出立憲政體ノ民選議員等ノ健白書西南時變ノ詩支那葛藤時ノ詩等一々枚舉ニ遑アラズ、茲ニ一詩ヲ舉グルニ豪雄計策斷人腸一失寡區化戰場今日生靈千萬命誰知成敗在西鄉平生辛苦又求何一氣併吞五大洲西土若蓬爭戰口鋒頭誰貫季鳴頭其他朽木縣鑛毒事件横濱ノ政事十九議會解友ノ阿務陀羅經文等ニ依テ明瞭ナリトス。

電話 三百九十番

齋藤 恂氏 實業家

豊町區富士見町六丁目二番地

少壯實業家トシテ、重職興銀ノ理事タルノ君ハ埼玉縣南埼玉郡日勝村ノ人明治三年十一月ヲ以テ生ル、同姓徳三郎氏ノ長男ナリ、家ハ土地ノ素封家トシテ永ク徳望ヲ以テ其ノ名ノ顯著ナルアリ、君幼ニシテ伶俐長ズルニ及ンデ學ニ志シ、早クモ東都ニ上ツテ青山英和學校ニ入ル、二十一年獨逸協會學校ニ轉ジテ更ニ獨逸語ヲ究ム、在學八年苦心修行其効空シカラズシテ遂ニ全科ヲ修得シ直ニ文官高等試験ヲ受ケテ合格セリ、時人前後異數ノ例トシテ其人材ノ凡ナラザルヲ認ム、二十九年大藏省試補トシテ出仕ス、既ニシテ其材幹群輩ヲ歴シ、三十年ニ至ツテ大藏大臣秘書官及ビ大藏省書記官ヲ命ゼラル、次テ同省銀行課長トナル、後年日本實業銀行創立ニ際シ總裁添田壽一氏等ノ知遇ヲ得入ツテ理事ノ要職ヲ占メ營業第二部長監督部庶務部長ヲ兼任シテ今日ニ至リシナリ。

君資性温厚ニシテ品位自カラ具ハル加フルニ深遠ノ學ト天賦ノ英才トハ本邦銀行界ノ少壯家トシテ前途多大ノ望ミヲ以テ迎ヘラレツ、アリ、吾人ハ世ト共ニ光彩アル未來ヲ豫言シテ憚ラザル者ナリ、願フニ君ノ母校ハ嘗テ實業社界ト何等ノ交渉ヲ有セズ、從テ庇護ヲ受クルノ先輩ヲ得ル能ハズ、而シテ君ノ生地亦然リ此意味ニ於テ君ハ孤立ナリ然ルニ克ク今日ノ地位ヲ占メ得タルモノ蓋シ其非凡ノ力量アルニ因由セズンバアルベカラズ。

電話番号 三百八番

大脇 康直氏 實業家

東京下谷區上根岸町八十二番地

始メ官途ニ奉ジテ能吏ノ名ヲ恣ニシ、中途法曹界ニ入りテ其名ヲ知ラレ今亦實業家トシテ鏘々タルノ君亦以實力ヲ窺フニ難カラザルナリ。

君ハ石川縣金澤市ノ人、文久二年一月二十二日ヲ以テ郷里金澤市彦三八番町ニ生ル、君ノ家ハ代々加藤侯ニ仕ヘテ忠勤忘リナク忠臣ノ聞ヘアリテ嚴父康成氏ニ至ル、君ハ其長男ナリ、夙ニ普通學ヲ修メ後漢學ヲ松嶋塾ニ學ビ(松嶋塾ハ當時漢學ヲ以テ其名ヲ知ラレ前田家々令加藤恒氏ノ經營セシモノ、金澤市ノ教育ニハ貢獻抄カラザルモノアリトイフ)數學ヲ關口開氏ニ就テ學ビ漢數學ノ造詣侮ル可ラザルモノアリト、後明治十四年石川縣專門學校ニ入りテ法律學ヲ修メ中途退學、明治十六年上京シテ早稻田專門學校ニ學ビ專ラ法律學ヲ修メ、次デ明治義塾ニ英學ヲ專攻スル所アリシカ退イテ司法省法學校ニ學ビ同二十年同校卒業後直チニ内務省縣治局ニ奉仕シ、二十三年五月岐阜縣尉ニ轉ジ庶務課長トナル、二十六年六月官ヲ辞シ野ニ下リ、辯護士トナリ岐阜法曹界ニ名ヲ知ラレシモ、時勢ヲ見ルニ敏ナル君ハ更ラニ轉ンジテ日本鐵道株式會社ニ入り、時ニ二十九年五月ナリ依テ直チニ鐵道法規掛長兼記録掛長參事トナリ、其疎腕ヲ振ヒ日鐵ノタメ大ニ技量ヲ發揮シ衆輩ノ推服スル處タリシカ、明治四十年一月、前川、神戸、若尾氏等ト相謀リ、東洋モスリン株式會社ヲ設立シ推サレテ取締役兼支配人トナリ、君獨特ノ手腕ヲ振フテ同社ノ發展ニ努メツ、アリ、尙ホ郷里金澤市ニ日本硬質陶器會社ヲ起シ其監查役トシテ參劃シツ、アリ、是レヨリ先キ下谷區會議員トシテ區政ニ舉リシモ今ハ辞シテ亦省ミズ、君人トナリ温厚篤實ニシテ仁慈ニ富ミ、加フルニ質素ヲ以テ身ヲ持ス、嗚呼天下滔々名利ニ奔走シ道義蕩然地ヲ拂フノ時、清節謹嚴、理ニ據リ正ヲ守リ終始一貫變渝セザル君ノ如キハ當代、亦得難キ好紳士ト謂ツベシ。

電話下谷 四百〇一番

中島 永元 氏

貴族院議員

東京市芝區
西久保城山町三番地

其德行ヲ欣慕シ、其學殖ヲ尊敬シ、茲ニ明治教育界ノ巨人中島永元氏ノ閱歷ヲ摘録シ、正襟筆視ヲ淨メテ一篇ヲ草ス、抑モ君ハ舊佐賀藩士中島永遠氏ノ男ニシテ弘化元年八月ヲ以テ生ル、初メ文武兩道ヲ藩ノ弘道館ニ修メ、令聲噴々タルモノアリキ、尋デ藩ノ撰拔ヲ受ケ、蘭學寮ニ入り、慶應元年副故島種臣、大隈重信等ノ諸氏ト共ニ進ミテ長崎ニ遊ビ濟美館ニ入り蘭學研究ノ傍ヲ、彼ノ有名ナル、米人「フルベッキ」博士ニ就キ英語ヲ學ビ、業大ニ進ム、同三年長崎藩立洋學校政遠館ノ教官ニ舉グラレ幾モナク戊辰ノ大亂トナリ、王師東征ノ事アルヤ、職ヲ棄テ、江戸ニ到リ國事ノタメニ奔走シ頗ル努ム、平定スルヤ藩選ヲ以テ大學南校ニ入り英學及ビ法律學ヲ學ブ、時ニ明治二年ナリ然レドモ從前既ニ充分ノ素養アルヲ以テ後間モナク、大學中助教兼中寮長ニ任ゼラレ、更ニ大寮長トナル、同三年大學權少亟ニ舉ケラレテ大坂洋學校長トナリ大ニ自己ノ理想ヲ以テ人材ノ教養ニ盡サントセシニ、翌年更ニ文部少亟ニ進メラレ、次テ田中文部大亟カ理事官トシテ歐米ニ派遣セラル、ニ當リ隨行員トナリ、廣ク各國ノ教育事情ヲ視察シテ多大ノ新智識ヲ收メ六年ヲ以テ歸朝ス、爾來專ラ文部省内ニアリテ教員ノ進歩發達ニ盡瘁シ累進シテ文部大書記官ニ昇リ次テ大學分校長第三高等學校長文部省參事官ニ歷任シ、遂ニ多年ノ功ヲ以テ正五位勳四等旭日中綬章ヲ下賜セラル、ニ至レリ、二十一年元老院議官トナリ、從四位勳三等ニ陞叙、次テ錦鷄間祇候被仰付貴族院議員ニ勅選セララル現今正四位勳三等ニシテ尙其職ニ在リテ、十年一日ノ如ク奉國至誠一日ノ忘リナン、省ミレバ君三十有六年間絶エズ教育ノ普及ト進歩トヲ計リ粉骨碎身遂ニ今日文運ノ隆盛ヲ來サシメタル其功ヤ眞ニ沒ス可ラズ、今後日本ノ教育史ヲ編スアラバ必ズヤ事績ヲ特筆大書セザル可ザルヤ言ヲ俟タザルナリ、寔ニ明治教育界ノ大恩人トシテ忘ル、能ハサル處ナリ。

電話芝 二千三百〇四番

舟木 鍊太郎 氏

豫備海軍少將

麻布區材木町六十九番地

君ハ東京府ノ人、故舟木重高氏ノ長男ニシテ安政三年一月六日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、幼少文武兩道ヲ修メ造詣大ニ加ハル、夙ニ海軍武官タラント志シ明治四年海軍兵學寮ニ入り、同八年運用砲術研究ノ爲メ英國ニ留學ヲ命ゼラレ在留七年大ニ得ル處アリ、明治十四年ヲ以テ歸朝ス、幾干モナク海軍中尉ニ任ゼラル、明治十七年以降故海軍大將西郷從道侯時ノ海軍大臣トナルヤ、君選バレテ其秘書官トナリ同十九年歐米視察ノ途ニ登ルヤ隨行ヲ命ゼラレ親シク彼土ヲ踏査シテ歸朝ス、明治廿七年日清戰役起ルヤ君累進シテ海軍大佐ニ任ジ大和艦長トナル、次テ金剛艦長ニ任ゼラレ功績抄ナカラズ平定後榮進シテ海軍少將ニ任ジ正五位勳五等ニ叙シ功四級ヲ授ケラル、翌廿九年「ヰイクトリヤ」皇帝陛下即位式アルヤ使節トシテ有栖川宮威仁親王殿下出張ヲ命ゼラル、ニ際シテ君其選ニ入りテ隨行仰付ラレ歸朝後幾干モナクシテ病ヲ以テ豫備役仰付ラル、爾後明治四十年四月資本金三百萬圓ヲ以テ彼ノ大日本捕鯨株式會社成立スルヤ、後年創立者一舉シテ君ノ深奥ナル海事ノ研究ヲ多トシ役員改選ヲ期待シテ直ニ其社長タラシム、後チ數社合併シテ東洋捕鯨株式會社トナスヤ、其重任ヲ承繼シテ取締役ニ推舉セラレ現今ニ及ベリ、君亦繁劇ノ餘暇穢キニ帝國海事協會評議員、太平生命保險株式會社監査役等ニ推舉セラレ良ク其重任ヲ全フシツ、現時尙其職ニアリ。

電話芝 二千二百五十八番

山口 莊吉氏

實業家

小石川區小日向水道端町
二丁目五十三番地

實業發達ノ上ニ於テ、銀行業ノ功能別ニ喋々ヲ要セザルナリ、從テ之レガ本業ニ就テ研究スルモノ少ナキニアラズ、吾徒ハ隠レタル日本銀行界ノ秀才トシテ君ヲ尊敬ス、聞ク君ハ出身大阪府ノ人、先考山口庄助氏ノ二男ニシテ、文久三年五月廿五日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚グ、幼少實業ニ志シ中年大阪英語學校ニ入り造詣スル處尠ナカラズ、明治十四年夏ヲ負ヒテ東都ニ上リ直ニ大學南校ニ入ル十八年七月東京大學法學部ニ入り同廿一年七月全科ヲ卒リテ法學士ノ稱號ヲ受ク、幾モナクシテ實業界ニ投ジ、入リテ第一銀行大阪支店ニ事ヲ執ル、後チ轉ジテ株式會社二十銀行ニ入り累進シテ取締役兼支配人トナリ且ク其重任ヲ全フシ獨逸ツ、現今ニ及ビ、中央實業界ノ氣鋭ヲ以テ嘔歌セラレツ、アリ、其青年時代實業ニ志シタル動機ニ徵トシテ傳ヘラレタル逸話ヲ附記スルモ亦當代學生ノ修養資料タルヲ確信ス、曾テ君學志ニアルノ日、所得人「ラートゲン氏」ガ講義中、統計學ノ說明ニ際シ、口ヲ極メテ實業ノ重ンズベキヲ論シテ各種ノ引例以テス、更ニ其振興策ヲ説クヤ、曰ク世界中地租稅ノ多キヲ示ス國家ノ前途ハ頗ル寒心スベキ者ニシテ、ニ感稅、印紙稅ノ多キヲ示ス國家ハ必ズ發展ス、我獨逸ノ如キモ、遺憾乍ラ前者ノ傾向ヲ有シツ、アルヲ今憂國ノ志士ニヨツテ種々論策セラレツ、アリ、即チ地租ニ信賴スルハ極メテ危險ナリ云々、ト君痛切スル處アリ、直ニ澁澤男、穂積陳重博士ニ所感ヲ語ツテ身ヲ實業界ニ投セント謀ル、サレト當時ノ風潮トシテ、赤門出身ノ多數ハ官ニ走ル、官亦此新人物ヲ要求シツ、アルノ時ナリキ、兩氏亦直ニ快諾セサリシガ、熱心モタシ難ク、終ニ其卒業ヲ待ツテ第一銀行ニ入ラシメシナリト云フ、今ノ滔々願ミテ抄シク慚愧ナキカ。

電話番号 千五百二十番

阿部 孫左衛門氏

山形縣郡部選出衆議院議員

赤阪區榎坂町五番地

立憲政友會ガ東北ニ黨勢ヲ扶植シテ不動ノ基礎ヲ樹立シタルハ同會歷史上顯著ナル事實也、由來自由黨時代ヨリ、民權ヲ主唱シ、幾多ノ迫害ト闘ツテ吏黨ヲ驅逐シ、今日ノ成功ヲ播種シタル者ハ故阿部孫左衛門氏、駒林廣連氏島海時雨郎氏等ノ努力ナリ、君ハ明治七年四月羽前國東田川郡新堀村ニ生ル、夙ニ上京シテ二松學舎、東京數學院等ニ學ブ、後歸郷シテ乃父ノ遺志ヲ繼承シ、早クモ公共事業ニ從事シ、立憲政友會ノ爲ニ盡力シ、同縣支部幹事トシテ黨勢擴張ニ全力ヲ瀉グ、先ツ東田川郡會議員、吉田堰普通水利組合會議員トシテノ初舞臺ニ、其盛名ヲ恣ニセリ、次デ東田川本鄉村材木事件、西田川郡補浦村大字濱中堀割等ノ爲メ輿論ヲ代表シテ拮据經營ス、此前後亡父等ノ遺業タル莊内新報ヲ發行ス、即チ同紙ハ山緒アル新聞トシテ莊内三郡ノ民心發展ニ貢獻シタル事頗ル大ナリシガ、時運會セズ一時休刊ヲ宣言スルニ至レリ、三十七年二月ニ至リ一面ニ衆議院議員ノ總選舉ヲ目撻問ニ控ヘタルト、他ノ一面ニ東亞ノ風雲愈々急ナル等、國家亦事多カラントスルニ際シ、君同志大館、平田、土屋氏等ヲ料合シテ再刊スルニ至リシナリ、爾來社運隆々シテ基礎益々鞏固ヲ加ヘ發展ニ次クニ發展ヲ以テス、君亦產業界ノ發展ニ盡力シ株式會社莊内銀行頭取トシテ多年其局ニ當リツ、アリ。

既ニシテ衆望君ニ歸シ 四十一年第十回總選舉ニ際シ、推サレテ透鹿場裏ニ立ツ、彼ノ陰險ナル敵黨ノ作戦ハ、奇兵ヲ出シテ屢々君ノ本營ヲ衝キシモ、遂ニ最後ノ桂冠ヲ得、而カモ同縣郡部第三位ノ優勢ヲ以テ當選スルニ至レリ、爾來口比谷ノ客トシテ、少壯有爲ノ定評ヲ受ケ、孜孜トシテ選良ノ責任ヲ全フシツ、アリ、君資性濃厚篤實、頗ル同情ニ富ミ、常議圓滿ノ好紳士ナリ、若シ夫レ歩一步ノ地盤ヲ築造スルニ怠ラサレバ、其未來ヤ豫メトスルニ難カラサルナリ。

電話新橋 千八百九十三番